
独立行政法人
国立健康・栄養研究所研究報告

第55号（平成18年度）

独立行政法人
国立健康・栄養研究所

序

国立健康・栄養研究所は、平成13年4月の独立行政法人化以来、5か年の第1次中期目標・計画期間を平成17年に終え、平成18年4月からは新たな5か年の第2次中期目標・計画期間に入りました。

歴史を遡りますと、設立後20年経った昭和15年には公衆衛生院、体育研究所と合併され、厚生科学研究所国民栄養部、さらに昭和17年には厚生省研究所となりました。この時期に、大戦末期の深刻な食糧難への対策に役立てるために国民栄養調査が行われました。これが戦後のGHQによる迅速な栄養調査の成功の基となり、食糧配給対策の基礎データが導き出され、戦後の食糧難を乗り切ることに貢献いたしました。

そして昭和22年に新宿区戸山に「国立栄養研究所」として再建されて以来、長年にわたり逐次の栄養所要量（現在の食事摂取基準）策定や毎年の国民栄養調査（現在の国民健康・栄養調査）をはじめ各般にわたる研究を行ってまいりました。

平成元年には、「国立健康・栄養研究所」と改称され、栄養・食生活のみならず、運動を取り入れた、より幅広い健康の保持増進の研究に取り組むことになり、国民健康づくりに不可欠な、食事や運動・休養のガイドライン作成にも寄与してきました。平成13年に独立行政法人化してからの5年間では、新しい食事摂取基準を作ったこと、健康増進法に沿って国民健康・栄養調査を行って肥満者の増加、糖尿病患者の増加の実態を明らかにしたこと、また健康食品の安全性を調査し、情報発信を始めたこと、サプリメントの効能と安全性を正しく消費者に伝えられるようにNR制度を発足させたことは、実学の精神に沿って展開された大きな成果といえます。

新体制のもと、所内全員の協力を得て成果を挙げることができました。これからも、長寿社会の到来、肥満者の増加とメタボリックシンドロームの激増、食育の問題など、次々と食と健康にからむ問題が生じています。さらに、サプリメントや「健康食品」については有効性や安全性に関しても対応が求められています。

平成18年4月から研究所の職員の身分は非公務員化しました。それと共に今までの部室制を廃止し、プログラム・プロジェクト制にしました。栄養疫学、健康増進、臨床栄養、栄養教育、基礎栄養、食品保健機能の6プログラムは研究所の柱として、また情報センター、国際産学連携センターは外に向かつての活動拠点とするための組織です。

広く国民の健康と栄養に関する正しい知識を普及するとともに、市町村、保健所、病院、学校給食などの現場で働く管理栄養士等の方々に的確なエビデンスを提供することが研究所に望まれていることであります。これらの変化の中においても、研究所の歴史と伝統を踏まえながら、国際的なネットワークも含めて、開かれた研究所として、実学としての健康・栄養の研究にまい進するつもりです。

平成19年3月31日

独立行政法人国立健康・栄養研究所

理事長 渡邊 昌

目次

1. 研究所概要	
(1) 平成 18 年度研究・業務の概況	5
(2) 評価委員会	5
(3) 研究所主催・共催セミナー	6
(4) 意見交換会	7
(5) 研究倫理審査委員会	7
(6) 栄養情報担当者 (NR)	8
(7) 連携大学院	8
2. 研究・業務の進捗及び成果の概要	
I. 栄養疫学プログラム	
(1) プログラムの概要	9
(2) プロジェクトの概要	10
A【国民健康・栄養調査プロジェクト】	10
B【食事摂取基準プロジェクト】	10
C【生体指標プロジェクト】	11
II. 健康増進プログラム	
(1) プログラムの概要	12
(2) プロジェクトの概要	13
A【運動ガイドラインプロジェクト】	13
B【エネルギー代謝プロジェクト】	13
C【休養プロジェクト】	14
III. 臨床栄養プログラム	
(1) プログラムの概要	16
(2) プロジェクトの概要	17
A【メタボリックシンドロームプロジェクト】	17
B【栄養療法プロジェクト】	18
IV. 基礎栄養プログラム	
(1) プログラム/プロジェクトの概要	19
V. 栄養教育プログラム	
(1) プログラムの概要	20
(2) プロジェクトの概要	21
A【食育プロジェクト】	21
B【生活習慣病予防プロジェクト】	21
C【栄養ケア・マネジメント】	22
VI. 食品保健機能プログラム	
(1) プログラムの概要	23
(2) プロジェクトの概要	24
A【食品分析プロジェクト】	24
B【補完成分プロジェクト】	24
C【食品機能プロジェクト】	25
VII. 情報センター	
(1) センターの概要	26

(2) プロジェクトの概要	27
A【健康食品情報プロジェクト】	27
B【健康・栄養情報プロジェクト】	27
C【IT支援プロジェクト】	27
VIII. 国際産学連携センター	
(1) センターの概要	29
(2) プロジェクトの概要	30
A【国際栄養プロジェクト】	30
B【NR・セミナー業務】	30
C【ニュートラシューティカルプロジェクト】	31
3. 研究成果等の発表	
1. 業績目録	
(1) 著書	32
(2) 原著論文	33
(3) 総説	39
(4) 解説等	43
(5) 研究班報告書	47
(6) 国際学会等	48
(7) 国内学会等	52
2. 国家予算による研究（競争的資金）	
(1) 厚生労働省研究費	61
(2) 文部科学省科学研究費	63
(3) その他	64
3. 民間等からの受託研究、等	64
4. 研究所外での講義、講演等	64
5. 政府関係機関審議会、委員会等	75
6. 関連学術団体等への貢献	76
7. 併任、非常勤講師等	77
8. 国際貢献	78
9. 特許等の取得	78
4. 資 料	
(1) 独立行政法人国立健康・栄養研究所中期目標	79
(2) 独立行政法人国立健康・栄養研究所中期計画	82
(3) 年度計画	91
(4) 研究所組織	101
(5) 予算	102
(6) 人事	103
(7) 海外出張	105
(8) 名誉所員	110
(9) 客員研究員	111
(10) 協力研究員	113
(11) 特別研究員	117
(12) 所内研究セミナー	118
(13) 食品分析リスト	120

1. 研究所概要

(1) 平成 18 年度研究・業務の概況

(研究企画評価主幹 吉池信男)

当研究所は、平成 13(2001)年度より独立行政法人となり、平成 18 年度は第 2 期中期計画(～平成 22 年度)の初年度として、新たな目標・計画、組織体制のもとに研究及び業務を開始した。

「人々の栄養・食生活、運動と健康との関わりについて、基礎から応用に至るまでの調査及び研究を包括的かつ国際的な水準で行い得る試験研究機関」として、「特にヒトを対象とした研究に関して、わが国の大学・研究機関の中心的存在として、総合的・統合的な研究を推進するとともに、研究者を育成する役割を果たす。厚生労働行政上の重要な健康・栄養施策を推進する上で不可欠な科学的根拠を質の高い研究によって示し、それらを専門的立場から要約して発信するとともに、健康科学・栄養学領域において、アジア地域への貢献を含め、国際的なリーダーシップを担う」(中期目標より抜粋)ことが、我々の研究所の役割である。

具体的には、わが国の健康・栄養政策の企画・推進・評価の基盤となる科学的根拠を提示するため"ミッション"として、3つの重点調査研究業務を開始した。

- ①生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究
- ②日本人の食生活の多様化と健康への影響に関する栄養疫学的研究
- ③「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究

その他にも、外部からの競争的研究資金を獲得して、関連領域の基礎から応用、開発型の研究を行っている。また、今後の新たな研究展開につながるような萌芽的研究も若手研究者を中心に活発に行っている。さらに、今年度より法人が非公務員型へと移行し、研究成果の実社会への還元や正しい情報の普及啓発を目指した民間企業等との共同研究も積極的に進めている(下表)。

	競争的研究費			公的機関からの		民間からの	
	厚生労働省	文部科学省	その他	受託・請負	受託・共同研究		
主任研究者	14 件	15	3	10	15		
分担研究者	17 件	1	0	4	0		
研究費額	226 百万円	50	21	56	26		

個々の研究内容及び研究成果の発表については、プログラム/センターからの報告(p.6～28)や、研究成果の発表(p.30～77)を参照されたい。研究成果の発表実績の一部を下表にまとめる。

原著論文		学会発表(招待講演)		学会発表(一般演題)	
英文	和文	国際学会	国内学会	国際学会	国内学会
119	20	31	68	47	179

研究の成果を社会に還元し、皆様の健康づくりに役立てていただけるよう、新たに設置した情報センター

(情報部門)及び国際産学連携センター(対外部門)、並びに事務部業務課が中心となって、ホームページ等を介した情報提供、NR 事業、セミナー(一般及び専門家向け)、研究所の公開等を行った。NR 事業としては、平成 18 年 6 月には第 3 回の NR 認定試験を行い、合計で約 1,900 名の NR を世に送り出すとともに、有資格者へのフォローアップ研修の充実を図った。専門家を対象としたセミナーとしては、平成 20 年度から新しい医療制度構造改革の一環として開始される特定健診・保健指導を効果的に行い、その科学的評価を行う基盤をつくるために、都道府県等の健康・栄養調査手法の標準化、平成 18 年夏に新しく発表された「運動指針・エクササイズガイド 2006」等にタイムリーに対応したセミナーを主催した。

若手研究者の育成という観点からは、お茶の水女子大学、東京農業大学、女子栄養大学、早稲田大学との連携大学院や、全国の管理栄養士を養成する大学・大学院での特別講義等を通じて、「ネットワーク型」の人材育成を着々と進めている。また、国際協力についてもアジア諸国における栄養関係の研究所との連携を中心に、研究ネットワークの構築を進めている。

(2) 評価委員会

1) 外部評価委員会

下記の 9 名の委員により構成される国立健康・栄養研究所外部評価委員会については、平成 18 年 6 月 1 日(木)(平成 17 年度業務実績事後評価)、平成 19 年 3 月 23 日(金)(平成 19 年度計画事前評価)を行った。

【委員】

五十嵐脩	(茨城キリスト教大学教授)(委員長)
伊藤裕	(慶応義塾大学医学部教授)
逢坂哲彌	(早稲田大学理工学術院教授)
加賀谷淳子	(日本女子体育大学客員教授)
加藤則子	(保健医療科学院研修企画部長)
川島由起子	(聖マリアンナ医科大学病院栄養部長)
林徹	((独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所長)
豊田正武	(実践女子大学教授)
三保谷智子	(女子栄養大学出版部書籍編集課長)

2) 内部研究業務評価委員会

下記により構成される国立健康・栄養研究所内部研究業務評価委員会については、平成 18 年 12 月 7 日(木)にプログラム/センター中間報告会を行い、平成 19 年 3 月 29 日(木)には年度事後評価を行った。

【委員】

芝池伸彰	(理事)(委員長)
吉池信男	(研究企画評価主幹)
佐々木敏	(栄養疫学プログラムリーダー)
田畑泉	(健康増進プログラムリーダー)
門脇孝	(臨床栄養プログラムリーダー)
江崎治	(基礎栄養プログラムリーダー)

山田和彦 (食品保健機能プログラムリーダー)

(3) 研究所主催・共催セミナー

1) 第 8 回独立行政法人国立健康・栄養研究所主催 一般公開セミナー

主題: 健康づくりと「健康食品」

日時: 平成 19 年 2 月 17 日(土)

場所: よみうりホール(東京都千代田区)

主催: 独立行政法人国立健康・栄養研究所

共催: 栄養情報担当者(NR)協会

後援: 厚生労働省、文部科学省、東京都、千代田区、独立行政法人国民生活センター、社団法人日本医師会、社団法人日本栄養士会、財団法人健康・体力づくり事業財団、NPO 法人日本健康運動指導士会

賛助企業: アサヒ飲料株式会社、アピ株式会社、大塚製薬株式会社、花王株式会社、キャドバリー・ジャパン株式会社、中外製薬株式会社、株式会社ディーエイチシー、日清オイリオグループ株式会社、日本豆乳協会、ニュースキンジャパン株式会社、ハウス食品株式会社、不二製油株式会社、三基商事株式会社、株式会社ミツカングループ本社、株式会社ヤクルト本社、株式会社リコム

プログラム:

研究所の活動報告(吉池信男)

(講演 1) 健康情報のウソ、ホント(佐々木敏)

(講演 2) 「健康食品」とのつきあい方(梅垣敬三)

(講演 3) 健康づくりのコツ～食事編～(由田克士)

(講演 4) 健康づくりのコツ～運動・休養編～(宮地元彦)

(講演 5) かしこく使う「健康食品」(パネルディスカッション)

座長: 芝池伸彰、山田和彦

パネリスト:

宗林さおり((独)国民生活センター商品テスト部調査役)、三橋清治(三橋健康 Care Club 主幹、NR)、田口素子(日本女子体育大学講師)、毛利好孝(兵庫県龍野保健所長)

2) 研究所主催専門家向けセミナー

①健康・栄養調査技術研修セミナー～はじめの一步から実践・応用まで～

日時: 平成 18 年 8 月 24 日(木)、26 日(金)

場所: 国立健康・栄養研究所共用第一会議室

協力: 厚生労働科学研究事業「都道府県等の生活習慣病リスク因子の格差及び経年モニタリング手法に関する検討」研究班

プログラム:

(講義 1) 食事調査法の概要(佐々木敏)

(講義 2) 効果的な食事調査を行うための準備(由田克士)

(講義 3) 食事調査を行う上での留意点～食品読替、外食取扱、調理コードの考え方～(名古屋女子大学 今枝奈保美)

(演習 1) 調査票を使った食事調査のデータ処理(由田克士、今枝奈保美)

(講義 4) 調査結果の解釈・活用のイロハ～DRI を活用した個人へのフィードバックと地域評価のために～(国立保健医療科学院 横山徹爾)

(講義 5) メタボリックシンドロームの判定を中心とした検査項目の基準(吉池信男)

(講義と実技 1) 調査方法の精度管理とその意義(腹囲等身体状況編)(中京女子大学 甲田道子)

(講義と実技 2) 調査方法の精度管理とその意義(食事調査編)(由田克士)

(講義 6) 平成 18 年度国民健康・栄養調査のトピックス～運動基準・エクササイズガイドを踏まえて～(田畑 泉)

②第 11 回地域栄養指導者研修会パネルディスカッション

主題: 医療制度改革に伴う健診・保健指導のあり方と市町村栄養士の役割

日時: 平成 18 年 9 月 12 日(火)

場所: 全社連研修センター(東京都港区)

主催: 社団法人全国保健センター連合会、独立行政法人国立健康・栄養研究所

プログラム: 座長・コーディネーター 吉池信男

国の立場から(厚生労働省健康局 清野富久江)

研究教育の立場から(浜松医科大学 尾島俊之)(宮地元彦)

市町村保健師の立場から(埼玉県狭山市保健センター 有原一江)

管理栄養士・栄養士の立場から(日本栄養士会全国行政栄養士協議会 迫和子)

③「健康づくりのための運動基準」、「健康づくりのための運動指針」に関するセミナー

主題: 新しい健康づくりのための運動基準, エクササイズガイドの考え方とその展開～新しい保健指導, 健康づくり対策に向けて～

日時: (1)平成 18 年 11 月 19 日(日)、(2)平成 18 年 11 月 23 日(木)、(3)平成 18 年 12 月 17 日(日)

場所: (1)福岡大学(福岡市城南区)、(2)仙台大学(宮城県柴田郡柴田町)、(3)東京医科大学(東京都新宿区)

主催: 厚生労働省、独立行政法人国立健康・栄養研究所、NPO 法人日本健康運動指導士会、社団法人日本栄養士会

共催: 福岡大学、仙台大学、東京医科大学

プログラム: 進行・コーディネーター 田畑泉

最近の厚生労働省施策の動向について(厚生労働省健康局 石井安彦)

健康づくりのための運動基準 2006～身体活動・運動・体力～について(田畑 泉)

健康づくりのための運動指針 2006(エクササイズガイド 2006)について

(福岡会場: 福岡大学スポーツ科学部 田中宏暁)

(仙台会場: 国立長寿医療センター 太田壽城)

(東京会場：東京医科大学 下光輝一)
運動基準・運動指針の保健指導への生かし方
(宮地元彦)
食事との関連から運動基準・運動指針を考える
(吉池信男)

④管理栄養士養成施設の専門分野別担当教員を対象にしたファカルティデベロップメント (FD)

日時: 平成 18 年 11 月 3 日～5 日 (熱海)

主催: 独立行政法人国立健康・栄養研究所、社団法人
日本栄養士会、社団法人全国栄養士養成施設協会

プログラム: コーディネーター 吉池信男

(基調講演) 公衆栄養学と管理栄養士養成 (お茶の水
女子大学生生活科学部 山本茂)

(講演 1) 最近の栄養に関わる行政施策の動向と管理
栄養士の役割 厚生労働省健康局 清野富
久江)

(講演 2) 運動基準、運動指針 (エクササイズガイ
ド) の基本的な考え方と今後の展開 (田畑
泉)

(講演 3) 「公衆栄養」の「公」と「衆」(public) を考える
～ WHO Global Strategy on Diet, Physical
Activity and Health(DPAS) から学ぶ～ (吉
池信男)

(講演 4) 食事調査とそのデータ活用の考え方 (由田
克士)

(講演 5) 公衆栄養活動とソーシャルマーケティング
(女子栄養大学栄養学部 武見ゆかり)

(グループワーク・発表) (1)食事摂取基準の正しい理
解のために、(2)行政施策の動向と管理栄養
士の教育への導入について、(3)食事調査と
そのデータ活用を正しく理解するための教
育方法について、(4)地域に密着した公衆栄
養活動及び研究について

(4) 意見交換会

1) 国立保健医療科学院

日時: 平成 18 年 7 月 20 日 (木)

議題: 保健医療従事者への研修、人材育成等の協力
について

2) 社団法人全国栄養士養成施設協会

日時: 平成 18 年 9 月 22 日 (金)

議題: 管理栄養士等の人材育成について、栄養情報
担当者 (NR) 制度について

3) 国立医薬品食品衛生研究所安全情報部

日時: 平成 18 年 11 月 20 日 (月)

議題: 「健康食品」等の安全性情報の発信、危機管
理に係る協力について

4) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構食 品総合研究所

日時: 平成 18 年 12 月 18 日 (月)

議題: 組織体制の変更と今後の研究方向、新プロジ
ェクト研究の紹介と今後の連携について

5) 社団法人日本栄養士会

日時: 平成 19 年 2 月 16 日 (金)

議題: 組織、研究・事業計画の紹介と今後の協力に
ついて

6) 社団法人日本フィットネス産業協会

日時: 平成 19 年 3 月 15 日 (木)

議題: 組織、活動内容の紹介と今後の協力について

(5) 研究倫理審査委員会

研究倫理審査委員会の各部会において、以下のとお
り、研究計画の倫理的適切性等を審査した。

1) ヒトゲノム・遺伝子解析研究部会

・「新規の遺伝子多型解析法を用いた佐久コホートに
於ける肥満治療介入研究」

2) 実験動物研究部会

・糖代謝に及ぼす身体活動の影響
・血管内皮細胞と膵β細胞における IRS-2 の役割につ
いて

・細胞内脂肪蓄積による生活習慣病発症機序の解明
・血糖値を調節する新規転写因子の機能解析
・黒糖抽出液の脂肪細胞分化および脂肪蓄積に及ぼす
影響

・肝臓における脂質代謝・合成の制御による生活習慣
病予防法の開発

・食品の機能性と機能性成分の役割の解明
・個体特性に着目した大豆イソフラボンの骨粗鬆症予
防効果に関する研究

・筋萎縮発症機序の解明

・運動による生活習慣病予防機序の解明

・葉酸の生体利用性の実験

・健康食品の評価系の構築と規格基準の設定に関する
基礎的実験

・視床下部腹内側核破壊動物の肥満病態に関する研究
・熱産生における脳および消化管ペプチドの役割

・睡眠とエネルギー代謝調節の脳機構の研究

・ニュートリゲノミクスを用いた非タンパク性アミノ
酸の多機能解析

3) 疫学研究部会

・日本人の無機質必要量に関する基礎的研究

・介護保険施設における栄養ケア・マネジメントの有
効性評価に関する調査(質問票調査)

・生活習慣病予防のための介入研究・生活習慣病一次
予防に必要な身体活動量・体力基準値策定を目的と
した大規模介入研究

・日常生活における活動後の代謝亢進が総エネルギー
消費量におよぼす影響

・閉経後女性におけるビタミン K の機能性評価に関
する研究

・一過性の肉体的あるいは精神的負荷によって生じる
疲労の回復過程における非特異性免疫能と心臓自律
神経バランス変動に関する検討

・若年女性を対象としたエクオール含有食品の継続摂
取による安全性の検討

・健康志向に基づく食品(とくにビタミンの E 含有食
品)摂取状況に関するアンケート

・生体内タウリン動態と体脂肪蓄積に関する研究

・保育所栄養士における食育の効果についての調査研

究

- ・ 加速度計を用いた身体活動強度の推定法に関する検討
- ・ 第2回栄養関連学科女子学生の栄養と健康に関する多施設共同型観察疫学研究
- ・ 親子のサプリメント使用に関するアンケート調査
- ・ 地域における障害者の栄養管理に関する調査研究
- ・ 健診機関におけるメタボリックシンドロームリスクの出現頻度の推計に関する検討
- ・ 安定同位対比による栄養状態評価に関する基礎研究
- ・ 各種年代・活動レベルの対象における身体活動量の把握及び簡易な身体活動量調査方法の評価に関する研究
- ・ 公衆浴場を活用した健康づくりで用いる教材開発ならびに教育効果の評価に関する検討

【研究倫理審査委員会ーヒトゲノム・遺伝子解析研究部
会委員名簿】

- | | |
|-------|---------------------|
| 芝池伸彰 | (理事、委員長) |
| 稲葉裕 | (順天堂大学教授) |
| 後藤田貴也 | (東京大学医学部附属病院助教授) |
| 佐々木和枝 | (前お茶の水女子大学附属中学校副校長) |
| 吉池信男 | (研究企画評価主幹) |
| 佐々木敏 | (栄養疫学プログラムリーダー) |
| 門脇孝 | (臨床栄養プログラムリーダー) |
| 江崎治 | (基礎栄養プログラムリーダー) |
| 横尾年裕 | (事務部長) |

(6) 栄養情報担当者 (NR)

1) 栄養情報担当者認定試験

- 日時: 平成18年6月17日(日)
場所: 共立薬科大学(東京都港区)
明治学院大学(東京都港区)

関西大学(大阪府大阪市北区)

受験者数: 2,063名
合格者数: 1,177名

2) 栄養情報担当者認定試験受験資格確認試験

- 日時: 平成18年11月12日(日)
場所: 共立薬科大学(東京都港区)
関西大学(大阪府大阪市北区)
受験者数: 283名
合格者数: 144名

3) 栄養情報担当者(NR)研修会の開催

- 大阪会場: 平成18年10月1日(日)
東京会場: 平成18年10月7日(土)
福岡会場: 平成18年11月18日(土)
名古屋会場: 平成18年12月2日(土)
岡山会場: 平成18年12月10日(日)
仙台会場: 平成18年12月17日(日)
東京(追加): 平成19年3月25日(日)

4) その他

- ①NR養成施設との意見交換会
日時: 平成19年3月20日(火)
参加施設数: 21施設(養成講座指定数31施設)
議題: NR制度の今後の方向性について
- ②NR制度あり方検討会準備打合せ
日時: 平成19年3月23日(金)
議題: NR制度あり方検討委員会について

(7) 連携大学院

- 1) 国立大学法人お茶の水女子大学
- 2) 東京農業大学大学院
- 3) 女子栄養大学大学院
- 4) 早稲田大学スポーツ科学学術院

2. 研究・業務の進捗及び成果の概要

I. 栄養疫学プログラム

(1) プログラムの概要

1) プログラムの目標

栄養疫学に関する基礎ならびに応用研究を行ない、日本人の食生活の多様化と健康への影響を明らかにすることを目的とする。具体的には、国民健康・栄養調査の集計業務を担当するとともに、結果の質の向上をめざした環境整備や基礎研究を行なう。また、食事摂取基準の次期改定において必要とされる学術的資料を作成するとともに、そのための基礎研究を行なう。

2) 年度計画

A. 国民健康・栄養調査プロジェクト

国民健康・栄養調査の集計業務を担当する。従来にもまして適切な結果が得られるよう、調査精度の向上や技術的・学術的なレベルアップに対応できるよう、取り組む。従来からの調査に関わるルーチンの集計業務に加え、本調査に求められている様々な事柄について、その質的な向上を図るための、調査・研究等を実施する。また、都道府県、政令市、中核市、特別区等に勤務する行政栄養士を中心に関連業務に関わる支援業務を行う。

B. 食事摂取基準プロジェクト

2004年から2006年の間に発表された『食事摂取基準』に関連する学術論文を収集するとともに、『日本人の食事摂取基準(2005年版)』の英語訳を作成し、諸外国の関係者に配布する。また、次期改定の資料として重要と考えられる、①エネルギー等摂取量の申告誤差に関する現象の詳細、②鉄・食物繊維等摂取量の健康影響に関する栄養疫学研究を行なう。

C. 生体指標プロジェクト

ミネラル、ビタミンK、ビタミンD、大豆イソフラボンの栄養生理学的意義を明らかにするとともに、これらの血中及び尿中濃度(生体指標)の定量システムを確立する。また、ニュートリゲノミクスにより、新規生体指標の開発を目指す。

3) 研究業務概況

A. 国民健康・栄養調査プロジェクト

平成17年国民健康・栄養調査の基本集計表一式を平成18年8月18日に、厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室へ提出した。また、行政栄養士を対象とした技術研修会を開催した。

B. 食事摂取基準プロジェクト

次に掲げる業務ならびに研究を行なった:①『食事摂取基準』に関連する学術論文の収集、②『日本人の食事摂取基準(2005年版)』の英語訳、③日本人若年女性を対象とした栄養素摂取量の申告誤差の要因、な

らびに、鉄摂取量・食物繊維、水、マグネシウム摂取量の健康影響に関する栄養疫学研究。

C. 生体指標プロジェクト

次に掲げる研究を行なった:①大豆イソフラボンの栄養生理学的意義に関する研究、②ビタミンKの栄養生理学的意義に関する研究、③ミネラルの出納に関する研究、④時間分解蛍光免疫測定法による各種生体指標測定法の確立、⑤その他。

4) 構成メンバー

プログラムリーダー:

佐々木敏 (食事摂取基準プロジェクト)

プロジェクトリーダー:

由田克士 (国民健康・栄養調査プロジェクト)

石見佳子 (生体指標プロジェクト)

上級研究員:

西牟田守、近藤雅雄、山内淳

研究員:

荒井裕介 (平成19年1月から)

任期付研究員:

宇津木恵

特別研究員:

野末みほ

猿倉薫子

客員研究員:

太田篤胤 (城西国際大学)

呉堅 (日清オイリオグループ株式会社研究所)

吉武裕 (鹿屋体育大学)

協力研究員:

大久保公美 (女子栄養大学)

千葉大成 (城西大学)

那曉琳 (ハルピン医科大学)

岩本珠実 (県立広島大学)

大木和子 (昭和女子大学)

佐藤七枝 (聖徳大学短期大学部)

島田美恵子 (千葉県立衛生短期大学)

児玉直子 (東京栄養食糧専門学校)

森國英子、吉岡やよい、松崎伸江

技術補助員:

石井美子、大野尚子、福羅由美、鈴木洋子、

村上健太郎、江崎潤子、井上絵里奈、小坂谷典子、

吉野亜紀

事務補助員:

嶺佳華

研修生:

江崎治朗 (広島大学)

藤吉朗 (Mayo Clinic, USA)

大友拓弥 (東京理科大学)

脇村智子 (東京栄養食糧専門学校)

飯田礼子 (共立女子大学)
川原恵 (東京家政大学)
石塚梓 (東京家政大学)

(2) プロジェクトの概要

A【国民健康・栄養調査プロジェクト】

1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

- ・当研究所の法定業務である国民健康・栄養調査の集計業務を担当する。
- ・国民健康・栄養調査等における調査精度の向上や技術的・学術的なレベルアップに寄与できる調査・研究等を実施する。
- ・都道府県、政令市、中核市、特別区等に勤務する行政栄養士を中心に関連する事柄について研修や情報提供等の支援業務を行う。

(目標)

- ・国民健康・栄養調査の迅速かつ適切な集計
- ・都道府県、政令市、中核市、特別区等に勤務する行政栄養士を対象とした技術講習セミナーの開催
- ・平成 18 年国民健康・栄養調査及び各自自治体等が実施する健康・栄養調査に関する適切に実施する関連した情報提供

2) プロジェクトの進捗状況(成果)

●平成 17 年国民健康・栄養調査の集計

- ・平成 17 年国民健康・栄養調査について、基本集計表一式を平成 18 年 8 月 18 日に厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室へ提出した。

●平成 18 年国民健康・栄養調査の集計

- ・平成 18 年国民健康・栄養調査については、各自自治体からの調査票の提出を確認後順次作業を開始している。

●健康・栄養調査技術講習セミナー等の開催

- ・都道府県、政令市、中核市、特別区等に勤務する行政栄養士を対象とした「健康・栄養調査技術講習セミナー ～はじめの一歩から実践・応用まで～」を平成 18 年 8 月 24 日・26 日に当研究所において開催した。

●平成 18 年国民健康・栄養調査及び各自自治体等が実施する健康・栄養調査に関する情報提供

- ・研究所のホームページ上に平成 18 年国民健康・栄養調査の適正な実施に資する情報提供を行った。同時に保健所における調査員の研修に用いる教材や練習問題についても公開した。
- ・国民健康・栄養調査及び各自自治体独自に実施する健康・栄養調査等に関して、個別に技術支援を行った。
- ・調査を担当した保健所の栄養士を対象としたアンケート調査を実施し、本年度の支援業務の評価と次年度以降の在り方等について情報収集を行った。

●厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室との連携

- ・平成 18 年国民健康・栄養調査の企画、各種調査票の設計、食品番号表・調査必携の作成並びに担当者会議等に関し、生活習慣病対策室と連携して対応した。

●その他関連する請負業務等

- ・厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課からの請負業務として平成 16 年度より実施している食品摂取頻度・摂取量調査(国民健康・栄養方式の栄養摂取状況調査等を季節ごとに各 3 日間実施)を今年度も全国 8 地域で調査を実施した。

B【食事摂取基準プロジェクト】

1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

- ・2010 年に予定されている『日本人の食事摂取基準』の改定の作業に先立ち、必要かつ有用な資料(学術論文等)を収集、整理、解説し、改定の準備をする。
- ・『日本人の食事摂取基準』の改定に有用と考えられる基礎資料を栄養疫学的研究によって得るための調査・研究等を実施する。

(目標)

- ・2004 年から 2006 年の間に発表された『食事摂取基準』に関連する学術論文を収集すること。
- ・『日本人の食事摂取基準(2005 年版)』の英語訳を作成し、諸外国の関係者に配布すること。
- ・エネルギー等摂取量の申告誤差に関する現象の詳細を明らかにすること。
- ・鉄、食物繊維等、『日本人の食事摂取基準(2005 年版)』において日本人の知見が特に乏しい栄養素に関して、日本人を対象とする栄養疫学研究を行ない、その健康影響を明らかにすること。

2) プロジェクトの進捗状況(成果)

●『食事摂取基準』に関連する学術論文の収集

- ・新しく提案された指標(目安量など)の活用方法に関する基礎的検討などを中心に諸外国からの報告を系統的に収集した。鉄、食物繊維等、いくつかの栄養素についても最近の学術論文を中心に収集を行なった。

●『日本人の食事摂取基準(2005 年版)』の英語訳

- ・『日本人の食事摂取基準(2005 年版)』のうち、特に重要と考えられた章(総論、各論のエネルギー、概要)を英語訳した。

●『日本人の食事摂取基準(2005 年版)』に資するための栄養疫学研究

- ・日本人若年女性 353 人を対象として、栄養素摂取量の申告誤差の要因に関する研究を行なった。24 時間尿中排泄量を評価指標に用いて、たんぱく質、カリウム、ナトリウム摂取申告量の誤差が肥満度に強く関連することを明らかにした。
- ・日本人若年女性 417 人を対象として、鉄摂取量と鉄欠乏製貧血との関連を検討した。鉄摂取量よりも生理による経血量のほうが鉄欠乏製貧血に強く関連していることを明らかにした。
- ・日本人若年女性 3835 人を対象として、食物繊維、水、マグネシウム摂取量と機能性便秘との関連を検討した。食物繊維摂取量よりも水とマグネシウム摂取量のほうが機能性便秘に強く関連している可能性

を示した。

- ・日本人若年女性 3931 人を対象として、食物繊維摂取量と肥満度との関連を検討し、食物繊維摂取量が肥満に予防的に働く可能性を示した。

C【生体指標プロジェクト】

1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

- ・栄養素摂取量並びにその生体指標の収集を中心とした疫学研究及びミネラルとミネラルの代謝に関する栄養素に着目し、その必要量に関する基礎的研究を行ない、日本人の食事摂取基準のための基礎的資料を作成する。また、新たな生体指標の確立を目指す。

(目標)

- ・Mg、Ca、Na 等のミネラル、ビタミン K、ビタミン D、大豆イソフラボンの栄養生理学的意義を明らかにするとともに、これらの血中及び尿中濃度(生体指標)の定量システムを確立する。
- ・ニュートリゲノミクスにより、新規生体指標の開発を目指す。
- ・閉経後女性における食品成分と運動の併用効果に関する研究の追試験を継続する。

2) プロジェクトの進捗状況(成果)

●大豆イソフラボンの栄養生理学的意義に関する研究

- ・閉経後女性を対象に、大豆イソフラボンの骨代謝に対する有効性と安全性を評価し、1 年間の大豆イソフラボン配糖体の摂取(アグリコン換算 47mg/日)が大腿骨近位部の骨量減少を僅かに抑制するとともに、血中の性ホルモン濃度には影響を及ぼさないことを示した。

●ビタミン K の栄養生理学的意義に関する研究

- ・閉経後女性を対象にビタミン K の介入試験を実施し、骨代謝に関連する生体指標の評価を行なった。

●ミネラルの出納に関する研究

- ・栄研式キャリパー法で測定した Lean Body Mass (LBM) と DEXA 法による結果を比較したところ、両者による測定結果に強い相関が認められたことから、前者により LBM 当たりでのミネラル出納を評価できることが示された。
- ・ナトリウム(食塩)の摂取量とカルシウム及びマグネシウムの出納が相関することから、ナトリウム制限はカルシウムとナトリウムの出納を負に傾けることを示した。これらの点を考慮して、ミネラル(Na, K, Ca, Mg, P)の出納を維持する摂取量(平衡維持量)を明らかにした。

●生体指標の定量システム確立に関する研究

- ・時間分解蛍光免疫測定法による各種生体指標の測定系及び RIA 法によるビタミン D の定量システムを確立するための準備を行なった。

●新規生体指標の開発に関する研究

- ・活性型ビタミン D である $1\alpha,25(\text{OH})_2\text{D}_3$ が、遺伝子発現を介さないノンジェノミックなシグナル伝達に関与することを見出した。
- ・ヘムタンパク質の出発物質である非タンパク性アミノ酸をマウスに摂取させ、その多機能性をニュートリゲノミクスの手法を用いて解析したところ、935 遺伝子の発現が変化した。

●閉経後女性における食品成分と運動の併用効果に関する研究

- ・大豆イソフラボンの摂取と運動の一年間の併用が、閉経後女性の大腿骨骨密度の低下及び体脂肪量の増加を有意に抑制することを明らかにした。運動はウォーキングを採用し、週 3 回、45 分/回(9Mets・時/週)の実施が有効であることが示された。また、介入を中止して一年後の追跡調査を行なった。

II. 健康増進プログラム

(1) プログラムの概要

1) プログラムの目標

中期計画に関係する事業

- 生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究を行うこと。
- 運動・身体活動による生活習慣病予防、運動と食事指導の併用を行った場合の効果等について、実験的、疫学的調査研究を行う。これにより「健康づくりのための運動基準」と「健康づくりのための運動指針(エクササイズガイド)」及び「日本人の食事摂取基準」を改定するための科学的根拠の提示を行う。

2) 年度計画

- 「健康づくりのための運動基準 2006」及び「健康づくりのための運動指針 2006(エクササイズガイド 2006)」策定に関するシステマティックレビューを行う。
- 運動基準とエクササイズガイドの普及・啓発のための研究・活動を行う。
- 運動基準やエクササイズガイドで示された運動・身体活動量の妥当性の検討を行う。
- メタボリックシンドローム解消のための身体活動・運動指導マニュアル策定に関する検討を行う。
- 介護予防と動脈硬化予防を両立させる筋力トレーニングの実施法の検討を行う。
- 身体活動と食事由来成分の併用効果により、閉経後女性の骨密度への影響を明らかにする。
- 成人、高校生、幼児を対象に身体活動量の評価法に関する研究を質問紙法、加速度計、二重標識水法を用いて行う。
- エネルギー代謝の変動要因に関する研究を行う。
- 身体疲労指標に関する研究に関する研究を行う。
- 睡眠の機序に関する研究を行う。

3) 研究業務概況

- 生活習慣病発症と身体活動量・運動量・体力に関するシステマティックレビューを行い、「健康づくりのための運動基準 2006」及び「エクササイズガイド 2006」の策定に貢献した。
- 運動所要量ワーキンググループ(厚生労働省健康局以下同じ)、運動指針小委員会、運動所要量・運動指針の策定委員会に委員として参加し、これらの厚生労働省の運動施策の推進に寄与した。
- 運動基準とエクササイズガイド 2006 の説明会(独立行政法人 国立健康・栄養研究所主催及び他団体主催を含む)の講師として全国に赴き、それらの普及・啓発のために貢献した。運動基準 2006 とエクササイズガイド 2006 の普及定着のために「新しい運動基準・運動指針普及定着ガイド」を発行した。
- 運動基準やエクササイズガイドで示された運動・身体活動量の妥当性を検討するための大規模前向き研究実施のためのシステム、指導マニュアル、測定評価法の確立を終え、調査を開始した。

- 健康運動指導士がエビデンスに基づいた身体活動・運動指導を行うための研究論文データベースを、健康・体力づくり事業財団と協力して作成した。これらのデータベースは厚生労働省が委託し健康・体力づくり事業財団が運営する「健康ネット」に公開された。
- メタボリックシンドロームの改善のための標準的な身体活動・運動指導マニュアルを構築し、フィールドでの効果を検証中である。
- 介護予防と動脈硬化予防を両立させる筋力トレーニングの効果的実施方法として有酸素トレーニングとの併用が効果的であることを示した。また、緊張力維持法(スロトレ)の効果を検討した。
- 身体活動(ウォーキング)とイソフラボンの併用効果により閉経後女性の大腿骨頸部の骨密度の低下が予防されることを明らかにした。
- 60名の成人を対象に加速度計法を用いて15種の身体活動(運動、家事など)の強度の評価法を確立することを目的に3種類の加速度計の評価を行った。
- JALSPAQ等の既存の質問紙や運動基準・食事摂取基準のための質問紙、および上記で検討する加速度計を使って、二重標識水法とあわせて、日常生活における身体活動量の妥当性を検討した。
- 約3ヶ月間のレジスタンストレーニングは脂質酸化能に影響を与えないことを明らかにした。
- 自律神経バランスの変動を用いた休養・疲労に関する研究の基礎として、自律神経バランスに及ぼす生理周期の影響を心拍スペクトル解析によって明らかにした。
- 麻酔ラットにおいて視床下部視索前野のGABA受容機構を阻害すると睡眠脳波の典型であるデルタ波が誘起されること睡眠機構との関係を明らかにした。

4) 構成メンバー

プログラムリーダー:

田畑 泉

プロジェクトリーダー:

宮地元彦 (運動ガイドラインプロジェクト)

田中茂穂 (エネルギー代謝プロジェクト)

上級研究員:

柏崎 浩、高田和子、熊江 隆、大坂寿雅

特別研究員:

谷本道哉、高橋佳子、大河原一憲(平成19年1月より)

流動研究員:

呉 泰雄

客員研究員:

山川純

石田良恵 (女子美術大学)

木村靖夫 (佐賀大学)

川中健太郎 (新潟医療福祉大学)

真田樹義 (早稲田大学)

井上修二 (共立女子大学)

協力研究員:

町田修一 (早稲田大学)
 薄井澄誉子 (早稲田大学)
 山本健太 (早稲田大学)
 二見順 (東日本国際大学)
 別所京子 (鎌倉女子大学短期大学部)
 小林優子 (杏林大学保健学部)

技術補助員:

岩崎芽生、大森由美、黒瀬苗子、河野寛、小暮寛子、
 引原有輝、田中祥子、坂田晶子、京須薫、阿部瑞恵、
 吉田美代子、山田陽未

研修生:

藤本恵理 (早稲田大学)
 高橋恵理 (早稲田大学)
 丸藤祐子 (早稲田大学)
 内山恵梨子 (昭和女子大学)
 山本祥子 (昭和女子大学)
 千田英子 (昭和女子大学)
 山田直子 (エームサービス)
 古沢剛 (YMCA 高等学院)
 田栗恵美子 (お茶の水女子大学)
 曹筱瑋 (お茶の水女子大学)
 三宅理江子 (県立広島大学)
 鈴木洋子 (共立女子大学)
 小山有布 (共立女子大学)
 塚本絢子 (共立女子大学)

(2)プロジェクトの概要**A【運動ガイドラインプロジェクト】****1) プロジェクトの役割及び目標****(役割)**

厚生労働省の運動施策の中心である「健康づくりのための運動基準」と「健康づくりのための運動指針(エクササイズガイド)」の改定に必要なエビデンスに関する調査研究を行うこと。

(目標)

- ・運動基準 2006 で示された身体活動量、運動量、体力の基準の妥当性について検討するための、大規模無作為割り付け介入研究を開始するための基礎研究を実施する。
- ・レジスタンストレーニングやその実施方法が生活習慣病危険因子ならびに体力指標に及ぼす影響に関する研究を実施する。
- ・健康運動指導士がエビデンスに基づいた運動指導を行うための研究論文データベース作成を実施する。
- ・栄養教育プログラムと協力し、佐久肥満克服プログラムの身体活動量評価ならびに身体活動・運動介入を行う。

2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- ・運動基準 2006 で示された身体活動量、運動量、体力の基準の妥当性について検討するための大規模無作為割り付け介入研究について、本年度は、被験者割り付け管理ならびに研究支援システムの構築、3次元加速度計による活動量計、身体活動改善カリキ

ュラム、食事調査・介入カリキュラムが完成した。またベースライン測定を行う準備を行った。協力機関の南部健康づくりセンターとともに被験者リクルートを開始し、ほぼ 200 名の予備検査を行った。平成 19 年 3 月より、ベースライン測定を開始し、被験者エントリーを開始した。

- ・レジスタンストレーニングや、その実施方法が生活習慣病危険因子ならびに体力指標に及ぼす影響に関する研究のために、中年男性ボディビルダー・リフターと健康一般男性を比較した横断研究を実施した結果、中年ボディビルダー・リフターの動脈ステイフネスが高いという好ましくない効果と、一方で、四肢血流量が多く、体脂肪率が低いなどの好ましい効果も見られた。また、新しい筋力トレーニング方法の一つである緊張力維持法(スロトレ)の効果を検討するために、37 名の健康男性を対象として、スロトレ群、通常筋トレ群、対照群の 3 群を比較する無作為割り付け介入研究を実施した結果、通常筋トレとは対照的に、スロトレは動脈ステイフネスを改善すること、通常筋トレとスロトレ群両方で四肢血流量が増加することが示唆された。
- ・健康運動指導士がエビデンスに基づいた身体活動・運動指導を行うための研究論文データベースを、健康・体力づくり事業財団と協力して作成した。国内の多くの研究者の協力のもと、本年度は約 750 本の論文の概要をまとめた。昨年度の約 700 本と併せて、約 1450 本の論文データベースが構築できたのを受け、健康体力づくり事業財団と協力して、平成 19 年 4 月より、本データベースをインターネット上で公開し、運用を開始する予定である。
- ・栄養教育プログラムと協力し、佐久肥満克服プログラムの身体活動量評価ならびに身体活動・運動介入を担当した。平成 18 年 7 月のベースライン測定から約 9 ヶ月間の運動・身体活動量評価とその介入を実施し、継続中である。

B【エネルギー代謝プロジェクト】**1) プロジェクトの役割及び目標****(役割)**

厚生労働省の運動施策である「健康づくりのための運動基準」と「健康づくりのための運動指針(エクササイズガイド)」における身体活動量・運動量の把握に関する調査研究と、栄養対策である「日本人の食事摂取基準」における推定エネルギー必要量に関する調査・研究を行う。

(目標)

加速度計法や質問紙法による身体活動量評価法の検討を目的に、様々な身体活動の強度を、DLW(二重標識水法)を基準として加速度計で推定する方法を確立する。

- ・性・年齢階級・体格毎の基礎代謝推定法の再検討を行う。
- ・身体活動に伴う代謝亢進が総エネルギー消費量に及ぼす影響を明らかにする。
- ・レジスタンストレーニングが身体活動量や脂質代謝

に及ぼす影響を明らかにする。

2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- ・ 15 種類の身体活動(運動、家事など)における活動強度の評価法を確立することを目的に、約 60 名の成人を対象として、4 種類の加速度計による評価法の検討を行った。また、既存の加速度計については妥当性の検討を、新しい加速度計については推定式の作成を行った。加速度と活動強度との間に、歩行と生活活動とで異なる関係式が得られた。また、歩行を評価するためにつくられた既存の加速度計では、生活活動をかなり過小評価することが明らかとなった。
- ・ JALSPAQ 等の既存の質問紙や運動基準・食事摂取基準のための質問紙、および上記で検討している加速度計を使って、約 180 名の成人を対象に、DLW 法とあわせて日常生活における身体活動量の妥当性を検討するための測定を開始した。子ども(中学生・高校生・幼児)についても、DLW 法や加速度計による測定を実施した。
- ・ 20 歳代女性 84 名の基礎代謝量を測定し、「日本人の食事摂取基準(2005 年版)」で採用されている 1940 年代の女性の値と異なることを明らかにした。また、ヒューマンカロリメーターを用いて測定した睡眠時代謝量については、体格等からの推定誤差が小さく、正確な測定に基づいた安静時代謝量(睡眠時代謝量・基礎代謝量など)については、個人間差はそれほど大きくないことが示された。日本人肥満者において、様々な推定式が基礎代謝量を過大評価することも明らかとなった。
- ・ 一般に、身体活動量が多い人においては、エネルギー消費量や身体活動量が過小評価される傾向にある。そこで、考えられる原因の一つとして、日常生活にみられるような短時間の身体活動の繰り返しによる代謝亢進が 1 日のエネルギー消費量に与える影響について、ヒューマンカロリメーターを用いて測定を行った。その結果、総エネルギー消費量に対する寄与は約 1%と小さいこと、ただし、値に個人差がみられ、その個人差は体力と関連することが明らかとなった。
- ・ 約 3 ヶ月間のレジスタンストレーニングが脂質酸化能および日常の身体活動量に与える影響について、介入前後に、ヒューマンカロリメーター、DLW 法、基礎代謝量、加速度計法等の測定を実施した。現在分析中であるが、ヒューマンカロリメーターにおける呼吸商から推定した脂質酸化能については変化がないことを明らかにした。

C 【休養プロジェクト】

1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

「健康づくりのための運動指針 2006(エクササイズガイド 2006)」で示された身体活動・運動量の実施を可能とするために、適切な休養の取り方に関する研究を行う。

(目標)

- ・ 一過性の肉体的あるいは精神的負荷による身体疲労あるいは精神疲労による非特異的免疫能と心臓自律神経バランスの変動を測定し、測定データの解析方法を確立する。
- ・ 麻酔ラットを用いて視床下部における GABA の睡眠等への関与について検討し、睡眠・覚醒状態を計測・判定するシステムを確立する。

2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- ・ 感染症防御に重要な非特異的免疫能の変動を休養の客観的な指標とすることを目的に、身体活動が制限される 21 日間の出納実験に参加した女子大学生を被験者とし、血清オプソニン化活性とイムノグロブリン及びミエロペルオキシダーゼ濃度の変動を測定した。イムノグロブリン濃度は出納実験中にほとんど変化せず、ミエロペルオキシダーゼ濃度は低下傾向を示した。一方、血清オプソニン化活性は出納実験中に増強し、イムノグロブリン濃度との間に相関関係はない事を明らかとし、これらの成果を論文発表した。
- ・ 休養の基礎としての睡眠に着目し、主として精神的疲労・ストレスを睡眠時の自律神経バランスの変動から明らかとする研究を開始した。女子大学生を被験者とし、心臓自律神経バランスを心拍スペクトル解析により求め、睡眠時の自律神経バランスに及ぼす生理周期の影響を検討中である。すでに実験室内での宿泊条件では生理周期の影響を明らかとすることに成功しており、次の段階として通常の生活状況下での検討を繰り返している。
- ・ 客観的な疲労度指標の開発に関する研究の一部として、血中逸脱酵素活性等の変動について検討を行った。短時間の肉体的負荷として、別府大分毎日マラソンに参加した 40 名の選手を被験者としてマラソンレース前後での変動を検討し、発汗によると思われる血液濃縮及び血中逸脱酵素の増加より筋肉への大きな負担を明らかとし、論文発表した。
- ・ 女子長距離選手(運動群)20 名と BMI で長距離選手に近い体格の一般女子学生(対照群)21 名を選抜して被験者とし、主観的疲労度、血中逸脱酵素活性、及び血液性状の変動を 6 ヶ月間検討した。主観的疲労度を Profile of Mood States (POMS) と産業衛生の自覚症状調べで検討した。対照群では調査中に心理状況の改善が示唆され、対照群は運動群より血中逸脱酵素活性が低値であり、鉄欠乏性貧血の特徴を示した。運動群と対照群では、主観的疲労度と血中逸脱酵素活性あるいは血液性状との間の相関関係が異なっている事を明らかとし、これらの成果を論文発表した。また、心理的ストレスによる影響を検討することを目的とし、21 日間の出納実験が主観的疲労度、血中逸脱酵素活性、及び血液性状に及ぼす影響を女子学生 10 名で検討した。出納実験中に POMS の緊張と混乱の項目は低下し、この出納実験では精神的ストレスは無かったと思われる。血中逸脱酵素活性に有意の変動はなかったが、血液性状は有意に変動した。主観的疲労度と血中逸脱酵素活性

あるいは血液性状より、疲労感がある時や全体的にネガティブな気分の際は身体活動量の低下を明らかとし、これらの成果を論文発表した。

- ・ラットの睡眠・覚醒状態を判定するシステムを立ち

上げた。GABA が視床下部視索前野では睡眠抑制に働き、背内側野では睡眠促進に働いていることを示唆する結果を得た。

III. 臨床栄養プログラム

(1) プログラムの概要

1) プログラムの目標

臨床栄養プログラムは、「重点調査研究に関する事項」の「生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究」に対応し、運動・身体活動による生活習慣病の一次予防、食事と遺伝的因子の相互作用の解明並びに運動と食事とによるテーラーメイド予防法に関して、ヒトを対象とした試験、動物や細胞等を用いた研究を行う。近年、我が国において糖尿病患者は増加の一途をたどり、罹患者数は約 740 万人を数えるに到っている。糖尿病は高齢者における主要な疾患であり、糖尿病に肥満・高脂血症・高血圧が合併するメタボリックシンドロームは動脈硬化を促進し、心筋梗塞・脳卒中のリスク増大を介して日本人の健康寿命を短縮する最大の原因となっている。糖尿病などの生活習慣病は、複数の遺伝因子に加えて環境要因が組み合わさって発症する多因子病であり、その 1 つ 1 つの因子は単独では生活習慣病を発症させる効果は弱い、複数の因子が組み合わさって生活習慣病を発症させると考えられている。また近年の我が国における糖尿病患者数の急増については、日本人が欧米人に比し膵β細胞のインスリン分泌能が低い(遺伝的素因)ために、高脂肪食などの食事内容の欧米化や運動量の低下といった変化(生活習慣要因)による肥満・インスリン抵抗性状態に対して、膵β細胞がこれを十分に代償できないことがその一因と考えられている。このような生活習慣病の特性を踏まえて、本プログラムでは糖尿病や動脈硬化症の発症・進展の遺伝的要因、環境要因並びにその分子メカニズムを解明することを目標とする。

2) 年度計画

A. メタボリックシンドロームプロジェクト

I. 各栄養素摂取量と遺伝子多型の相互作用の検討

既にインスリン抵抗性に関連することを明らかにしている遺伝子と食習慣との相互作用による肥満・メタボリックシンドローム発症への影響を検討するため、本年度は、新潟県新発田市の 700 名からなるコホート対象者について、2 個以上のインスリン抵抗性関連遺伝子多型の遺伝子型をタイピングする。その上でこれらの遺伝子の多型と各栄養素摂取量並びに身体活動量を説明因子として、肥満度、血糖値、糖尿病発症の有無などの従属変数をどのように説明しうるかを多変量解析によって検討する。

II. 基礎代謝に影響を与える遺伝素因の研究

インスリン抵抗性に関連することを明らかにし、基礎代謝に影響を与える可能性のあるアディポネクチン遺伝子、アディポネクチン受容体 1 および 2 遺伝子、AMPK α 2 サブユニット遺伝子、レジスチン遺伝子、PPAR γ 2 遺伝子、 β 3 アドレナリン受容体遺伝子、PGC-1 遺伝子について SNP(一塩基多型)のタイピング法を最適化する。

B. 栄養療法プロジェクト

高脂肪食がどのようにして糖尿病・メタボリックシンドロームを惹起するかのメカニズムと糖質・脂質・エネルギー比率からみた適切な生活習慣病の栄養療法のあり方を検討する。

I. 糖尿病の研究(インスリン分泌を中心に)

生理的濃度の遊離脂肪酸はインスリン分泌に必須であり、遊離脂肪酸は短期的にはグルコース応答性インスリン分泌を増加させるが長期的には低下させる。その程度は豚ランゲルハンス島中の中性脂肪含量とよく相関することが知られているが、どの程度の遊離脂肪酸の負荷がインスリン分泌を抑制するのか、あるいはどのような遊離脂肪酸がインスリン分泌抑制に作用するのかは不明である。そこで本プロジェクトでは私共が遺伝子操作によって作製した 2 型糖尿病モデル動物、肥満モデル動物を使用し、種々の脂肪量・脂肪酸構成の餌を与え、脂肪量、脂肪酸構成のインスリン分泌に与える影響について検討する。

II. メタボリックシンドロームの研究(インスリン抵抗性を中心に)

平成 17 年に策定されたメタボリックシンドロームの診断基準では腹囲の増加、すなわち肥満がその診断に必須な項目となっている。肥満の原因としては脂肪摂取量の増加が上げられるが、その原因としては脂肪以外の栄養素が門脈を経て肝臓で代謝されるのに対し、脂肪酸(特に長鎖脂肪酸)はリンパ管を経由して全身を循環するため脂肪組織に蓄積されやすいこと、摂取した過剰な糖質や蛋白質は脂肪に変換するためにエネルギーを消費するのに対し、脂肪は余分なエネルギーを消費せず、直接脂肪組織に蓄積されることなどが考えられる。また脂肪の質によっても肥満の程度は異なり、近年その摂取量が増加している飽和脂肪酸は不飽和脂肪酸に比べ、肥満を発症しやすいことが報告されている。そこで本プロジェクトでは、私共が遺伝子操作によって作製したインスリン抵抗性モデル動物、2 型糖尿病モデル動物、肥満モデル動物を使用し、種々の脂肪酸構成の餌を与え、脂肪量全体の全エネルギーに占める適切な量、あるいは各脂肪酸の適切な割合などについて検討する。

3) 研究業務概況

A. メタボリックシンドロームプロジェクト

I. 各栄養素摂取量と遺伝子多型の相互作用の検討

- ・新潟県新発田市の地域住民 700 名のコホート対象者について、これまでに明らかにした日本人 2 型糖尿病感受性遺伝子多型について迅速にタイピングできる環境を整備する。
- ・日本人 2 型糖尿病感受性遺伝子のうち、インスリン抵抗性に関与する遺伝子の多型について遺伝子型を決定する。
- ・日本人 2 型糖尿病感受性遺伝子のうち、インスリン

抵抗性に關与する2個の遺伝子と食習慣との相互作用を解析する。

- ・新規に2個以上のインスリン分泌低下の感受性遺伝子を明らかにする。

II. 基礎代謝に影響を与える遺伝素因の研究

- ・8個の日本人2型糖尿病感受性遺伝子について多型のタイピング法を最適化する。

B. 栄養療法プロジェクト

I. 糖尿病の研究および、II. メタボリックシンドロームの研究

- ・2型糖尿病モデル動物、肥満モデル動物と高脂肪食に関して；
モデル動物としてグルコース応答性インスリン分泌(GSIS)低下を認めるが、糖尿病は発症しない膵β細胞特異的グルコキナーゼヘテロ欠損マウス(Gck+/-マウス)を使用した。洋食に相当する高脂肪食(HF; high fat diet)と、伝統的な和食を模した高炭水化物食(HC; high carbohydrate diet)を投与した。脂肪含量はHCは4.0%、HFは32%とした。
- ・高脂肪食負荷とインスリン抵抗性に関する解析；
Gck+/-マウス、野生型マウスとも20週間のHF負荷によってHC負荷群と比較して有意な肥満と高FFA血症をきたしたが、インスリン抵抗性悪化の程度に関しては同等であった。
- ・高脂肪食負荷とインスリン分泌に関する解析；
糖負荷試験で、HF負荷野生型マウスは代償性高インスリン血症によりほぼ正常な耐糖能を維持したのに対し、HF負荷Gck+/-マウスは代償性高インスリン血症を欠き、耐糖能が悪化して糖尿病を発症した。膵組織像では膵島増大が認められず、膵β細胞増殖能は低下していた。単位膵β細胞あたりのGSISに関しては、HC負荷群に比較してHF負荷群では、Gck+/-マウス・野生型マウスともに低下を認めた。
- ・高脂肪食負荷と代償性膵β細胞過形成に関する解析；
膵島のDNAチップ解析では、HF負荷野生型マウスと比較してHF負荷Gck+/-マウスでは、IRS-2の発現が-25倍と最も減少していた。蛋白レベルでもHF負荷Gck+/-マウスの膵島ではIRS-2の発現上昇を欠くことを確認した。
- ・高脂肪食負荷とIRS-2に関する解析；
膵β細胞IRS-2過剰発現マウスを作成し、Gck+/-マウスと交配した。膵β細胞にIRS-2を補充したHF負荷Gck+/-マウスでは、膵β細胞増殖能の回復と膵島増大が認められ、単位膵β細胞あたりのGSISに変化はなかったが、個体レベルでの耐糖能が部分的に改善した。

4) 構成メンバー

プログラムリーダー:

門脇 孝

プロジェクトリーダー:

原 一雄 (メタボリックシンドロームプロジェクト)

窪田直人 (栄養療法プロジェクト)

研究員:

窪田哲也 (任期付研究員)

特別研究員:

大石由美子 (平成19年3月まで)

客員研究員:

野田光彦 (国立国際医療センター研究所・内分泌代謝・臨床検査部長)

協力研究員:

眞鍋一郎 (東京大学大学院医学系研究科循環器内科)

窪田直人 (東京大学大学院医学系研究科糖尿病代謝内科)

原 一雄 (東京大学大学院医学系研究科糖尿病代謝内科)

松下由実 (国立国際医療センター研究所・国際臨床研究センター・国際保健医療研究部国際疫学研究室長)

研修生:

高本偉碩 (東京大学大学院医学系研究科糖尿病代謝内科)

泉 和生 (財団法人国際協力医学研究振興財団)

加藤昌之 (財団法人国際協力医学研究振興財団)

中嶋美晴 (東京大学大学院医学系研究科糖尿病代謝内科:平成19年3月まで)

笹本さやか (東京大学大学院医学系研究科糖尿病代謝内科:平成18年7月から)

技術補助員:

三木裕子 (平成18年4月まで)

藤田りつ子 (平成18年9月から)

事務補助員:

小野祐子 (平成18年6月まで)

河野小由紀 (平成18年6月から)

(2)プロジェクトの概要

A【メタボリックシンドロームプロジェクト】

1) プロジェクトの役割及び目標

生活習慣病を効果的に予防するためには、生活習慣病の根本的な分子病態に立脚した生活習慣への介入が必須である。メタボリックシンドロームは内臓脂肪の蓄積が第一義的な原因であるが、近年の内外の研究により脂肪細胞で産生・分泌されるアディポカイン(特にアディポネクチン)が内臓脂肪の蓄積によって質的・量的に変化することがインスリン抵抗性や糖尿病を引き起こしていることが明らかになってきている。そこで、食事療法・運動療法のアディポカインに対する影響を検討し、生活習慣病の予防の観点から最も食事・運動療法によってメリットがある対象者をスクリーニングする方法の開発や、最適な食事・運動療法プログラム、テーラーメイド食事・運動療法を開発していくことも本来の業務として重要な研究であると考ええる。

2) プロジェクトの進捗状況(成果)

●各栄養素摂取量と遺伝子多型の相互作用の検討

インスリン抵抗性遺伝子と食習慣などの環境因子との相互作用による肥満・メタボリックシンドローム発

症への影響の有無を検討するために、新潟県新発田市の 700 名のコホート対象者のほぼ全員について、2 個のインスリン関連遺伝子多型 (PPAR γ 遺伝子 Pro12Ala 多型、アディポネクチン遺伝子 SNP276 多型) についてタイピングを終了し遺伝子型を決定した。新潟県新発田市のコホート対象者について各栄養素摂取量並びに身体活動量についての情報は既に収集済みであり、PPAR γ 遺伝子 Pro12Ala 多型、アディポネクチン遺伝子 SNP276 多型、各栄養素摂取量並びに身体活動量とこれらの相互作用項を説明因子とし肥満度を従属変数とした多変量解析を行い、PPAR γ 遺伝子、アディポネクチン遺伝子と環境因子の相互作用については検討を行った。PPAR γ 遺伝子 Pro12Ala 多型については脂肪摂取量と相互作用して肥満に関係する可能性が示唆された。

●基礎代謝に影響を与える遺伝素因の研究

基礎代謝に影響を与えることが推定される 8 個の遺伝子、すなわちアディポネクチン遺伝子、アディポネクチン受容体 1 および 2 遺伝子、AMPK α 2 サブユニット遺伝子、レジスチン遺伝子、PPAR γ 2 遺伝子、 β 3 アドレナリン受容体遺伝子、PGC-1 遺伝子の多型についてそれぞれ個別にタイピング法について最適化を完了した。アディポネクチン遺伝子の SNP276 多型遺伝子について PCR-RFLP (restriction fragment length polymorphism) の原理を利用した簡便・迅速なタイピング法を開発した。本法については臨床検査会社に既にライセンスを行っており大量に解析可能な体制となっている。他の遺伝子の多型については直接シーケンス法のプローブの作成や Taqman 法による Real Time PCR の最適温度について調整済みとなっている。

B【栄養療法プロジェクト】

1) プロジェクトの役割及び目標

近年の我が国における糖尿病患者数の急増については、日本人が欧米人に比し膵 β 細胞のインスリン分泌能が低いという遺伝的素因をベースとして、高脂肪食に代表される食習慣の欧米化により惹起された肥満・インスリン抵抗性状態に対して、膵 β 細胞がこれを十分に代償できないことがその一因と考えられている。従って、低インスリン分泌能と高脂肪食誘導性のインスリン抵抗性との相互作用を分子レベルにおいて解明することが求められており、モデル動物を用いた詳細な検討が重要であると考えられる。

2) プロジェクトの進捗状況 (成果)

モデル動物としてグルコース応答性インスリン分泌 (GSIS) 低下を認めるが糖尿病は発症しない膵 β 細胞特異的グルコキナーゼヘテロ欠損マウス (Gck $+/$ -マウス) を使用した。洋食に相当する高脂肪食 (HF ; high fat diet) と、伝統的な和食を模した高炭水化物食 (HC ; high carbohydrate diet) を投与した。

脂肪含量は HC は 4.0%、HF は 32% とした。Gck $+/$ -マウス、野生型マウスとも 20 週間の HF 負荷によって HC 負荷群と比較して有意な肥満と高 FFA 血症をきたしたが、インスリン抵抗性悪化の程度に関しては差を認めなかった。しかしながら、糖負荷試験を行うと、HF 負荷野生型マウスは代償性高インスリン血症によりほぼ正常な耐糖能を維持したのに対し、HF 負荷 Gck $+/$ -マウスは代償性高インスリン血症を欠き、耐糖能が悪化して糖尿病を発症した。膵組織像では膵島増大が認められず、膵 β 細胞増殖能は低下していた。単位膵 β 細胞あたりの GSIS に関しては、HC 負荷群に比較して HF 負荷群では、Gck $+/$ -マウス・野生型マウスともに低下を認めた。これは膵 β 細胞における脂肪毒性を反映しているものと考えられた。

次に膵島の DNA チップを行い、網羅的に遺伝子発現を解析した。HF 負荷野生型マウスと比較して HF 負荷 Gck $+/$ -マウスでは、IRS-2 の発現が -25 倍と最も減少していた。その上流の IGF-1 受容体、下流の PDK-1 の発現も低下していた。蛋白レベルにおいても HF 負荷 Gck $+/$ -マウスの膵島では HF 負荷野生型マウスで認められる IRS-2 の発現上昇を欠くことを確認した。

そこで膵 β 細胞 IRS-2 過剰発現マウスを作成し、Gck $+/$ -マウスと交配することで IRS-2 の補充により HF 負荷 Gck $+/$ -マウスの表現型が rescue されるか検討した。コントロールの HF 負荷 Gck $+/$ -マウスと比較して膵 β 細胞に IRS-2 を補充した HF 負荷 Gck $+/$ -マウスでは、膵 β 細胞増殖能の回復と膵島増大が認められ、単位膵 β 細胞あたりの GSIS に変化はなかったが、個体レベルでの耐糖能が部分的に改善した。

以上から、HF 誘導性のインスリン抵抗性に対する代償性膵 β 細胞過形成にグルコキナーゼ、IRS-2 は重要な役割を果たしていることが明らかとなった (Journal of Clinical Investigation 2007 Jan;117(1):246-57 に論文発表)。

IV. 基礎栄養プログラム

(1) プログラムプロジェクトの概要

1) プログラムの目標

運動・食事療法が生活習慣病発症予防に有効であることは周知の事実である。しかし、現実には長期間の運動・食事療法を行うことは難しく、特に高齢になると、意欲の低下、筋肉量の減少、関節の摩耗、バランス感覚の障害などにより、運動を継続することが困難となる。食事療法にしても、個人の嗜好を変えることは容易ではない。

生活習慣病発症原因となる遺伝要因、環境要因には多く要因が想定されている。各個人の遺伝要因、環境要因を考慮し、予防法や治療法が策定されるべきであるが、発症機序の研究に比べ、運動・食事の予防機序は十分に解明されていないため、それぞれの個人に、どのような運動・食事療法が適するか不明である。

基礎栄養プログラムでは各個人の生活習慣、遺伝的背景を考慮にいたした個人別の運動・食事療法の開発のため、分子レベルでの運動・食事療法の生活習慣病予防機序を明らかにする研究を行う。

2) 年度計画

A. 脂質・糖代謝プロジェクト

a. 運動による肥満/糖尿病予防機序の解明

- 運動は、筋肉での脂肪酸の燃焼を亢進させ、定期的な運動は肥満を予防する。抗肥満効果が筋肉で AMP-activated protein kinase の活性化によるものか、ミトコンドリア数増加によるものか、トランスジェニックマウスを用いて明らかにする。
- 運動によるミトコンドリア数増加には PGC-1 α が関与する。このため、運動による PGC-1 α 増加機序を解明する。

b. 高脂肪食、高蔗糖食による脂肪肝発症機序の解明とその予防法の開発

- 人では、脂肪及び蔗糖の過剰摂取は脂肪肝や肥満を生じる。この機序を明らかにするため、マウスモデルを作成する。
- それぞれのマウス肝臓での遺伝子発現の変化を調べることで、機序を推定し、原因別の予防法を考案する。

c. 脱共役蛋白質 (UCP2) の肥満発症の役割を明らかにする

- どこかの組織でエネルギー消費を亢進させると肥満が予防される。ミトコンドリア呼吸鎖での脱共役 (uncoupling) の亢進はエネルギーを熱として消費する有力な方法である。魚油は肝臓での脱共役蛋白質 (UCP2) の発現量を増加させるとともに、エネルギー消費を増加させ、肥満を予防する。脱共役蛋白質 (UCP2) 欠損マウスを用い、UCP2 の抗肥満の役割を明らかにする。又、UCP2 を肝臓、脂肪組織に過剰発現させ、抗肥満作用が認められるかどうか調べる。

3) 研究業務概況

A. 脂質・糖代謝プロジェクト

a. 運動による肥満/糖尿病予防機序の解明

筋肉中の AMP-activated protein kinase が減弱したマウスでは、運動トレーニングを行っても体脂肪の減少は認められなかったが、wild-type mice と同程度の耐糖能の改善は認められた。すなわち、定期的な運動による抗肥満効果は、筋肉での AMP-activated protein kinase の活性化によるものであった。運動による PGC-1 α 増加の少なくとも約 70% は交感神経活性化によるものであった。

b. 高脂肪食、高蔗糖食による脂肪肝発症機序の解明とその予防法の開発

高脂肪食及び高蔗糖食により、同程度の脂肪肝を発症するマウスモデルを作成した。脂肪肝の発症機序は原因により異なり、高脂肪食では PPAR γ の活性化が、高蔗糖食では SREBP-1c, ChREBP の活性化が認められた。予想どおり、SREBP-1c を不活性化する魚油を添加すると、高蔗糖食による脂肪肝は予防されたが、高脂肪食による脂肪肝は逆に増悪した。脂肪肝の成因により、予防法が異なることが示された。

c. 脱共役蛋白質 (UCP2) の肥満発症の役割を明らかにする

UCP2 knockout mice に魚油を投与しても、魚油による肥満予防作用は認められた。肝臓 UCP2 過剰発現マウスに、高脂肪食を摂取させても wild-type mice と同様に肥満が生じた。以上のデータから肝臓 UCP2 は肥満発症とは関連がないことが示された。

4) 構成メンバー

プログラムリーダー:

江崎 治

プロジェクトリーダー:

三浦進司 (脂質・糖代謝プロジェクト)

上級研究員:

山崎聖美

研究員:

笠岡(坪山) 宣代

客員研究員:

辻 悦子 (兵庫大学)

笠岡誠一 (文教大学)

亀井康富 (東京医科歯科大学)

協力研究員:

柳沢佳子 (自治医科大学人類遺伝学部門・花王株式会社ヘルスケア第1研究所)

研修生:

和田智史 (東京農業大学大学院)

派遣職員:

甲斐裕子

技術補助員:

佐野佳代、勝又阿貴、田村真弓、中森明子、

座波優子、榊原圭代子

V. 栄養教育プログラム

(1) プログラムの概要

1) プログラムの目標

生涯を通じた健康づくりのための栄養教育のあり方について、食育・生活習慣病予防・栄養ケア・マネジメント(食介護)の3プロジェクトで研究する。

食育プロジェクトでは食育の実践活動を通じながら、食育の現状解析と評価、食育実施の為に食育ツールの開発、食育実践の為に科学的基盤づくりを行う。また、食育の方法について評価し、管理栄養士・栄養教諭等の食育専門家へ対して情報提供を行う。

生活習慣病予防プロジェクトでは肥満者を対象に認知行動変容理論にもとづいて、運動及び栄養教育による介入研究を実施し、性格や遺伝子多型 SNP のデータと組み合わせることでテーラーメイド栄養指導をめざす。

栄養ケア・マネジメントプロジェクトでは今後増大する高齢者の食介護を現状分析し、嚥下困難食の基準化をはかり、食事を通じた QOL の向上に関する研究を行う。

2) 年度計画

A. 食育プロジェクト

- ・生涯を通じた効果的な食育を実践する為の、子ども・成人・高齢者の食生活や食習慣についての断面調査を実施する。
- ・食育ツールである食事バランスガイドを有効活用するために、子どもにも適応できる食育ツール展開について構築する。
- ・新規健診・保健指導の為に技術開発・推進の一環として、「栄養教育実施の為に科学的基盤データベース」の構築をする。

B. 生活習慣病予防プロジェクト

- ・メタボリックシンドローム・生活習慣病発症の大きな要因である肥満に焦点を絞り、肥満者を対象にした運動及び食事指導による介入研究を開始する。
- ・一般健康住民を対象に大規模なコホートを設定し、生活習慣病の発症・進展・予防に関する研究を開始する。
- ・他施設・他大学との分子疫学、予防疫学等の共同研究に協力し、生活習慣病予防のための科学的根拠の整理を図る。
- ・働き盛りの食育にかかわる普及・啓発実践活動を展開する。

C. 栄養ケア・マネジメントプロジェクト

- ・摂食・嚥下障害を有する高齢者に対する食事療法・栄養療法のあり方について問題の把握と対策に関する研究を実施する。異分野の専門家によるワークショップを開催し、問題点を整理する。

3) 研究業務概況

A. 食育プロジェクト

- ・新規健診・保健指導の為に技術開発

「栄養教育実施の為に科学的基盤データベース」の構築を行った。本データベースの使用目的は、健康教育従事者がメタボリックシンドロームのリスクを有する者への教育に際して有効活用できるようにする事である。食生活・栄養にかかわる科学的論文を生活習慣病予防ガイドライン文献及び PubMed 検索により選択収集し、673 件の論文をデータベース化した。

- ・高齢者における食生活と食習慣について調査し、日本型食生活と日本人の健康維持との関連性を明らかにし、食育で推進される「日本型食生活」の具体的な食事パターンの提示とその有効性について明らかにした。また、親の食習慣及び食教育が子どもの食習慣に与える影響を検討するために、アンケート調査を実施した。
- ・成人用食育ツールである食事バランスガイドを、学童用に合った食育ツールとして「3食バランスガイド」へ展開した。
- ・食育にかかわる普及活動として、大阪で開催された食育推進全国大会にブースを出展し食育の重要性を提示した。

B. 生活習慣病予防プロジェクト

- ・肥満者の運動及び食事指導による介入研究
佐久総合病院人間ドック受診者を対象に、肥満克服のための介入研究を3年計画で開始した。対象者は235名で、無作為に2群に分けクロスオーバー法で認知行動変容理論に基づく介入効果を検証中である。栄養士・運動指導士などによる食事・運動指導と本人の意欲の改善による肥満解消への効果およびその要因を解析している。ベースラインデータによる肥満者の特性の解析および介入デザインの検討については、結果を学会で発表するとともに論文にまとめ、現在投稿準備中である。
- ・健診受診者を対象とした大規模コホート研究
佐久総合病院人間ドック受診者を対象とした一万人規模のコホートを設定し、肥満や糖尿病などのリスク因子抽出のための、後向き前向き縦断研究を準備中である。対象者抽出のための名簿、抽出条件や実施プロトコルの作成を行った。
- ・他施設・他大学との分子疫学・予防疫学的共同研究
地域住民を対象とした骨粗鬆症コホートの10年目の追跡研究を全国3ヶ所で行うとともに、これまでの研究成果を踏まえ、遺伝子多型を用いた骨粗鬆症のテーラーメイド予防にかかわる解析結果を学会・論文で発表した。テーラーメイド栄養指導への基礎研究として、肥満者の遺伝子多型に関する研究を行った。

C. 栄養ケア・マネジメントプロジェクト

摂食・嚥下障害を有する高齢者に対する食事療法・栄養療法のあり方について問題の把握と対策を抽出するために、専門家によるワークショップを開催した。「摂食・嚥下障害を考える研究交流会」を開催し、総勢

232名の栄養士・医師・歯科医師等が参加し、7名の各分野の専門家からの問題提議が行われ、摂食障害での共通問題の認識を行った。

4) 構成メンバー

プログラムリーダー:

渡邊昌 (併任:理事長)

プロジェクトリーダー:

饗場直美 (食育プロジェクト)

森田明美 (生活習慣病予防プロジェクト)

渡邊昌 (栄養ケア・マネジメントプロジェクト) (平成18年12月31日まで併任)

手嶋登志子 (栄養ケア・マネジメントプロジェクト) (平成19年1月1日から)

上級研究員:

山田晃一

客員研究員:

Melissa Melby

石渡尚子 (跡見学園)

岡純 (東京家政大学)

梶本雅俊 (相模女子大学)

協力研究員:

柘植道代 (山村短期大学)

平川あずさ (「食生活」編集員)

井手智子 (東京家政大学)

高橋東生 (聖徳大学)

研究補助員:

竹澤純、須田尚美、金子典子、宮木晶子、清水睦美、

宮崎亜紀子、串田修、中出麻紀子、

田口浩子

研修生:

二瓶敦子、和田碧、金子悦子 (東京家政大学)、

鈴木望、(東京農大)

(2) プロジェクトの概要

A【食育プロジェクト】

1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

食育の実践活動を通じながら、食育の現状解析と評価、食育実施の為に食育ツールの開発及び科学的基盤づくりを行う。また、食育の方法について評価し、管理栄養士・栄養教諭等の食育専門家に対して情報提供を行う。

(目標)

1. 新規健診・保健指導の為に技術開発・推進の一環として、「栄養教育実施の為に科学的基盤データベース」の構築をする。19年度末までに1000件のデータベースを作成することを目的に、18年度はメタボリックシンドローム予防の為に栄養・食生活に関連する科学的論文を疾患予防ガイドライン文献とPubMed検索により収集しデータベース化を行う。
2. 生涯を通じた効果的な食育を実施する為に、子ども、成人、高齢者それぞれの食生活・食習慣についての調査研究を実施し、食生活と健康に関する問題を検証し、食育の方法について研究・評価する。
3. 食育推進実践活動において有効な食育ツールを開発

する。

4. 食育にかかる情報の普及・啓発活動を実践する。

2) プロジェクトの進捗状況(成果)

1. 「栄養教育実施の為に科学的基盤データベース」を構築した。本事業は平成20年度から施行される新規健診・保健指導の専門家向け学術データベースの基盤を築く事にある。従って、メタボリックシンドロームのリスク者を指導するさいに、科学的根拠となるデータベースであることが必須条件であり、18年度はメタボリックシンドローム予防の為に栄養・食生活に関連する科学的論文を各生活習慣病予防ガイドライン文献(343件)とPubMed検索(330件)により収集し、論文をレビューし、これまでに総計673件のデータベース化を行った。
2. 生涯を通じた食育実施の為に科学的基盤を築くために、健康と食生活や食習慣の関連性について、高齢者、青年について調査研究を実施した。食育基本法での「日本型食生活」推進の基盤として、現在の日本では具体的にどのような食事内容が求められるのかを明らかにした。今年度は高齢者について検討し、食育で推進される日本型食生活が血圧に対してどのような効果があるのか検討し、現代日本型食事パターンが肥満予防及び血圧降下に有効であることを明らかにした。また、食習慣形成に親の食習慣が影響することが推測されることより、親の食育態度と子どもの食習慣形成との関連についてアンケート調査を実施し、現在解析中である。
3. 食育を効果的に子どもに推進する為に食育ツールの開発を行った。食育ツールである食事バランスガイドを直接学童に使用することは難しいと考えられる為に、食事バランスガイドをわかりやすいツールにすることを提案した。これまで全国の学校において使用されてきた「3食栄養バランスガイド」へ食事バランスガイドを適応させ、新たな食育ツールを試作した。
4. 食育にかかる実践的活動として小学校等にて食育講演を3回実施し、第1回全国食育推進大会において国立健康・栄養研究所としてブースを出展し、約2000名の来ブース者を得た。

B【生活習慣病予防プロジェクト】

1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

- ・生涯を通じた健康づくりに有効な栄養教育方法の確立を目指して、特に成人期の生活習慣病予防のための、リスク因子抽出・介入方法検討の基礎的基盤を築く。
- ・新規健診・保健指導に寄与するため、メタボリックシンドローム予備群・有病者群を減少させる効果的介入の科学的基盤を確立する。

(目標)

1. メタボリックシンドローム・生活習慣病予防のために、肥満者を対象に運動及び食事指導による減量を目標とした介入試験デザインを構築し、介入研究を開始する。

2. 健診を受診している一般健康住民を対象に大規模なコホートを設定し、レトロスペクティブおよびプロスペクティブに検討を行い、生活習慣病の発症・進展・予防に関する研究を開始する。

3. 他施設・他大学との疫学・基礎医学的共同研究に協力し、生活習慣病予防のための科学的根拠の基盤形成を図る。

2) プロジェクトの進捗状況(成果)

1. 肥満者の運動及び食事指導による介入研究

佐久総合病院人間ドック受診者を対象に、肥満克服のための介入研究を3年計画で開始した。対象者は、235名(男性116名、女性119名)で、無作為に2群に分けクロスオーバー法で介入効果を検証中である。医師・栄養士・運動指導士などから組まれたチームによる肥満克服プログラムを構成した。認知行動療法の概念に基づいた食事及び運動への行動変容教育を実施し、食事・運動と本人の意欲の改善による肥満解消への効果及びその要因(血液生化学、エネルギー消費量および基礎代謝、遺伝性素因や性格傾向など)を解析している。3ヶ月毎の健診および個別面談による指導と、1ヶ月毎の郵送による状況把握および指導を実施中である。ベースラインデータによる肥満者の特質の解析および介入デザインの検討については、結果を学会で発表するとともに論文にまとめ、現在投稿準備中である。

2. 健診受診者を対象とした大規模コホート研究

佐久総合病院人間ドック受診者を対象とした1万人規模のコホートを設定し、肥満や糖尿病などのリスク因子(身体計測値・血液生化学・内臓脂肪・遺伝子型・性格傾向など)抽出のための、縦断研究の準備中である。対象者抽出のための名簿、抽出条件や実施プロトコルの作成を行った。

3. 他施設・他大学との分子疫学・予防疫学的共同研究

地域住民を対象とした骨粗鬆症コホートの10年目の追跡研究を全国3ヶ所で約1500人を対象に行い、骨折の発生率および動脈硬化を基盤とする循環器疾患の合併率を検証した。これまでの研究成果を踏まえ、遺伝子多型を用いた骨粗鬆症のテーラーメイド予防にかかわる解析結果を学会・論文で発表した。

がん予防の基礎研究として、がんを引き起こすDNA修復異常について癌細胞・ニワトリの変異細胞を用いて解析した。修復に関する機序の一部を明らかにし、成果を論文で発表した。

C【栄養ケア・マネジメント】

1) プロジェクトの役割及び目標

高齢者の食環境を調査研究し、QOLを高く保つ方法を研究する。摂食・嚥下障害を有する高齢者に対する食事療法・栄養療法のあり方について問題の把握と対策をたてる。異分野の専門家によるワークショップを開催し、実行にむけて改善案を提言する。

2) プロジェクトの進捗状況(成果)

摂食・嚥下障害を有する高齢者に対する食事療法・栄養療法のあり方について問題の把握と対策を抽出するために、専門家によるワークショップを開催した。「摂食・嚥下障害の食事の歴史と現状」「高齢者の嚥下障害の臨床と栄養・食事」「口腔機能からみた問題点」「摂食・嚥下訓練と食事一言語聴覚士の立場から」「物性面からみた摂食・嚥下障害の食事」「介護食の栄養士教育への位置付け」「業界の対応をユニバーサルデザインフード」の報告がなされた。総勢232名の栄養士・医師・歯科医師等が参加し、7名の各分野の専門家を交えた総合討論がなされ、摂食障害での共通問題が認識された。現在書籍として出版印刷中である。

VI.食品保健機能プログラム

(1) プログラムの概要

1) プログラムの目標

中期目標は、健康増進法に基づく業務、及び、「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究を行う。

I. 健康増進法に基づく業務

- ・厚生労働省が収去した特別用途食品、栄養表示された食品の試験業務を的確かつ迅速に実施する。
- ・特別用途食品の許可に係る試験業務について、分析技術が確立している食品成分の試験業務は、127 検体の受理から試験の回答までを2ヶ月以内に行うことを目指す。
- ・分析技術の確立していない特定保健用食品の関与成分等の新たな食品成分技術的対応については、他登録試験機関での応用も可能な分析技術の規格化及び当該食品成分の標準品の開発の実現を図る。

II. 健康食品を対象とした食品成分の有効性及び健康影響評価に関する調査研究

- ・保健機能食品等の健康志向に基づく食品の使用実態等の情報を収集・把握し、栄養表示及び健康表示の側面から、健康影響について調査検討する。
- ・栄養素以外の食品成分から広く健康影響を持つ食品素材をスクリーニングして、癌抑制及び動脈硬化抑制効果等、ヒトにおける有効性評価について細胞モデル及び動物モデルを用いて検討する。

2) 年度計画

A. 食品分析プロジェクト

- ・収去した特別用途食品、栄養表示がなされた食品について表示とおりの栄養素や成分が入っているか確認する。
- ・特定保健用食品の新食品成分への技術的対応を図るための分析技術の規格化。
- ・厚生労働省への特定保健用食品申請時の関与成分分析とそのヒアリング対応。
- ・関与成分の成分分析法のマニュアル化推進。

B. 補完成分プロジェクト

- ・食品成分から広く健康影響を持つ食品素材をスクリーニングして、生活習慣病に代表される慢性疾患の予防・治療に有効な補完成分を特定し、細胞モデル、動物モデルを用いてその有効性を科学的に裏付けることを研究する。現在市場で注目されているサプリメント成分について簡単な実態調査を行う。
- ・補完成分としての可能性をいくつかの評価系を用いて評価する。
- ・大豆食品加工の際に未利用な画分に多く含まれる機能性成分について、新たなサプリメント成分としての可能性を探る。

C. 食品機能プロジェクト

- ・動脈硬化の独立した危険因子である糖尿病の三大合併症の一つである糖尿病性網膜症に対して、抑制作

用を有する可能性のある機能性食品成分として、ドコサヘキサエン酸(DHA)に着目して研究を行う。DHAは中性脂肪の低下、細胞増殖因子の抑制、血小板凝集抑制作用等により抗動脈硬化作用が期待されるが、抗炎症作用を有することも知られている。

- ・DHAが *in vitro* でヒト網膜内皮細胞において炎症反応時の白血球接着分子 ICAM-1 及び VCAM-1 の発現を抑制するという近年の報告を受け、DHAの摂取が糖尿病性網膜症初期における炎症反応の減弱、血管障害の抑制そして抗動脈硬化の可能性について検討する。

3) 研究業務概況

A. 食品分析プロジェクト

- ・収去食品分析を遅滞無く行った。
- ・大豆イソフラボン分析の規格化を厚生労働省とともにに行った。
- ・申請食品70検体の分析及びヒアリング。
(ヒアリング:28日/年 及び調査会・部会合計:20日/年)
- ・分析方法の資料及び標準品等の情報収集

B. 補完成分プロジェクト

- ・食品保健成分の中から、広く使用され可能性がある成分を選び出し、その成分の摂取状況調査(アンケート調査)を行うと同時に、その成分の補完成分としての有効性・安全性について調査した。
- ・補完成分のスクリーニングに際して、よい指標になる候補遺伝子を文献調査から選び出し、その遺伝子をターゲットにした補完成分スクリーニングシステムを開発する
- ・癌予防の可能性が高い食品(大豆等)に着目し、その食品の中に含まれる成分を使い、今後発症率の増加が予測され、かつ治癒率が極端に低く、早急に予防法の構築が行政的に求められている中皮腫に対する予防の可能性を探り *in vitro* でその予防法構築の可能性を評価した。

C. 食品機能プロジェクト

- ・ラット(SD系またはLong-Evans系)をn-6系多価不飽和脂肪酸(PUFA)であるリノール酸(LA)またはn-3系PUFAであるDHAを豊富に含む飼料で1ヶ月飼育した後に実験的に糖尿病とし、さらに1ヶ月飼育した後網膜を採取した。
- ・現在、糖尿病性網膜症の初期に網膜で認められる炎症性サイトカイン、接着分子等の発現がLA食に対してDHA食で抑制されるかどうか測定を行った。

4) 構成メンバー

プログラムリーダー:

山田和彦

プロジェクトリーダー:

萩原清和 (食品分析プロジェクト)

矢野友啓 (補完成分プロジェクト)

齋藤衛郎 (食品機能プロジェクト)

上級研究員:

永田純一

研究員:

松本輝樹

特別研究員:

佐藤(三戸)夏子、竹林 純

流動研究員:

萩原ヒロミ (HS 振興財団研究員)

客員研究員:

江指隆年、中嶋洋子、中川靖枝、清瀬千佳子、

久保和弘

協力研究員:

石田達也、笠井通雄、小島圭一、寺田幸代、

花井美保、馬場貴司、渡部景子、前田剛希、

室田一貴、

技術補助員:

金原糸恵、垣外菜生子、小林香、佐伯明子、

佐藤洋美

研修生:

石井利英、大出雄介、柏木真維人、齊藤光芳、

砂田 峻、仙波裕信、原島恵美子、原田佳世乃、

藤本絵里子、増田 絢

(2) プロジェクトの概要**A【食品分析プロジェクト】****1) プロジェクトの役割及び目標****(役割)**

食品分析業務(厚生労働省新開発食品保健対策室との連携)

- ・特別用途食品(病者用食品、乳児用調製粉乳、高齢者用食品、特定保健用食品など)許可時の食品成分分析を行う。
- ・収去食品の分析を行う。
- ・「特定保健用食品関与成分分析方法」の規格化及び技術的示唆。
- ・食品行政における分析に関する技術的サポート

(目標)**分析業務**

- ・特定保健用食品及び特別用途食品の分析手法の適正化を図ると共に、分析結果精度の向上と情報管理システム構築の準備。
- ・新たな分析技術の習得や新規分析機器に関する情報収集。
- ・多様化する分析法に対応するため、各自の研究分野における様々な分析手法への取り組み。
- ・特定保健用食品審査業務における柔軟かつ円滑な対応。

2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- ・特別用途食品許可時の分析

特定保健用食品を含む特別用途食品許可時の分析を行っている。特に特別用途食品に関しては表示された栄養成分全般に関して、また特定保健用食品は関与成分の定量および定性分析を行っている。本年度の試験実績は H19/3/31 現在 60 件(うち特定保健用食品 40 件)の分析依頼があり、2 件は分析継続中である。

- ・特別用途食品および栄養表示食品などの収去食品分析

厚生労働省の指示により各都道府県保健所が栄養成分表示の行われている食品群を収去し、3 月中旬を目途に研究所に提出を行う。提出された収去食品の栄養成分分析を行い、市販されているこれらの食品群の栄養成分含有量の確認および適正表示の確認検査を行う。本年度の分析食品数は 80-85 品目を予定している。

- ・特定保健用食品関与成分分析方法の規格化及び技術的示唆

分析方法の規格化に関して従来の分析方法を順次見直し、精度の向上と汎用的な分析方法への変更を促している。また、特定保健用食品申請資料における分析法の確認と適正化の指導を行っている。

- ・その他

- ・厚生労働省新開発食品保健対策室と連携し、食品行政における適正な分析法の確立と運用に関する対応を適宜行っている。

- ・分析精度の向上と結果に関する適正な評価および情報管理を行うためのシステムを検討中である。分析法の妥当性に関しては、同一試験プロトコールを複数名で実施し結果の均質性が保たれていることを確認する。適正な評価に関しては、各ロット 5 検体を基準に分析を行った値に基づく分散検定を行い、分析値の妥当性を評価する。これらの検討を行った結果の管理方法とトレーサビリティ手法について今後検討する予定である。

B【補完成分プロジェクト】**1) プロジェクトの役割及び目標****(役割)**

- ・健康志向に基づく食品成分の使用状況等の情報を収集・把握する。
- ・予防・治療が望まれる慢性疾患に対して栄養素以外の食品成分から有効な成分を検索し、その有効性を評価する。

(目標)

- ・食品生理活性成分の中から、今後広くサプリメントとして使用される可能性がある成分を選び出し、その成分の使用状況等に関する調査(アンケート調査)を行うと同時に、その成分の補完成分としての有効性について評価する。
- ・慢性疾患の予防・治療に有効と思われる補完成分を、新たに食品由来成分の中から、慢性疾患の抑制に有効な遺伝子を標的にしてスクリーニングし、その有効性を作用機構も含めて検討する。

2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- ・今後サプリメント成分として需要の増大が予測されているトコトリエノールは強い抗酸化作用以外に、コレステロール合成阻害作用等の多様な生理活性を持ち、幅広く慢性疾患予防に有効と考えられるので、調査対象に選択し、トコトリエノールの使用状況等に関するアンケート調査の承認を当研究所倫理委員会で得た上で、日本栄養改善学会の協力を得てアンケート調査を実施した。

- 慢性疾患の補完・代替医療に幅広く適用可能な新たな成分を食品中に含まれる生理活性成分の中から、迅速にかつ的確に選び出し、その有用性を評価するスクリーニング法を確立するために、慢性疾患の発生抑制に幅広く作用する可能性がある遺伝子として、細胞間の情報伝達に関与し、隣接する細胞間のホメオスターシス維持に寄与し、細胞の分化機能維持、細胞増殖や細胞死の制御を行っているコネクシン(Cx)43 遺伝子を標的遺伝子として選択した。その上で、Cx43 の機能維持・回復を指標にした FACS を利用した新たな補完成分のスクリーニング法を樹立し、その方法を使って食品由来成分の活性を評価したところ、現在、サプリメント成分としては未利用大豆由来の Bowman-Birk protease inhibitor (BBI) の活性が高いことを確認した。
- 長期腎透析患者に多発する腎臓癌は治療予後が悪く、患者の QOL が低いため、新たな腎臓癌の予防や治療法の確立が望まれているが、我々はこの腎臓癌の予防・治療に有用な抑制遺伝子として Cx32 遺伝子を特定し、実際、Cx32 の発現・機能回復が腎臓癌発生抑制に有用であることを腎臓癌移植マウスモデルを用いて明らかにした。

C【食品機能プロジェクト】

1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

- 抗動脈硬化機能性食品の研究・開発、安全性等に関する調査研究を行う。
- 上記研究結果を公表することにより、「健康食品」の適切な利用による健康の保持・増進を推進し、国民の QOL の向上に寄与する。

(目標)

- 動物を利用して、動脈硬化抑制効果を持つ食品成分をスクリーニングするための実験系を確立する。
- 上記実験系を用いて、抗動脈硬化機能性食品成分の検索、複数の機能性成分の併用効果、安全性等に関する調査研究を行う。

2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- 比較的短時間で実験結果が得られるスクリーニング系を確立するため、糖尿病性網膜症の初期病変に対する抑制作用を評価する系について検討を行った。その結果、本年度中には完全な系の確立には至らなかったが、系を確立するにあたっての問題点や検討すべきポイント等を明確にすることが出来た。
- 本年度は系の確立を兼ね、動脈硬化抑制作用を有すると期待される機能性食品成分としてドコサヘキサエン酸(DHA)を選び検討を行った。上述のように、スクリーニング系が完全なものではないため DHA 摂取の効果の有無について明言することは出来ないが、一部 DHA 摂取の効果を示唆するデータが得られている。
- 抗動脈硬化作用を有するとされている食品に関する情報を収集整理した。生活習慣病の発症率の増加に伴いセルフメディケーションの必要性が高まる中、「健康食品」が補完代替医療の一つとして脚光を浴びつつある。しかし、動脈硬化予防・改善作用が標榜されている食品の中には、十分な科学的知見があるとは言い難いものも多数存在している。今後これらに関して実験による検証を行い、科学的根拠に基づいた情報を提供して行く。

Ⅶ. 情報センター

(1) センターの概要

1) センターの目標

A. 健康食品プロジェクト

健康食品に関する正しい知識の普及と健康被害の未然防止並びに拡大防止を目的に、公正で科学的な健康食品の情報を継続的に収集・蓄積し、幅広く公開する。情報はホームページで一般公開し、ページアクセス数を 6000 件/日以上維持できるようにする。また、社会的ニーズの把握、消費者とのリスクコミュニケーションの一つとして、現場の専門家、関係機関との連携が可能な新たなシステムの構築を検討する。

B. 健康・栄養情報プロジェクト

所内の他プログラムとの連携等により、これまでに収集・蓄積してきた情報をホームページ等を通じて継続発信するとともに必要な情報の更新に努める。また、国民の要望や意見、健康・栄養分野の専門家が必要とする情報を、各種セミナー・シンポジウム等の機会や情報技術を用いて把握する。

C. IT 支援プロジェクト

研究所の活動情報についてのデータベースや特許情報他、研究所からの対外的に総合的な情報発信を行う基盤としてのインターネットワーク、また内部における研究活動の促進とデータの活用を促すためのイントラネットワーク、双方にまたがる総合的なネットワークシステムの基盤整備を行う。

2) 年度計画

- 健康食品等の有効性・安全性に関する情報発信に関して、科学的根拠のある最新の情報並びに国内外の危害情報を継続的に蓄積し、web 上で公開する。さらに、現場の専門職との連携をより積極的に行うため、web 上の既存の情報交換ページを大幅に改良する。さらに、ホームページ上で健康食品の情報を幅広く公開できるよう効率的なフレームワークを取り入れる。
- これまでに収集・蓄積してきた情報(各種データベース、FAQ データ、研究所の広報等)を継続発信するとともに必要な情報の更新に努める。また、食品や栄養に関する新たな情報発信のページを設けるとともに、健康・栄養活動の専門家が必要とする情報や、広く国民が要望することや意見に関して調査を行い、今後の情報発信のあり方の参考とする。
- 上記事項や所内の各プログラムからの情報発信を支える基盤としての総合的なネットワークシステム・ソフトウェアの運用および改良を行う。

3) 研究業務概況

- 健康食品の安全性・有効性情報のページの更新を行った。主なものは、国内外の安全情報・被害関連情報、新規素材情報、よくある質問(FAQ)の整理、サイト利用マニュアル作成、素材情報に対する素材画像の追加等々である。また専門職から構成する会員

サイトを充実させるために、サイト内の「情報交換ひろば」の大幅改修と会員情報の整理、トップページのデザイン改良なども行った。さらに、2月開催の研究所主催一般公開セミナーにおいては、「健康食品」をメインテーマに取り上げ、正しい知識の普及を図った。またメールや電話を介した健康食品についての問い合わせについても的確な対応に努めた。

- これまでに収集・蓄積してきた健康・栄養情報については、ホームページでの公開はもとより、ニュースレター発行(『健康・栄養ニュース』、年4回)やオープンハウスなどにより国民へわかりやすい形での情報発信に努めた。また、新たに健康・栄養に関する子ども向けの内容で構成し、親子で閲覧できる『えいようきつず』ページを作成、食育推進に対応した。さらに、当研究所の情報発信のあり方をさぐるため、一般公開セミナーへの参加者及びホームページ利用者を対象として、ホームページの内容別利用頻度をはじめ、当研究所の情報発信に対する要望・意見を含むアンケート調査を実施した。
- IT 支援としては研究所のインターネットサーバの維持とウェブ上のコンテンツの管理等を行うとともに『機能性食品因子データベース』など新しいホームページを作成した。また、業務効率化を図るため、研究所主催行事への参加登録システムや NR 試験問題作成システム等の構築をはじめ、『健康・栄養ニュース』のメール配信などを実施した。さらに所内向け情報サービスを充実し、外部の競争的研究費の申請はじめ関係機関情報の周知徹底を図った。予算についても研究部門と事務部門の間で執行情報を共有できるシステムを整備した。

4) 構成メンバー

センター長:

芝池伸彰 (併任:理事)

プロジェクトリーダー:

梅垣敬三 (健康食品情報プロジェクト)

松村康弘 (健康・栄養情報プロジェクト)

廣田晃一 (IT 支援プロジェクト)

研究員:

卓 興鋼

特別研究員:

瀧 優子

客員研究員:

林邦彦 (群馬大学)

梅國智子 (人間総合科学大学)

協力研究員:

杉山朋美 (北陸大学)

木村典代 (高崎健康福祉大学)

阿部詠子 (慶應義塾大学)

沢村耕太 (国立がんセンターがん対策情報センター)

技術補助員:

佐藤陽子、中西朋子、田中雅子、古池直子

細井俊克 (平成 18 年 4 月から)
 小島彩子 (平成 18 年 9 月から)
 海老原美樹 (平成 18 年 8 月から)
 島田光世 (平成 18 年 7 月まで)
 三ツ木敬子 (平成 18 年 8 月から 10 月まで)
 宮下麻子 (平成 18 年 8 月まで)

研修生:

遠藤香 (共立女子大学)
 北田多絵 (共立女子大学)
 小寺佑佳 (共立女子大学)
 有澤苑子 (昭和女子大学)
 小野塚淳子 (昭和女子大学)
 金田泰奈 (東京家政大学) (平成 18 年 9 月から)
 熊澤華子 (昭和女子大学) (平成 18 年 9 月から)
 小岩美智子 (昭和女子大学)
 嶋村有里子 (東京家政大学)
 戸谷桂子 (東京家政大学)
 八谷貴子 (昭和女子大学) (平成 18 年 9 月から)

(2) プロジェクトの概要

A【健康食品情報プロジェクト】

1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

- 健康食品に関する正しい知識の普及と健康被害の未然防止並びに拡大防止を目的に、公正で科学的な健康食品の情報を継続的に収集・蓄積し、幅広く公開する。
- 健康食品に関する社会的ニーズの把握、消費者とのリスクコミュニケーションの一つとして、現場の専門家、関係機関との連携が可能な新たなシステムの構築を検討する。

(目標)

- 科学的根拠がある最新の健康食品情報、ならびに国内外の危害情報を継続的に蓄積し、「健康食品の安全性・有効性情報」のページ (<http://hfnet.nih.go.jp/>) を介して効果的に提供する。
- 現場の専門職との連携をより積極的に行うため、web 上の既存の情報交換ページを大幅に改良する。

2) プロジェクトの進捗状況(成果)

健康食品の安全性・有効性情報ページを介した効果的な情報提供のため、データベースの継続的更新、望まれる情報提供の把握等に努めた。

- 国内外の安全情報・被害関連情報、新規素材情報を週に 1-2 回の頻度で更新した。
- よくある質問(FAQ)の整理、サイトの利用マニュアル作成、素材情報に対する素材画像の追加を行った。
- 専門職から構成する会員サイトを充実させるための一つの対応としてサイト内の「情報交換ひろば」の大幅改修と会員情報の整理、トップページのデザイン改良を行った。
- 「健康食品」に関する知識普及のため、研究所の公開セミナーにも対応し、外部からのメールや電話を介した健康食品についての問い合わせについても的確に対応した。
- 医学中央雑誌のデータベース(1983 年-2005 年)から、

健康食品が関連した有効性・安全性情報を収集し、有害事例については、その特徴(被害を起こした素材、症状、頻度など)を調査・解析した。またイソフラボンの脂質改善効果に関する無作為比較試験論文 11 報のメタ分析を行った。

B【健康・栄養情報プロジェクト】

1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

所内の他プログラムとの連携等により、これまでに収集・蓄積してきた情報をホームページ通じて継続発信するとともに必要な情報の更新に努める。また、国民の要望や意見、健康・栄養分野の専門家が必要とする情報を各種セミナー・シンポジウム等の機会や情報技術を用いて把握する。

(目標)

これまでに収集・蓄積してきた情報(各種データベース、FAQ データ、研究所の広報等)を継続発信するとともに、必要な情報の更新に努める。また、食品や栄養に関する新たな情報発信のページを設けるとともに、健康・栄養活動の専門家が必要とする情報や、広く国民が要望することや意見に関して調査を行い、今後の情報発信のあり方の参考とする。

2) プロジェクトの進捗状況(成果)

- これまでに収集・蓄積してきた健康・栄養情報については、ホームページでの公開はもとより、ニュースレター発行(『健康・栄養ニュース』、年 4 回)やオープンハウスなどにより、国民へわかりやすい形での情報発信に努めた(ニュースレター配信対象者数:1077 名、オープンハウス参加者数:92 名)。
- また、新たに健康・栄養に関する子ども向けの内容で構成し、親子で閲覧できる『えいようきつず』ページを作成し、食育推進にも対応した。
- さらに、当研究所の情報発信のあり方を探るため、一般公開セミナー参加者および当研究所のニュースレター配信対象者に対して、当研究所のホームページの各ページにおける利用頻度はじめ、当研究所の情報発信に対する要望・意見を含むアンケート調査を実施した。現時点での集計結果ではあるが、回答者の内、72%が当研究所のホームページの閲覧経験があり、その内の 91%がホームページに対して、普通もしくは良い印象を持っていた。当研究所の情報発信としてのホームページに対する要望・意見としては、ホームページ全般に対するもの、健康食品関連情報に関するもの、ホームページの内容に関するもの、NR に関するもの、コンサルテーションに関するものが寄せられており、今後それらの要望を勘案したホームページ作りを目指すこととする。

C【IT 支援プロジェクト】

1) プロジェクトの役割及び目標

(役割)

研究所の活動情報についてのデータベースや特許情報他、研究所からの対外的な総合情報発信の基盤としてのインターネットワーク、また内部における研究活

動の促進とデータの活用を促すためのイントラネットワークの双方にまたがる統合的なネットワークシステムソフトウェアを作成、運用する。

加えて、外部からの一般国民、栄養専門職等からの意見、要望等を広くまた効率的に把握するための意見、要望等収集機能を有するソフトウェアをインターネットの一部に整備し、さらに収集された意見、要望等を、内部ですみやかに業務に反映するために周知用掲示板あるいはメーリングリスト等のソフトウェアを整備する。

(目標)

対外的な総合情報発信の基盤としてのインターネットワークと内部におけるイントラネットワークの双方にまたがる統合的なネットワークシステムソフトウェアを作成、運用する。

2) プロジェクトの進捗状況(成果)

・インターネットサイトの構築と運営

研究所のインターネット用サーバのソフト及びハードウェア及びウェブ上のコンテンツの維持管理を行っている。また、多様なニーズに対応するために、いくつかの新規ホームページ(えいようきつず、健康・栄養フォーラム(仮称)、機能性食品因子データベース)の

構築を行った。健康・栄養ニュースをメールの形で配信した(6月、9月、12月、3月)。また、研究所が主催する講演会の参加登録システムをウェブ上に構築し運営した。「『健康食品』の安全性・有効性情報」HPに使用しているサーバのハードウェアの維持管理を行った。

・所内向けサービスページの構築と運営

研究費申請書のお知らせ、厚生科学ウイークリー、研究所予定表等の配信や他所内での様々な情報共有のためのサイトを構築、運営している。また予算の使用状況を各リーダーが把握するための情報共有システムを構築した。

・NIH-NET におけるクライアントマシン及びユーザ管理

NIH-NET のクライアントマシンとユーザについて、感染症研究所と連携して、登録・変更・削除の手続きを行った。また、セキュリティ講習会受講対象者の管理業務、案内等を行った。

・データベース開発支援

国際産学連携センターと協同で、NR 試験問題作成システムを構築した。

VIII. 国際産学連携センター

(1) センターの概要

1) センターの目標

研究所の「対外部門」として位置づけられている「国際産学連携センター」は、国際的な学术交流、情報提供及び民間企業との共同研究・開発等の対外的な事業を企画・運営する業務を行う。具体的な目標・課題は以下の通りである。

- ・国際的な研究ネットワークの構築:アジア諸国との間で共同研究等のネットワーク構築を積極的に行う。**WHO** 西太平洋地域における協力センターの設置(平成19年度を目途)に向けて準備をする。「国際栄養協力若手外国人研究者招へい事業」により年間2名程度の若手研究者に研修機会を提供する。アジア地域の研究者を交えたシンポジウムの開催等を行う。
- ・栄養情報担当者(NR):NRに対する研修や情報提供等を通じて質的向上を図る。中期目標期間開始より3年以内に、NRの実際の業務内容、社会でのあり方についてモニタリングを実施するとともに、制度のあり方や研究所の係わりの検討を行い、中期目標期間終了までに結論を得る。
- ・知的財産権の活用:中期目標期間内に20件以上の特許出願を行う。特許権情報のデータベースをホームページ上に公開する。
- ・講演会等の開催、社会ニーズの把握:健康・栄養関連の専門家向けのセミナー、幅広い人々を対象とした講演会等を各年1回以上開催する。関係団体による教育・研修プログラムへの職員の派遣を積極的に推進する。関連する団体、大学、民間企業等との意見交換を年6回程度行い、社会的ニーズを把握する。業務関連行政部局との間で、定期的な情報・意見交換を行う。

2) 年度計画

- ・国際的な研究ネットワークの構築:第2回アジアネットワークシンポジウムにおける議論を踏まえ、**WHO** 西太平洋事務局との連絡調整を図りながら、アジア諸国との間で栄養学研究的発展に資する共同研究や人材育成を進める。国際栄養協力若手外国人研究者招へい事業を活用し、年間2名(モンゴル、トルコを予定)の若手研究者を受け入れる。食事摂取基準、国民健康・栄養調査結果、研究所ニュースレターを、ホームページ上に英語での情報発信に努める。
- ・栄養情報担当者(NR):NR協会の要望や社会的なニーズに対応したトピックスを含めた最新の情報提供等を行うため、全国5カ所において研修会を実施する。**NR** 認定試験等は、外部有識者の協力の下、的確かつ公正に実施する。**NR** のフォローアップ、業務のモニタリングを行い、外部有識者を含めた検討会議を設置する。
- ・知的財産権の活用:年間約5件を目標に特許の出願を行う。特許に関わる諸情報をホームページ上に公

開するとともに、研究成果に関心を寄せる民間企業等に積極的に技術紹介活動を行う。民間企業と共同で研究開発を行うための共同研究を増加させる。

- ・講演会等の開催、社会ニーズの把握:一般向けの公開セミナーを、平成19年2月に東京で開催する。専門家向けのセミナーを、他機関との連携による開催を含めて、2回程度行う。管理栄養士・栄養士等の研修や生涯教育のプログラムに対して、職員を積極的に派遣するとともに、それらのプログラムの企画等への支援を行う。社会ニーズを把握するため、健康・栄養に関連する団体、大学、民間企業等との意見交換会を年6回程度行う。
- ・ニュートラシューティカルプロジェクト:特に運動と食事の相互関連を中心に、ヒトを対象とした実験研究を進め、新たな科学的知見、知的財産、商品開発に向けた取組を行う。

3) 研究業務概況

A. 国際栄養プロジェクト

本年度の「若手外国人研究者招へい事業」においてはトルコとモンゴルより研究者を受け入れた。国際機関の活動(**WHO** ワークショップ等)に積極的に対応し、**WHO** 研究指定研究協力センター設立に向けた準備調整を行った。「第2回アジア栄養ネットワークシンポジウム」の成果として講演集の発刊準備を進めた。英語版ホームページの拡充、英語版ニュースレター発行を通じて海外向けの情報発信の強化を図っている。

B. NR・セミナー業務

栄養情報担当者(NR)の学術面への対応として、試験過去問題のデータベース化と試験問題作成ソフトの開発を行い、資質維持のための認定試験及び資格確認試験問題作成業務を体系的に整理し、効率化を図った。また今までの実績や要望を考慮し、社会的トピックスを盛り込んだ**NR** 研修会を全国6カ所で開催した。

医療制度改革、運動基準・指針等の最新トピックスに対応した管理栄養士等専門家向けのセミナーを関係団体との共催を含めて4件実施した。さらに、「健康食品」の正しい理解を深め、健康づくりの科学的根拠、具体的な実践方法を伝達する一般公開セミナーを開催した。

C. ニュートラシューティカルズプロジェクト

運動時に摂取した分岐鎖アミノ酸(**BCAA**)の生体に及ぼす影響を検証する為、健康成人男性を対象とした**RCT** の二重盲検交差試験を実施した。**BCAA** 含有飲料の摂取は、**BCAA** を除いたプラセボ飲料と比較して運動に伴う生体ストレス反応に対して抑制的に作用することを明らかにした。本成果は、来年度の日本栄養・食糧学会並びに米国スポーツ医学会で発表する予定である。

4) 構成メンバー

センター長:

吉池信男 (併任:研究企画評価主幹)

プロジェクトリーダー:

藤井康弘 (平成 19 年 1 月 31 日まで)
久米村恵 (平成 19 年 2 月 1 日から)

研究員:

國井大輔 (平成 19 年 1 月 1 日から)
荒井裕介 (平成 19 年 1 月 1 日から栄養疫学プログラム併任)

特別研究員:

三好美紀、吉田真咲

流動研究員:

斉藤京子 (JST フェロー)

客員研究員:

草間かおる (高知女子大学)
菅野幸子 (宮崎県立看護大学)

大賀英史

協力研究員:

高橋東生 (聖徳大学)
藤井絃子 (和洋女子大学)
高山光尚 (日本事務機株式会社)
石田晋也 (大塚製薬株式会社)

技術補助員:

林芙美、宇田川孝子、光岡奈緒、角倉知子、
伊藤真由美、狩野照誉、新島貴子

事務補助員:

比留間美香子

研修生:

石脇亜紗子 (お茶の水女子大学大学院)
アンドレア協田・浅野 (お茶の水女子大学大学院)

(2) プロジェクトの概要**A【国際栄養プロジェクト】****1) プロジェクトの役割及び目標**

国際栄養プロジェクトは国際的な学術交流(招へい事業、セミナー開催等)、情報提供及び国際機関との協力をを行う。具体的には、海外からの研修生の受け入れ(「若手外国人研究者招へい事業」等)、国際シンポジウムの開催、アジア各国との共同研究、WHO など国際機関への協力・連携、海外向け情報発信等を通じて、国際的な研究ネットワーク構築を図ることを目指している。

2) プロジェクトの進捗状況(成果)

・海外の研究機関との交流・共同研究および国際機関の活動への対応

ベトナム国立栄養研究所との IMCI に関する共同研究およびモンゴル理工科大学における人材育成を目指した研究協力の準備をすすめている。本年度は、WHO 指定研究協力センターの設立に向けて、申請手順や内容について WHO 西太平洋地域事務局の栄養担当官と具体的な連絡調整をすすめてきた。特に、WHO ワークショップ参加に際しては、同担当官と協議を行い、その結果を受けて WHO 西太平洋地域における"Diet, Physical Activity and Health"の栄養学研究の WHO 指定研究協力センターとしての申請内容(特に、work plan)を具体的に準備調整中である。

・海外からの訪問・研修受入

米国国立衛生研究所(NIH)より小児肥満の専門家の来訪に際して、日本の小児肥満予防対策の事例として小学校における栄養プログラムを見学、現場の活動について具体的に紹介した。また、日米の小児肥満対策の現状をテーマに外来特別セミナーを開催、その内容を受けて日本の当該分野の専門家との意見交換ミーティングを行い、両国の現状と今後の方向性について実りのある議論が交わされた。

また、本年度の「若手外国人研究者招へい事業」では、トルコとモンゴルより研究者を受け入れ、それぞれ受入研究者との共同研究が進められた。特に、トルコの研究生の研修成果は(招へい事業の紹介も含めて)日本国際保健医療学会にて発表、研究生自身も様々な国際学会にて研修成果を報告している。来年度の招へい研究者3名が決定しており、現在、受入および来日に係る準備手続きを進めている。

・国際シンポジウム・セミナー

第2回アジア栄養ネットワークシンポジウム(2006年3月3日開催)における成果を発展させるため、2007年度に講演集を Asian Pacific Journal of Clinical Nutrition の Supplement として発刊することを目指して編集部・出版社および各著者への連絡調整をすすめている。

・広報・情報発信

2006年4月の組織改編に伴い、研究所紹介パンフレット・ホームページともに大幅な改訂が行われ、その英語版を作成した。英語版パンフレットは主に海外からの来訪者に配布、英語版ホームページにも掲載している。また、「Health and Nutrition News(「健康・栄養ニュース」英語版)」を作成し、英語版ホームページ掲載により、英語での情報発信に努めている。招へい事業の公募など国際協力業務に関わるアップデートは随時、行っているが、専門課題のページの拡充は今後の課題である。また、英語版ホームページに問い合わせ用メールアドレスを掲載し、海外からの問い合わせに対応している。

研究所におけるこれらの取り組みは「平成18年版食育白書(内閣府)」においても国際的な情報交換の事例として取り上げられている。

B【NR・セミナー業務】**1) プロジェクトの役割及び目標**

「対外部門」としての国際産学連携センターの中で、講演会・セミナー等を通じた人材育成、栄養情報担当者(NR)の学術的基盤づくり、行政部門との各種調整等を行っている。

- ・NR業務(事務部業務課との連携):栄養情報担当者(NR)事業の学術面(試験、研修等)への対応を行う。NR制度のあり方や研究所の係わりについて検討を行う。
- ・セミナー業務:管理栄養士等の専門家を対象としたセミナーの企画・運営、外部団体・機関と連携した各種人材育成プログラムの企画等を、中長期的な視点から行う。研究の成果を社会に還元するため、一般向けセミナーを開催する。社会的ニーズを把握するため関連機関等と定期的な情報交換の場を設け、社

会的・行政ニーズを把握する。

2) プロジェクトの進捗状況(成果)

●NR 業務

・NR 事業の学術面への対応

NR 認定試験を受験するための資格確認試験(第4回分・H18.11実施)と、NR 認定試験(第3回分・H18.6実施、第4回分・H19.6実施)のための試験問題作成の進行管理を行っている。試験過去問題のデータベース化と、試験問題をコンピューターで作成するソフトを作成し、試験問題作成業務の効率化を図った。(情報センターIT支援プロジェクトとの協働)。

・NR 研修会の開催

今までの実績や要望等を体系的に整理し、研修が行われていなかった分野を中心に、社会的ニーズに対応したトピックスを含めた研修会を全国6カ所にて行った。

・NR 制度のあり方検討

NR 認定者への業務状況などに関するアンケートを集計し、現状把握を行った。検討会議設置に向けて、3月に準備委員会を行った。

●セミナー業務

・専門家向けセミナー

単独主催1件、関係団体との共同主催3件を実施した。医療制度改革に伴う都道府県健康増進計画見直しに対する対応、新しい健診・保健指導、食事バランスガイド、運動基準・運動指針等、最新のトピックスに対応した。

・一般公開セミナー

「健康食品」への正しい理解を深めるとともに、健康づくりの科学的根拠、具体的な実践方法を伝達する。また研究所を知ってもらう、身近に感じてもらうことを目的に平成19年2月17日に開催した。

・意見交換会、情報交換会

健康・栄養に関連する団体、研究機関との「意見交換会」を年6回実施した。また、社会的ニーズを把握し、具体的な事業協力(研修、共同研究等)につなげた。厚生労働省(生活習慣病対策室、新開発食品保健対策室)等との「情報交換会」を施策の動向を踏まえながら実施し、平成19年度事業計画等に反映させた。

C【ニュートラシューティカルプロジェクト】

1) プロジェクトの役割及び目標

- ・産学連携の一環として、企業(大塚製薬株)からの寄附金により運営するプロジェクトである。
- ・運動と食事(栄養素)の相互関連を中心に、ヒトを対

象とした実験研究を進め、新たな科学的知見、知的財産、商品開発に向けた取組を行う。

2) プロジェクトの進捗状況(成果)

・ヒトを対象とした試験の実施

低強度長時間運動時に摂取した分岐鎖アミノ酸(BCAA)が生体に及ぼす影響について検証した。

【方法】

20~40歳代の健常成人男性36名を対象にRCTの二重盲験交差試験を実施した。被験者は、自転車エルゴメーターを用い、50%VO₂max相当強度の2時間の低強度長時間運動を10分間の休憩を挟んで2セット(疲労困憊時には運動終了)を行った。運動中12分毎に50mlの被験物を摂取した。運動前、中、後に、採血、採気およびVASによる主観的疲労感の記録を行った。被験物は、BCAA含有飲料(BCAA; 4g/500ml)とプラセボ飲料とした。プラセボ飲料は、BCAA含有飲料からBCAAを除いた以外の主要成分を同一組成とし、香料・人工甘味料等でBCAA含有飲料と類似の味に調整した。被験者は、試験前日より研究所に宿泊し、前日の夕食と翌日の朝、昼、夕食には規定食を摂取した。2回の試験の間には4週間以上の回復期間を設けた。

【結果】

運動に伴いBCAA群、プラセボ群のいずれも主観的疲労感は増加し、血漿コルチゾール、ACTHおよびアドレナリン濃度および白血球数が増加した。血清ミオグロビン濃度や血清CK活性値は運動終了後も増加した。BCAA群はプラセボ群と比較して主観的疲労感には差を認めなかったものの、運動開始2時間後の血漿ACTHおよびアドレナリン濃度、血漿コルチゾール濃度変化率と白血球数変化率が有意に低値を示した。また、BCAA群は、2セット目の運動時の白血球数の増加も有意に抑制し、運動終了直後の血漿コルチゾール濃度変化率も有意に低値であった。また、運動終了2時間後の血清ミオグロビン濃度も、BCAA群で有意に低値であった。

【まとめ】

低強度長時間運動中において、BCAAは、運動に伴う生体ストレス反応に対して抑制的に作用することが示唆された。BCAAを含有する飲料の摂取は、競技スポーツだけでなく健康増進の為の低強度の運動時にも有用であると考えられる。

これらの成果は、日本栄養・食糧学会と米国スポーツ医学会で発表する予定である。

3. 研究成果等の発表

1. 業績目録

(1) 著書

a. 英文

- 1) Saito M, Nishizawa C: Dietary Fats and Risk of Chronic Disease, (Docosahexaenoic Acid Intake and Lipid Peroxidation in Retinal Membranes of Rats) 分担執筆. AOCs Press, Champaign, IL, USA. 2006; 243-262
- 2) Nishimuta M, Kodama N, Morikuni E, Matsuzaki N: Advances in Magnesium Reserch New Data (Porr PJ, Nechlfor M, Durlach J eds.) John Libbey Eourotex. Montrouge, France. 2006; 139-141
- 3) Nishimuta M, Kodama N, Morikuni E, Matsuzaki N, Yoshioka YH, Yamada H, Kitajima H, Yakeyama H: Magnesium requirement and affecting factors. Nishizawa Y, Morii H and Durlach J eds, New Perspectives in Magnesium Reserch: Nutrition and Health. Springer-Verlag Lond. 2006; 94-103

b. 和文

- 1) 渡邊昌 (監), 田中平三, 伊達ちぐさ, 佐々木敏 (編): 公衆栄養学. 健康栄養科学シリーズ. 2006, 南江堂, 東京
- 2) 渡邊昌 (監), 菅野道廣, 上野川修一, 山田和彦 (編): 食べ物と健康Ⅲー食品の安全性. 健康栄養科学シリーズ. 2006, 東京
- 3) 渡邊昌, 卓興鋼, メリッサ・メルビー, 君羅満: 生活習慣病とサプリメント, 日本人のフィトケミカルの摂取量と健康影響, (監) 吉川敏一, 大澤俊彦. アンチエイジングと機能性食品. 2006, 東京
- 4) 渡邊昌: がん. イミダス 2007. 2006; 743-750, 集英社, 東京
- 5) 田畑泉: スポーツの具体例. 健康長寿と運動. 2006; 135-143, 財団法人 長寿科学振興財団, 愛知
- 6) 西牟田守: 生命元素事典 (桜井弘編). 2006, 株式会社オーム社, 東京
- 7) 宮地元彦, 荻田太: 第 4 章 運動と呼吸, 第 5 章 運動と循環. 改訂版 運動生理学の基礎と発展 (春日規克, 竹倉宏明 編) 2006; 83-124, 東京
- 8) 斎藤衛郎: 健康・栄養食品アドバイザーリストアップ・テキストブック第 4 版(第 3 章 F. 栄養機能食品) 2006; 第一出版, 東京
- 9) 吉池信男, 荒井裕介: 公衆栄養学 (分担執筆: 諸外国の食事摂取基準) 2006; 279-280, 南江堂, 東京
- 10) 手嶋登志子: 高齢者の栄養. 応用栄養学改訂. 2006, 東京
- 11) 手嶋登志子: 高齢者の栄養教育. 栄養教育論改訂. 2006, 東京

- 12) 山田和彦: 食品衛生行政と法規. 菅野道廣, 上野川修一, 山田和彦編: 食べ物と健康Ⅲ (分担執筆). 2006; 1-16, 南江堂, 東京
- 13) 佐々木敏: 3-A 栄養疫学の概要, 3-B 曝露情報としての食事摂取量, 5-F 「日本人の栄養所要量」から「食事摂取基準」へ, 6-A 食事摂取基準の概念. 健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学 田中平三, 伊達ちぐさ, 佐々木敏編 (共著, 編集) 2006; 南江堂, 東京
- 14) 由田克士: 公衆栄養学 (分担執筆: 食事摂取量の測定方法, 国民健康・栄養調査) 2006; 174-182, 南江堂, 東京
- 15) 谷本道哉: 筋肉をつける・使う・ケアする. 2006; ベースボールマガジン社, 東京
- 16) 三戸夏子, 佐藤和人: 免疫と栄養"第 7 章: 人間の成長に合わせた栄養の重要性 - 肥満およびやせ, 老化と免疫機能 - " 横越英彦編. 2006; 297-306, 幸書房, 東京
- 17) 吉池信男: 「食事バランスガイド」の目的と策定の背景, 基本的な考え方. 「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル (武見ゆかり, 吉池信男編) 2006; 6-19, 第一出版, 東京
- 18) 由田克士: 食事バランスガイド活用の実例 特定給食施設等における活用. 「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル (武見ゆかり, 吉池信男編) 2006; 108-115, 第一出版, 東京
- 19) 手嶋登志子: 食介護とは. QOL を高める食介護論. 2006, 東京
- 20) 由田克士: 血圧低下教育の基礎知識. 血圧を下げる健康教育 (上島弘嗣監修) 2006; 38-68, 保健同人社, 東京
- 21) 由田克士: 減塩のコツ 他. 血圧を下げる健康教育拡大図版. 2006; 6-10, 保健同人社, 東京
- 22) 野末みほ, 吉池信男: 「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル. 2006; 55-62, 第一出版, 東京
- 23) 草間かおる, 猿倉薫子, 吉池信男: 「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル. 2006; 92-103, 第一出版, 東京
- 24) 佐々木敏: 第 2 節予防医学における水の役割と重要性. 水-基礎・ヘルスケア・環境浄化・先端応用技術-大森豊明編 (共著) 2006; 171-83, 技術教育出版, 東京
- 25) 宮地元彦: 運動と PWV. PWV を知る PWV で診る, 宗像正徳編. 2006; 224-230, 中山書店, 東京
- 26) 吉池信男: 日本人の食事摂取基準 (2005 年版) 公衆栄養学 (山本茂・吉池信男編) 2006; 69-82, 建帛社, 東京

- 27) 由田克士: わが国の健康・栄養問題の現状と課題. 公衆栄養学 (山本茂・吉池信男編) 2006; 13-28, 建帛社, 東京
- 28) 谷本道哉: 使える筋肉・使えない筋肉 実技編. 2006, 山海堂, 東京
- 29) 松村康弘: 生活習慣病. 村井・渡辺・安岡・岡島・二瓶編「持続的幸福へのメッセージ 人とわざわい (下巻)」2007; 329-348, エス・ビー・ビー発行, 東京
- 30) 渡邊昌 (監), Catherine E.Ulbricht, Ethan M.Basch: ハーブ&サプリメント. 2007, 産調出版, 東京
- 31) 渡邊昌 (監): WHO/FAO 栄養素の許容上限摂取量の決め方. 2007, 産調出版, 東京
- 32) 江崎治: 循環器疾患 動脈硬化症. 栄養予防治療学. 2007; 258-263, 永井書店, 東京
- 33) 佐々木敏: Chapter1.食生活、予防・ライフステージ・ライフスタイル 1.栄養教育 C.日本人の食事摂取基準 (2005 年版) よくわかって役に立つ最新栄養予防・治療学,武田英二, 長谷川正晴編 (共著) 2007; 24-33, 永井書店, 東京
- 34) 太田壽城, 津下一代, 宮地元彦, 内田滋, 石川裕哲, 東内京一: 介護予防のためのマシンを使わない筋力向上トレーニング (DVD, ハンドブック) 2007, 健康・体力づくり事業財団, 東京
- 35) 近藤雅雄, 矢野雄三: ポルフィリン体とその前駆物質. 臨床検査ガイド 2007~2008. 2007; 937-940, 文光堂, 東京
- 36) 渡邊昌 (監), 菅野道廣, 上野川修一, 山田和彦 (編): 食べ物と健康 I -食品の科学と技術. 健康栄養科学シリーズ. 2007,東京
- 37) 由田克士: POP メニュー (卓上一口健康・栄養メモ) /ポスター/リーフレット. ポピュレーションアプローチを用いてすすめる 減塩対策実践マニュアル.2007; 10-15, 日本家族計画協会, 東京
- 38) 江崎潤子, 石見佳子: メチルスルフォニルメタン摂取の安全性と有効性の評価. サルファケミカルズのフロンティア. 2007; 220-228, シーエムシー出版, 東京
- (2) 原著論文
- a. 英文
- 1) Takeda R, Nishimatsu H, Suzuki E, Satonaka H, Nagata D, Oba S, Sata M, Takahashi M, Yamamoto Y, Terauchi Y, Kadowaki T, Kangawa K, Kitamura T, Nagai R, Hirata Y: Ghrelin improves renal function in mice with ischemic acute renal failure. *J. Am. Soc. Nephrol.*2006; 17:113-121
- 2) Yazaki Y, Kadowaki T: Combating diabetes and obesity in Japan. *Nature Medicine.* 2006; 12:73-74
- 3) Leiter LA, Betteridge DJ, Chacra AR, Chait A, Ferrannini E, Haffner SM, Kadowaki T, Tuomilehto J, Zimmet P, Newman CB, Hey-Hadavi J, Walkinshaw C: on behalf of the Audit Study Steering Committee : Audit study. Evidence of global undertreatment of dyslipidaemia in patients with type 2 diabetes mellitus. *Achieving Best Practice.*2006; 6:31-40
- 4) Baumgartl J, Baudler S, Scherner M, Babaev V, Makowski L, Suttles J, McDuffie M, Tobe K, Kadowaki T, Fazio S, Kahn R, Hotamisligil G, Krone W, Bruning JC: Myeloid lineage cell-restricted insulin resistance protects apolipoproteinE-deficient mice against atherosclerosis. *Cell Metabolism.* 2006; 3:247-256
- 5) Ebinuma H, Miyazaki O, Yago H, Hara K, Yamauchi T, Kadowaki T: A novel ELISA system for selective measurement of human adiponectin multimers by using proteases. *Clin. Chim. Acta.* 2006; 372:47-53
- 6) Nomura S, Nakajima A, Ishimine S, Matsushashi N, Kadowaki T, Kaminishi M: Differential expression of peroxisome proliferator-activated receptor in histologically different human gastric cancer tissues. *J.Exp. Clin. Cancer Res.*2006; 25:443-448
- 7) Murakami K, Okubo H, Sasaki S: No relation between intakes of calcium and dairy products and body mass index in Japanese women aged 18 to 20 y. *Nutrition.* 2006; 22(5):490-5
- 8) Kubota N, Terauchi Y, Kubota T, Kumagai H, Itoh S, Satoh H, Yano W, Ogata H, Tokuyama K, Takamoto I, Mineyama T, Ishikawa M, Moroi M, Sugi K, Yamauchi T, Ueki K, Tobe K, Noda T, Nagai R, Kadowaki T: Pioglitazone ameliorates insulin resistance and diabetes by both adiponectin-dependent and -independent pathways. *J Bio Chem.* 2006; 281:8748-8755
- 9) Katanoda K, Kim HS, Matsumura Y: New Quantitative Index for Dietary Diversity (QUANTIDD) and its annual changes in the Japanese. *Nutrition.* 2006; 22(3):283-287
- 10) Nagata J, Saito M: Effects of simultaneous intakes of indigestible dextrin and diacylglycerol on lipid profiles in rats fed cholesterol diets. *Nutrition.* 2006; 22:395-400
- 11) Hagiwara H, Sato H, Shirai S, Kobayashi S, Fukumoto K, Ishida T, Seki T, Ariga T, Yano T: Connexin 32 down-regulates the fibrinolytic factors in metastatic renal cell carcinoma cells. *Life Sciences.* 2006; 78(19):2249-2254
- 12) Sekine S, Kubo K, Tadokoro T, Saito M: Dietary docosahexaenoic acid-induced generation of liver lipid peroxides is not suppressed further by elevated levels of glutathione in ODS rats. *Nutrition.* 2006; 22(4):385-394
- 13) Chida D, Osaka T, Hashimoto O, Iwakura Y: Combined interleukin-6 and interleukin-1 deficiency causes obesity in young mice. *Diabetes.* 2006; 55:971-977
- 14) Horikoshi M, Hara K, Ohashi J, Miyake K, Tokunaga K, Ito C, Kasuga M, Nagai R, Kadowaki T: A polymorphism in the AMPKalpha2 subunit gene is associated with insulin resistance and type 2 diabetes in the Japanese population.*Diabetes.* 2006; 55(4):919-923

- 15) Sakakibara S, Yamauchi T, Oshima Y, Tsukamoto Y, Kadowaki T: Acetic acid activates hepatic AMPK and reduces hyperglycemia in diabetic KK-A(y) mice. *Biochem Biophys Res Commun.* 2006; 344(2):597-604
- 16) Baba S, Iso H, Mannami T, Sasaki S, Okada K, Konishi M, Shoichiro Tsugane, JPHC Study Group: Cigarette smoking and risk of coronary heart disease incidence among middle-aged Japanese men and women: the JPHC Study Cohort I. *Eur J Cardiovasc Prev Rehabil.* 2006; 13(2):207-13
- 17) Yoshimura R, Omori H, Somekawa S, Osaka T, Ito R, Inoue S, Endo Y: Continuous carbachol infusion promotes peripheral cell proliferation and mimics vagus hyperactivity in a rat model of hypothalamic obesity. *Biomedical Research.* 2006; 27:81-88
- 18) Endoh K, Murakami M, Araki R, Maruyama C, Umegaki K: Low folate status increases chromosomal damage by X-ray irradiation. *Int J Radiat Biol.* 2006; 82(4):223-230
- 19) Sugiyama T, Nagata J, Yamagishi A, Endoh K, Saito M, Yamada K, Yamada S, Umegaki K: Selective protection of curcumin against carbon tetrachloride-induced inactivation of hepatic cytochrome P450 isozymes in rats. *Life Sci.* 2006; 78(19):2188-2193
- 20) Washio M, Horiuchi T, Kiyohara C, Kodama H, Tada Y, Asami T, Takahashi H, Kobashi G, Abe T, Tanaka H, Nogami N, Harada M, Tsukamoto H, Ide S, Nagasawa K, Ushiyama O, Hotokebuchi T, Okamoto K, Sakamoto N, Sasaki S: Smoking, drinking, sleeping habits, and other lifestyle factors and the risk of systemic lupus erythematosus in Japanese females: findings from the KYSS study. *Mod Rheumatol.* 2006; 16(3):143-150
- 21) Tanimoto M, Ishii N: Effects of low-intensity resistance exercise with slow movement and tonic force generation on muscular function in young men. *J Appl Physiol.* 2006; 100(4):1150-1157
- 22) Horikoshi M, Hara K, Ohashi J, Miyake K, Ito C, Kasuga M, Nagai R, Kadowaki T: Polymorphism in the AMPK α 2 subunit gene is associated with insulin resistance and type 2 diabetes in Japanese. *Diabetes.* 2006; 55:919-923
- 23) Wu, Oka J, Higuchi M, Tabata I, Toda T, Fujioka M, Fuku N, Teramoto T, Okuhira T, Ueno T, Uchiyama S, Urata K, Yamada K, Ishimi Y: Cooperative effects of isoflavone and exercise on bone and lipid metabolism in postmenopausal Japanese women: a randomized placebo-controlled trial. *Metabolism.* 2006; 55(4):423-433
- 24) Fujimoto E, Sato H, Shirai S, Nagashima Y, Virgona N, Hagiwara K, Yamasaki H, Negishi E, Ueno K, Yano T: Inhibition of Src activity enhances the tumor-suppressive effect of the connexin 32 gene in Caki-1 renal cancer cells. *Oncology Reports.* 2006; 15(5):1359-1365
- 25) Kiyose C, Ogino S, Kubo K, Takeuchi M, Saito M: Relationship between *Garcinia cambogia*-induced impairment of spermatogenesis and meiosis-activating sterol production in rat testis. *J.Clin.Biochem.Nutr.* 2006; 38(3):180-187
- 26) Kiyose C, Kubo K, Saito M: Effect of *Garcinia cambogia* administration on female reproductive organs in rats. *J.Clin. Biochem. Nutr.* 2006; 38(3):188-194
- 27) Hara K, Horikoshi M, Kitazato H, Ito C, Noda M, Ohashi J, Froguel P, Tokunaga K, Tobe K, Nagai R, Kadowaki T: Hepatocyte Nuclear Factor-4{ α } P2 Promoter Haplotypes Are Associated With Type 2 Diabetes in the Japanese Population. *Diabetes.* 2006; 55(5):1260-1264
- 28) Murakami K, Okubo H, Sasaki S: Dietary intake in relation to self-reported constipation among Japanese women aged 18-20 years. *Eur J Clin Nutr.* 2006; 60(5):650-7
- 29) Murakami K, Sasaki S, Takahashi Y, Okubo H, Hosoi Y, Horiguchi H, Oguma E, Kayama F: Dietary glycemic index and load in relation to metabolic risk factors in Japanese female farmers with traditional dietary habits. *Am J Clin Nutr.* 2006; 83(5):1161-9
- 30) Okubo H, Sasaki S, Horiguchi H, Oguma E, Miyamoto K, Hosoi Y, Kim MK, Kayama F: Dietary patterns associated with bone mineral density in premenopausal Japanese farmwomen. *Am J Clin Nutr.* 2006; 83(5):1185-92
- 31) Miyake Y, Sasaki S, Yokoyama T, Chida K, Azuma A, Suda T, Kudoh S, Sakamoto N, Okamoto K, Kobashi G, Washio M, Inaba Y, Tanaka H: Japan Idiopathic Pulmonary Fibrosis Study Group: Dietary fat and meat intake and idiopathic pulmonary fibrosis: a case-control study in Japan. *Int J Tuberc Lung Dis.* 2006; 10(3):333-9
- 32) Otsuka R, Tamakoshi K, Yatsuya H, Murata C, Sekiya A, Wada K, Zhang HM, Matsushita K, Sugiura K, Takefuji S, Ouyang P, Nagasawa N, Kondo T, Sasaki S, Toyoshima H: Eating fast leads to obesity: findings based on self-administered questionnaires among middle-aged Japanese men and women. *J Epidemiol.* 2006; 16(3):117-24
- 33) Araki R, Maruyama C, Igarashi S, Yoshida M, Maruyama T, Satoh T, Yoshida M, Umegaki K: Effects of short-term folic acid and/or riboflavin supplementation on serum folate and plasma total homocysteine concentrations in young Japanese male subjects. *Eur J Clin Nutr.* 2006; 60(5):573-579
- 34) Wada K, Nakajima A, Katayama K, Kudo C, Shibuya A, Kubota N, Terauchi Y, Tachibana M, Miyoshi H, Kamisaki Y, Mayumi T, Kadowaki T, Blumberg RS: Peroxisome proliferator-activated receptor γ - mediated regulation of neural stem cell proliferation and differentiation. *J.Biol.Chem.* 2006; 281:12673-12681

- 35) Ikeda Y, Iki M, Morita A, Kajita E, Kagamimori S, Kagawa Y, Yoneshima H: Intake of fermented soybeans, natto, is associated with reduced bone loss in postmenopausal women: Japanese Population-Based Osteoporosis (JPOS) Study. *J Nutr*. 2006; 136(5):1323-1328
- 36) Iki M, Morita A, Ikeda Y, Sato Y, Akiba T, Matsumoto T, Nishino H, Kagamimori S, Kagawa Y, Yoneshima H, JPOS Study Group: Biochemical markers of bone turnover predict bone loss in perimenopausal women but not in postmenopausal women—the Japanese Population-based Osteoporosis (JPOS) Cohort Study. *Osteoporos Int*. 2006; 17(7):1086-1095
- 37) Wu J, Oka J, Tabata I, Higuchi M, Toda T, Fuku N, Ezaki J, Sugiyama F, Uchiyama S, Yamada K, Ishimi Y: Effects of isoflavone and exercise on BMD and fat mass in postmenopausal Japanese women: a 1-year randomized placebo-controlled trial. *J Bone Miner Res*. 2006; 21(5):780-789
- 38) Hara K, Matsushita Y, Horikoshi M, Yoshiike N, Yokoyama T, Tanaka H, Kadowaki T: A proposal for the cutoff point of waist circumference for the diagnosis of metabolic syndrome in the Japanese population. *Diabetes Care*. 2006; 29(5):1123-1124
- 39) Nishimuta M, Inoue N, Kodama N, Morikuni E, Yoshioka YH, Matsuzaki N, Shimada M, Sato N, Iwamoto T, Ohki K, Takeyama H, Nishimuta H: Moisture and mineral content of human feces -High fecal moisture is associated with increased sodium and decreased potassium content-. *J Nutr Sci Vitaminol*. 2006; 52:121-126
- 40) Okubo H, Sasaki S, Hirota N, Notsu A, Todoriki H, Miura A, Fukui M, Date C: The influence of age and body mass index on relative accuracy of energy intake among Japanese adults. *Public Health Nutr*. 2006; 9(5):651-657
- 41) Hara K, Horikoshi M, Yoshiike N, Yamauchi T, Yago H, Miyazaki O, Ebinuma H, Imai Y, Nagai R, Kadowaki T: Measurement of the high-molecular weight form of adiponectin in plasma is useful for the prediction of insulin resistance and metabolic syndrome. *Diabetes Care*. 2006; 29:1357-1362
- 42) Hashimoto H, Arai T, Takeguchi A, Hioki K, Ohnishi Y, Kawai K, Ito M, Suzuki R, Yamauchi T, Ohsugi M, Saito M, Ueyama Y, Tobe K, Kadowaki T, Tamaoki N, Kosaka K: Ontogenetic characteristics of enzyme activities and plasma metabolites in C57BL/6J:Jcl mice deficient in insulin receptor substrate 2. *Comp Med*. 2006; 56:176-187
- 43) Kumae T, Arakawa H: Comparison of effects of in vivo nitrogen dioxide exposure starting from different periods on alveolar macrophage activity, assessed by chemiluminescence technique in Brown-Norway rats. *Luminescence*. 2006; 21:226-232
- 44) Kumae T, Kogure H, Nishimuta M, Kodama N, Yoshitake Y: Effects of a 21 day metabolic study on serum opsonic activity in female college students, assessed by a chemiluminescence technique. *Luminescence*. 2006; 21:256-261
- 45) Tsuboyama-Kasaoka N, Shozawa C, Sano K, Kamei Y, Kasaoka S, Hosokawa Y, Ezaki O: Taurine deficiency creates a vicious circle promoting obesity. *Endocrinology*. 2006; 147(7):3276-3284
- 46) Gotoh H, Harada K, Suzuki K, Hashimoto S, Yamamura H, Sato T, Fukumoto K, Hagiwara H, Ishida T, Yamada K, Asano R, Yano T: Expression patterns of connexin 26 and connexin 43 mRNA in canine benign and malignant mammary tumours. *Vet J*. 2006; 172(1):178-180
- 47) Sekine S, Kubo K, Tadokoro T, Saito M: Docosahexaenoic Acid-Induced Lipid Peroxidation and Urinary Excretion of Mercapturic Acid in Rats. *J. Clin. Biochem. Nutr*. 2006; 39(1):40-45
- 48) Takahashi Y, Sasaki S, Okubo S, Hayashi M, Tsugane S: Maintenance of a low-sodium, high-carotene and -vitamin C diet after a 1-year dietary intervention: The Hiraka Dietary Intervention Follow-up Study. *Prev Med*. 2006; 43(1):14-9
- 49) Tosen Y, Umeki M, Nakashima Y, Ishimi Y, Ikegami S: Effects of genistein, an isoflavone, on pregnancy outcome and organ weights of pregnant and lactating rats and development of their suckling pups. *J Nutr Sci Vitaminol*. 2006; 52:174-182
- 50) Miura K, Nakagawa H, Ueshima H, Okayama A, Saitoh S, Curb JD, Rodriguez BL, Sakata K, Okuda N, Yoshita K, Stamler J: Dietary factors related to higher plasma fibrinogen levels of Japanese-americans in hawaii compared with Japanese in Japan. *Arterioscler Thromb Vasc Biol*. 2006; 26(7):1674-1679
- 51) Kubo K, Sekine S, Saito M: Induction of multidrug resistance-associated protein MRP3 in the liver of rats fed with docosahexaenoic acid. *Biosci. Biotechnol. Biochem*. 2006; 70(7):1672-1680
- 52) Zaman MM, Choudhury SR, Ahmed J, Yoshiike N, Numan SM, Sadequl Islam M, Parvin K, Hakim F: Plasma lipids in a rural population of Bangladesh. *Eur J Cardiovasc Prev Rehabil*. 2006; 13(3):444-448
- 53) Nishimura G, Manabe I, Tsushima K, Fujiu K, Oishi Y, Imai Y, Maemura K, Miyagishi M, Higashi Y, Kondoh H, Nagai R: δ EF1 mediates TGF- β signaling in vascular smooth muscle cell differentiation. *Dev Cell*. 2006; 11:93-104
- 54) Liu R, Moroi M, Yamamoto M, Kubota T, Ono T, Funatsu A, Komatsu H, Tsuji T, Hara H, Hara H, Nakamura M, Hirai H, Yamaguchi T: Presence and Severity of Chlamydia pneumoniae and Cytomegalovirus Infection in Coronary Plaques Are Associated With Acute Coronary Syndromes. *Int Heart J*. 2006; 47:511-519
- 55) Takemura Y, Osuga Y, Yamauchi T, Kobayashi M, Harada M, Hirata T, Morimoto C, Hirota Y, Yoshino

- O, Koga K, Yano T, Kadowaki T, Taketani Y: Expression of adiponectin receptors and its possible implication in the human endometrium. *Endocrinology*. 2006; 147:3202-3210
- 56) Sekine N, Takano K, Kimata-Hayashi N, Kadowaki T, Fujita T: Adrenomedullin inhibits insulin exocytosis via pertussis toxin-sensitive G protein-coupled mechanism. *Am. J. Physiol. Endocrinol. Metab.* 2006; 291:E9-E14
- 57) Kadowaki T, Yamauchi T, Kubota N, Hara K, Ueki K, Tobe K: Adiponectin and adiponectin receptors in insulin resistance, diabetes and metabolic syndrome-Adiponectin hypothesis. *J.Clin.Invest.*2006; 116:1784-1792
- 58) Okazaki H, Igarashi M, Nishi M, Tajima M, Sekiya M, Okazaki S, Yahagi N, Ohashi K, Tsukamoto K, Amemiya-Kudo M, Matsuzaka T, Shimano H, Yamada N, Aoki J, Morikawa R, Takanezawa Y, Arai H, Nagai R, Kadowaki T, Ishibashi S: Identification of a novel member of the carboxylesterase family that hydrolyzes triacylglycerol: a potential role in adipocyte lipolysis. *Diabetes*. 2006; 55:2091-2097
- 59) Ohashi J, Naka I, Tokunaga K, Inaoka T, Ataka Y, Nakazawa M, Matsumura Y, Ohtsuka R: Mitochondrial DNA variation suggests extensive gene flow from Polynesian ancestors to indigenous Melanesians in the northwestern Bismarck Archipelago. *Am J Phys Anthropol.*2006; 130(4):551-556
- 60) Ninh T.B., Watanabe N, Kajiwaru N, Iwata H, Takahashi S, Subramanian A, Tanabe S, Watanabe S, Yamada T, Hata J: Human Blood Monitoring Program in Japan: Contamination and bioaccumulation of persistent organochlorines in Japanese residents. *Archi Environment Contam Toxicol.* 2006; 296-313
- 61) Sunada S, Kiyose C, Kubo K, Takebayashi J, Sanada H, Saito M: Effect of docosahexaenoic acid intake on lipid peroxidation in diabetic rat retina under oxidative stress. *Free Radical Res.* 2006; 40(8):837-846
- 62) Kubota Y, Umegaki K, Kagota S, Tanaka N, Nakamura K, Kunitomo M, Shinozuka K: Evaluation of blood pressure measured by tail-cuff methods (without heating) in spontaneously hypertensive rats. *Biol Pharm Bull.* 2006; 29(8):1756-1758
- 63) Hara H, Tsunoda T, Moroi M, Kubota T, Kunimasa T, Shiba M, Wada M, Tsuji T, Iijima R, Nakajima R, Yoshitama T, Nakamura M: Ultrasound attenuation behind coronary atheroma without calcification: mechanism revealed by autopsy. *Acute Card Care.* 2006; 8:110-112
- 64) Hara M, Iso-O N, Satoh H, Noto H, Togo M, Ishibashi S, Kimura S, Kadowaki T, Hashimoto Y, Tsukamoto K: Differential effects of apolipoprotein E isoforms on lipolysis of very low-density lipoprotein triglycerides. *Metabolism.* 2006; 55:1129-1134
- 65) Yokoi N, Kanamori M, Horikawa Y, Takeda J, Sanke T, Furuta H, Nanjo K, Mori H, Kasuga M, Hara K, Kadowaki T, Tanizawa Y, Oka Y, Iwami Y, Ohgaware H, Yamada Y, SEino Y, Yano H, Cox NJ, SEino S: Association studies of variants in the genes involved in pancreatic-cell function in type 2 diabetes in Japanese. *Diabetes*. 2006; 55:2379-2386
- 66) Miyake Y, Sasaki S, Ohya Y, Miyamoto S, Matsunaga I, Yoshida T, Hirota Y, Oda H: The Osaka Maternal And Child Health Study Group: Dietary intake of seaweed and minerals and prevalence of allergic rhinitis in Japanese pregnant females: baseline data from the Osaka maternal and child health study. *Ann Epidemiol.* 2006; 16(8):614-621
- 67) Mito N, Kaburagi T, Yoshino H, Imai A, Sato K: Oral-tolerance induction in diet-induced obese mice. *Life Sciences.* 2006; 79(11):1056-1061
- 68) Kawano H, Tanaka H, Miyachi M: Resistance Training and Arterial Compliance: Keeping the Benefits While Minimizing the Stiffening. *Journal of Hypertension.* 2006; 24(9):1753-1759
- 69) Kamei N, Tobe K, Suzuki R, Ohsugi M, Watanabe T, Kubota N, Kumagai K, Sakamoto K, Kobayashi M, Yamauchi T, Ueki K, Ooishi Y, Nishimura S, Manabe I, Hashimoto H, Ohnishi Y, Ogata H, Tokuyama K, Tsunoda M, Kadowaki T: Overexpression of MCP-1 in adipose tissues causes macrophage recruitment and insulin resistance. *J Bio Chem.* 2006; 281:26602-26614
- 70) Shinoda Y, Yamaguchi M, Ogata N, Akune T, Kubota N, Yamauchi T, Terauchi Y, Kadowaki T, Takeuchi Y, Fukumoto S, Ikeda T, Hoshi K, Chung UI, Nakamura K, Kawaguchi H: Regulation of bone formation by adiponectin through autocrine/paracrine and endocrine pathways. *J. Cell. Biochem.*2006; 99:196-208
- 71) Kuroiwa C, Odajima H, Oudavong B, Ohta N, Zhang Z, Miyoshi M, Nishima S: Prevalence of asthma, rhinitis and eczema among children in Vientiane city, Lao PDR. *Southeast Asian Journal of Tropical Medicine and Public Health.* 2006; 37(5):1025-1033
- 72) Kogirima M, Kurasawa R, Kubori S, Sarukura N, Nakamori M, Okada S, Kamioka H, Yamamoto S: Ratio of low serum zinc levels in elderly Japanese people living in the central part of Japan. *Eur J Clin Nutr.* 2006
- 73) Ueda C, Takaoka T, Takeda N, Sarukura N, Matsuda K, Kitamura Y, Toda N, Tanaka T, Yamamoto S: Zinc nutrition in healthy subjects and patients with taste impairment from the view point of zinc ingestion, serum zinc concentration and angiotensin converting enzyme activity. *Auris Nasus Larynx.* 2006; 33(3):283-288
- 74) Khervaris S, Uezu K, Sakai T, Nakamori M, Alizadeh M, Sarukura N, Yamamoto S: Increased Nerve Growth Factor by Zinc Supplementation with Current Vitamin A Deficiency Does Not Improve Memory Performance in Mice. *J Nutr Sci Vitaminol.* 2006;

- 52(421):427
- 75) Lin P, Takeichi H, Taguri E, Mikako K, Sarukura N, Yamamoto S: Effects of dietary ratio of protein, fat and carbohydrate on postprandial glycemic response, insulin level and thermogenesis among young and elderly subjects. *J Nutr Sci Vitaminol.* 2006
- 76) Miura S, Tomitsuka E, Kamei Y, Yamazaki T, Kai Y, Tamura M, Kita K, Nishino I, Ezaki O: Overexpression of peroxisome proliferators-activated receptor γ co-activator-1 α leads to muscle atrophy with depletion of ATP. *Am J Pathol.* 2006; 169(4):1129-1139
- 77) Yano T, Fujimoto E, Hagiwara H, Sato H, Yamasaki H, Negishi E, Ueno K: Connexin 32 as an anti-invasive and anti-metastatic gene in renal cell carcinoma. *Biol. Pharm. Bull.* 2006; 29(10):1991-1994
- 78) Nakagami T, Tominaga M, Nishimura R, Yoshiike N, Daimon M, Oizumi T, Tajima N: Is the measurement of glycated hemoglobin A1c alone an efficient screening test for undiagnosed diabetes? Japan National Diabetes Survey. *Diabetes Res Clin Pract.* Epub. 2006 Oct 17.
- 79) Hotta N, Sato K, Katayama K, Koga S, Masuda K, Miyachi M, Akima H, Ishida K: Oxygen Uptake Kinetics Following 20 Days of Unilateral Lower Limb Suspension. *J Physiol Sci.* 2006; 56(5):347-353
- 80) Ikegami S, Tosen Y, Ishimi Y, Umegaki K, Nakashima Y: Possible adverse effects of soy isoflavone mixture on pregnant and lactating rats and their suckling pups. *J Health Sci.* 2006; 52(5):558-567
- 81) Muranaka K, Yanagi Y, Tamaki Y, Usui T, Kubota N, Terauchi Y, Kadowaki T, Araie M: Effects of peroxisome proliferator-activated receptor and its ligand on blood retinal barrier in streptozotocin-induced diabetic model. *Invest. Ophthalmol. Vis. Sci.* 2006; 47: 4547-4552
- 82) Nishimuta M: Characteristics of Urine Sodium and Potassium After Oral Ingestion of Solutions Containing Sodium and Potassium Which Is Isotonic to The Physiological Saline -A Quantitative Study- *J Nutr Sci Vitaminol.* 2006; 51(5):333-336
- 83) Shibayama T, Kobayashi K, Takano A, Kadowaki T, Kazuma K: Effectiveness of lifestyle counseling by certified expert nurse of Japan for non-insulin-treated diabetic outpatients: A 1-year randomized controlled trial. *Diabetes Res. Clin. Pract.* 2006
- 84) Unusan, N, Aiba N, Miyoshi M, Yoshiike N: Distance delivery of nutrition education as a method for providing education. 2nd International Open and Distance Learning (IODL) Symposium. 2006; 453-461
- 85) Yoshida M, Hattori H, Ohta S, Yishihara K, Kodama N, Yoshitake Y, Nishimuta M: Molybdenum balance in healthy young Japanese women. *J Trace Elements in Medicine and Biology.* 2006; 20:245-252
- 86) Hada S, Sato H, Virgona N, Hagiwara H, Saito T, Suzuki K, Asano R, Yano T: Connexin 32 expression reduces malignant phenotype in human A549 adenocarcinoma cells: Implication of Src involvement. *Oncol Rep.* 2006; 16(5):1149-1154
- 87) Takebayashi J, Kubo K, Saeki A, Saito M: Effect of Citrus aurantium combined with caffeine and/or tea catechins on body fat accumulation and its safety in rats. *J. Clin. Biochem. Nutr.* 2006; 39(3):174-181
- 88) Uchida S, Yamada H, Li XD, Maruyama S, Ohmori Y, Oki T, Watanabe H, Umegaki K, Ohashi K, Yamada S: Effects of ginkgo biloba extract on pharmacokinetics and pharmacodynamics of tolbutamide and midazolam in healthy volunteers. *J Clin Pharmacol.* 2006; 46(11):1290-1298
- 89) Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Yokoyama T, Ohya Y, Fukushima W, Saito K, Ohfuji S, Kiyohara C, Hirota Y, The Osaka Maternal and Child Health Study Group: Dietary folate and vitamins B(12), B(6), and B(2) intake and the risk of postpartum depression in Japan: The Osaka Maternal and Child Health Study. *J Affect Disord.* 2006; 96(1-2):133-138
- 90) Yoshimura A, Nishino K, Takezawa J, Tada S, Kobayashi T, Sonoda E, Kawamoto T, Takeda S, Ishii Y, Yamada K, Enomoto T, Seki M: A novel Rad18 function involved in protection of the vertebrate genome after exposure to camptothecin. *DNA Repair.* 2006; 5:1307-1316
- 91) Sugiyama F, Wu J, Fujioka M, Ezaki J, Takeda K, Miyaura C, Ishida T, Yamada K, Ishimi Y: Soybean isoflavones preserve bone loss in hindlimb-unloaded mice. *J Bone Miner Metab.* 2006; 24(6):439-446
- 92) Kawamori R, Kadowaki T, Onji M, Seino Y, Akanuma Y on behalf of the PRACTICAL Study Group: Hepatic safety profile and glycemic control of pioglitazone in more than 20,000 patients with type 2 diabetes mellitus: Postmarketing surveillance study in Japan. *Diabetes Res. Clin. Pract.* 2006
- 93) Inoue E, Yamauchi J: AMP-Activated protein kinase regulates PEPCK gene expression by direct phosphorylation of a novel zinc finger transcription factor. *Biochem Biophys Res Commun.* 2006; 351(4):793-799
- 94) Hayashi F, Takimoto H, Yoshita K, Yoshiike N: Perceived body size and desire for thinness of young Japanese women: a population-based survey. *Br J Nutr.* 2006; 96:1154-1162
- 95) Nishimuta M, Kodama N, Morikuni E, Yoshioka YH, Matsuzaki N, Takeyana H, Yamada H, Kitajima H: Equilibrium intakes of calcium and magnesium within an adequate and limited range of sodium intake in human. *J Nutr Sci Vitaminol.* 2006; 52(6):402-406
- 96) Miyake Y, Sasaki S, Yokoyama T, Tanaka K, Ohya Y, Fukushima W, Saito K, Ohfuji S, Kiyohara C, Hirota Y, Osaka Maternal and Child Health Study Group: Risk of postpartum depression in relation to dietary fish and fat intake in Japan: the Osaka Maternal and

- Child Health Study. *Psychol Med.* 2006; 36(12):1727-1735
- 97) Kubota N, Yamauchi T, Tobe K, Kadowaki T: Adiponectin-dependent and adiponectin-independent pathways in insulin sensitizing and anti-diabetic actions of thiazolidinediones. *Diabetes.* 2006; 55:32-38
- 98) Michalik L, Auwerx J, Berger JP, Chatterjee VK, Glass CK, Gonzalez FJ, Grimaldi PA, Kadowaki T, Lazar ML, O'Rahilly S, Palmer CNA, Plutzki J, Reddy JK, Spiegelman BM, Staels B, Wahli W: Peroxisome proliferator-activated receptors (PPARs) *Pharmacological Reviews.* 2006; 58:726-741
- 99) Kondo M, Miyamoto H, Chounou T, Urata G: Decreased magnesium in whole blood of patients with porphyria cutanea tarda. *PORPHYRINS.* 2006; 15(2,3):51-56
- 100) Fuku N, Ochiai M, Terada S, Fujimoto E, Nakagama H, Tabata I: Effect of running training on DMH-induced aberrant crypt foci in rat colon. *Medicine and Sciences in Sports and Exercise.* 2007; 39(1):70-74
- 101) Ohashi J, Naka I, Kimura R, Tokunaga K, Nakazawa M, Ataka Y, Ohtsuka R, Inaoka T, Matsumura Y: HLA-DRB1 polymorphism on Ha'ano island of the Kingdom of Tonga. *Anthropological Science.* 2007; 114:193-198
- 102) Harashima E, Nakagawa Y, Urata G, Tsuji K, Shirataka M, Matsumura Y: Time-lag estimate between dietary intake and breast cancer mortality in Japan. *Asia Pac J Clin Nutr.* 2007; 16(1):193-198
- 103) Endoh K, Murakami M, Umegaki K: Vulnerability of folate in serum and bone marrow to total body irradiation in mice. *Int J Radiat Biol.* 2007; 83(1):65-71
- 104) Miyamoto S, Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Ohya Y, Matsunaga I, Yoshida T, Oda H, Ishiko O, Hirota Y, Osaka Maternal and Child Health Study Group.: Fat and fish intake and asthma in Japanese women: baseline data from the Osaka Maternal and Child Health Study. *Int J Tuberc Lung Dis.* 2007; 11(1):103-109
- 105) Terauchi, Y, Takamoto, I, Kubota, N, Matsui, J, Suzuki, R, Komeda, K, Hara, A, Toyoda, Y, Miwa, I, Aizawa, S, Tsutsumi, S, Tsubamoto, Y, Hashimoto, S, Eto, K, Nakamura, A, Noda, M, Tobe, K, Aburatani, H, Nagai, R, Kadowaki T: Requirement of glucokinase and *Irs2* for compensatory beta-cell hyperplasia in response to high-fat-diet-induced insulin resistance. *J.Clin.Invest.* 2007; 117:246-257
- 106) Murakami K, Sasaki S, Okubo H, Takahashi Y, Hosoi Y, Itabashi M, the Freshmen in Dietetic Courses Study II Group: Food intake and functional constipation: a cross-sectional study of 3835 Japanese women aged 18-20 years. *J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo)* 2007; 53:30-36
- 107) Mito N, Takimoto H, Umegaki K, Ishiwaki A, Kusama K, Fukuoka H, Ohta S, Abe S, Yamawaki M, Ishida H, Yoshiike N: Folate intakes and folate biomarker profiles of pregnant Japanese women in the first trimester. *Eur J Clin Nutr.* 2007; 61(1):83-90
- 108) Kamei Y, Suganami T, Kohda T, Ishino F, Yasuda K, Miura S, Ezaki O, Ogawa Y: *Peg1/Mest* in obese adipose tissue is expressed from the paternal allele in an isoform-specific manner. *FEBS Lett.* 2007; 581(1):91-96
- 109) Ikeda M, Suzuki C, Umegaki K, Saito K, Tabuchi M, Tomita T: Preventive effects of green tea catechins on spontaneous stroke in rats. *Med Sci Monit.* 2007; 13(2):40-45
- 110) Horikoshi M, Hara K, Ito C, Nagai R, Froguel P, Kadowaki T: A genetic variation of the transcription factor 7-like 2 gene is associated with risk of type 2 diabetes in the Japanese population. *Diabetologia.* 2007
- 111) Yamauchi, T, Nio, Y, Maki, T, Kobayashi, M, Takazawa, T, Iwabu, M, Okada-Iwabu, M, Kawamoto, S, Kubota, N, Kubota T, Ito, Y, Kamon, J, Tsuchida, A, Kumagai, K, Kozono, H, Hada, Y, Ogata, H, Takamoto, I, Hara, K, Kadowaki T: Targeted disruption of *AdipoR1* and *AdipoR2* causes abrogation of adiponectin binding and metabolic actions. *Nat. Med.* 2007; 13(3):332-339
- 112) Shirayama Y, Phompida S, Kuroiwa C, Miyoshi M, Okumura J, Kobayashi J: Maintenance behavior and long-lasting insecticide-treated nets (LLITNs) previously introduced into Bourapar district, Khammouane province, Lao PDR. *Public Health.* 2007; 121 (2):122-129
- 113) Iki M, Morita A, Ikeda Y, Sato Y, Akiba T, Matsumoto T, Nishino H, Kagamimori S, Kagawa Y, Yoneshima H, JPOS Study Group: Biochemical markers of bone turnover may predict progression to osteoporosis in osteopenic women: the JPOS Cohort Study. *J Bone Miner Metab.* 2007; 25(2):122-129
- 114) Ganpule AA, Tanaka S, Ishikawa-Takata K, Tabata I: Interindividual variability in sleeping metabolic rate in Japanese subjects. *Eur J Clin Nutr.* [Epub ahead of print] 2007
- 115) Fukuba Y, Endo M, Ohe Y, Hirotohi Y, Kitano A, Shiragiku C, Miura A, Fukuda O, Ueoka H, Miyachi M: Central circulatory and peripheral O₂ extraction changes as interactive facilitators of pulmonary O₂ uptake during a repeated high-intensity exercise protocol in humans. *European Journal of Applied Physiology.* 2007; 99(4):361-369
- 116) Sanada K, Kuchiki T, Miyachi M, McGrath K, Higuchi M, Ebashi H: Effects of age on ventilatory threshold and peak oxygen uptake normalised for regional skeletal muscle mass in Japanese men and women aged 20–80 years. *European Journal of Applied Physiology.* 2007; 99(5):475-483
- 117) Okazaki H, Tazoe F, Okazaki S, Isoo N, Tsukamoto K,

- Sekiya M, Yahagi N, Iizuka Y, Ohashi K, Kitamine T, Tozawa R, Inaba T, Yagyū H, Okazaki M, Shimano H, Shibata N, Arai H, Nagai R, Kadowaki T, Ishibashi S: Increased cholesterol biosynthesis and hypercholesterolemia in mice overexpressing squalene synthase in the liver. *J. Lipid Res.* 2007
- 118) Zhao GY, Sonoda E, Barber LJ, Oka H, Murakawa Y, Yamada K, Ikura T, Wang X, Kobayashi M, Yamamoto K, Boulton SJ, Takeda S: A critical role for the ubiquitin-conjugating enzyme Ubc13 in initiating homologous recombination. *Molecular Cell.* 2007; 25:663-676
- 119) Kaburagi T, Yamano T, Fukushima Y, Yoshino H, Mito N, Sato K: Effect of *Lactobacillus johnsonii* La1 on immune function and serum albumin in aged and malnourished aged mice. *Nutrition.* 2007; 23(4):342-350
- b. 和文**
- 1) 近藤雅雄, 饗場直美: 高齢者の食生活と免疫強化. *日本抗加齢医学会誌.* 2006; 2(3):55-60
- 2) 渡邊昌, 君羅満: 実践的な料理データベース作成のための標本サイズと妥当性. *栄養学雑誌.* 2006; 64(2):29
- 3) 東泉裕子, 梅木美樹, 石見佳子, 池上幸江: 妊娠期・授乳期の母親ラット, 仔ラットに対するゲニステインとダイゼイン投与における生体影響の相違. *栄養学雑誌.* 2006; 64(3):161-172
- 4) 島田美恵子, 西牟田守, 児玉直子, 吉武裕: 血漿トリヨードサイロニン(T3)は低値者が存在し、しかも早朝空腹仰臥位安静時代謝(PARM)と正相関する -T3 は基礎代謝基準値策定のための PARM測定時の必須項目である- *体力科学.* 2006; 55(3):295-306
- 5) 渡邊敏明, 大串美沙, 前川紫, 西牟田守, 柴田克己, 福井徹: 健常人における葉酸の必要量についての検討. *日本栄養・食糧学会誌.* 2006; 59(3):169-176
- 6) 吉野美香, 蕪木智子, 林瞳, 藤倉聡子, 鈴井美知, 三戸夏子, 佐藤和人: PEM モデルにおける拘束ストレスの影響. *日本病態栄養学会誌.* 2006; 9(2):173-179
- 7) 近藤雅雄, 樫木直子, 浦田郡平, 梶原正宏: ポルフォビリノーゲン脱アミノ酵素 (PBGD) の精製および諸性質~PBGD 活性の測定に対する各種化学物質の影響~*Porphyryns.* 2006; 15(1):1-8
- 8) 近藤雅雄, 樫木直子, 浦田郡平: マウスにおけるポルフォビリノーゲン脱アミノ酵素活性の体内分布とポルフィリン症惹起薬物に対する応答. *Porphyryns.* 2006; 15(1):9-14
- 9) 池上幸江, 細田晶子, 東泉裕子, 梅木美樹, 山田和彦: ラット膵臓消化酵素と小腸二糖類水解酵素の活性に対する粘性食物繊維摂取の影響. *日本食物繊維学会誌.* 2006; 10(1):25-32
- 10) 早田剛, 三浦隆, 岩岩徹治, 宮地元彦: 段階的弾性ストッキング着用による下腿圧増加が下腿静脈コンプライアンスを増加させる. *体力科学.* 2006; 55(8):421-428
- 11) 山本美紀子, 下田妙子, 菅淑江, 辻とみ子, 佐々木敏: 青年期女子の栄養素等摂取量および食品郡別摂取量に及ぼす朝食欠食の影響. *健康支援* 2006; 8(2):97-105
- 12) 倉掛重精, 梅田 孝, 中路重之, 熊江隆, 岡村典慶, 明石秀伸, 村田洋介, 藤崎晶子, 寺町芳子, 海老根直之: 冬季のマラソンが選手の生体に及ぼす影響 (1) -マラソン前日とレース後の血液成分の比較. *体力・栄養・免疫学雑誌.* 2006; 16(1):23-31
- 13) 熊江隆, 金子佳代子, 北村実穂子, 小暮寛子, 高田和子: 女子長距離選手と一般女子学生の主観的疲労度、血中逸脱酵素活性、及び血液性状の6ヶ月間の変動と比較. *体力・栄養・免疫学雑誌.* 2006; 16(1):32-41
- 14) 熊江隆, 西牟田守, 児玉直子, 吉武 裕: 出納実験における女子大学生の主観的疲労度、血中逸脱酵素活性、及び血液性状の変動. -客観的な疲労度指標の開発に関する研究. *体力・栄養・免疫学雑誌.* 2006; 16(1):42-51
- 15) 矢野友啓, 齊藤光芳, 鈴木一由, 浅野隆司: がん抑制遺伝子 (コネキシン) の機能回復をターゲットにしたがん化学予防に関する研究(II)-大豆由来の Bowman-Birk inhibitor を用いた検討-大豆たん白質研究. 2006; 9:120-125
- 16) 須藤紀子, 吉池信男: 健康教育プログラムが2型糖尿病患者の血糖コントロールに及ぼす影響のメタ分析. *栄養学雑誌.* 2006; 64(6):309-324
- 17) 高野順子, 秋根大, 佐々木敏, 香山不二雄: 中学生における心理状態と食品摂取との関係. *自治医科大学紀要.* 2006; 29:233-241
- 18) 堀江裕, 大山賢治, 藤井康善, 村脇義和, 前田直人, 近藤雅雄: 赤芽球性プロトポルフィリン症の鑑別診断、色素乾皮症の2例. *薬理と治療.* 2006; 34:203-205
- 19) 網中雅仁, 近藤雅雄, 饗場直美, 田口浩子, 太田麗, 栗原典子, 柘植光代, 岡純, 梶本雅俊, 池田真紀, 山内博, 高田礼子, 吉田勝美: 健常高齢者における抗酸化食品 (ピーマン) による酸化ストレスの改善の効果. *臨床環境医学.* 2006; 15(2):124-130
- 20) 三戸夏子, 佐藤和人: 食餌誘導性肥満マウスにおけるナイーブ及びメモリーT細胞機能の解析. *日本女子大学大学院紀要.* 2007; 13:1-7
- (3) 総説**
- 1) 饗場直美: IT を活用した生活習慣病の為の自己学習システム. *肥満と糖尿病.* 2006; 5(5):124-127
- 2) 永田純一, 池田郁男: トランス脂肪酸に関する最近の話題-トランス脂肪酸過剰摂取に対する欧米諸国の対応と日本の現状について. *栄養学雑誌.* 2006; 64(2):69-76
- 3) 佐々木敏: エビデンスとしての「日本人の食事摂取基準 (2005 年版)」--糖尿病食事療法にいかにか活かすか-- *Diabetes Journal (糖尿病と代謝)* 2005; 33(4):116-122
- 4) 門脇孝: ピオグリタゾンの心血管保護作用 基礎

- から臨床まで. 日本臨床. 2006; 64(1):156-159
- 5) 門脇孝: 生活習慣病 糖尿病. *Bio Clinica* 21. 2006; 1:16-18
 - 6) 門脇孝: 生活習慣病に潜むうつ 糖尿病. *Therapeutic Research*. 2006; 27(3):464-465
 - 7) 山内敏正, 窪田直人, 原一雄, 今井靖, 植木浩二郎, 戸辺一之, 永井良三, 門脇孝: 心臓代謝領域における新規活性ペプチドの意義 アディポネクチン. *血管*. 2006; 29(1):1-3
 - 8) 笹子敬洋, 松下由実, 原一雄, 戸辺一之, 門脇孝: メタボリックシンドロームは生命予後を悪化させるのか? 治療. 2006; 88(3):901-904
 - 9) 門脇孝: メタボリックシンドロームと血管障害によるアディポネクチン・アディポネクチン受容体の役割. *心臓*. 2006; 38(2):178-185
 - 10) 山内敏正, 門脇孝: アディポネクチン・アディポネクチン受容体. *循環器科*. 2006; 59(2):128-139
 - 11) 吉池信男, 藤井紘子, 猿倉薫子: 日本における糖尿病の現状—糖尿病実態調査 (2002 年) から. *Diabetes Frontier*. 2006; 17(2):184-189
 - 12) 門脇孝: メタボリックシンドロームの診断基準に関する提言. *Diabetes Journal*. 2006; 34(1):31-34
 - 13) 門脇孝: 生活習慣病の体質はどこまで解明されたのか. *日本体質医学会雑誌*. 2006; 68(1~2):6-6
 - 14) 門脇孝: メタボリックシンドローム 病態と治療戦略. *日本整形外科学科雑誌*. 2006; 80(3):S268-S268
 - 15) 門脇孝, 原一雄, 松下由実: 糖尿病の病態と診断に関する最近の知見 メタボリックシンドローム診断基準. *分子糖尿病の進歩: 基礎から臨床まで*. 2006; 118-131
 - 16) 山内敏正, 植木浩二郎, 門脇孝: 病態生理に基づく NAFLD の薬物治療 内臓肥満に対する薬物療法. *医学のあゆみ 別冊 NAFLD のすべて*. 2006; 144-149
 - 17) 戸邊一之, 窪田直人, 原一雄, 門脇孝: 糖尿病の治療に関する最近の知見 PPAR γ アゴニストと糖尿病血管合併症. *分子糖尿病学の進歩: 基礎から臨床まで*. 2006; 118-131
 - 18) 原一雄, 門脇孝: アディポネクチン血中レベル測定 of 生物学的・臨床的意義. *Diabetes Journal (糖尿病と代謝)* 2006; 34(1):15-199
 - 19) 戸辺一之, 山内敏正, 窪田直人, 原一雄, 植木浩二郎, 門脇孝: メタボリックシンドロームの病態と治療. *生化学*. 2006; 78(3):208-220
 - 20) 松下由実, 原一雄, 戸邊一之, 門脇孝: 展望 日本人の肥満と糖尿病の特徴. Q&A でわかる肥満と糖尿病. 2006; 5(2):201-207
 - 21) 植木浩二郎, 門脇孝: メタボリックシンドロームにおける病態形成の分子メカニズム. *THE CIRCULATION FRONTIER* 10. 2006; 1:18-27
 - 22) 山内敏正, 門脇孝: 糖尿病予防のためのメタボリックシンドロームの管理. *プラクティス*. 2006; 23(2):157-163
 - 23) 山内敏正, 門脇孝: メタボリックシンドロームの動物モデル. *最新医学*. 2006; 61 (3月増刊):746-758
 - 24) 佐々木敏: 女性の健康支援〜思春期・性成熟期編〜第 16 回栄養習慣の考え方とセルフメディケーション支援ツール. *薬局*. 2006; 57:4-4, 東京
 - 25) 門脇孝: メタボリックシンドローム 病態と治療戦略. *日本内分泌学会雑誌*. 2006; 82(1):24-24
 - 26) 山内敏正, 窪田直人, 植木浩二郎, 戸辺一之, 門脇孝: アディポネクチン・アディポネクチン受容体の病態生理的意義解明と生活習慣病診断・治療への応用. *日本内分泌学会雑誌*. 2006; 82(1):112-112
 - 27) 高本偉碩, 寺内康夫, 窪田直人, 鈴木亮, 戸辺一之, 門脇孝: 高脂肪食誘導性のインスリン抵抗性に対する膵 β 細胞過形成の分子メカニズムの解明. *日本内分泌学会雑誌*. 2006; 82(1):94-94
 - 28) 植木浩二郎, 栗澤元晴, 山内敏正, 窪田直人, 門脇孝: メタボリックシンドロームと adipocytokines メタボリックシンドロームの成因 インスリン抵抗性とアディポネクチン. *日本内分泌学会雑誌*. 2006; 82(1):25-25
 - 29) 窪田直人, 門脇孝: 見る脂質のページ 肥満モデル動物 PPAR γ ノックアウトマウス. *The Lipid*. 2006; 17(2):96-101
 - 30) 植木浩二郎, 門脇孝: インスリン作用異常の分子メカニズム. *Pharma Medica*. 2006; 24(4):29-34
 - 31) 岩部真人, 山内敏正, 門脇孝: 合併症のある場合の薬物選択 糖尿病を合併している場合, どの薬がよいのか. *治療*. 2006; 88(4):1317-1321
 - 32) 亀井望, 戸辺一之, 門脇孝: メタボリックシンドロームの理解に必要な最新研究動向 (基礎研究) 臓器 メタボリックシンドローム発症における MCP-1 の役割. *医学のあゆみ*. 2006; 217(1):153-155
 - 33) 窪田直人, 戸辺一之, 門脇孝: メタボリックシンドロームの理解に必要な最新研究動向 (基礎研究) シグナル・パスウェイ インスリン感受性を調節するシグナル. *医学のあゆみ*. 2006; 217(1):87-93
 - 34) 山内敏正, 門脇孝: 分子病態研究の新展開 代謝面と血管面のクロストーク アディポカイン 代謝の面から インスリン感受性を制御し, メタボリックシンドローム発症にかかわるアディポカイン. *医学のあゆみ*. 2006; 217(1):5-11
 - 35) 植木浩二郎, 門脇孝: メタボリックシンドロームとアンチエイジング医学. *Medical Science Digest*. 2006; 32(5):180-183
 - 36) 戸辺一之, 門脇孝: 二相性インスリンアナログ製剤 その特徴と適応 2 型糖尿病のインスリン療法 二相性インスリンアナログ製剤の新しい使い方. *診断と治療*. 2006; 94(2):309-313
 - 37) 戸辺一之, 山内敏正, 窪田直人, 原一雄, 植木浩二郎, 門脇孝: インスリン抵抗性とメタボリックシンドローム. *臨床と研究*. 2006; 1: 5-19
 - 38) 山内敏正, 門脇孝: シグナル受容システムと生理機能 アディポネクチン受容体と機能. *実験医学*. 2006; 24(5):656-664
 - 39) 江崎治, 佐藤眞一, 窄野昌信, 三宅吉博, 三戸夏子,

- 梅澤光政: n-3 系多価不飽和脂肪酸の摂取基準の考え方. 日本栄養・食糧学会誌. 2006; 59(2):123-158
- 40) 亀井康富, 江崎治: 遺伝子改変技術 トランスジェニックマウス、ノックアウトマウス、RNAi. *Adipo science*. 2006; 3(1):96-100
- 41) 亀井康富, 高橋真由美, 小川佳宏, 江崎治: インプリンティング遺伝子 Mest/Peg1:新しい脂肪細胞肥大化促進遺伝子. *肥満研究*. 2006; 12(1):80-81
- 42) 梅垣敬三, 杉澤彩子, 佐藤陽子, 卓興鋼: 健康食品等の安全性情報ネットワーク. *公衆衛生*. 2006; 70(5):363-368
- 43) 梅垣敬三: いわゆる健康食品の有効性と健康への影響-イチョウ葉エキス-臨床栄養. 2006; 108(5):560-563
- 44) 佐々木敏: 食習慣から見直す健康づくり -「日本人の食事摂取基準 (2005 年版)」の視点から-武田薬報. 2006; 445:10-15
- 45) 佐々木敏: 健康的な食生活習慣形成を目指した食事摂取基準. *学術の動向*. 2006; 11(5):28-33
- 46) 佐々木敏: アメリカの食文化と疾病構造. *からだの科学*. 2006; 249:88-89
- 47) 松下由実, 戸邊一之, 原一雄, 門脇孝: メタボリックシンドロームの臨床的意義 肥満. *動脈硬化予防*. 2006; 1:48-55
- 48) 亀井望, 戸邊一之, 鈴木亮, 窪田直人, 渡部拓, 門脇孝: 【肥満症 中枢制御とその分子メカニズム】脳内インスリンシグナルと肥満制御. *内分泌・糖尿病科*. 2006; 22(5):535-542
- 49) 堀越桃子, 原一雄, 戸邊一之, 門脇孝: SNP 解析によるテラーメード医療 Pros アディポネクチン遺伝子の SNP 解析による 2 型糖尿病テラーメード医療. *糖尿病診療マスター*. 2006; 4(4):510-515
- 50) 山内敏正, 門脇孝: PPAR γ による糖代謝・体重の制御機構. *細胞*. 2006; 38(5):186-190
- 51) 山内敏正, 門脇孝: 分子標的薬開発への挑戦 有力な分子標的薬 生活習慣病の分子標的薬 (PPAR γ , HMG-CoA 還元酵素阻害薬) バイオテクノロジージャーナル. 2006; 6(3):388-393
- 52) 江崎治: 中高年の体に何がおこるか? その予防は? 食品加工技術. 2006; 26(2):45-50
- 53) 佐々木敏: ヒトを用いた栄養学的研究を計画, 実施, 報告する場合に考慮すべきいくつかのポイント-分析疫学研究ならびに介入研究を中心として-日本栄養・食糧学会誌. 2006; 59(3):185-92
- 54) 門脇孝: 糖尿病の新しい治療薬 メタボリックシンドロームと糖尿病. *東京都医師会雑誌*. 2006; 59(5):577-586
- 55) 植木浩二郎, 門脇孝: メタボリックシンドロームの基礎 脂肪細胞機能. *最新医学*. 2006; 61(6):1237-1247
- 56) 峯山智佳, 窪田直人, 門脇孝: シグナル伝達を理解するために必要な知識 インスリンレセプターを介するシグナル伝達. *分子消化器病*. 2006; 3(2):177-181
- 57) 山内敏正, 門脇孝: 糖尿病 基礎分野での進歩 アディポネクチン受容体とその機能. *Annual Review 糖尿病・代謝・内分泌*. 2006; 20-30
- 58) 石見佳子: 骨粗鬆症と食習慣. *からだの科学-食と生活習慣病-*. 2006; 249:76-82
- 59) 矢野友啓: 食品成分による癌予防. *日本未病システム学会雑誌*. 2006; 12(1):56-58
- 60) 福岡秀興, 瀧本秀美, 吉池信男: 胎児低栄養と成人病 (生活習慣病) の発症. *産婦人科の実際*. 2006; 55(7):1131-1137
- 61) 笠岡(坪山)宜代: 食と生活習慣病 <脂肪の適正な摂り方> *からだの科学*. 2006; 249:90-93
- 62) 窪田哲也, 窪田直人, 門脇孝: チアゾリジン薬と抗動脈硬化作用. *医薬ジャーナル*. 2006; 42(7):91-94
- 63) 窪田直人, 峯山智佳, 門脇孝: PPAR 活性化剤と抗炎症作用. *Adiposcience*. 2006; 3(2):203-209
- 64) 笹子敬洋, 戸邊一之, 門脇孝: アスピリンによるインスリン抵抗性改善作用. *Adiposcience*. 2006; 3(2):199-202
- 65) 松下由実, 戸邊一之, 原一雄, 門脇孝: メタボリックシンドロームと腎疾患 メタボリックシンドロームの基本的な考え方. *Mebio*. 2006; 23(7):10-23
- 66) 岡崎由希子, 植木浩二郎, 門脇孝: 性差による糖尿病の特徴を知ろう. *食生活*. 2006; 7:16-21
- 67) 武田 仁, 門脇孝: 糖尿病と食習慣. *からだの科学*. 2006; 249:70-75
- 68) 手嶋登志子: 摂食・嚥下障害と食事 (総論). *総合リハビリテーション*. 2006; 34(7)
- 69) 石見佳子, 呉堅: 骨粗鬆症の予防-栄養その他-*THE BONE*. 2006; 20(4):457-463
- 70) 宮地元彦: 生活習慣病予防のための体力: 特集 新しい健康づくりのための運動基準・指針. *体育の科学*. 2006; 56(8):608-614
- 71) 田中茂穂: 生活習慣病予防のための身体活動・運動量: 特集 新しい健康づくりのための運動基準・指針. *体育の科学*. 2006; 56(8):601-607
- 72) 村上健太郎, 佐々木敏: グライセミック・インデックスおよび食物繊維と動脈硬化予防. *動脈硬化予防*. 2006; 5(2):24-35
- 73) 高橋佳子, 佐々木敏: 食品からみた動脈硬化予防. *動脈硬化予防*. 2006; 5(2):48-57
- 74) 門脇孝: メタボリックシンドローム-分子科学と予防・治療戦略 (会議録). *New Diet Therapy*. 2006; 22(2):73-73
- 75) 門脇孝: インスリン抵抗性とメタボリックシンドロームに関する最近の知見. *糖尿病と妊娠 UP-DATE*. 2006; 6(1):3-4
- 76) 門脇孝: 2 型糖尿病 病態と管理・治療 メタボリックシンドロームから糖尿病へのアプローチ 病態と管理・治療. *糖尿病 UP-DATE*. 2006; 22:92-115
- 77) 門脇孝: CREB 経路の調節機構とその生物学的役割, および CREB 経路標的薬開発の可能性. アディポサイエンス<脂肪細胞からメタボリックシンドロームまで> 2006; 3(2):210-218

- 78) 山内敏正, 門脇孝: アディポネクチン受容体と機能. 実験医学. 2006; 24(5):94(656)-102(664)
- 79) 亀井望, 戸辺一之, 鈴木亮, 窪田直人, 門脇孝: 末梢・中枢における代謝・摂食制御因子 インスリンシグナル. Clinical Neuroscience. 2006; 24(8):925-928
- 80) 山内敏正, 門脇孝: アディポネクチン受容体. BIO Clinica. 2006; 21(9):838-845
- 81) 瀧本秀美, 草間かおる, 吉池信男, 福岡秀興: 単胎正期産児の出生体重に影響する因子. 産婦人科の実際. 2006; 55(8):1277-1284
- 82) 江崎治, 三浦進司: 末梢・中枢における代謝・摂食制御因子 AMP キナーゼ. CLINICAL NEUROSCIENCE 別冊. 2006; 24(8):929-931
- 83) 近藤雅雄, 饗場直美, 田口浩子, 柘植光代, 太田麗, 栗原典子, 網中雅仁, 宮本廣, 張能太郎, 井手智子, 岡純, 梶本雅俊: 高齢者の食生活と免疫強化. ANTI-AGING MEDICINE、日本抗加齢医学会雑誌. 2006; 2(3):337-342
- 84) 江崎治: コレステロール予防と動脈硬化予防. 動脈硬化予防. 2006; 5(2):14-19
- 85) 笠岡(坪山)宣代: 魚介類の効果 -魚油、タウリンを中心として-臨床栄養. 2006; 109(3):299-306
- 86) 門脇孝: 糖尿病の合併症の管理 日常診療の質を向上させる7つのポイント (会議録) 日本臨床内科学会誌. 2006; 21(3):326-326
- 87) 門脇孝: メタボリックシンドロームの病態と診断へのアプローチ アディポネクチン測定の意義を中心に(会議録) 臨床化学. 2006; 35(1):
- 88) 笹子敬洋, 大須賀淳一, 門脇孝: 持効型インスリン製剤が原因と疑われる肝障害を呈し CS II 導入となった劇症 1 型糖尿病の 1 例. Medicine. 2006; 43(9):1614-1619
- 89) 笹子敬洋, 戸辺一之, 門脇孝: 生活習慣病の実地診療へのアプローチ インスリン抵抗性と高インスリン血症 その意義と臨床的診断・治療法. Medical Practice. 2006; 23(9):1488-1498
- 90) 岡崎由希子, 植木浩二郎, 門脇孝: 目で見る性差医学 性差と耐糖能. HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY. 2006; 13(3):210-213
- 91) 山内敏正, 門脇孝: 糖尿病とメタボリックシンドローム. 日本薬理学雑誌. 2006; 128(3):133-140
- 92) 石見佳子: 骨粗鬆症と栄養. アルカロイド研究会誌. 2006; 32:53-59
- 93) 宮地元彦: 動脈弾性の評価とその可塑性. Journal of Training Science for Exercise and Sports. 2006; 18(3):187-193
- 94) 田中茂穂: 間接熱量測定法による 1 日のエネルギー消費量の評価. 体力科学. 2006; 55(5):527-532
- 95) 矢野友啓: トコトリエノール類の 2 型糖尿病およびその合併症に対する有効性. ビタミン. 2006; 80(10):517-518
- 96) 梅垣敬三: 機能性食品研究における動物実験の考慮すべきポイント. 日本栄養・食糧学会誌. 2006; 59(5):277-282
- 97) 山内敏正, 門脇孝: 抗糖尿病シグナル アディポネクチンとアディポネクチン受容体. 実験医学. 2006; 24(16):2451-2457
- 98) 山内敏正, 門脇孝: 細胞の機能と転写調節因子. 分子細胞治療. 2006; 5(4):43(345)-50(352)
- 99) 窪田直人, 戸辺一之, 門脇孝: インスリン感受性を調整するシグナル. 医学のあゆみ. 2006; 217(1):87-93
- 100) 手嶋登志子: 介護予防における食介護-高齢者への食育-保健の科学. 2006; 48(10):740-743
- 101) 石見佳子: 骨粗鬆症の予防と食品, サプリメント: 大豆イソフラボンと骨代謝. CLINICAL CALCIUM. 2006; 16(10):1661-1667
- 102) 江崎治: ライフスタイルの改善-糖尿病患者における食事療法および運動療法の意義-日本臨床. 2006; 64(11):2083-2088
- 103) 梅垣敬三, 中西朋子, 瀧優子, 佐藤陽子, 卓興鋼: グレープフルーツと薬物の相互作用. 臨床栄養. 2006; 109(6):781-788
- 104) 大石由美子, 真鍋一郎, 永井良三: 脂肪細胞の分化・増殖に関わる転写因子 Kruppel-like transcription factor-5(KLF5). 日本臨床増刊 メタボリックシンドローム-病態解明と予防・治療の最新戦略. 2006
- 105) 大石由美子: 生活習慣病と PPARs BASIC 版 I-4 「血管機能と PPARs」 ライフサイエンス出版. 2006
- 106) 江崎治: 生活習慣病予防のための食事・運動療法の作用機序に関する研究. 日本栄養・食糧学会誌. 2006; 59(6):323-329
- 107) 田畑泉: ウォーキング実践者の身体的特徴. ウォーキング研究. 2006; 10:27-30
- 108) 江崎治: メタボリックシンドローム-病因解明と予防・治療の最新戦略-日本臨床 増刊号. 2006; 64(9):580-583
- 109) 宮地元彦: メタボリックシンドロームの運動療法. Clinic Magazine. 2007; 2007(1):43-50
- 110) 江崎治, 窄野昌信, 三宅吉博, 井藤英喜: 飽和脂肪酸の摂取基準の考え方. 日本栄養・食糧学会誌. 2007; 60(1):19-52
- 111) 吉池信男, 渋谷克彦: 肥満と糖尿病 ~その疫学的研究~ Adipo Science. 2007; 3(4):401-409
- 112) 森田明美: 骨折とカルシウム-カルシウム補充は骨折防止に役立つか? -骨粗鬆症治療. 2007; 6(1):60-63
- 113) 宮地元彦: 薬物療法を開始する前にすべきこと 運動療法の実際-継続のコツ- Medical Practice. 2007; 24(1):111-114
- 114) 石見佳子: 大豆イソフラボンをめぐる最近の話題. 臨床栄養. 2007; 110(1):14-15
- 115) 藤本絵里子, 上野光一, 矢野友啓: 腎臓癌抑制遺伝子としてのコネキシン 32 の機能と効果. 日本薬理学雑誌. 2007; 129:105-109
- 116) 由田克士: 教育現場における「食育」の必要性和その実践. Medical Practice. 2007; 24(2):228-232
- 117) 手嶋登志子: QOL を高める食介護支援~介護食のこれから~高齢者栄養管理の重要なキーワード

- 「食介護」を理解しよう. 食生活. 2007; 101(3): 16-21
- 118) 江崎治, 三浦進司: 運動療法とミトコンドリア機能. *Diabetes Frontier*. 2007; 18(1):48-52
- 119) 斎藤衛郎: 特定保健用食品の役割. *薬学雑誌*. 2007; 127(3):407-416
- 120) 江崎治: メタボリックシンドロームにおけるインスリン抵抗性・糖尿病-危険因子(リスクファクター)との関連-臨床スポーツ医学. 2007; 24(3): 263-269
- 121) 江崎治: トランス脂肪酸. *臨床栄養*. 2007; 110(3): 240-241
- 122) 江崎治: 体にいい油、悪い油. *ヘルシスト 発行: 榊ヤクルト*. 2007; 31(2):22-27
- 123) 石見佳子: 骨粗鬆症の予防と食習慣. *全葉ジャーナル「健康日本 21」サポートルーム*. 2007; 231: 12-15
- 124) 江崎治: 運動療法の意義と効果. *診断と治療 増刊 新しい糖尿病の臨床*. 2007; 95:135-139
- (4) 解説等
- 1) 高田和子: 肥満とエネルギーバランス. *体育の科学*. 2006; 56(8):657-663
- 2) 門脇孝: 《座談会》レニン・アンジオテンシン系とメタボリックシンドローム~高血圧・糖尿病のトータルマネジメントを考える~. *Diabetes Frontier*. 2006; 17(1):128-135
- 3) 門脇孝: 124 回日本医学会シンポジウム記録集 [III]脂肪細胞のバイオロジー4、脂肪細胞によるインスリン抵抗性の分子機構. *肥満の科学*. 2006; 110-121
- 4) 山田和彦: 新しい保健機能食品制度. *公衆衛生*. 2006; 70(5):358-362
- 5) 手嶋登志子: 超高齢社会を開けるキーワード第5回摂食嚥下障害. *食生活*. 2006; 100(2): 54-56
- 6) 渡邊昌: 独法化で進化する国立健康・栄養研究所. *ILSI JAPAN*. 2006; 88:31-35
- 7) 渡邊昌: 日本人の感性はどこから来たのか. *ライフサイエンス*. 2006; 32(1):3-8
- 8) 渡邊昌: 医療費 32 兆円におもう. *ライフサイエンス*. 2006; 32(3):3-5
- 9) 渡邊昌: 澤田允茂の「風景の哲学」と心. *ライフサイエンス*. 2006; 32(3):42-53
- 10) 渡邊昌: アンチエイジング医学新時代-食と健康からアンチエイジングを考える. *慶應義塾大学医学部新聞*. 2006; 652(3)
- 11) 渡邊昌: 本当に怖い国民的徴症状-へそ肥満に気をつける. *サンケイスポーツ*. 2006.01.27
- 12) 廣田晃一: 食品機能 Q&A 花粉症の症状を和らげる食品はあるの?へるすあっぷ 21. 2006; 20
- 13) 佐々木敏: 世界の食卓-第9回-強飯(こわめし)が主食の国・ラオス *大阪外国語大学保健管理センター年報*. 2006; 26:1-2, 大阪
- 14) 手嶋登志子: 超高齢社会を開けるキーワード第7回介護食. *食生活*. 2006; 100(4): 56-58
- 15) 渡邊昌: 国立健康・栄養研究所が創立 85 周年, 実学の精神に沿い健康づくりをリード. *HJ 健康食品新聞*. 2006
- 16) 山田和彦: 食品表示の意味とその見方. (財)全国危険物安全協会編: 家庭の安全・安心(分担執筆). (財)全国危険物安全協会. 2006; 244-245
- 17) 廣田晃一: 食品機能 Q&A ラクトフェリンの効果について教えて!へるすあっぷ 21. 2006; 20
- 18) 君羅満, 渡邊昌: 生活習慣病予防における栄養指導効果検証のための簡易食事調査「料理単位法」の妥当性と応用可能性. *栄養日本*. 2006; 49:40-42
- 19) 田中雅子, 松村康弘: 低脂肪の食事パターンと7年にわたる体重変化-WHI の食事変容試験(文献紹介) *栄養学雑誌*. 2006; 64(2):132-132
- 20) 吉池信男: 【監修】自立した生き生き食生活を~介護予防のための新しい介護保険システムと栄養改善~健康増進のしおり、日本栄養士会. 2006
- 21) 梅垣敬三, 小島彩子: 正しい新食品開発のあり方とエビデンスの見分け方. *食生活*. 2006; 100(4):27-33
- 22) 梅垣敬三: 薬剤師のためのサプリメント講座-1. 効率健康・栄養研究所ウェブサイトの利用法. *Hint de ファーマシー*. 2006; 15
- 23) 佐々木敏: 「栄養アセスメント」で適切な食事療法の選択を. *くらしとからだ*. 2006; 49:16-17
- 24) 谷本道哉: 月刊トレーニングジャーナル 連載第12回「スポーツ・トレーニングの誤解を解く」. *ブックハウス エイチ・ディ*. 2006;
- 25) 佐々木敏: あなたの健康・栄養情報、それ信じられますか?①-生涯を通じての生活習慣病予防。食事の大切さを考える。-こころの健康づくり講演会より. *ストレスニュース*. 2006; 173:3-4
- 26) 原 一雄, 門脇孝: 2 型糖尿病疾患感受性遺伝子同定の現状と問題点. *Diabetes Frontier*. 2006; 17(2):195-199
- 27) 廣田晃一: Remarks : 新 EBIS 講. *臨床栄養*. 2006; 108(4):495-495
- 28) 田畑泉: 今、求められる身体活動・運動の指導者像. 特集 *スポーツと健康の指導者養成*. *体育の科学*. 2006; 56(4):244-249
- 29) 渡邊昌: 食と健康「温故知新」近藤とし子. *食生活*. 2006; 100(4):6-8
- 30) 西牟田守: 骨代謝におけるミネラルの働き. *日本医事新報*. 2006; 97-98
- 31) 門脇孝: 食後高血糖とメタボリックシンドローム. *食後高血糖フォーラム 2006 in Nagoya*. 2006
- 32) 廣田晃一: 食品機能 Q&A プロポリスってなに?へるすあっぷ 21. 2006; 20
- 33) 吉池信男: 食生活から見えてくる日本人のからの状態 - 「国民健康・栄養調査」の視点から - *武田時報*. 2006; 16-21
- 34) 由田克士: 食育をめぐる情勢とその周辺. *北陸と公衆衛生*. 2006; 52(1):2-3
- 35) 吉池信男: 【監修】妊産婦のための食生活指針~健やか親子を目指して~健康増進のしおり、日本栄養士会. 2006
- 36) 梅垣敬三: 危険な健康食品にご注意. *東京くらし*

- ねっと(東京都消費生活総合センター) 2006; 2-4
- 37) 谷本道哉: 月刊トレーニングジャーナル 連載第 13 回「スポーツ・トレーニングの誤解を解く」ブックハウス エイチ・ディ. 2006;
- 38) 佐々木敏: あなたの健康・栄養情報、それ信じられますか? ②-生涯を通じての生活習慣病予防。食事の大切さを考える。-こころの健康づくり講演会より。ストレスニュース. 2006; 174:3-4
- 39) 吉池信男, 小野真美, 高橋東生, 林芙美: 栄養・食生活の改善で生活習慣病を予防しよう!。NOMA 社会通信教育"こころと身体の健康づくり"。社団法人日本経営協会. 2006;
- 40) 渡邊昌: 食と健康「温故知新」松谷満子。食生活. 2006; 100(5):6-8
- 41) 渡邊昌: メタボリックシンドロームの予防。産経新聞. 2006.05.25
- 42) 渡邊昌: 教育の森。毎日新聞. 2006. 05.29
- 43) 松村康弘: 社会・環境と健康。臨床栄養. 2006; 109(1):102-105
- 44) 梅垣敬三: 薬剤師のためのサプリメント講座.2. トクホは有効性・安全性を国が保証した"健康食品"。Hint de ファーマシー. 2006; 15
- 45) 谷本道哉: 月刊トレーニングジャーナル 連載第 14 回「スポーツ・トレーニングの誤解を解く」ブックハウス エイチ・ディ. 2006
- 46) 佐々木敏: あなたの健康・栄養情報、それ信じられますか? ③-生涯を通じての生活習慣病予防。食事の大切さを考える。-こころの健康づくり講演会より。ストレスニュース. 2006; 175:3-4
- 47) 手嶋登志子: 超高齢社会を開けるキーワード第 9 回ユニバーサルデザインフード。食生活. 2006; 100(6): 54-57
- 48) 廣田晃一: 「いわゆる健康食品」の有効性と健康への影響(6) 健康食品素材のアレルギー。臨床栄養. 2006; 108(7):898-900
- 49) 廣田晃一: Remarks : サラダの日々。臨床栄養. 2006; 108(7):975-975
- 50) 廣田晃一: 食品機能 Q&A カルニチンの効果とは?へるすあっぷ 21. 2006; 20-20
- 51) 渡邊昌: 食と健康「温故知新」出浦照國。食生活. 2006; 100(6):6-8
- 52) 宮地元彦: 生活習慣病予防における運動の効果。NPO 法人 日本健康運動指導士会. 2006; 90:2-9
- 53) 渡邊昌: 糖尿病は薬なしで治せる。夕刊フジ. 2006;06.15
- 54) 吉池信男: ポピュレーションアプローチとしての食育について考える。栄養日本. 2006; 49(7):4-5
- 55) 由田克士: 国民健康・栄養調査(平成 16 年)から 今、日本人の健康・栄養状態は。ヘルシスト. 2006; 30(4):7-11
- 56) 荒井裕介: 健康づくり Q & A : 「貧血ぎみで、立ちくらみするときがあります。どんな食品を意識して食べるようにすれば、よいでしょうか。」。健康づくり 健康体力づくり事業財団. 2006; 339(7):26-26
- 57) 梅垣敬三: サプリメント活用の意味。からだの科
- 学. 2006; 69
- 58) 高橋佳子, 佐々木敏, 津金昌一郎: Information Up to Date 687 食事指導による降圧効果。血圧. 2006; 13(7):702-3
- 59) 後藤由美子, 弘津公子, 田崎京子, 大金富子, 坂東美知子, 佐々木敏: 後期高齢者における簡易アセスメントスケールの作成について。栄養日本. 2006; 49(7):38-40
- 60) 谷本道哉: 月刊トレーニングジャーナル 連載(第 15 回)「スポーツ・トレーニングの誤解を解く」山海堂. 2006
- 61) 谷本道哉: 月刊トレーニングジャーナル 連載第 15 回「スポーツ・トレーニングの誤解を解く」ブックハウス エイチ・ディ. 2006
- 62) 佐々木敏: あなたの健康・栄養情報、それ信じられますか? ④-生涯を通じての生活習慣病予防。食事の大切さを考える。-こころの健康づくり講演会より。ストレスニュース. 2006; 176:3-4
- 63) 門脇孝: メタボリックシンドロームの分子機構と治療戦略・日本動脈硬化学会総会プログラム・抄録集. 2006; 172-172
- 64) 山内敏正, 門脇孝: メタボリックシンドロームの分子メカニズムと治療戦略 PPAR とアディポネクチンを中心にして。日本臨床分子医学会 43 回学術総会プログラム・抄録集. 2006; 58-58
- 65) 山内敏正, 門脇孝: メタボリックシンドロームと血管機能 アディポネクチン受容体の生理的・病態生理的意義。日本動脈硬化学会総会プログラム・抄録集. 2006; 153-153
- 66) 廣田晃一: 食品機能 Q&A 野菜ジュースだけで 1 日分の野菜はとれる?へるすあっぷ 21. 2006; 20
- 67) 手嶋登志子: 超高齢社会を開けるキーワード第 11 回認知症と食事ケア。食生活. 2006; 100(8): 56-59
- 68) 渡邊昌: 食と健康「温故知新」赤羽正之。食生活. 2006; 100(7):6-8
- 69) 渡邊昌: 飽食社会への警告。産経新聞. 2006.07.09
- 70) 渡邊昌: 一病息災で心身ともに健康に。赤旗新聞. 2006.07.15
- 71) 斎藤衛郎: 食品機能 Q&A DHA とアトピーの関係は?へるすあっぷ 21. 2006; 262:20-20
- 72) 梅垣敬三: 薬剤師のためのサプリメント講座-3. 専門職は特に安全性情報に注意を。Hint de ファーマシー. 2006; 15
- 73) 梅垣敬三: 危険な健康食品にご注意。食べもの通信. 2006; 19-21
- 74) 梅垣敬三: 食事と健康食品・サプリメントー健康食品・サプリメントの現状と関わり方ーKewpie News. 2006; 2-19
- 75) 江崎治, 佐々木敏: Evidence Based Nutrition/動脈硬化予防に対する栄養のエビデンスとは。動脈硬化予防. 2006; 5(2):58-73
- 76) 谷本道哉: 月刊トレーニングジャーナル 連載(第 16 回)「スポーツ・トレーニングの誤解を解く」山海堂. 2006
- 77) 佐々木敏: あなたの健康・栄養情報、それ信じら

- れますか?⑤-生涯を通じての生活習慣病予防.食
事の大切さを考える-こころの健康づくり講演会
より.ストレスニュース. 2006; 177:3-4
- 78) 門脇孝: :《座談会》PROactive の位置づけとわ
が国における臨床応用~糖尿病専門医、循環器專
門医の糖尿病治療の方向性~日本臨牀. 2006;
64(3):581-587
- 79) 門脇孝: 第 39 回河口湖心臓討論会 メタボリッ
クシンドロームと血管障害によるアディポネクチ
ン・アディポネクチン受容体の役割. 第 39 回河
口湖心臓討論会 メタボリックシンドロームと血
管障害によるアディポネクチン・アディポネクチ
ン受容体の役割. 2006; 38(2):178-185
- 80) 廣田晃一: Remarks : リンク DE ダイエット. 臨
床栄養. 2006; 109(2):271-271
- 81) 手嶋登志子: 超高齢社会を開けるキーワード第 1
2 回 QOL と自己実現. 食生活. 2006; 100(9) : 54-
57
- 82) 由田克士: 平成 16 年国民健康・栄養調査結果の
概要を読む ~メタボリックシンドロームの状況
を中心に~ 食生活. 2006; 100(8):96-101
- 83) 田畑泉: スポーツにおける疲労と骨格筋の糖代謝.
食品と開発 発行 CMP ジャパン. 2006; 41(8):4-
7
- 84) 田畑泉: 健康づくりのための運動基準のキーワ
ードと今後の話題. 体育の科学. 2006; 56(8):635-639
- 85) 渡邊昌: 食と健康「温故知新」田中甲子. 食生活.
2006; 100(8):6-8
- 86) 渡邊昌: 糖尿病だけでは医療費試算 60 兆円,財源
確保どうする. 健康産業新聞. 2006; 1161(4)
- 87) 江崎治, 佐々木敏: Evidence Based Nutrition/動脈硬
化予防に対する栄養のエビデンスとは. 動脈硬化
予防. 2006; 5(2):58-73
- 88) 斎藤衛郎: 特定保健用食品 新たな分類とその基
準. ファルマシア. 2006; 42(9):899-904
- 89) 吉池信男: 健康づくり Q&A (高齢者の食生活に
ついて). 健康づくり、健康・体力づくり事業財
団. 2006; 26
- 90) 吉池信男: [監修] 2007 年版食生活改善カレンダ
ー. 東京法規出版. 2006
- 91) 吉池信男: [監修] 食事バランスガイド・主菜編.
社団法人日本栄養士会. 2006
- 92) 梅垣敬三: 情報の氾濫が招く危険性と正しい情報
入手の需要. Aromatopia. 2006; 15(8):42-45
- 93) 谷本道哉: 月刊トレーニングジャーナル 連載
(第 17 回) 「スポーツ・トレーニングの誤解を解
く」山海堂. 2006
- 94) 吉池信男: 「食事バランスガイド」の活用 [監
修] 運動で予防するメタボリックシンドローム
[DVD 教材] つくばウェルネスリサーチ.2006
- 95) 廣田晃一: 食品機能 Q&A ヘム鉄って何のこ
と?へるすあっぷ 21. 2006; 20-20
- 96) 田畑泉: 運動指導のよりどころ 『運動基準』を
知っていますか? 食生活. 2006; 100(9):97-102
- 97) 田畑泉: 新しい「健康づくりのための運動基準と
運動指針」策定のねらいと基本的な考え方. 栄養
日本. 2006; 49(9): 7-10
- 98) 渡邊昌: 食と健康「温故知新」甲籐温子. 食生活.
2006; 100(9):6-8
- 99) 田畑泉: 運動指針の疑問に答える Q&A 特集
「運動指針 2006」を活用する. 月刊 地域保健.
2006; 2006(9):14-19
- 100) 吉池信男: 「食事バランスガイド」とこれからの
食育. 教育と医学. 2006; 64(10):946-954
- 101) 斎藤衛郎: 食品機能 Q&A 血糖値の上昇を抑え
るお茶は飲みすぎではいけない?へるすあっぷ
21. 2006; 264
- 102) 宮地元彦: 腹囲 1cm 減で内蔵脂肪は減る一運動
法・食事法へるすあっぷ 21、10 月号. 2006; 51-
53
- 103) 吉池信男: 生活環境. 図説国民衛生の動向 2006.
厚生統計協会. 2006; 100-105
- 104) 谷本道哉: 月刊トレーニングジャーナル 連載
(第 18 回) 「スポーツ・トレーニングの誤解を解
く」山海堂. 2006
- 105) 佐々木敏: チャンプルスタディ「沖縄野菜は健康
の源か?」に迫る. 栄養と料理. 2006; 72(10):147-
152
- 106) 廣田晃一: Remarks : えいようきつず. 臨床栄養.
2006; 109(5):707-707
- 107) 手嶋登志子: 嚥下障害食-摂食・嚥下障害者の為
の段階的な食事 (1) 総合リハビリテーション.
2006; 34(10): 994-995
- 108) 石見佳子: 大豆イソフラボンと女性の健康一その
本当の関係. 栄養と料理. 2006; 72(10):107-112
- 109) 吉池信男: 若い女性の食生活はこのままで良いの
か? 次世代の健康を考慮に入れた栄養学・予防
医学的検討~ 家族と健康. 2006; 6
- 110) 渡邊昌: 食と健康「温故知新」佐伯芳子. 食生活.
2006; 100(10): 6-8
- 111) 田畑泉: 解説 健康づくりのための運動指針
2006 (エクササイズガイド 2006). 週刊 保健衛
生ニュース. 社会保険実務研究所. 2006; 16-21
- 112) 谷本道哉: 月刊トレーニングジャーナル 連載
(第 19 回) 「スポーツ・トレーニングの誤解を解
く」山海堂. 2006
- 113) 廣田晃一: 食品機能 Q&A オリゴ糖のとりすぎ
は肥満になる?へるすあっぷ 21. 2006; 20-20
- 114) 門脇孝: 我が国の糖尿病合併症予防のための戦略
研究(J-DOIT) HUMAN SCIENCE. 2006; 17(6):28-
32
- 115) 山内敏正, 窪田直人, 原一雄, 門脇孝: 【アディポ
カイン】アディポネクチン. 医学のあゆみ. 2006;
219(6):433-439
- 116) 山内敏正, 窪田直人, 門脇孝: 【アディポサイトカ
イン Update】アディポネクチンとその受容体.
Adiposcience. 2006; 3(3):257-265
- 117) 植木浩二郎, 門脇孝: J-DOIT3 の脂質評価に non
HDL-C を用いる理由. 日本医事新報. 2006;
4309:86-87
- 118) 手嶋登志子: 嚥下障害食-摂食・嚥下障害者のた
めの段階的な食事 (2) 総合リハビリテーション.

- 2006; 34(11): 1100-1101
- 119) 渡邊昌: 食と健康「温故知新」香川芳子. 食生活. 2006; 100(11):6-8
- 120) 斎藤衛郎: 食品機能 Q&A セサミンの効用について知りたい. へるすあっぷ 21. 2006; 266:20
- 121) 佐々木敏, 高橋佳子: 科学は動いている もっと知りたい! 食事と疾患の関係第 1 回高血圧と食事. 食生活. 2006; 100(12):90-95
- 122) 由田克士: 第 89 回アメリカ栄養士会総会に参加して. 栄養学雑誌. 2006; 64(6):347-348
- 123) 廣田晃一: Remarks: 一寸先は闇. 臨床栄養. 2006; 109(7):947
- 124) 門脇孝, 永井良三, 鈴木則宏, 伊藤貞嘉, 伊藤裕: 生活習慣病の包括的管理. Pharma Medica. 2006; 24(12):98-103
- 125) 戸邊一之, 門脇孝: 【糖尿病の初期治療】初期軽症糖尿病治療薬の選択の目安 インスリン非分泌系薬 チアゾリジン薬. Diabetes Frontier(0915-6593). 2006; 17(6):765-771
- 126) 山内敏正, 窪田直人, 門脇孝: 【糖尿病治療の新しい展開】糖尿病治療の展開(インスリン作用の活性化) PPAR γ 刺激物質. ホルモンと臨床. 2006; 54(12):1115-1121
- 127) 窪田直人, 大杉満, 寺内康夫, 戸邊一之, 門脇孝: 基礎講座 糖尿病モデル動物 遺伝子操作による糖尿病モデル動物. Diabetes Frontier. 2006; 17(6):783-787
- 128) 高本偉碩, 門脇孝: 【レニン・アンジオテンシン系(RAS)の病態と治療 基礎研究と臨床研究から考える RAS の最前線】基礎研究と臨床研究から考える RAS の病態への関与 代謝 糖尿病, メタボリックシンドロームにおける RAS の役割. Progress in Medicine. 2006; 26(12):3139-3143
- 129) 庄嶋伸浩, 戸邊一之, 原一雄, 門脇孝: 【糖尿病治療の新しい展開】糖尿病治療の展開(インスリン作用の活性化) インスリン受容体チロシンキナーゼ活性化物質. ホルモンと臨床. 2006; 54(12):1111-1114
- 130) 渡邊昌: 食と健康「温故知新」原正俊. 食生活. 2006; 100(12):6-8
- 131) 田中茂穂: エネルギー代謝研究の意義. KAO ヘルステアレポート. 2007; 15:4-5
- 132) 斎藤衛郎: Q&A トクホとは? 特定保健用食品について教えてください. 肥満と糖尿病. 2007; 6(1):31-33
- 133) 佐々木敏: 世界てくてく「食」の解体新書 第 1 回アメリカ悩める肥満大国. 栄養と料理. 2007; 73(1):150-153
- 134) 三戸夏子: 脂肪細胞産生因子の最近の知見. 臨床栄養. 2007; 110(1):12-13
- 135) 廣田晃一: Remarks: むく鳥通信(健康栄養篇). 臨床栄養. 2007; 110(2):227
- 136) 廣田晃一: 食品機能 Q&A タウリンは肥満を予防する? へるすあっぷ 21. 2007; 20-20
- 137) 武田仁, 門脇孝: 【インスリン治療の現状と展望】インスリンと経口血糖降下薬の効果的併用療法. 内分泌・糖尿病科. 2007; 23(5):496-501
- 138) 高本偉碩, 門脇孝: 【インクレチンと糖尿病】GLP-1 アナログの糖尿病臨床. BIO Clinica. 2007; 21(14):1270-1274
- 139) 門脇孝: 【メタボリックシンドローム どう診断し, どう対処するか】J-DOIT. 内科. 2007; 99(1):83-87
- 140) 門脇孝: 各科臨床のトピックス 糖尿病予防のための戦略研究(J-DOIT3). 日本医師会雑誌. 2007; 135(10):2218-2220
- 141) 山内敏正, 門脇孝: RAS の新知見, 基礎編 ARB の PPAR γ 作用. Angiotensin Research. 2007; 4(1):30-39
- 142) 窪田直人, 門脇孝: 【PPAR と疾患】PPAR とメタボリックシンドローム PPAR とインスリン抵抗性. 医学のあゆみ. 2007; 220(1):27-32
- 143) 岡畑純江, 戸邊一之, 門脇孝: この症例から何を学ぶか コメディカルを含めたカンファレンス メタボリックシンドロームを伴った 2 型糖尿病. Medical Practice. 2007; 24(1):184-191
- 144) 高澤宏文, 門脇孝: 【実地医家のためのインスリン療法】インスリン作用の多様性について. 総合臨床. 2007; 56(1):27-31
- 145) 手嶋登志子: 嚥下障害食-ユニバーサルデザインフード(UDF)の活用. 総合リハビリテーション. 2007; 35(1):62-63
- 146) 渡邊昌: 日本の転換をうながす教育基本法改定. ライフサイエンス. 2007; 33(1):3-6
- 147) 渡邊昌: 栄養・機能成分の効能の正しい理解. 食品と容器. 2007; 48(1):6-13
- 148) 田畑泉: 新しい運動基準・運動指針とその概要. 臨床栄養. 2007; 110(1):41-46
- 149) 渡邊昌: 食と健康「温故知新」山下光雄. 食生活. 2007; 101(1):6-8
- 150) 田畑泉: 健康づくりのための運動指針 2006(エクササイズガイド 2006) 活用の留意点. Dietary Media(社)東京都栄養士会 医療部会 編集発行. 2007; 2-2
- 151) 吉池信男: 知っておきたい健康ことわざ・用語辞典; 健康用語【栄養・食生活編】(監修). 財団法人健康・体力づくり事業財団. 2007
- 152) 梅垣敬三: 健康食品とのかかわり方. たしかな目. 2007; 12-15
- 153) 佐々木敏: 世界てくてく「食」の解体新書 第 2 回ブラジルカーニバルと塩漬けタラ. 栄養と料理. 2007; 73(2):150-153
- 154) 廣田晃一: 健康食品のデータベースとは? 肥満と糖尿病. 2007; 6(1):34-35
- 155) 田中雅子, 松村康弘: 米国成人の食物摂取パターンの推移(文献紹介) 栄養学雑誌. 2007; 65(1):39-39
- 156) 門脇孝: メタボリックシンドロームとアディポネクチン. Medical Practice. 2007; 24(2):372-375
- 157) 手嶋登志子: 嚥下障害食-介護老人福祉設における経口維持への対応. 総合リハビリテーション. 2007; 35(2):62-63

- 158) 田畑泉: 健康づくりのための運動基準・運動指針の意味と栄養士の役割. 臨床栄養. 2007; 110(2):134-136
- 159) 渡邊昌: 食と健康「温故知新」豊川裕之. 食生活. 2007; 101(2):6-8
- 160) 石見佳子: Natural Medicie Comprehensive Database 一部監訳. 健康食品データベース, 第一出版. 2007
- 161) 渡邊昌: マクロビオティック. 健康産業新聞. 2007; 1185(26)
- 162) 田畑泉: 検診の場での生活改善のエビデンス 運動指導, 特集 検診 エビデンスと論争点. EB Mジャーナル. 2007; 8(3):154-158
- 163) 吉池信男: 「メタボリックシンドローム」〜その考え方と改善策〜食育活動. 2007; 8-15
- 164) 吉池信男: [監修] 食事バランスガイド〜牛乳・乳製品編〜社団法人日本栄養士会. 2007
- 165) 梅垣敬三: シリーズ健康食品を考えるー3ー健康食品の正しい理解とその普及のために. Food Style21. 2007; 11(3):24-26
- 166) 佐々木敏: 世界の食卓-第10回-キムチのおいしさに要注意: 韓国の食・健康問題. 大阪外国語大学保健管理センター年報. 2007; 27:1-2
- 167) 佐々木敏: 世界てくてく「食」の解体新書 第3回ドイツ「ビア樽腹」は本当か? 栄養と料理. 2007; 73(3):150-153
- 168) 廣田晃一: 食品機能 Q&A キシリトール入りガムはどれくらい噛めば効果がある?へるすあっぷ 21. 2007; 20
- 169) 手嶋登志子: 嚥下障害食-家族への栄養・食事指導. 総合リハビリテーション. 2007; 35(3):62-63
- 170) 渡邊昌: 食と健康「温故知新」村田光範. 食生活. 2007; 101(3):6-8
- 171) 佐々木敏: 世界てくてく「食」の解体新書 第4回東アフリカとメキシコとうもろこしの光と影. 栄養と料理. 2007; 73(4):150-153
- 172) 佐々木敏, 高橋佳子: 科学は動いている もっと知りたい! 食事と疾患の関係 第5回高脂血症と食事. 食生活. 2007; 101(4):96-101
- 173) 荒井裕介, 吉池信男: 国立健康・栄養研究所の生活習慣病予防研究. 労働の科学. 2007; 62(4):25-28
- (5) 研究班報告書
- 1) 江崎治: モデル系を用いた環境要因の分子メカニズムについての解析. 厚生労働科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究事業、慢性疾患としての糖尿病の病期に注目した病態の解析と、新たな診断、治療法の探索、平成17年度総括・分担研究報告書 (主任研究者: 安田和基). 2006; 73-80
- 2) 斎藤衛郎: いわゆる健康食品の健康影響と健康被害に関する研究. 平成17年度 厚生労働科学研究費補助金 (食品の安心・安全確保推進研究事業) 総括研究報告書. 2006
- 3) 斎藤衛郎, 永田純一: いわゆる健康食品及び健康食品素材の健康影響の検討(1)ー明日葉のラット体脂肪蓄積および脂質代謝へ及ぼす影響と過剰摂取による安全性の検討ー平成17年度 厚生労働科学研究費補助金 (食品の安心・安全確保推進研究事業) 分担研究報告書. 2006
- 4) 斎藤衛郎, 永田純一: いわゆる健康食品及び健康食品素材の健康影響の検討(2)ー健常ラットおよびOLETF ラットのメリロート摂取による脂質代謝および体脂肪蓄積に及ぼす影響と過剰摂取による安全性の検討ー平成17年度 厚生労働科学研究費補助金 (食品の安心・安全確保推進研究事業) 分担研究報告書. 2006
- 5) 吉池信男, 草間かおる, 猿倉薫子, 野末みほ: 妊婦・授乳婦のための「食事バランスガイド」の開発と活用方法の検討. 平成17年度厚生労働科学研究費補助金・子ども家庭総合研究事業、次世代の健康を考慮入れた栄養学・予防医学的検討 (主任研究者: 吉池信男). 2006; 66-86
- 6) 吉池信男, 草間かおる, 猿倉薫子, 野末みほ, 福岡秀興, 瀧本秀美: 周産期における医療施設での栄養及び体重管理に関する実態調査. 平成17年度厚生労働科学研究費補助金・子ども家庭総合研究事業、次世代の健康を考慮入れた栄養学・予防医学的検討 (主任研究者: 吉池信男). 2006; 87-98
- 7) 吉池信男, 山田有紀子, 小林秀誉, 石脇亜紗子, 由田克士, 山本茂: 食物摂取量調査から見た残留農薬等の暴露評価の精密化手法及び残留農薬等の短期暴露評価法の検討. 平成17年度厚生労働科学研究費補助金・食品の安心安全確保推進研究事業・農薬等の一律基準と加工食品基準及び急性暴露評価に関する研究 (主任研究者: 米谷民雄) 2006; 45-75
- 8) 吉池信男, 朽久保修, 柏樹悦郎, 甲田道子, 斎藤京子, 藤井紘子, 村島恵: 循環器疾患等の関連指標及び精度管理方法の検討/飲酒・喫煙等の指標についての検討. 平成15-17年度厚生労働科学研究費補助金・健康科学総合研究事業・国民健康・栄養調査における各種指標の設定及び精度の向上に関する研究 (主任研究者: 吉池信男) 2006; 122-160
- 9) 山田和彦, 石見佳子, 田畑泉: 男性の骨粗鬆症・骨折の予防を目的とした運動と食品成分の併用効果に関する研究. 平成17年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C) 実績報告書. 2006
- 10) 永田純一: 食用油の安全性に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 (厚生労働科学特別研究事業) 研究報告書. 2006;
- 11) 矢野友啓: 犬乳腺腫瘍の発生制御に寄与するコネキシン遺伝子の特定とその抑制機構. 平成17年度文部科学研究費補助金成果報告書. 2006
- 12) 矢野友啓: 癌抑制遺伝子機能に立脚した進行性腎臓癌に対する新規治療法の構築. 平成17年度科学技術振興機構シーズ育成試験研究報告書. 2006
- 13) 由田克士, 秋山晴子, 江間章子, 小林悦子, 近藤今子, 焰硝岩政樹, 矢吹邦子, 草間かおる: 職域の特定給食施設における食環境整備の一環として実施した継続的な情報提供効果. 平成17年度厚生労働科学研究費補助金 健康科学総合研究事業 特定給食施設における栄養管理の実施状況とその基

- 準に関する研究報告書 (主任研究者: 石田裕美). 2006; 118-170
- 14) 石田裕美, 村山伸子, 井上浩一, 由田克士, 平田亜古, 近藤今子, 小林菜穂: 特定給食施設の栄養管理に関する自治体の支援・指導システム構築ガイドブック. 平成 15-17 年度厚生労働科学補助金健康科学総合研究事業 特定給食施設における栄養管理の実施状況とその基準に関する研究. 2006
 - 15) 由田克士, 石田裕美, 平田亜古, 井上浩一, 村山伸子, 伊藤友子, 今枝奈保美, 熊本貴代, 駒橋玲子, 高松まり子, 富松理恵子, 鳥越純子, 花田明子, 弘津公子: 特定給食施設における業務改善・高度化のための事例集. 平成 15-17 年度厚生労働科学補助金健康科学総合研究事業 特定給食施設における栄養管理の実施状況とその基準に関する研究報告書. 2006
 - 16) 中川秀昭, 上島弘嗣, 岡村智教, 岡山 明, 笠置文善, 喜多義邦, 日下幸則, 杉原秀樹, 武林 亨, 中村保幸, 山縣然太朗, 大和 浩, 由田克士, 菊池有利子, 三浦克之, 田中太一郎, Ali Nasermoaddeli: 働き盛りの農村住民、都市住民、大企業勤務者男性の循環器疾患発症リスクとそれを規定する生活習慣要因、ヘルスプロモーションサービスに関する比較研究. 平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金健康科学総合研究事業報告書 (主任研究者: 中川秀昭) 2006
 - 17) 山田和彦: 特定保健用食品の新たな審査基準に関する研究. 平成 17 年度 厚生労働科学研究費補助金 (食品の安心・安全確保推進研究事業) 総括研究報告書. 2006; 1-7
 - 18) 山田和彦, 志村二三夫, 廣田晃一, 島田光代, 瀧本秀美: 自覚可能な身体動態と有効性評価基準の検討. 平成 17 年度 厚生労働科学研究費補助金 (食品の安心・安全確保推進研究事業) 分担研究報告書. 2006; 8-28
 - 19) 松村康弘: 国民栄養調査結果からみたわが国のメタボリックシンドロームに関する一考察. 厚生労働科学研究費補助金・国際医学協力研究事業 (生活習慣病の日米間における健康障害とその問題に関する研究) 2006; 32-34
 - 20) 大坂寿雅: 皮膚冷却によって誘起される非ふるえ熱産生における視床下部 GABA の役割. 平成 15-17 年度文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究成果報告書. 2006;
 - 21) 石見佳子, 田畑泉: ヒトの骨代謝及び脂質代謝に及ぼす大豆イソフラボンと運動の併用効果. 平成 17 年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究 (C) 研究成果報告書. 2006
 - 22) 山田晃一: 食品、嗜好品の中からヒトの突然変異を抑制する成分を探索する. 平成 17 年度 三島海雲記念財団研究助成報告書. 2006
 - 23) 矢野友啓: コネキシン遺伝子の癌抑制遺伝子機能の網羅的解析; 癌予防および治療への応用. 平成 17 年度創薬等ヒューマンサイエンス研究重点研究報告書. 2006; 96-101
 - 24) 石見佳子: 個体特性に着目した食品成分の骨粗鬆症に対する予防効果に関する研究. 平成 17 年度創薬等ヒューマンサイエンス研究 重点研究報告書. 2006
 - 25) 江崎治: 細胞内エネルギー代謝制御分子の機能発現機構の解明と新規治療薬への応用. 平成 17 年度 創薬等ヒューマンサイエンス研究 重点研究報告書. 2006; 113-116
 - 26) Murayama N, Natsuhara K, Sasaki S, Kounnavong S, Phonglusa K, Sithideth D: Health Status of Reproductive-age Females in Rural Laos from the Perspective of Anthropometry and Hemoglobin Level. 研究プロジェクト 4-2 2005 年度報告書 アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史の統合的研究: 1945-2005. 2006; 166-74, 総合地球環境学研究所
 - 27) Natsuhara K, Murayama N, Sasaki S, Kounnavong S, Phonglusa K, Sithideth D: Dietary intake and the indicators of dietary change for females of reproductive age. 研究プロジェクト 4-2 2005 年度報告書 アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史の統合的研究: 1945-2005. 2006; 157-165, 総合地球環境学研究所
 - 28) Sasaki S, Murayama N, Natsuhara K, Kounnavong S, Phonglusa K, Sithideth D: Development and validation of food frequency questionnaire for estimating food and nutrient intakes of people in rural Laos. 研究プロジェクト 4-2 2005 年度報告書 アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史の統合的研究: 1945-2005. 2006; 175-185, 総合地球環境学研究所
 - 29) 佐々木敏, 等々力英美: 沖縄野菜で健康になれるか? 住民参加型無作為割付比較試験 (チャンピオンスタディ). 食品機能性研究の最前線 農林水産省食品総合プロジェクト研究成果. 2007; 132-3, 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所
 - 30) 吉池信男, 瀧本秀美, 草間かおる, 猿倉薫子, 林英美: 「産科施設における妊産婦・褥婦への栄養ケアについて」調査報告書. 厚生労働科学研究補助金 (子ども家庭総合研究事業) 2007
- (6) 国際学会等
- a. 特別講演
 - 1) Watanabe S: Soy Peptide Supplement for Elderly. AISET2006. 2006.06.16, Tokyo
 - 2) Kadowaki T: Role of adipokines in obesity-linked insulin resistance, metabolic syndrome and atherosclerosis. XIV International Symposium on Atherosclerosis. 2006.06.19, the Fiera di Rome
 - 3) Kadowaki T, Naoto Kubota, Kubota T, Toshimasa Yamauchi: Adiponectin-induced modulation of AMPK activity in peripheral tissues and brain —their physiological and pathophysiological roles—. FASEB Summer Research Conference entitled "AMPK: Impact on Mammalian Metabolism and Disease" 2006.08.14, Snowmass

- 4) Kadowaki T: Adiponectin—New Insights in the pathogenesis. 10th International Congress on Obesity, Sydney "State of the Art" Lecture. 2006.09.04, Sydney
- 5) Kadowaki T: Novel genetics of common metabolic traits in animal models: any implications for human studies?. Genomic of Hyperglycaemia. 2006.09.12, Elsinore, Denmark
- 6) Kadowaki T: Adiponectin and adiponectin receptors in obesity-linked insulinresistance. Novartis Foundation Symposium. 2006.10.19, Beijing, China
- 7) Kadowaki T: Adiponectin and adiponectin receptors in obesity-linked insulin resistance. An Open Meeting on FATTY ACID AND LIPOTOMICITY IN OBESITY AND DIABETES. 2006.10.20, Beijing, China
- 8) Watanabe S: Cancer and Functional Foods. 1st International Congress for Medical Use of Functional Foods. 2006.11.17, Tokyo
- 9) Kadowaki T: Adiponectin and adiponectin receptors in obesity-linked insulin resistance and metabolic syndrome. IDF 2006 19th World Diabetes Congress, Cape Town. 2006.12.04, Cape Town
- 10) Kadowaki T: Treatment strategy of insulin resistance, metabolic syndrome and Type-2 diabetes targeted to PPARs. IDF 2006 19th World Diabetes Congress, Cape Town. 2006.12.05, Cape Town
- 11) Kadowaki T: Adiponectin Receptors Keystone Symposium on Diabetes: Molecular Genetics, Signaling Pathways and Integrated Physiology. 2007.01.16, Keystone
- 12) Kadowaki T: Insulin Signaling Keystone Symposium on PI3-Kinase, Signaling Pathways in Diabetes. 2007.02.18, Santa Fe
- 13) Watanabe S: Is Isoflavone Metabolism the Key to Understanding the Health Effects of Soy ?. 7th International Soy Symposium. 2007.03.07, Bangkok
- 14) Kadowaki T: PPARgamma and Glucose Metabolism Keystone Symposium on Nuclear Receptors and Metabolism/Metabolic Syndrome and Cardiovascular Risk. 2007.03.30, Colorado
- b. シンポジウム等
 - 1) Yoshiike N: Epidemiological aspects of obesity and metabolic syndrome in Japan / Evidences for defining cut-off point for obesity in Japan. Asian Metabolic Syndrome Consensus Meeting, Korea Society for the Study of Obesity. 2006.04.15, Seoul
 - 2) Nishimuta M: Estimated average requirements for calcium and magnesium: data from human balance studies. International Symposium on Health Aspects of Calcium and Magnesium in Drinking Water. 2006.04.24, Baltimore, Maryland, USA
 - 3) Yoshiike N: Prevention and Control of NCDs in Japan - New era for total approaches towards healthier eating and physical activity- The 4th Asian Congress of Dietetics. 2006.04.25, Manila
 - 4) Zhao GY, Sonoda E, Barber LJ, Oka H, Murakawa Y, Yamada K, Ikura T, Wang X, Kobayashi M, Yamamoto K, Boulton SJ, Takeda S: A critical role for the ubiquitin-conjugating enzyme Ubc13 in initiating homologous recombination. 第20回国際生化学・分子生物学会議. 2006.06.22, 京都
 - 5) Yoshiike N: Obesity prevention strategy and program in Japan. Prevention and management of obesity in Korea, Korea Center for Disease Control & Prevention. 2006.06.23, Seoul
 - 6) Watanabe S: International Research and Development on Isoflavon & Equol. 5th Soy and Helth. 2006.10.11, Dusseldorf
 - 7) Saito M: High dose of Garcinia cambogia is toxic to male reproductive organ but safe in female rats. The United States-Japan Cooperative Program in Natural Resources (UJNR) Food and Agricultural Panel, 35th Annual Meeting. 2006.10.23, Sonoma, California, USA
 - 8) Nishimuta M, Kodama N, Morikuni E, Matsuzaki N, Yoshioka YH, Yamaa H, Kitajima H, Takeyama H: Magnesium requirement and affecting factors. 11th International magnesium symposium. 2006.10.23, Kashokojima, Mie, Japan
 - 9) Kadowaki T: Metabolic Syndrome: Definition and Pathophysiology. The 28th World Congress of Internal Medicine. 2006.11.10, Taipei
 - 10) Yamada K: Construction of scientific substantiation and information for health foods and food components. Cina Nutritional Health Industry Series Forum Meeting. 2006.11.10, Shanghai
 - 11) Kadowaki T: Molecular Biology of Type II Diabetes. The 28th World Congress of Internal Medicine. 2006.11.12, Taipei
 - 12) Yano T: Tumor-suppressive effects of connexin genes; their application to development of cancer prevention and therapy. International Conference on Physiological and Pathological Importance of Gap Junctions. 2006.11.21, Tokyo
 - 13) Yoshiike N: National strategy and programs for obesity control in Japan. Seoul Forum, The 4th Asian Conference on Obesity. 2007.02.09, Seoul
 - 14) Yoshiike N: Situations and preventive strategies of obesity and metabolic syndrome in Japan. The 4th Asian Conference on Obesity. 2007.02.10, Seoul
 - 15) Ishimi Y: Upper limit for isoflavone recommendation- Perspectives of the Japanese recommendation and Expert panel. 7th International Soy Symposium. 2007.03.08, Bangkok
 - 16) Watanabe S: Equol Supplementation and Post Menopausal Symptoms among Japanese woman. 7th International Soy Symposium. 2007.03.08, Bangkok
 - 17) Yoshiike N: Risk factors for chronic diseases in National Health and Nutrition Survey, Japan. International Symposium on National Nutrition Survey Data and Nutrient Database for Risk Factors for Chronic Diseases. 2007.03.16, The Korean Society

of Community Nutrition, Korea Health Industry Development Institute, Seoul

c. 一般講演等

- 1) Ooishi Y, Mnabe K, Kadowaki T, Nagai R: KLF5 Plays a Pivotal Role in Metabolic Regulation and Atherogenesis.. 5th Asian Pacific Society of Atherosclerosis and Vascular Disease (YIA 最優秀賞). 2006.04, Korea(Jeju)
- 2) Inoue S, Takamiya T, Yoshiike N, Shimomitsu T: Physical Activity among the Japanese - Results of the National Health and Nutrition Survey 2003. International Congress on Physical Activity and Public Health. 2006.04.18, Atlanta, USA
- 3) Takamiya T, Inoue S, Yoshiike N, Shimomitsu T: Trends in the physical activity levels among the Japanese population -Results of the National Health and Nutrition Survey, Japan. International Congress on Physical Activity and Public Health. 2006.04.18, Atlanta, USA
- 4) Matsumura Y, Hayashi K, Nakai S, Nitta H: Estimation of cadmium exposure level in Japanese residents: Consideration on the maximum level of cadmium in selected foods. 6th International Conference on Dietary Assessment Methods. 2006.04.29, Copenhagen
- 5) Kubota T, Kubota N, Kumagai H, Itoh S, Takamoto I, Mineyama T, Moroi M, Sugi K, Yamauchi T, Ueki K, Terauchi Y, Tobe K, Kadowaki T: Pioglitazone Ameliorates Cuff Induced Neointimal Formation by both Adiponectin Dependent and Independent Pathways. Scientific Sessions 66th American Diabetes Association. 2006.05, USA(Washington)
- 6) Kawano H, Higuchi M, Miyachi M: Aging, and Blood Pressure Responses to Resistance Exercise. American College of Sports Medicine 53rd Annual Meeting. 2006.05.31, Denver, Colorado
- 7) Ooishi Y, Manabe I, Tobe K, Kadowaki T, Nagai R: KLF5 is important for both metabolic regulation and atherosclerotic lesion formation XIVth International Vascular biology Meeting. 2006.06, Netherlands(Noordwijkerhout)
- 8) Ooishi Y, Manabe I, Tobe K, Kadowaki T, Nagai R: KLF5 IS INVOLVED IN BOTH METABOLIC REGULATION AND ATHEROSCLEROTIC LESION FORMATION. XIV International Symposium on atherosclerosis. 2006.06, Italy(Rome)
- 9) Sato K, Katayama K, Hotta N, Ishida K, Miyachi M, Masuda K, Akima H: The Influence of Unilateral Lower Limb Suspension on Cardiorespiratory Response during Exercise. American College of Sports Medicine 53rd Annual Meeting. 2006.06.01, Denver, Colorado
- 10) Yoshida M, Tanaka H, Nijjima T, Miyatani M, Miyachi M, Tabata I, Fujii Y: Effects of BCAA Supplementation on Plasma Amino Acids and on Subjective Fatigue and Muscle Soreness during Low-Intensity Prolonged Exercise. American College of Sports Medicine 53rd Annual Meeting. 2006.06.01, Denver, Colorado
- 11) Sanada K, Miyachi M, Usui C, Miyatani M, Kawano H, Tabata I, Higuchi M: Absence of Age-Related Increases in the Risk of Lifestyle-Related Diseases in Male Rowers. American College of Sports Medicine 53rd Annual Meeting. 2006.06.02, Denver, Colorado
- 12) Miyatani M, Miyachi M, Usui C, Kawano H, Ishikawa-Takata K, Higuchi M, Tabata I: The Relationship Between Physical Activity, Cardiovascular Fitness, Muscle Strength and Age-related Change In Body Composition. American College of Sports Medicine 53rd Annual Meeting. 2006.06.02, Denver, Colorado
- 13) Ishikawa-Takata K, Rafamantanantsoa HH, Okazaki H, Tanaka S, Sasaki S, Okubo H, Tabata I: Physical activity level among healthy Japanese adults estimated by the doubly labeled water method. American College of Sports Medicine 53rd Annual Meeting. 2006.06.03, Denver, Colorado
- 14) Midorikawa T, Tanaka S, Kaneko K, Koizumi K, Ishikawa-Takata K, Futami J, Tabata I: Evaluation of type and quantity of low-intensity physical activity by triaxial accelerometry. American College of Sports Medicine 53rd Annual Meeting. 2006.06.03, Denver, Colorado
- 15) Morita A, Iki M, Dohi Y, Ikeda Y, Kagamimori S, Kagawa Y, Yoneshima H, JPOS Study Group: The effects of transforming growth factor beta1 gene polymorphisms and lifestyle factors on bone mineral density in representative sample of Japanese women - JPOS Study - . IOF World Congress on Osteoporosis 2006. 2006.06.05, Toronto
- 16) Miura S, Kamei Y, Ezaki O: AMP-Activated Protein Kinase in Skeletal Muscle Is Required for a Reduction of Fat Mass by Exercise Training.. American Diabetes Association, the 66th Scientific Sessions. 2006.06.12, Wahington, D.C.
- 17) Yoneyama S, Miura K, Yoshita K, Sasaki S, Morikawa Y, Soyama Y, Ishizaki M, Kido T, Naruse Y, Nakagawa H: Relationship of Dietary Intake of Fatty Acids to Serum C-reactive Protein in Japanese. XIV International Symposium on Atherosclerosis. 2006.06.20, Rome, Italy
- 18) Yamauchi J, Inoue E: AMP-activated protein kinase regulates PEPCK gene expression by direct phosphorylation of a novel Zn-finger transcription factor. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress 2006. 2006.06.21, Kyoto
- 19) Hagiwara H, Kobayashi S, Sato H, Fukumoto K, Seki T, Ariga T, Yano T: Down-regulation of fibrinolytic factors by connexin 32 expression in human metastatic renal cell carcinoma cells. 20th IUBMB International

- Congress of Biochemistry and Molecular Biology. 2006.06.22, Kyoto
- 20) Sato H, Senba H, Fujimoto E, Hagiwara H, Negishi E, Ueno K, Yano T: Combination effect of connexin 32 gene function and a chemotherapeutic agent against metastatic renal cell carcinoma cells. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology 2006.06.22, Kyoto
- 21) Tanaka S, Tanaka C, Ishikawa-Takata K, Tabata I: Ambulation speed and duration during free-living conditions. Physical Activity + Obesity Satellite Conference 2006. 2006.09.01, Brisbane
- 22) Ishikawa-Takata K, Tanaka S, Tabata I: Total energy expenditure estimated using pedometer. Physical Activity + Obesity Satellite Conference 2006. 2006.09.01, Brisbane
- 23) Yoshiike N, Nozue M, Hayashi F, Miyoshi M, Arai Y, Yoshita K: Birth cohort analysis on body mass index in Japanese male adults from the National Health and Nutrition Survey. Community-based Obesity Prevention, International Conference of Obesity-Satellite Conference. 2006.09.02, Geelong, Australia
- 24) Ohkawara K, Nakadomo F, Nakata Y, Numao S, Katayama Y, Okura T, Tanaka S, Tanaka K: Regional fat mass changes during weight-loss intervention in Japanese men : The SMART Study. 10th International Congress on Obesity. 2006.09.04, Sydney
- 25) Tanaka S, Midorikawa T, Katsukawa F, Futami J, Ishikawa-Takata K, Tabata I: Seasonal variation of basal and sleeping metabolic rates. 10th International Congress on Obesity. 2006.09.05, Sydney
- 26) Tanaka C, Tanaka S, Kawahara J, Midorikawa T, Yoshimura A, Yamaguchi T: Triaxial accelerometer for assessment of physical activity in 5- to 6-year old children. 10th International Congress on Obesity. 2006.09.05, Sydney
- 27) Kasaoka-Tsuboyama N, Shozawa T, Sano K, Kamei Y, Kasaoka S, Hosokawa Y, Esaki O: Taurine deficiency creates a vicious circle promoting obesity. 10th International Congress on Obesity. 2006.09.05, Sydney
- 28) Mito N, Yamada K, Odaka Y, Kawamura Y, Sato K: Effect of continuous coffee consumption in high fat diet-induced obese mice. 10th International Congress on Obesity. 2006.09.05, Sydney
- 29) Unusan N, Aiba N, Miyoshi M, Yoshiike N: Distance delivery of nutrition education as a method for providing continuing education. 2nd International Open and Distance Learning (IODL) Symposium. 2006.09.15, Turkey
- 30) Ishimi Y, Oka J, Tabata I, Toda T, Uchiyama S, Yamada K, Wu J: Effects of isoflavone and exercise on bone mineral density and fat mass in postmenopausal Japanese women. 28th Annual Meeting of the American Society for Bone and Mineral Research. 2006.09.17, Philadelphia
- 31) Tamaki J, Iki M, Morita A, Ikeda Y, Sato Y, Naka H: Which element of physical activity is more important for determining peak bone mass in Japanese children and adolescents, the period, frequency, or active duration per each activity? 28th Annual Meeting of the American Society for Bone and Mineral Research. 2006.09.17, Philadelphia
- 32) Miyachi M, Kawano H, Tanaka H: Resistance Training and Arterial Compliance: Keeping the Benefits While Minimizing the Stiffening. ACSM Conference on Integrative Physiology of Exercise. 2006.09.28, Indianapolis
- 33) Takahashi Y, Sasaki S, Tsugane S: EN05-23 Blood pressure change in a free-living population-based dietary modification study in Japan. The I World Congress of Public Health Nutrition. 2006.09.28, Spain
- 34) Miyoshi M, Hayashi F, Arai Y, Nozue M, Yoshiike N: Regional characteristics of secular changes in obesity-related lifestyle behavior in Japan. I World Congress of Public Health Nutrition. 2006.09.28, Barcelona, Spain
- 35) Naritomi H, Fujita T, Ito S, Ogihara T, Shimada K, Shimamoto K, Tanaka H, Yoshiike N: J-HEALTH Study: Japan Hypertension Evaluation with AIIA Losartan Therapy, a Prospective Nationwide Observational Cohort Study. The 21st Scientific Meeting of the International Society of Hypertension. 2006.10.18, Fukuoka, Japan
- 36) Kubota Y, Kagota S, Toda Y, Negime N, Nakamura K, Kunitomo M, Umegaki K, Shinozuka : Influence of ginkgo biloba extract feeding on heart rate, blood pressure and various blood parameters in aged spontaneously hypertensive rats.. The 12th International Symposium on SHR. Concurrent 42nd Japanese SHR Symposium.. 2006.10.20, Kyoto
- 37) Kubota Y, Kagota S, Toda Y, Negime N, Nakamura K, Kunitomo M, Umegaki K, Shinozuka : Effect of ginkgo biloba extract feeding on aged spontaneously hypertensive rats.. 2nd International Symposium on Lifestyle Related Diseases. 2006.10.21, Nishinomiya
- 38) Sudo N, Yoshiike N: Effects of health education on glycemic control of type 2 diabetic patients: a meta-analysis. Asia Pacific EBM Network Conference 2006. 2006.11.09, Hong Kong, China
- 39) Senba H, Sato H, Hagiwara H, Sakurai N, Suzuki K, Asano R, Yano T: Combination effect of connexin 32 gene function and a chemotherapeutic agent against metastatic renal cell carcinoma cells. International Conference on Physiological and Pathological Importance of Gap Junctions. 2006.11.21, Tokyo
- 40) Sato H, Senba H, Hagiwara H, Negishi E, Nagashima Y, Ueno K, Yano T: The inhibitory effect of connexin 32 gene on metastasis in renal cell carcinoma. International Conference on Physiological and Pathological Importance of Gap Junctions. 2006.11.21, Tokyo

- 41) Hagiwara H, Ohde Y, Sato H, Seki T, Ariga T, Yano T: Connexin 32 down-regulates the fibrinolytic factors in human metastatic renal cell carcinoma cells. International Conference on Physiological and Pathological Importance of Gap Junctions. 2006.11.21, Tokyo
- 42) Sano Y, Yoshimura H, Nishimura Y, Sakurai N, Suzuki, Yano T, Sadzuka Y, Asano R: The effects of Bowman-Birk Protease inhibitor concentrate (BBIC) on anti-proliferation and inhibition of metastasis in M5076 bearing mice. International Conference on Physiological and Pathological Importance of Gap Junctions. 2006.11.21, Tokyo
- 43) Saito T, Sato H, Hagiwara H, Virgona N, Sakurai N, Suzuki K, Asano R, Yano T: Contribution of connexin 43 to BBI-dependent growth control of osteosarcoma U2OS cells. International Conference on Physiological and Pathological Importance of Gap Junctions. 2006.11.21, Tokyo
- 44) Sudo N, Seino F, Yoshiike N: Food assistance and nutritional support systems for natural disasters in local governments in Japan. 38th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health. 2006.12.05, Bangkok, Thailand
- 45) Takemi Y, Seino F, Mizoguchi K, Katsuno M, Yoshiike N: The new Japanese food guide as a tool for population approaches to improve people's dietary habit; Its development and utilization in the community. 38th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health. 2006.12.05, Bangkok, Thailand
- 46) Ooishi Y: Diabetes: Molecular Genetics, Signaling Pathways and Integrated Physiology (J1) KLF5 is important for metabolic stress response. Keystone symposium. 2007.01.14, USA(Keystone)
- 47) Ishimi Y, Oka J, Tabata I, Uchiyama S, Ueno T, Toda T, Uehara M, Yamada K, Wu J: Effects of isoflavone and exercise on bone mineral density and fat mass in postmenopausal Japanese women. 7th International Soy Symposium. 2007.03.08, Bangkok
- (7) 国内学会等
- a. 特別講演
- 1) 門脇孝: メタボリックシンドロームと検査—アディポネクチン測定の意味。第 103 回日本内科学会総会。2006.04.15, 横浜
- 2) 門脇孝: 病態とエビデンスに基づく 2 型糖尿病の治療戦略。練馬区医師会学術内科医会臨床研究会。2006.04.25, 東京
- 3) 門脇孝: DOIT3 とアディポネクチン。第 2 回高分子量アディポネクチン研究会。2006.05.12, 東京
- 4) 渡邊昌: 日本人の食と栄養を考える—日本人の食の変遷—。第 60 回日本栄養・食糧学会大会市民公開講演会。2006.05.18, 静岡
- 5) 江崎治: 「生活習慣病予防のための食事・運動療法の作用機序に関する研究」学会賞受賞講演。日本栄養・食糧学会大会。2006.05.19, 静岡コンベンションアーツセンター グランシップ, 静岡
- 6) 門脇孝: メタボリックシンドローム—病態と治療戦略。第 79 回日本整形外科学会学術総会。2006.05.19, 横浜
- 7) 佐々木敏: 教育講演 1 人間栄養学研究の研究デザインから解釈まで。第 60 回日本栄養・食糧学会大会。2006.05.20, 静岡
- 8) 門脇孝: メタボリックシンドローム—病態と治療戦略。第 79 回日本内分泌学会学術総会。2006.05.21, 神戸
- 9) 門脇孝: 大血管合併症阻止に向けた 2 型糖尿病の治療戦略—DOIT3 と実際のアプローチ。第 49 回日本糖尿病学会年次学術集会 ランチョンセミナー。2006.05.26, 東京
- 10) 門脇孝: インスリン抵抗性改善薬の役割と戦略的アウトカム研究—わが国の糖尿病患者の予防改善のために—。第 49 回日本糖尿病学会年次学術集会 イブニングセミナー。2006.05.26, 東京
- 11) 田畑泉: 基調講演 新しい健康づくりのための運動基準。日本運動・スポーツ科学学会。2006.06.18, 横須賀
- 12) 宮地元彦: 特別講演 2 「健康スポーツについて」第 2 回日本スポーツ栄養研究会。2006.07.01, 東京
- 13) 門脇孝: PPAR γ アゴニストの抗糖尿病・抗動脈硬化作用の分子メカニズム。第 33 回日本トキシコロジー学会学術年会。2006.07.04, 名古屋
- 14) 門脇孝: メタボリックシンドロームの分子機構と治療戦略。第 38 回日本動脈硬化学会総会・学術集会。2006.07.14, 東京
- 15) 佐々木敏: 教育講演 GLI, GL とメタボリックシンドローム危険因子との関係 日本と欧米の比較を中心に。第 5 回日本 Glycemic Index 研究会。2006.07.16, 東京
- 16) 門脇孝: 生活習慣病の生命科学と分子創薬の展望。タンパク 3000—ゲノムネットワーク合同フォーラム。2006.07.18, 東京
- 17) 門脇孝: メタボリックシンドロームと糖尿病療養指導。第 3 回西東京病態栄養研修会。2006.07.23, 東京
- 18) 門脇孝: 厚生労働省糖尿病予防対策戦略研究 (DOIT3)。第 6 回糖尿病教育資源共通機構学術集会。2006.08.05, 神戸
- 19) 佐々木敏: 生活習慣病と食事。第 30 回日本産科婦人科栄養・代謝研究会。2006.08.25, 東京
- 20) 門脇孝: Novel Insulin and Adiponectin Actions on Blood Vessel and Brain. 2nd Scientific Meeting of Asia-Pacific Diabetes and Obesity Study Group. 2006.08.27, 京都
- 21) 佐々木敏: n-6 系脂肪酸による健康障害はヒトで起こりうるか。第 28 回日本臨床栄養学会総会, 第 27 回日本臨床栄養協会総会, 第 4 回大連合大会。2006.09.01, 東京
- 22) 門脇孝: メタボリックシンドロームの分子機構と予防・治療戦略。第 28 回日本臨床栄養学会・第 27 回臨床栄養協会第 4 回連合大会。2006.09.01, 東

- 京
- 23) 門脇孝: メタボリックシンドロームの病態と診断へのアプローチ—アディポネクチン測定の意義を中心に—第 46 回日本臨床科学学会年次学術集会. 2006.09.08, 東京
 - 24) 門脇孝: 糖尿病の合併症の管理—日常診療の質を向上させる 7 つのポイント— 第 2 回日本臨床内科医学会. 2006.09.18, 東京
 - 25) 門脇孝: 体質改善による糖尿病戦略 5 ヶ年計画の達成は如何に. 第 56 回日本体質医学会総会. 2006.09.24, 広島
 - 26) 門脇孝: 糖尿病患者の合併症阻止に向けた治療戦略—メタボリックシンドロームと食後高血糖の観点から. 第 41 回糖尿病学の進歩. 2006.09.29, 北海道
 - 27) 門脇孝: メタボリックシンドロームの病態と治療戦略. 第 8 回日本骨粗鬆症学会 特別講演. 2006.10.12, 東京
 - 28) 吉池信男: 今後の健診・保健指導の方向性～より効果的な生活習慣病予防をめざして～第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.26, つくば
 - 29) 渡邊昌: 肥満解消—私のダイエット体験. 第 27 回日本肥満学会市民公開講座, メタボリックシンドローム撲滅委員会. 2006.10.28, 神戸
 - 30) 門脇孝: Molecular Biology of Type II Diabetes. 3rd International Congress of GRS and IGF. 2006.11.12, 神戸
 - 31) 門脇孝: メタボリックシンドロームの病態と生活習慣改善の科学. 第 10 回日本病態栄養学会. 2007.01.13, 横浜
 - 32) 門脇孝: メタボリックシンドローム・糖尿病の病態と生活習慣改善のシステム科学. 第 10 回日本病態栄養学会年次学術集会. 2007.01.14, 横浜
 - 33) 門脇孝: メタボリックシンドローム・糖尿病の分子機構と治療戦略. 日本糖尿病学会関東甲信越地方会. 2007.01.26, 横浜
 - 34) 門脇孝: 実験動物を用いた糖尿病研究の展望—遺伝子操作マウスの意義. 第 21 回日本糖尿病動物研究会学術集会. 2007.02.09, 盛岡
 - 35) 門脇孝: メタボリックシンドロームの病態と治療. NPO 法人発足記念「医療セミナー」2007.02.12, 東京
 - 36) 渡邊昌: 特定保健用食品・栄養機能食品の現状と今後の商品開発へのヒント. 品質保証研究会. 2007.03.02, 東京
- b. シンポジウム等
- 1) 宮地元彦: メタボリックシンドロームと血管の加齢. シンポジウム 1 「メタボリックシンドロームとアンチエイジング」 第 6 回日本抗加齢医学会総会. 2006.05.19, 東京
 - 2) 渡邊昌: メタボリックシンドロームとアンチエイジング. 第 6 回日本抗加齢医学会総会. 2006.05.19, 東京
 - 3) 梅垣敬三: 「健康食品」の安全性と有効性の考え方. 第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.20, 静岡
 - 4) 田畑泉: スポーツにおける疲労と骨格筋の糖代謝. 第 60 回日本栄養・食糧学会 サテライトシンポジウム 「スポーツ栄養に関する最近の話題」 2006.05.21, 静岡
 - 5) 吉池信男: 栄養教育におけるポピュレーションアプローチのための戦略とツール. 第 60 回日本栄養・食糧学会. 2006.05.21, 静岡
 - 6) 田畑泉: ウオーキング実践者の身体的特徴—シンポジウム I 「最近 10 年間にみられるウオーキング研究の進歩」. 第 10 回記念 日本ウオーキング学会大会. 2006.06.24, 東京
 - 7) 門脇孝: 門脇孝: 「糖尿病・メタボリックシンドロームの分子機構と治療戦略」 Molecular Mechanism and Treatment Strategy of Diabetes and Metabolic Syndrome. 第 30 回阿蘇シンポジウム. 2006.07.29, 熊本
 - 8) 田畑泉: エネルギー基質としての糖質の役割—シンポジウム 持久的運動時のエネルギー基質とその動き—糖・脂質・たんぱく質—日本体育学会第 57 回大会. 2006.08.20, 青森
 - 9) 矢野友啓: 食品機能性成分およびその誘導体によるがん予防・治療の可能性. 第 53 回日本食品科学工学会シンポジウム. 2006.08.30, 藤沢
 - 10) 佐々木敏: がんの 1 次予防と 3 次予防 (再発予防): 交錯するエビデンスを読み解く. 第 28 回日本臨床栄養学会総会, 第 27 回日本臨床栄養協会総会, 第 4 回大連合大会. 2006.09.02, 東京
 - 11) 斎藤衛郎: 特定保健用食品の現状と課題. 第 28 回日本臨床栄養学会総会 第 27 回日本臨床栄養協会総会 第 4 回大連合大会 ワークショップ「特定保健用食品の現状と未来」 2006.09.03, 東京
 - 12) 田畑泉: 健康づくりのための運動基準 2006—身体活動・運動・体力—について—シンポジウム 6 身体活動・運動施策の最新情報—. 第 61 回日本体力医学会大会. 2006.09.25, 神戸
 - 13) 宮地元彦, 山元健太: 運動に対する生体ストレス応答と適応機構の解析—体力医学への応用— 自律神経・循環器応答. 第 61 回日本体力医学会大会. 2006.09.25, 神戸
 - 14) 井上茂, 下光輝一, 吉池信男: 日本人におけるメタボリックシンドロームの現状. 第 61 回日本体力医学会大会. 2006.09.26, 神戸
 - 15) 門脇孝: ゲノム情報に基づく生活習慣病の生命科学と分子機構 Genome-based Systems Biology and Drug Development of Lifestyle-related Diseases. 日本学術振興会ゲノムテクノロジー第 164 委員会第 3 期キックオフシンポジウム. 2006.09.26, 東京
 - 16) 門脇孝: シンポジウム: 組織的な糖尿病対策の現状 門脇孝: 「J-DOIT3」 第 41 回糖尿病学の進歩. 2006.09.30, 北海道
 - 17) 梅垣敬三: 特定保健用食品の現状と展望. 第 50 回日本薬学会関東支部大会. 2006.10.14, 新潟
 - 18) 吉池信男: 病気にならないための食生活をどのように実現するか—個人と社会の接点を巡って—. 第 22 回日本健康科学学会. 2006.10.28, 仙台

- 19) 廣田晃一: 健康情報とその落とし穴. 日本食物線維学会第 11 回学術集会公開講演会. 2006.11.18, 横浜
 - 20) 三戸夏子: 夜型 - 朝型嗜好性と栄養・食品摂取状況の解析. 第 13 回日本時間生物学会学術大会. 2006.11.30, 東京
 - 21) 佐々木敏: 和食: 生活習慣病予防におけるその功罪を考える. 第 4 回 日本予防医学会学術総会. 2006.12.01, 埼玉
 - 22) 佐々木敏: ヒトをもちいた栄養学的研究について. 日本栄養改善学会若手の会ミニシンポジウム. 2006.12.09, 名古屋
 - 23) 門脇孝: 脂肪細胞の分化・形質転換とその制御. CREST 領域第 5 回公開シンポジウム. 2006.12.15, 東京
 - 24) 大坂寿雅: 視床下部視索前野 GABA 感受性機構の熱産生における役割. 体温調節・温度受容研究会. 2007.01.11, 岡崎
 - 25) 三浦進司: 運動が糖尿病を予防するのはなぜか. 第 10 回日本病態栄養学会年次学術集会. 2007.01.13, 横浜
 - 26) 田畑泉: 新しい"運動基準と運動指針" シンポジウムⅢ 食事と運動. 第 10 回日本病態栄養学会年次学術集会. 2007.01.13, 横浜
 - 27) 吉池信男: 特定健診・保健指導と「食育」日本健康教育学会・栄養教育研究会シンポジウム. 2007.03.10, 東京
 - 28) 宮地元彦: 動脈機能の老化とその予防のための運動. 第 139 回 日本体力医学会関東地方会. 2007.03.10, 東京
 - 29) 門脇孝: 血管内皮機能とインスリン抵抗性. 日本薬理学会シンポジウム S2A1. 2007.03.15, 名古屋
 - 30) 佐々木敏: 食品衛生研究会企画シンポジウム 1 環境汚染物質曝露評価のための栄養調査および食事歴調査手法の現状. 第 77 回日本衛生学会総会. 2007.03.26, 大阪
 - 31) 石見佳子: 大豆イソフラボンの有効性と安全性. 日本農芸化学会 2007 年度年会シンポジウム ポリフェノールと健康. 2007.03.27, 東京
 - 32) 渡邊昌: 21 世紀社会 - 医学研究のめざすもの. 第 77 回日本衛生学会総会. 2007.03.27, 大阪
- c. 一般講演等
- 1) 大石由美子, 真鍋一郎, 戸辺一之, 門脇孝, 永井良三: 心血管病の基礎病態としてのメタボリックシンドロームの発症の分子機構. 第 49 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2006.05, 東京
 - 2) 大石由美子, 真鍋一郎, 戸辺一之, 門脇孝, 永井良三: 心血管病を惹起する基礎病態としてのメタボリックシンドロームの発症の分子機構. 第 79 回日本内分泌学会総会. 2006.05, 神戸
 - 3) 窪田哲也, 窪田直人, 熊谷洋紀, 伊藤晋介, 高本偉碩, 峯山智佳, 橋本信嗣, 山内敏正, 植木浩二郎, 寺内康夫, 戸辺一之, 門脇孝: チアゾリジン誘導体の抗動脈硬化作用におけるアディポネクチンの役割の解明. 第 49 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2006.05, 東京
 - 4) 伊藤晋介, 窪田直人, 窪田哲也, 熊谷洋紀, 高本偉碩, 峯山智佳, 橋本信嗣, 山内敏正, 植木浩二郎, 寺内康夫, 戸辺一之, 門脇孝: アディポネクチン欠損マウスのインスリン抵抗性のメカニズムの解明. 第 49 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2006.05, 東京
 - 5) 熊谷洋紀, 窪田直人, 窪田哲也, 伊藤晋介, 高本偉碩, 峯山智佳, 山内敏正, 植木浩二郎, 赤沼安夫, 寺内康夫, 戸辺一之, 門脇孝: チアゾリジン誘導体の抗糖尿病作用におけるアディポネクチンの役割の解明. 第 49 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2006.05, 東京
 - 6) 峯山智佳, 窪田直人, 窪田哲也, 熊谷洋紀, 伊藤晋介, 高本偉碩, 山内敏正, 植木浩二郎, 赤沼安夫, 寺内康夫, 戸辺一之, 門脇孝: 肝臓の糖・脂質代謝におけるインスリン受容体基質 (IRS) の役割の解明. 第 49 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2006.05, 東京
 - 7) 村上 進, 石田裕美, 辻村由美, 由田克士: 社員食堂における、非接触 IC カード「フェリカ」を使った食事・健康アドバイスシステムの開発とその有用性 第 1 報. 第 79 回日本産業衛生学会. 2006.05.10, 仙台
 - 8) 石田裕美, 辻村由美, 村上 進, 由田克士: 社員食堂における、非接触 IC カード「フェリカ」を使った食事・健康アドバイスシステムの開発とその有用性 第 2 報. 第 79 回日本産業衛生学会. 2006.05.10, 仙台
 - 9) 由田克士, 溝口景子, 石田裕美, 武見ゆかり, 清野富久江, 吉池信男: 従業員食堂等を活用した健康・栄養教育に関する取り組み - 食事バランスガイドを活用した栄養教育の試み - 第 79 回日本産業衛生学会. 2006.05.10, 仙台
 - 10) 近藤雅雄, 饗場直美, 佐々木悠, 宮本廣, 張能太郎: 野菜中の各種フラボノイドの HPLC 分析法の開発. 第 91 回日本食品衛生学会学術講演会. 2006.05.11, 東京
 - 11) 近藤雅雄, 饗場直美, 太田麗, 栗原典子, 原安奈, 宮本廣, 張能太郎, 石塚昌宏, 宮成節子, 田中徹: デルターアミノレブリン酸投与による生体機能向上に関する基礎的研究. 第 33 回ポルフィリン研究会学術講演会. 2006.05.13, 東京
 - 12) 近藤雅雄, 伊藤遼子, 饗場直美, 宮本廣, 張能太郎, 金子貞男: ALA による脳腫瘍組織へのポルフィリン蓄積とその機序に関する研究. 第 33 回ポルフィリン研究会学術講演会. 2006.05.13, 東京
 - 13) 近藤雅雄, 宮本廣, 張能太郎, 堀江裕, 浦田郡平: ポルフィリン症とミネラル〜PCT のマグネシウム量の低下に対する一考察〜第 33 回ポルフィリン研究会学術講演会. 2006.05.13, 東京
 - 14) 網中雅仁, 近藤雅雄, 山内博, 吉田勝美: 病型別ポルフィリン症患者に対する酸化ストレス測定について. 第 33 回ポルフィリン研究会学術大会. 2006.05.13, 東京
 - 15) 石脇亜紗子, 藤井紘子, 齋藤京子, 野末みほ, 由田

- 克士, 吉池信男: 食品中の化学物質の急性暴露評価のための特定食品の"多食者"の把握. 第 60 回日本栄養・食糧学会. 2006.05.18, 静岡
- 16) 熊江隆, 北村実穂子, 小暮寛子, 高田和子, 金子佳代子: 女子長距離選手の血清中酸化・抗酸化バランスに及ぼす 6 ヶ月間の牛乳摂取の影響. 第 60 回日本栄養・食糧学会大会 講演要旨集. 2006.05.20, 静岡
- 17) 東泉裕子, 山崎千春, 石見佳子, 石綿肇: 成長期ラットにおけるゲニステイン、ダイゼイン、エクオールの骨代謝への影響. 第 60 回日本栄養・食糧学会. 2006.05.20, 静岡
- 18) 三浦進司, 甲斐裕子, 勝又阿貴, 田村真弓, 亀井康富, 江崎治: 運動しても体脂肪が減らないマウス. 第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.20, 静岡
- 19) 山内淳, 井上絵里奈, 山田和彦: 活性型ビタミン D によって迅速な MAP キナーゼのリン酸化が起こる HeLa 細胞株の樹立. 第 60 回日本栄養・食糧学会. 2006.05.20, 静岡
- 20) 遠藤香, 村上昌弘, 杉山朋美, 木村典代, 杉澤彩子, 山田和彦, 梅垣敬三: 骨髄染色体損傷に対する葉酸の防御作用 ~ベンゼン経口投与マウスにおける検討~ 第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.20, 静岡
- 21) 門脇孝: 生活習慣病とアンチエイジング. 第 6 回日本抗加齢医学会総会. 2006.05.20, 東京
- 22) 下田妙子, 扇原淳, 篠原厚子, 佐々木敏, 千葉百子: アラル海東岸地域に住む学童の摂取食品の季節差と地域差. 第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.20, 静岡
- 23) 見崎泰美, 宮内理絵, 八木暁子, 佐々木敏, 望月和樹, 合田敏尚: 伊豆の国市基本健康診査受診者における高血圧のリスク因子としての食事要因に関する研究. 第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.20, 静岡
- 24) 宮内理絵, 見崎泰美, 望月和樹, 市川陽子, 小川和子, 小林公子, 佐々木敏, 合田敏尚: 事業所健康診断者におけるメタボリックシンドローム関連指標に及ぼす食事要因と遺伝素因の解析. 第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.20, 静岡
- 25) 内田和宏, 城田知子, 友納美恵子, 今村裕行, 亢玉, 佐々木敏, 清原裕: 地域在住中高年齢者の耐糖能異常と栄養摂取および食物消費構造について一久山町における栄養疫学研究一第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.20, 静岡
- 26) 友納美恵子, 城田知子, 内田和宏, 今村裕行, 亢玉, 佐々木敏, 清原裕: 地域在住高齢者の栄養素摂取量との関係一久山町における栄養疫学研究一第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.20, 静岡
- 27) 佐々木敏, 村上健太郎, 大久保公美: ごはんは便秘を予防するかもしれない: 女子大学生による横断研究. 第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.20, 静岡
- 28) 武見ゆかり, 大久保公美, 村山伸子, 岡田加奈子, 佐々木敏, 足立己幸: 小学生保護者の家族との共食頻度と食習慣の関連 1 報 食態度・食行動との関連. 第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.20, 静岡
- 29) 大久保公美, 武見ゆかり, 村山伸子, 岡田加奈子, 佐々木敏: 小学生保護者の家族との共食頻度と食習慣の関連 2 報 食品群・栄養素摂取との関連. 第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.20, 静岡
- 30) 永田純一, 森野友子, 斎藤衛郎: ジアシルグリセロールおよび茶カテキン併用摂取のラット体脂肪量および脂質代謝に及ぼす影響. 第 60 回日本栄養・食糧学会総会. 2006.05.20, 静岡
- 31) 砂田峻, 清瀬千佳子, 久保和弘, 竹林純, 真田宏夫, 斎藤衛郎: 酸化ストレス下にある糖尿病ラット網膜の過酸化脂質・フリーラジカル生成に与える DHA 摂取の影響. 第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.21, 静岡
- 32) 久保和弘, 清瀬千佳子, 佐伯明子, 斎藤衛郎: シトラスアウランチウムの肥満抑制、体脂肪蓄積抑制効果と安全性の検討(2)第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.21, 静岡
- 33) 清瀬千佳子, 久保和弘, 斎藤衛郎: 雌ラットにおけるダイエット食品素材ガルシニア摂取による影響について. 第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.21, 静岡
- 34) 清瀬千佳子, 久保和弘, 斎藤衛郎: 幼若並びに成熟ラットでのダイエット食品素材ガルシニア摂取による精巣毒性発現の相違. 第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.21, 静岡
- 35) 太田篤胤, 酒井健介, 大西竜子, 石見佳子: 坐骨神経切除ラットの下肢骨密度に及ぼすフラクトオリゴ糖摂取の影響. 第 60 回日本栄養・食糧学会. 2006.05.21, 静岡
- 36) 大西竜子, 酒井健介, 石見佳子, 太田篤胤: 坐骨神経切除ラットに対する下肢他動運動の筋および骨への影響. 第 60 回日本栄養・食糧学会. 2006.05.21, 静岡
- 37) 石見佳子, 呉堅, 岡純, 田畑泉, 戸田登志也, 江崎潤子, 大友拓弥, 内山成人, 山田和彦: 閉経後女性における大豆イソフラボンと運動の併用効果. 第 60 回日本・栄養食糧学会. 2006.05.21, 静岡
- 38) 千葉大成, 上原万里子, 石見佳子, 鈴木和春, 山田和彦, 金賢珠, 松本明世: 閉経後骨粗鬆症モデルマウスの骨量減少に対するヘスペリジンの回復効果. 第 60 回日本栄養・食糧学会. 2006.05.21, 静岡
- 39) 上原万里子, 武藤彩乃, 勝間田真一, 太田篤胤, 石見佳子, 遠藤裕也, 馬場裕子, 窪田英俊, 鈴木和春: フラクトオリゴ糖摂取時の Daidzein 代謝物と腸内フローラの変動. 第 60 回日本栄養・食糧学会. 2006.05.21, 静岡
- 40) 笠岡(坪山)宜代, 所澤千香子, 佐野佳代, 細川優, 江崎治: タウリンの抗肥満作用メカニズム. 第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.21, 静岡
- 41) 梶本雅俊, 野田艶子, 近藤雅雄, 饗場直美: 水の官能検査(おいしさ)に及ぼす陰陽イオンの影響. 第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.21, 静岡
- 42) 大野美智子, 宮原公子, 山里晃弘, 児玉直子, 吉武裕, 西牟田守, 菊永茂司: 男子大学生におけるカ

- ルシウムとマグネシウムの出納. 第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.21,静岡
- 43) 吉田宗弘, 服部浩之, 太田祥江, 吉原花織, 児玉直子, 吉武裕, 西牟田守: 日本人成人女性を対象としたモリブデン出納試験の解析. 第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.21,静岡
- 44) 大野美智子, 宮原公子, 山里晃弘, 児玉直子, 吉武裕, 西牟田守, 菊永茂司: 男子大学生におけるナトリウムとカリウムの出納. 第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.21,静岡
- 45) 杉澤彩子, 佐藤陽子, 遠藤香, 佐藤友美, 梅垣敬三: 野菜中のビタミン C 含有量の新旧定量法による比較. 第 60 回日本栄養・食糧学会大会. 2006.05.21,静岡
- 46) 遠藤香, 村上昌弘, 梅垣敬三: X 線全身照射マウスの体内葉酸濃度と抗酸化ビタミンの変動に関する検討. 日本ビタミン学会第 58 回大会. 2006.05.28,徳島
- 47) 渡邊昌: 食事と運動で長寿を目指そう. 第 6 回日本抗加齢医学会市民講座. 2006.06.16,東京
- 48) 大石由美子, 真鍋一郎, 戸辺一之, 門脇孝, 永井三: メタボリックシンドロームから心血管病にいたる分子機構の解明. 第 24 回 内分泌・代謝学サマーセミナー. 2006.07,神奈川
- 49) 大石由美子, 真鍋一郎, 戸辺一之, 門脇孝, 永井三: 心血管病の基礎病態としてのメタボリックシンドロームの発症の分子機構の解明. 血管カンファレンス. 2006.07,埼玉
- 50) 石見佳子, 岡純, 戸田登志也, 江崎潤子, 上原万里子, 内山成人, 上野友美, 大友拓弥, 呉堅: 個体特性に着目した大豆イソフラボンの骨粗鬆症予防効果. 第 24 回日本骨代謝学会. 2006.07.06,東京
- 51) 大友拓弥, 上原万里子, JL Penalvo, 鈴木和春, 武田健, 石見佳子: 大豆イソフラボン代謝産物の骨代謝調節作用の評価. 第 24 回日本骨代謝学会. 2006.07.06,東京
- 52) 網中雅仁, 近藤雅雄, 山内博, 吉田勝美: 抗酸化食材摂取による酸化的ストレスへの影響. 第 15 回日本臨床環境医学会総会. 2006.07.07,仙台
- 53) 大坂寿雅: プロスタグランジン E2 発熱における視索前野 GABA 受容機構の関与. 第 29 回日本神経科学大会. 2006.07.19,京都
- 54) 山内淳: ビタミン D による non-genomic 作用発現メカニズムの解析. 第 312 回脂溶性ビタミン総合研究委員会. 2006.07.21,神戸
- 55) Kubota T, Kubota N, Kumagai H, Itoh S, Takamoto I, Mineyama T, Moroi M, Sugi K, Yamauchi T, Ueki K, Terauchi Y, Tobe K, Kadowaki T: Endothelial cell IRS-2 knockout mice showed insulin resistance accompanied with decreasing blood flow in skeletal muscle. 第 11 回アディポサイエンス研究会. 2006.08,大阪
- 56) Kubota T, Kubota N, Kumagai H, Itoh S, Takamoto I, Mineyama T, Moroi M, Sugi K, Yamauchi T, Ueki K, Terauchi Y, Tobe K, Kadowaki T: Endothelial cell IRS-2 knockout mice showed insulin resistance accompanied with decreasing blood flow in skeletal muscle. 第 8 回インスリン作用シンポジウム. 2006.08,滋賀
- 57) Kamei Y, Suganami T, Kohda T, Ishino F, Ezaki O, Ogawa Y: Increased Peg1/Mest mRNA in Obese Adipose Tissue is Expressed from Paternal Allele in an Isoform-Specific Manner. The 11th Adipo Science Symposium. 2006.08.19,大阪
- 58) 尾上佳子, 津川尚子, 須原義智, 黒田龍彦, 宮原優子, 岡野浩哉, 久米美代子, 岡野登志夫, 佐々木敏, 太田博明: 骨代謝に関連する栄養素の傾向摂取量は血中濃度と直接関係する. 第 30 回日本産科婦人科栄養・代謝研究会. 2006.08.25,東京
- 59) 熊江隆, 北村実穂子, 小暮寛子, 高田和子, 金子佳代子: 女子長距離選手の血清総抗酸化能と血漿中腫瘍壊死因子アルファの 6 ヶ月間の変動に及ぼす牛乳摂取の影響. 第 16 回体力・栄養・免疫学会プログラム・抄録集. 2006.08.26,東京
- 60) 大石由美子, 真鍋一郎, 今井 靖, 原 一雄, 門脇孝, 永井良三: KLF5 遺伝子発現調節領域の一塩基置換が高血圧の罹患頻度に影響する. 東京高血圧研究会. 2006.09,東京
- 61) 関根誠史, 久保和弘, 斎藤衛郎: ドコサヘキサエン酸の摂取が尿中メルカプツール酸排泄に与える影響. 日本脂質栄養学会 第 15 回大会. 2006.09.01,岐阜
- 62) 久保和弘, 関根誠史, 斎藤衛郎: ドコサヘキサエン酸摂取に伴う肝臓 MRP3 発現と尿中メルカプツール酸排泄. 第 45 回日本油化学会年会. 2006.09.08,野田
- 63) 渡邊昌: メタボリックシンドローム. 抗加齢医学の実際 2006, 抗加齢医学会. 2006.09.17,東京
- 64) 桜井智尚, 鈴木一由, 矢野友啓, 佐塚泰之, 浅野隆司: M5076 担癌マウスにおける Bowman-Birk inhibitor の connexin43 を介した抗腫瘍作用機序について. 第 142 回日本獣医学術総会. 2006.09.23,山口
- 65) 谷本道哉, 宮地元彦, 真田樹義, 河野寛: 筋発揮力維持法的なレジスタンストレーニング実践者の動脈・血管系機能に関する横断的研究. 第 61 回日本体力医学会. 2006.09.24,神戸
- 66) 北堂真子, 高田和子, 宮地元彦: 乗馬型他動運動機を用いた体操による脊柱湾曲の改善効果についての検討. 第 61 回日本体力医学会大会. 2006.09.24,神戸
- 67) 熊江隆, 高田和子, 小暮寛子, 北村実穂子, 金子佳代子: 女子長距離選手の血漿中アディポサイトカインに及ぼす 6 ヶ月間の牛乳摂取の影響. 第 61 回日本体力医学会大会予稿集. 2006.09.25,神戸
- 68) 高田英宣, 藤本恵理, 樋口満, 藤生訓生, 田畑泉: 高強度間欠的水泳運動トレーニングと大豆イソフラボン摂取の併用が骨格筋グリコーゲン濃度に及ぼす影響. 第 61 回日本体力医学会大会. 2006.09.25,神戸
- 69) 中村容一, 増田和茂, 柳川尚子, 宮地元彦, 田畑泉: 高齢者の運動による健康増進に関する学術文

- 献データベースの構築. 第 61 回日本体力医学会大会. 2006.09.25,神戸
- 70) 山元健太, 宮本忠吉, 鈴木克彦, 宮地元彦: 筋機械受容器反射による昇圧は動脈圧反射の低周波領域の感受性を増大させる. 第 61 回日本体力医学会大会. 2006.09.25,神戸
- 71) 真田樹義, 宮地元彦, 田畑泉, 鈴木克彦, 樋口満: 中高年男性を対象としたメタボリックシンドロームの発症と体力および身体組成との関係. 第 61 回日本体力医学会大会. 2006.09.25,神戸
- 72) 大河原一憲, 田中茂穂, 宮地元彦, 高田和子, 田畑泉: 有酸素性運動と内臓脂肪の減少における量反応関係—システムティックレビュー—. 第 61 回日本体力医学会大会. 2006.09.25,神戸
- 73) 田中千晶, 河原純子, 緑川泰史, 吉村亜沙子, 田中茂穂: 手首および腰部装着型の加速度計を用いた幼児の身体活動量の評価精度. 第 61 回日本体力医学会大会. 2006.09.25,神戸
- 74) 松本希, 宮地元彦, 高橋康輝, 小堀浩志, 小野寺昇: 生活習慣病リスクの重複とフィットネスクラブでの運動実施が動脈スティフネスに与える影響—健康増進施設と地域での横断研究—. 第 61 回日本体力医学会大会. 2006.09.26,神戸
- 75) 永山寛, 木村靖夫, 中川直樹, 島田美恵子, 西牟田守, 濱岡隆文, 吉武裕: 後期高齢者の体力、活動能力、健康状態の縦断的变化. 第 61 回日本体力医学会大会. 2006.09.26,神戸
- 76) 萩原ヒロミ, 佐藤洋美, 仙波裕信, 斉藤光芳, 矢野友啓: 転移性腎臓癌における脱メチル化剤によるコネキシン 32 の発現回復と線溶系への影響. 第 65 回日本癌学会学術総会. 2006.09.28,横浜
- 77) 佐藤洋美, 仙波裕信, 萩原ヒロミ, 長嶋洋治, 矢野友啓: 転移性腎臓癌におけるコネキシン 32 遺伝子の転移抑制機能に関する研究. 第 65 回日本癌学会学術総会. 2006.09.29,横浜
- 78) 仙波裕信, 佐藤洋美, 斉藤光芳, 萩原ヒロミ, 鈴木一由, 浅野隆司, 矢野友啓: コネキシン 32 遺伝子が転移性腎臓癌における Vinblastine の抗腫瘍作用に及ぼす影響. 第 65 回日本癌学会学術総会. 2006.09.30,横浜
- 79) 斉藤光芳, 佐藤洋美, 仙波裕信, 萩原ヒロミ, 鈴木一由, 浅野隆司, 矢野友啓: 大豆由来成分 Bowman-Birk inhibitor によるコネキシン 43 発現回復機構の解析. 第 65 回日本癌学会学術総会. 2006.09.30,横浜
- 80) 大石由美子, 真鍋一郎, 戸辺一之, 門脇孝, 永井良三: 肥満と動脈硬化疾患発症における転写因子 KLF5 の機能解析. 第 27 回日本肥満学会. 2006.10,神戸
- 81) 野末みほ, Dorjdagva Ganzorig, 三好美紀, 由田克士: 日本とモンゴル国における国民栄養調査の比較とその課題. 第 47 回日本熱帯医学会・第 21 回日本国際保健医療学会. 2006.10.11,長崎
- 82) Dorjdagva Ganzorig, 三好美紀, 野末みほ, 由田克士, 吉池信男: モンゴルにおける子どもの栄養状態の変遷について. 第 47 回日本熱帯医学会・第 21 回日本国際保健医療学会. 2006.10.11,長崎
- 83) 白山芳久, Phompida Samlane, 三好美紀, 黒岩宙司: ラオス・カムワン県マラリア流行地域で行った熱帯熱マラリアの Community-based screening 調査と、GIS を活用した調査結果のフィードバック手法について. 第 47 回日本熱帯医学会・第 21 回日本国際保健医療学会. 2006.10.12,長崎
- 84) 伊木雅之, 玉置淳子, 池田行宏, 森田明美, 佐藤裕保, 中比呂志: 成長期男女の中軸骨骨密度の最大上昇時期と上昇率の決定要因. 第 8 回日本骨粗鬆症学会. 2006.10.13,東京
- 85) 中比呂志, 玉置淳子, 森田明美, 池田行宏, 佐藤裕保, 伊木雅之: 思春期男子の骨密度に対するスポーツ活動の効果的な時期はいつか. 第 8 回日本骨粗鬆症学会. 2006.10.13,東京
- 86) 松村康弘, 藤田利治, 李廷秀, 片野田耕太, 久保田俊郎, 水沼英樹, 麻生武志, 林邦彦: 日本ナースヘルス研究における閉経状況と各種検査値との関連. 第 21 回日本更年期医学会学術集会. 2006.10.15,京都
- 87) 藤田利治, 松村康弘, 片野田耕太, 李廷秀, 久保田俊郎, 水沼英樹, 麻生武志, 林邦彦: 女性看護職における閉経と疾患の既往割合との関連: Japan Nurses' Health Study. 第 21 回日本更年期医学会学術集会. 2006.10.15,京都
- 88) 安井敏之, 藤田利治, 松村康弘, 片野田耕太, 李廷秀, 久保田俊郎, 水沼英樹, 麻生武志, 林邦彦: わが国女性における自然閉経年齢に影響を及ぼす要因の検討—Japan Nurses' Health Study ベースライン調査から—. 第 21 回日本更年期医学会学術集会. 2006.10.15,京都
- 89) Miyoshi M, Unusan N, Aiba N, Yoshiike N: NIHNIH fellowship program on "Shokuiku" in Japan -a case report. 第 47 回日本熱帯医学会・第 21 回日本国際保健医療学会. 2006.10.15,長崎
- 90) 北村美穂子, 金子佳代子, 熊江隆, 小暮寛子, 高田和子: 大学女子長距離選手の骨密度に及ぼす牛乳摂取の影響. 第 53 回日本栄養改善学会. 2006.10.24,つくば
- 91) 松村康弘, 藤田利治, 李廷秀, 片野田耕太, 高木廣文, 今関節子, 鈴木庄亮, 林邦彦: 日本ナースヘルス研究における腹囲と BMI との関連ならびに各種検査値との関連. 第 65 回日本公衆衛生学会総会. 2006.10.25,富山
- 92) 板井一好, 岡山 明, 大澤正樹, 丹野高三, 小野田敏行, 坂田清美, 上島弘嗣, 中川秀昭, 斉藤重幸, 三浦克之, 由田克士: 成人の 24 時間尿中フッ素排泄量について. 第 65 回日本公衆衛生学会総会. 2006.10.25,富山
- 93) 小林知未, 伊達ちぐさ, 塚本幾代, 上田由喜子, 佐々木敏: 職教育推進を目的とした児童の食生活評価. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.25,つくば
- 94) 鈴木亜夕帆, 渡邊智子, 田辺明子, 高橋佳子, 佐々木敏: 千葉県健康生活コーディネーター事業における食事診断と栄養教育. 第 53 回日本栄養改善

- 学会学術総会. 2006.10.25 つくば
- 95) 大久保公美, 佐々木敏, 宮本佳代子: 食品摂取パターンと前腕骨密度との関連-農村に住む 40-55 歳の閉経前女性を対象とした横断研究-第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.25,つくば
- 96) 佐藤裕美, 渡邊智子, 鈴木亜夕帆, 山口美穂子, 森永春美, 宮原富士子, 佐々木敏: 小学校 5 年生の健康診断時に食習慣調査 (BDHQ) を実施してみる. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.25,つくば
- 97) 高橋佳子, 佐々木敏: 小中学校における食事調査の実施と個人結果表の活用に関するアンケート調査. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.25,つくば
- 98) 山口美穂子, 渡邊智子, 鈴木亜夕帆, 佐藤裕美, 石原徳子, 佐々木敏: 千葉県における BDHQ を用いた食習慣改善の取り組み. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.25,つくば
- 99) 野津あきこ, 横山弥枝, 三浦綾子, 広田直子, 村上健太郎, 大久保公美, 佐々木敏, 栄養関連新入生第 2 調査グループ: 栄養関連学科新入生における外食・中食利用頻度と栄養素等摂取状況との関連. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.25,つくば
- 100) 横山弥枝, 野津あきこ, 三浦綾子, 広田直子, 村上健太郎, 大久保公美, 佐々木敏, 栄養関連新入生第 2 調査グループ: 栄養関連学科新入生における偏食と栄養素等摂取状況との関連. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.25,つくば
- 101) 三浦綾子, 野津あきこ, 横山弥枝, 広田直子, 村上健太郎, 大久保公美, 佐々木敏, 栄養関連新入生第 2 調査グループ: 栄養関連学科新入生における食意識と実際の栄養素摂取量との関係. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.25,つくば
- 102) 村上健太郎, 佐々木敏, 高橋佳子, 大久保公美: グライセミック・インデックスとメタボリック・リスク・ファクター: 農村女性の横断研究. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.25,つくば
- 103) 佐々木敏: カルシウムおよび乳製品摂取量はボディ・マス・インデックスと関連するか? 女子大学生の横断研究. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.25,つくば
- 104) 内田和宏, 友納美恵子, 今村裕行, 佐々木敏, 城田知子: 地域在住中高年女性の耐糖能異常と栄養摂取および食物消費構造について-久山町における栄養疫学研究. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.25,つくば
- 105) 武藤慶子, 網分憲明, 佐々木敏: 水中運動教室参加者と非参加者の食生活状況の経時的変化. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.25,つくば
- 106) 梶田悦子, 小松美砂, 武内さやか, 三田村純枝, 阿部喜代子, 森田明美, 伊木雅之: 15 年間の長期追跡調査による生活習慣要因の骨密度変化への影響評価. 第 65 回日本公衆衛生学会総会. 2006.10.25, 富山
- 107) 草間かおる, 猿倉薫子, 野末みほ, 林芙美: 周産期における医療施設での栄養ケアの実施状況-管理栄養士の結果から- 第 53 回日本栄養改善学会. 2006.10.25
- 108) 高橋恵理, 薄井澄誉子, 樋口満, 田畑泉: 若年女性の身体組成と基礎代謝量. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.26,つくば
- 109) 小西良子, 高鳥浩介, 佐藤敏彦, 斉藤史朗, 吉池信男: 我が国に流通するチョコレートのおクラトキシシン A およびアフラトキシシンの汚染実態と曝露評価. 日本食品衛生学会第 92 回学術講演会. 2006.10.26,愛知
- 110) 林芙美, 由田克士, 河原和夫, 吉池信男: 国民健康・栄養調査にみた我が国の女性における鉄欠乏および鉄欠乏性貧血の実態. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.26,つくば
- 111) 二瓶徹, 町田弘恵, 高増雅子, 溝口景子, 清野富久江, 吉池信男, 武見ゆかり: スーパーマーケットにおける「食事バランスガイド」を活用した取り組みと利用者の認識の変化. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.26,つくば
- 112) 大内愛子, 早瀬仁美, 戸次真智子, 久野真奈見, 松永泰子, 吉池信男: 「食事バランスガイド」を利用した食生活実態の把握~ライフステージ別比較を例に~ 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.26,つくば
- 113) 戸次真智子, 早瀬仁美, 大内愛子, 久野真奈見, 松永泰子, 吉池信男: 食事記録調査結果の分かりやすい提示方法の検討. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.26,つくば
- 114) 齋藤京子, 横山徹爾, 藤井紘子, 石脇亜紗子, 由田克士, 吉池信男: アルデヒド代謝能力と喫煙習慣との関連. 第 65 回日本公衆衛生学会総会. 2006.10.26,富山
- 115) 岩室紳也, 櫃本真事, 福永一郎, 藤内修二, 石川貴美子, 中瀬克己, 松岡宏明, 国吉秀樹, 松村康弘, 武村真治, 安藤実里, 下田智久: 市区町村における健康日本 21 の推進・評価状況 (その 1) 第 65 回日本公衆衛生学会総会. 2006.10.26,富山
- 116) 雑賀公美子, 松村康弘, 片野田耕太, 祖父江友孝: 喫煙状況と他の生活習慣病関連因子の重積状況について. 第 65 回日本公衆衛生学会総会. 2006.10.26,富山
- 117) 鄭美花, 稲葉裕, 黒沢美智子, 邱冬梅, 片野田耕太, 松村康弘: 性・年齢層別脳血管疾患受療率と一日平均歩行数との地域相関. 第 65 回日本公衆衛生学会総会. 2006.10.26,富山
- 118) 片野田耕太, 松村康弘: 国民健康・栄養調査データを用いた DQI-I 多様性スコアの算出. 第 65 回日本公衆衛生学会総会. 2006.10.26,富山
- 119) 近藤雅雄, 饗場直美, 柘植光代, 田口浩子, 井手智子, 岡純, 梶本雅俊: 中高齢者の自覚症状発現と血液中ミネラル. 第 53 回日本栄養改善学会総会, 栄養学雑誌. 2006.10.26,つくば
- 120) 田口浩子, 饗場直美, 近藤雅雄, 柘植光代, 岡純, 西牟田守, 梶本雅俊: 抗酸化成分含有食品を活用した高齢者の免疫能の保持・増進に関する食事

- のあり方について. 第 53 回日本栄養改善学会. 2006.10.26,つくば
- 121) 近藤雅雄, 太田麗, 栗原典子, 饗場直美, 宮本廣, 張能太郎: 各種お茶及び健康食品中の元素分析とその評価. 第 92 回日本食品衛生学会学術講演会. 2006.10.26,春日井
- 122) 村山伸子, 井上浩一, 由田克士, 平田亜子, 入山八江, 堀越和美, 廣川孝子, 湯田幸重, 永田美由紀, 田村米子, 川尻由美子, 矢口理恵, 赤枝いつみ, 石田裕美: 自治体の特定給食施設支援・指導システムモデルによる効果的な支援・指導方法の検証. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.26,つくば
- 123) 石田裕美, 辻村由美, 村山伸子, 由田克士, 花田明子, 名知翠: 事業所給食施設における電子マネー支払い精算システムを活用したカフェテリア給食の選択状況把握の有効性. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.26,つくば
- 124) 平田亜古, 井上浩一, 由田克士, 村山伸子, 石田裕美, 入山八江, 廣川孝子, 堀越和美, 永田美由紀, 川尻由美子, 田村米子: 事業所給食における栄養管理の実施状況と利用者の健康・食に関する知識・態度の関係. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.26,つくば
- 125) 由田克士, 溝口景子, 石田裕美, 武見ゆかり, 清野富久江, 吉池信男: 従業員食堂における食事バランスガイドを活用した栄養教育の検証. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.26,つくば
- 126) 野末みほ, 石脇亜紗子, 藤井紘子, 猿倉薫子, 宇田川孝子, 由田克士, 吉池信男: 児童における学校給食の摂取日と非摂取日の食物摂取状況の比較. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.26,つくば
- 127) 上田博子, 岡山 明, 上島弘嗣, 由田克士, 坂田清美, 斉藤重幸, 中川秀昭, 奥田奈賀子, 板井一好: 中年男性における BMI、PFC 比率、エネルギー摂取量、各食品群摂取量の関連. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.26,つくば
- 128) 横山徹爾, 由田克士, 斉藤京子, 石脇亜紗子, 吉池信男: 国民健康・栄養調査における栄養素等の習慣的摂取量の分布の推定. 第 65 回日本公衆衛生学会総会. 2006.10.26,富山
- 129) 田口素子, 高田和子, 辰田和佳子, 長坂聡子: 大学生女子競技者のエネルギー消費量. 第 53 回日本栄養改善学会. 2006.10.26,つくば
- 130) 林瞳, 三戸夏子, 蕪木智子, 佐藤和人: 関節炎の活動性と栄養状態. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.26,つくば
- 131) 中比呂志, 伊木雅之, 森田明美, 池田行宏, 佐藤裕保: 思春期女子の骨密度に対するスポーツ活動の効果的な時期はいつか. 第 65 回日本公衆衛生学会総会. 2006.10.26,富山
- 132) 柘植光代, 饗場直美, 梶本雅俊, 近藤雅雄: 食事パターンの解析と血圧値との関連性. 日本公衆衛生学会. 2006.10.26, 富山
- 133) 中出麻紀子, 饗場直美, 江崎治: IT を使った栄養教育による生活習慣の改善効果 (1) 栄養教育システムの構築と運用. 日本公衆衛生学会. 2006.10.26,富山
- 134) 土田直美, 磯部澄枝, 真島和徳, 渡邊修子, 鈴木一恵, 阿部久四郎, 吉池信男, 由田克士, 村山伸子: 「新潟県中越大震災」における食生活上の課題と工夫に関する実態調査. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.27,つくば
- 135) 猿倉薫子, 草間かおる, 野末みほ, 瀧本秀美, 吉池信男: 周産期における医療施設での栄養および体重管理に関する状況について. 第 65 回日本公衆衛生学会総会. 2006.10.27,富山
- 136) 梶本雅俊, 清田マキ, 酒井裕子, 安東美喜子, 近藤雅雄, 饗場直美, 田口浩子: 陰陽イオン指標を用いた栄養調査における水の官能検査 (おいしさ) の関連と調理法の影響評価. 第 53 回日本栄養改善学会. 2006.10.27, つくば
- 137) 江崎潤子, 橋本美幸, 細川優, 石見佳子: 変形性膝関節症モデルマウスの骨・軟骨に対するメチルスルフォニルメタン摂取の影響. 第 53 回日本栄養改善学会. 2006.10.27,つくば
- 138) 鈴木洋子, 伊藤祿郎, 仲田瑛子, 金高有里, 大坂寿雅, 井上修二: 視床下部腹内側核 (VMH) 破壊による視床下部性肥満マウスの作製とその病態に関する研究. 第 33 回日本神経内分泌学会. 2006.10.27,横浜
- 139) 大河原一憲, 中田由夫, 大蔵倫博, 片山靖富, 沼尾成晴, 松尾知明, 中塘二三生, 田中喜代次: 減量期および減量終了後 10 ヶ月経過時の体組成変動に対する BI 法の妥当性: The SMART Study. 第 27 回日本肥満学会. 2006.10.27,神戸
- 140) 富松理恵子, 石田裕美, 入山八江, 廣川孝子, 堀越和美, 永田美由紀, 田村米子, 川尻由美子, 矢口理恵, 赤枝いつみ, 井上浩一, 平田亜古, 由田克士, 村山伸子: 栄養管理報告書の書式の検討. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.27,つくば
- 141) 入山八江, 村山伸子, 由田克士, 平田亜古, 石田裕美, 廣川孝子, 堀越和美, 永田美由紀, 川尻由美子, 田村米子, 矢口理恵, 赤枝いつみ, 田中久子: 自治体の特定給食施設支援・指導モデルの検証 その 1 特定給食施設支援・指導モデルの構築. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.27,つくば
- 142) 堀越和美, 入山八江, 廣川孝子, 湯田幸重, 田中富恵, 中村真理子, 村山伸子, 井上浩一, 由田克士, 平田亜古, 石田裕美: 自治体の特定給食施設支援・指導モデルの検証 その 2 新潟市保健所における支援・指導とその評価. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.27,つくば
- 143) 永田美由紀, 山下よし喜, 大和田美幸, 奥本美智代, 早高恵実, 宮山広美, 村山伸子, 井上浩一, 由田克士, 平田亜古, 石田裕美: 自治体の特定給食施設支援・指導システムモデルの検証 その 3 千葉市保健所における支援・指導とその評価. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.27,つくば

- 144) 田村米子, 田尻由美子, 富松理恵子, 村山伸子, 井上浩一, 由田克士, 平田亜古, 石田裕美: 自治体の特定給食施設支援・指導システムモデルの検証その 4 港区みなと保健所の支援・指導とその評価. 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.27, つくば
- 145) 渡邊修子, 鈴木一恵, 土田直美, 磯部澄枝, 真島和徳, 山村伸子, 石田裕美, 由田克士: 給食施設における災害時の対応の実態調査報告 (新潟県中越大地震の事例) 第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.27, つくば
- 146) 三戸夏子, 柴田重信, 山田和彦, 林瞳, 蕪木智子, 佐藤和人: 体内時計と栄養-若年女性の睡眠パターンと栄養摂取状況の解析-第 53 回日本栄養改善学会学術総会. 2006.10.27, つくば
- 147) 亀井康富, 菅波孝祥, 幸田尚, 石野史敏, 江崎治, 小野佳宏: 肥満の脂肪組織におけるインプリンティング遺伝子 *Peg1/Mest* の発現制御機構. 第 27 回日本肥満学会. 2006.10.28, 神戸
- 148) 田中茂穂, Ganpule Anjali, 高田和子, 田畑泉: 基礎代謝量と睡眠時代謝量の推定式および個人間変動. 第 27 回日本肥満学会. 2006.10.28, 神戸
- 149) 山田晃一, 竹澤純, 石見幸男: プロテアソーム阻害剤はがん細胞に於いて、紫外線傷害後の損傷バイパス複製を顕著に阻害する. 第 18 回 DNA 複製・分配ワークショップ. 2006.10.30, 熱海
- 150) 細井俊克, 古池直子, 宮下麻子, 梅國智子, 島田光世, 廣田晃一: 健康栄養ニュース配信サイトの運営 (2000-2006) 第 26 回医療情報学連合大会. 2006.11.01, 札幌
- 151) 古池直子, 細井俊克, 宮下麻子, 梅國智子, 島田光世, 廣田晃一: 科学的根拠に基づく「健康食品」情報収集支援サイトの構築. 第 26 回医療情報学連合大会. 2006.11.02, 札幌
- 152) 佐竹隆, 高橋昌己, 田中茂穂, 服部恒明: 子どもの歯とからだの発育. 第 60 回日本人類学会大会. 2006.11.05, 高知
- 153) 日高洋子, 長谷川卓志, 石崎久子, 石井麗子, 橋本美千代, 瀬川則子, 水口美知子, 小牧栄, 高橋雅恵, 福島真喜子, 鍋島功弥子, 藤由美, 佐藤範子, 高橋光顕, 小澤孝男, 齋藤恵子, 岸田めぐみ, 佐賀潤子, 佐々木敏: 節目健診受診者の食生活診断結果について. 第 24 回江戸川医学会. 2006.11.11, 東京
- 154) 永田純一, 森野友子, 斎藤衛郎: 脂肪前駆細胞における明日葉抽出物の脂肪蓄積に対する影響と明日葉摂取によるラット脂質濃度および体脂肪蓄積へ及ぼす影響. 第 11 回日本フードファクター学会. 2006.11.20, 愛知
- 155) 佐々木敏: The Scientific Substantiation of Functional Foods: Human Studies toward the Global Standard. 門田国際フォーラム 2006. 2006.11.21, 愛知
- 156) 大友拓弥, 上原万里子, Jose Luis Penalvo, 勝間田真一, 鈴木和春, 武田健, 石見佳子: イソフラボン代謝産物の骨代謝調節作用の評価. Japanese Society for Food Factors. 2006.11.21
- 157) Hirai K, Uchida S, Taki Y, Shinme Y, Hanato J, Watanabe H, Ymanada S: RELATIONSHIP BETWEEN THE ANTINOCICEPTIVE EFFECT OF ST JOHN'S WORT AND PLASMA AND BRAIN OF HYPERFORIN. 第 21 回日本薬物動態学会学術年会. 2006.11.29, 東京
- 158) 佐々木敏: 睡眠と栄養との関連を探る: 疫学的アプローチの魅力と難しさ. 第 13 回 日本時間生物学学会学術大会. 2006.11.30, 東京
- 159) 網中雅仁, 近藤雅雄, 堀江裕, 吉田勝美: ポルフィリン症の発症及び予防における酸化ストレスの役割. 第 36 回日本肝臓学会東部会、肝臓. 2006.12.08, 東京
- 160) 蕪木智子, 林瞳, 吉野美香, 三戸夏子, 福島洋一, 佐藤和人: 実験的 PEM モデルマウスの免疫機能および栄養状態における La1 乳酸菌摂取の影響. 第 10 回日本病態栄養学会年次学術集会. 2007.01.06, 横浜
- 161) 林瞳, 吉野美香, 三戸夏子, 蕪木智子, 佐藤和人: 関節炎の活動性と栄養状態の解析. 第 10 回日本病態栄養学会年次学術集会. 2007.01.06, 横浜
- 162) 小園秀樹, 窪田哲也, 窪田直人, 伊藤晋介, 高本偉碩, 峯山智佳, 山内敏正, 植木浩二郎, 寺内康夫, 戸辺一之, 門脇孝: 血管内皮細胞におけるインスリン受容体基質 (IRS)-2 の役割の解明. 第 10 回日本病態栄養学会学術集会. 2007.01.13, 横浜
- 163) 佐々木敏: 小児の栄養摂取基準はどのように策定されたか. 子どもの食育を考えるフォーラム 子どもの食は大丈夫? 社団法人日本小児科学会. 2007.01.13, 東京
- 164) 林邦彦, 水沼英樹, 藤田利治, 松村康弘, 片野田耕太, 李廷秀, 高木廣文, 鈴木庄亮, 久保田俊郎, 麻生武志: 女性コホート研究 Japan Nurses' Health Study における各種避妊法の利用状況と経口避妊薬利用者の特徴. 第 17 回日本疫学会学術総会. 2007.01.26, 広島
- 165) 森田明美, 渡邊昌, 饗場直美, 宮地元彦, 佐々木敏, 盛岡正博, 肥満克服プログラムグループ: 人間ドック受診者を対象とした生活習慣病予防のための介入研究-佐久肥満克服プログラム-. 第 17 回日本疫学会学術総会. 2007.01.26, 広島
- 166) 井上茂, 石井香織, 大谷由美子, 小田切優子, 高宮朋子, 吉池信男, 下光輝一: 歩数計・加速度計の装着時間の分布-測定バイアスの可能性について. 第 17 回日本疫学会学術総会. 2007.01.26, 広島
- 167) 櫃本真事, 福永一郎, 岩室紳也, 藤内修二, 武村真治, 谷原真一, 松村康弘, 中川昭生, 中瀬克己, 松岡宏明, 中本稔, 新山徹二, 国吉秀樹, 田中久子, 石川貴美子, 安藤実里, 岩永俊博, 下田智久: 地方健康増進計画の推進に関する研究 (その 1) 地方健康増進計画の推進評価に影響する要因、ことに地域でのモニタリング体制の整備について. 第 17 回日本疫学会学術総会. 2007.01.27, 広島
- 168) 福永一郎, 櫃本真事, 岩室紳也, 藤内修二, 武村真治, 谷原真一, 松村康弘, 中川昭生, 中瀬克己, 松岡宏明, 中本稔, 新山徹二, 国吉秀樹, 田中久子, 石川貴美子, 安藤実里, 岩永俊博, 下田智久: 地

- 方健康増進計画の推進に関する研究（その 2）地方健康増進計画の推進評価に影響する要因、ことに地域でのモニタリング体制の整備について. 第 17 回日本疫学会学術総会. 2007.01.27, 広島
- 169) Ooishi Y, Manabe I, Tobe K, Kadowaki T, Nagai R: KLF5 controls metabolic stress response in metabolic syndrome and cardiovascular disease. 第 71 回日本循環器学会総会・学術集会. 2007.03.15, 神戸
- 170) Ooishi Y, Manabe I, Imai Y, Hara K, Kadowaki T, Nagai R: The regulatory polymorphism of Krüppel-like transcription factor 5 (KLF5) gene alters angiotensin II-dependent transcriptional program and associates with hypertension. 第 71 回日本循環器学会総会・学術集会. 2007.03.15, 神戸
- 171) 佐藤洋美, 仙波裕信, 萩原ヒロミ, 根岸悦子, 長嶋洋治, 矢野友啓, 上野光一: 腎細胞癌におえるコネキシン 32 遺伝子の転移抑制能に関する研究. 第 80 回日本薬理学会年会. 2007.03.16, 名古屋
- 172) 田中千晶, 田中茂穂, 河原純子, 緑川泰史: 一軸加速度計を用いた幼児の身体活動量の評価精度. 日本発育発達学会第 5 回大会. 2007.03.17, 東京
- 173) 福永一郎, 櫃本真事, 岩室紳也, 武村真治, 谷原真一, 松村康弘, 中本稔, 田中久子, 安藤実里, 岩永俊博: 市町村地方健康増進計画の現状に関する研究（その 2）: 推進評価に影響を及ぼす要因. 第 77 回日本衛生学会総会. 2007.03.26, 大阪
- 174) 近藤雅雄, 宮本廣, 張能太郎, 金子貞男: ALA を用いた脳腫瘍の治療機序に関する研究. 第 77 回日本衛生学会総会. 2007.03.28, 大阪
- 175) 網中雅仁, 近藤雅雄, 山内博, 吉田勝美: 高齢者の抗酸化食材と酸化ストレス及びボルフィリンとの関係. 第 77 回日本衛生学会総会. 2007.03.28, 大阪
- 176) 内田礼奈, 千葉大成, 上原万里子, 石見佳子, 鈴木和春, 金賢珠, 松本明世: 大豆イソフラボンと多価不飽和脂肪酸の併用摂取が骨代謝に及ぼす影響. 日本薬学会第 127 回年会. 2007.03.28, 富山
- 177) 大友拓弥, 上原万里子, Jose Luis Penalvo, 勝間田真一, 鈴木和春, 武田健, 石見佳子: 大豆イソフラボン代謝産物の骨代謝及び脂質代謝に及ぼす影響. 日本薬学会第 127 回年会. 2007.03.28, 富山
- 178) 千葉大成, 上原万里子, 石見佳子, 鈴木和春, 金賢珠, 松本明世: 閉経後骨粗鬆症モデルマウスの骨量減少に対するヘスペリジンの回復効果. 日本薬学会第 127 回年会. 2007.03.28, 富山
- 179) 盛岡正博, 渡邊昌, 橋詰ふみ子, 山崎しげみ, 井出範, 桃井 房江, 池田せつ子: 家庭用尿糖測定器による定量的解析の検討. 第 47 回日本人間ドック学会. 2006.09.14, 沖縄
2. 国家予算による研究(競争的資金)
- (1) 厚生労働省研究費
- a. 主任研究者
- 1) 斎藤衛郎 (主任研究者): いわゆる健康食品の健康影響と健康被害に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金 食品の安心・安全確保推進研究事業.
- 2) 石見佳子 (主任研究者): 個体特性に着目した食品成分の骨粗鬆症に対する予防効果に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 政策創薬総合研究事業.
- 3) 佐々木敏 (主任研究者): 健康づくりのための個々人の身体状況に応じた適切な食事摂取に関する栄養学的研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業.
- 4) 佐々木敏 (主任研究者): 生体指標を用いた日本人におけるミネラルの適正摂取量 (AI) ・許容上限摂取量 (UL) の算定に関する栄養学的研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業.
- 5) 江崎治 (主任研究者): 細胞内エネルギー代謝制御分子の機能発現機構の解明と新規治療薬への応用. 厚生労働省厚生科学研究費. 政策創薬総合研究事業.
- 6) 田畑泉 (主任研究者): 「健康づくりのための運動指針」に関する研究-身体活動量増加による生活習慣病の一次予防効果-. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策研究事業.
- 7) 田畑泉 (主任研究者): 高齢者の運動による健康増進に関する学術論文の系統的レビューとそれに基づく文献データベースの作成. 厚生労働省厚生科学研究費. 長寿科学総合研究事業.
- 8) 高田和子 (主任研究者): 大規模コホートの観察研究に基づく生活機能低下スクリーニング質問表の開発. 厚生労働省厚生科学研究費. 長寿科学総合研究事業.
- 9) 門脇孝 (主任研究者): 厚生労働省多目的コホート班との共同による糖尿病実態及び発症要因の研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等総合研究事業.
- 10) 門脇孝 (主任研究者): アディポネクチンを標的にしたと糖尿病・メタボリック症候群の新規診断法・治療法の床応用. 厚生労働省厚生科学研究費. 基礎研究成果の臨床応用推進研究事業.
- 11) 永田純一 (主任研究者): 食用油の安全性に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 厚生労働科学研究費補助金 (厚生労働科学特別研究事業).
- 12) 矢野友啓 (主任研究者): コネキシン遺伝子の癌抑制機能の網羅的解析; 癌予防および治療への応用. 厚生労働省厚生科学研究費. 政策創薬総合研究事業.
- 13) 田中茂穂 (主任研究者): エネルギー必要量推定法に関する基盤的研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金 (循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業).
- 14) 山田和彦 (主任研究者): 特定保健用食品の新たな審査基準に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心・安全確保推進研究事業.
- 15) 梅垣敬三 (主任研究者): いわゆる健康食品の安全性に影響する要因分析とそのデータベース化・情報提供に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心・安全確保推進研究事業.

- 16) 渡邊昌 (主任研究者): 健診受診者のコホート化と運動、栄養介入による生活習慣病予防. 厚生労働省厚生科学研究費. 糖尿病戦略等研究事業.
- 17) 吉池信男 (主任研究者): 若い女性の食生活はこのままで良いのか? 次世代の健康を考慮に入れた栄養学・予防医学的検討. 厚生労働省厚生科学研究費. 子ども家庭総合研究事業.
- 18) 吉池信男 (主任研究者): 都道府県等の生活習慣病リスク因子の格差及び経年モニタリング手法に関する検討. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業.
- b. 分担研究者**
- 1) 佐々木敏 (分担研究者): 動機付けの差による生活習慣における行動変容の継続性に関する研究—歩数確保による運動習慣の形成及び継続性に向けた新たなインセンティブ構築の提案. 厚生労働省厚生科学研究費. 糖尿病戦略等研究事業.
- 2) 佐々木敏 (分担研究者): カドミウムを含む食品の安全性に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心・安全確保推進研究事業.
- 3) 佐々木敏 (分担研究者): 食事バランスガイドを活用した栄養教育・食環境づくりの手法に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業.
- 4) 佐々木敏 (分担研究者): 日本人の食事摂取基準 (栄養所要量) の策定に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業.
- 5) 佐々木敏 (分担研究者): 衛生仮説を含めたアレルギー性疾患の発症関連環境要因の解明に関する前向きコホート及び横断研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業.
- 6) 江崎治 (分担研究者): 慢性疾患としての糖尿病の病期に注目した病態の解析と、新たな診断・治療法の探索. 厚生労働省厚生科学研究費. ヒトゲノム再生医療等研究事業.
- 7) 山崎聖美 (分担研究者): 内分泌かく乱化学物質の生体影響メカニズム (低用量効果・複合効果を含む) に関する総合研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 化学物質リスク研究事業.
- 8) 三浦進司 (分担研究者): ゲノム抗体創薬によるガンと生活習慣病の統合的診断・治療法の開発. 厚生労働省厚生科学研究費. 医薬基盤研究所「保健医療分野における基礎推進事業」プロジェクト.
- 9) 高田和子 (分担研究者): 介護保険制度における栄養ケア・マネジメント事業評価に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 長寿科学総合研究事業.
- 10) 門脇孝 (分担研究者): 健康づくりのための個々人の身体状況に応じた適切な食事摂取に関する栄養学的研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 健康科学総合研究事業.
- 11) 門脇孝 (分担研究者): 生活習慣病の鍵分子、アディポネクチン受容体の病態生理的意義と情報伝達経路の解明. 厚生労働省厚生科学研究費. ヒトゲノム・再生医療等研究事業.
- 12) 門脇孝 (分担研究者): 生活習慣と遺伝子型による 2 型糖尿病発症リスク予測法の開発. 厚生労働省厚生科学研究費. ヒトゲノム・再生医療等研究事業.
- 13) 廣田晃一 (分担研究者): いわゆる健康食品の安全性に影響する要因分析とそのデータベース化・情報提供に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心・安全確保推進研究事業.
- 14) 廣田晃一 (分担研究者): 民間衛生施設を活用した健康増進のための効果的なシステムの開発及び評価に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業.
- 15) 由田克士 (分担研究者): 都道府県等の生活習慣病リスク因子の格差及び経年モニタリング手法に関する検討. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業.
- 16) 由田克士 (分担研究者): 勤労者の健康づくりのための給食を活用した集団及びハイリスク者への対策に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業.
- 17) 由田克士 (分担研究者): 生活習慣病予防のための効果的な栄養教育手法に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業.
- 18) 吉池信男 (分担研究者): 農薬等の一律基準と加工食品基準及び急性暴露評価に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心・安全確保推進研究事業.
- 19) 吉池信男 (分担研究者): 乳幼児食品中の有害物質及び病原微生物の暴露調査に関する基礎的研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心・安全確保推進研究事業.
- 20) 吉池信男 (分担研究者): 小児疾患包括的対策 (IMCI) の効果的な実施及びモニタリング評価に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 国際医療協力研究費.
- 21) 吉池信男 (分担研究者): 生活習慣病予防のための効果的な栄養教育手法に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 厚生労働省循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業.
- 22) 吉池信男 (分担研究者): 健康づくりを支援する環境とその整備状況の評価手法に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 厚生労働省循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業.
- 23) 田中茂穂 (分担研究者): 高齢者の運動による健康増進に関する学術論文の系統的レビューとそれに基づく文献データベースの作成. 厚生労働省厚生科学研究費. 平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金 (長寿科学総合研究事業).
- 24) 松村康弘 (分担研究者): メタボリックシンドロームのアジアと米国における発症機序とその健康対策に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 国際医学協力研究事業.
- 25) 高田和子 (分担研究者), 田中茂穂, 佐々木敏,

- 内藤義彦, 宮地元彦: エネルギー必要量推定法に関する基盤的研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業.
- 26) 高田和子 (分担研究者): 高齢者の運動による健康増進に関する学術論文の系統的レビューとそれに基づく文献データベースの作成. 厚生労働省厚生科学研究費. 長寿科学総合研究事業.
- 27) 梅垣敬三 (分担研究者): 特定保健用食品の新たな審査基準に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 食品の安心・安全確保推進研究事業.
- 28) 梅垣敬三 (分担研究者): 日本人の食事摂取基準 (栄養所要量) の策定に関する研究. 厚生労働省厚生科学研究費. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業.
- 29) 佐々木敏 (分担研究者): 成育医療の長期追跡データの構築に関する研究. 成育医療研究委託費.
- 30) 高田和子 (分担研究者): 高齢者の特質に配慮した総合検診システムの構築に関する研究. 厚生労働省長寿医療委託研究.
- 31) 山田晃一 (分担研究者): プロテアソーム阻害剤の損傷バイパス複製に対する阻害機序の解析. 厚生労働省がん研究助成.
- (2) 文部科学省科学研究費**
- a. 主任研究者**
- 1) 松村康弘 (主任研究者): 女性の健康増進のための科学的根拠の新展開. 文部科学省科学研究費. 科学研究費補助金 基盤研究 (B)
- 2) 大石由美子 (主任研究者): 心血管病の基礎病態としてのメタボリックシンドロームの発症・進展の分子機構の解明. 文部科学省科学研究費. 若手研究 (スタートアップ)
- 3) 窪田哲也 (主任研究者): 内皮細胞におけるインスリン情報伝達経路 (インスリン受容体基質) と動脈硬化. 文部科学省科学研究費. 平成 18 年度科学研究費 基礎基盤 (C)
- 4) 山崎聖美 (主任研究者): フルクトース摂取による肥満発症機序の解明と予防法の開発. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (C)
- 5) 田畑泉 (主任研究者): 運動で増加する転写補助因子等による骨格筋 GLUT4 発現増加の分子機構に関する研究. 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (B)
- 6) 門脇孝 (主任研究者): アディポネクチン受容体の生理・病態生理的意義解明と生活習慣病治療の分子標的の同定. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (A)
- 7) 矢野友啓 (主任研究者): 大豆由来成分の新規食素材としての可能性. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (C)
- 8) 三戸夏子 (主任研究者): 高脂肪食誘導性肥満マウスにおける免疫機能と aging. 文部科学省科学研究費 (若手 B)
- 9) 田中茂徳 (主任研究者): 肥満のリスクファクターとしての脂質酸化能および身体活動量に及ぼす運動の影響. 文部科学省科学研究費. 平成 18 年度科学研究費補助金 基盤研究 (A)
- 10) 森田明美 (主任研究者): 骨折テラーメイド予防のために大規模コホートで遺伝-生活習慣相互作用を解明する. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (C)
- 11) 山田和彦 (主任研究者): 男性の骨粗鬆症・骨折の予防を目的とした運動と食品成分の併用効果に関する研究. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (C)
- 12) 大坂寿雅 (主任研究者): 視索前野 GABA 感受性かつ GABA 作動性ニューロンによる熱産生調節機構. 文部科学省科学研究費 基盤研究 (C)
- b. 分担研究者**
- 1) 松村康弘 (分担研究者): 全国女性看護職コホートにおける生活保健習慣の変化と健康事象に関する経時観察調査. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (B)
- 2) 石見佳子, 西牟田守 (分担研究者): 男性の骨粗鬆症・骨折の予防を目的とした運動と食品成分の併用効果に関する研究. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (C)
- 3) 佐々木敏 (分担研究者): 沖縄特産緑黄色野菜による生体内抗酸化栄養素及び酸化ストレスマーカに与える影響. 文部科学省科学研究費 基盤研究 (B)
- 4) 高田和子 (分担研究者): 現代の小・中学生の生活スタイルと身体活動レベル (PAL) に関する研究. 文部科学省科学研究費 基盤研究 (A)
- 5) 門脇孝 (分担研究者): 糖尿病疾患関連遺伝子同定と医療への応用. 文部科学省科学研究費. 特定領域研究 (2)
- 6) 門脇孝 (分担研究者): 膵β細胞の増殖と機能におけるインスリン受容体基質ファミリー蛋白質の役割解明. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (B)
- 7) 門脇孝 (分担研究者): アディポネクチンの肥満による低下の原因となる新規転写因子の同定と増加剤の開発. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (B)
- 8) 門脇孝 (分担研究者): 発生工学的手法を用いた個体レベルでの脂肪細胞機能と病態の解明. 文部科学省科学研究費. 特定領域研究 (2)
- 9) 門脇孝 (分担研究者): アディポネクチン受容体アゴニストの植物からの探索と糖尿病の根本的治療薬・食品開発. 文部科学省科学研究費. 萌芽研究.
- 10) 門脇孝 (分担研究者): 発生工学的手法を用いたレジスチンの個体における機能と受容体・情報伝達機構解明. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (B)
- 11) 門脇孝 (分担研究者): 膵β細胞の増殖調節機構の研究. 文部科学省科学研究費 基盤研究 (C)
- 12) 門脇孝 (分担研究者): 環境・遺伝素因相互作用に起因する疾患研究—システム疾患生命科学の研究拠点形成—. 文部科学省科学研究費. 21 世紀 COE プログラム研究拠点形成費補助金.
- 13) 由田克士 (分担研究者): 各種循環器疾患危険因子の長期変化に関わる栄養学的要因. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (B)
- 14) 森田明美 (分担研究者): 大規模無作為標本コホ

ート十年追跡による骨折の絶対リスクに基づく予防介入閾値の設定. 文部科学省科学研究費. 基盤研究 (B)

- 15) 高田和子 (分担研究者): 肥満のリスクファクターとしての脂質酸化能および身体活動量に及ぼす運動の影響. 文部科学省科学研究費 基盤研究 (A)
- 16) 大坂寿雅 (分担研究者): ガラニン様ペプチドによる摂食・エネルギー代謝調節の機能形態学的解析. 文部科学省科学研究費 基盤研究 (C)

(3) その他

a. 主任研究者

- 1) 門脇孝 (主任研究者): 脂肪細胞の分化・形質転換とその制御の研究. 科学技術振興事業団. 戦略的創造推進事業.
- 2) 門脇孝 (主任研究者): 脂肪毒性による生活習慣病・心血管疾患メカニズムの解明と制御法の確立. 医薬基盤研究所. 保健医療分野における基礎研究推進事業.
- 3) 門脇孝 (主任研究者): タンパク質基本構造の網羅的解析プログラム (アディポネクチン受容体とアゴニスト候補の解析) タンパク 3000 プロジェクト.
- 4) 門脇孝 (主任研究者): アディポネクチンを標的とした生活習慣病の機能性 (予防/改善) 食品の開発. 科学技術振興機構 産学協同シーズイノベーション化事業 (育成ステージ)

b. 分担研究者

- 1) 饗場直美, 近藤雅雄, 田畑泉 (分担研究者): 高齢者の QOL 向上のために免疫能の健全性を保持する日本型食生活の解析. [食品の安全性および機能性に関する総合研究] 平成 17 年度推進会議資料, 農林水産省水産技術会議事務局, 独立行政法人食品総合研.

3. 民間等からの受託研究、等

- 1) 大石由美子: メタボリックシンドロームから心血管病の発症にいたる分子機構の解明での検討. 財団法人日本応用酵素協会. 2006
- 2) 大石由美子: 研究助成プログラム「アストラゼネカ・リサーチ・グラント 2006」採択研究テーマ, 「Molecular mechanisms of pathogenesis of metabolic syndrome」に関する研究助成. アストラゼネカ株式会社. 2006
- 3) 石見佳子: 骨粗鬆症の予防における大豆イソフラボンの生体利用性に関する研究. 第 22 回サッポロ生物科学振興財団研究助成. 2006
- 4) 石見佳子: 骨粗鬆症の予防における大豆イソフラボン及び豆乳の効果. 日本豆乳協会奨励寄附. 2006
- 5) 石見佳子: 野菜類の骨代謝改善作用の検討に関する研究. カゴメ株式会社総合研究所 共同研究. 2006
- 6) 石見佳子, 西牟田守, 佐々木敏: 閉経後女性におけるビタミン K の機能性評価に関する研究. 協和

発酵工業株式会社 共同研究. 2006

- 7) 高田和子: 近赤外線法によるエネルギー測定に関する研究. (株)ジョイ・ワールド・パシフィック, (財)日本システム開発研究所. 2006
- 8) 矢野友啓: 癌抑制遺伝子 (コネキシン 43) の発現・機能回復による中皮腫発生抑制に関する研究. 不二蛋白質研究振興財団研究助成金. 2006
- 9) 矢野友啓: 癌化学予防に有効な食品機能性成分のスクリーニング. アムウエーとの共同研究. 2006
- 10) 佐藤洋美, 矢野友啓: コネキシン遺伝子の癌抑制機能に関する研究. 平成 18 年度千葉大学重点研究プロジェクト研究費. 2006
- 11) 高田和子: ライフコーダを用いたエクササイズ値 (Ex) の表現方法. スズケン. 2006
- 12) 笠岡(坪山)宣代, 江崎治: ザクロ種子オイル摂取による体脂肪の低減について. 研光通商. 2006
- 13) 廣田晃一, 斎藤衛郎, 笠岡(坪山)宣代: 「食と健康に関する学術文献情報の活用方法」についての研究. 日本水産株式会社からの受託研究. 2006
- 14) 三戸夏子: Effect of continuous coffee consumption in high fat diet-induced obese mice. 井上科学振興財団・海外出張旅費助成 (10th International Congress on Obesity, Sydney) 2006
- 15) 田中茂穂: ヒューマンカロリメーターを用いたエネルギー代謝に関する研究. 受託研究 (オムロンヘルスケア株式会社) 2006
- 16) 熊江隆: 唾液等の体液を用いたヒトの抗酸化能力の推定法の開発. 共同研究. 2006

4. 研究所外での講義、講演等

(1) 大学等、教育機関における特別講義等

- 1) Yoshiike N: "Health Japan 21" and National Health and Nutrition Survey - An introduction on plan for actions and monitoring systems for NCD controls. Japan-WHO International Visitors Programme on NCD Prevention and Control, WHO WPRO・国立保健医療科学院. 2006.04.04, 和光
- 2) 佐々木敏: 保健医学 B EBM 総論及び各論. 琉球大学医学部. 2006.04.10, 沖縄
- 3) 矢野友啓: コネキシンによる発がん抑制機構. 千葉大学大学院講義 (高齢者薬理学). 2006.05.18, 千葉
- 4) 矢野友啓: 健康食品と生活習慣病. 千葉大学大学院講義 (高齢者薬理学). 2006.05.18, 千葉
- 5) 由田克士: 国民健康・栄養調査方式による栄養摂取状況調査方法について (1). 女子栄養大学. 2006.05.22, 坂戸
- 6) 由田克士: 国民健康・栄養調査方式による栄養摂取状況調査方法について (2). 女子栄養大学. 2006.05.23, 坂戸
- 7) 西牟田守: 健康への探求. 埼玉医大特別講義. 2006.05.23, 埼玉
- 8) 佐々木敏: 食品生化学特論. お茶の水女子大学大学院人間文化研究科. 2006.05.24, 東京
- 9) 佐々木敏: 社会医学Ⅱ公衆衛生学. 福岡大学医学部. 2006.05.26, 福岡

- 10) 佐々木敏: 食品生化学特論. お茶の水女子大学大学院人間文化研究科. 2006.05.31,東京
- 11) 渡邊昌: 社会医学Ⅱ環境産業医学. ダイオキシン類の暴露と健康. 信州大学医学部. 2006.06.05,松本
- 12) 石見佳子: 骨代謝における栄養と運動の併用効果. 東京理科大学薬学部大学院衛生化学特論. 2006.06.07,千葉
- 13) 佐々木敏: 食品生化学特論. お茶の水女子大学大学院人間文化研究科. 2006.06.07,東京
- 14) 佐々木敏: 研究(信頼できる情報). 子ども支援、高齢者支援、地域・在宅支援、障害児者支援課程他、神奈川県立保健福祉大学. 2006.06.10,神奈川
- 15) 佐々木敏: 患者の栄養アセスメント. 第64回東京薬科大学卒業教育講座、東京薬科大学・同窓会 卒業・生涯教育委員会. 2006.06.11,東京
- 16) Yoshiike N: Health Japan 21, National Health and Nutrition Survey. Seminar on Health System Management, 国立保健医療科学院. 2006.06.12
- 17) 佐々木敏: 食品生化学特論. お茶の水女子大学大学院人間文化研究科. 2006.06.14,東京
- 18) 三好美紀: 国際社会と医療活動「途上国における栄養問題と評価手法」 聖母大学. 2006.06.14,東京
- 19) 佐々木敏: 健康栄養学論. 高知女子大学健康栄養学科講義、高知女子大学. 2006.06.15,高知
- 20) 佐々木敏: 食品生化学特論. お茶の水女子大学大学院人間文化研究科. 2006.06.21,東京
- 21) 三好美紀: 国際社会と医療活動「途上国における栄養問題と評価手法」 聖母大学. 2006.06.21,東京
- 22) 吉池信男: 公衆衛生における"栄養・食生活". 新潟大学医学部公衆衛生学・特別講義. 2006.06.26,新潟
- 23) 佐々木敏: 食品生化学特論. お茶の水女子大学大学院人間文化研究科. 2006.06.28,東京
- 24) 佐々木敏: 衛生学公衆衛生学実習(栄養指導グループ) 帝京大学医学部. 2006.07.04,東京
- 25) 佐々木敏: 食品生化学特論. お茶の水女子大学大学院人間文化研究科. 2006.07.05,東京
- 26) 佐々木敏: 衛生学公衆衛生学実習(栄養指導グループ) 帝京大学医学部. 2006.07.11,東京
- 27) 佐々木敏: 食品生化学特論. お茶の水女子大学大学院人間文化研究科. 2006.07.12,東京
- 28) 佐々木敏: モンゴル地域研究. 国立大学法人大阪外国語大学外国語学部. 2006.07.21,大阪
- 29) 渡邊昌: 食育基本法と私達. 第46回農村医学夏季大学講座. 2006.07.21,佐久
- 30) 吉池信男: メタボリックシンドローム管理. 総合医療政策研修、国立保健医療科学院. 2006.07.26,和光
- 31) 門脇孝: 脂肪細胞の神秘と生活習慣病の仕組. 2006 東京大学オープンキャンパス医学部. 2006.08.01,東京
- 32) 三好美紀: 国際保健・栄養協力論. 県立広島大学大学院 2006.08.08-11,広島
- 33) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの病態と治療. 和歌山県立医科大学第二内科同門会講演会. 2006.08.12,和歌山
- 34) 山田和彦: 食品の健康栄養表示とその対応. 国立保健医療科学院主催、特別課程公衆栄養コース. 2006.08.23,和光
- 35) 吉池信男: 地域における栄養モニタリング/食生活指針と食事バランスガイド. 平成18年度特別課程公衆栄養コース、国立保健医療科学院. 2006.08.25,和光
- 36) 佐々木敏: ①食事摂取基準の概念②EBN からみた食事と生活習慣病. 平成18年度特別課程公衆栄養コース、国立保健医療科学院. 2006.08.28,埼玉
- 37) 田畑泉: 運動とエネルギー. 国立保健医療科学院平成18年度特別課程公衆栄養コース. 2006.08.29,和光
- 38) 吉池信男: 食事摂取基準(2005年版)の活用と考え方～「集団」給食から「個別」の栄養ケアマネジメントへ～ 食物栄養学科特別講義、富山短期大学. 2006.09.22,富山
- 39) 佐々木敏: 栄養疫学特論. 天使大学大学院看護栄養学研究科. 2006.09.29-30,北海道
- 40) 由田克士: 国民健康・栄養調査の概要ならびに栄養摂取状況調査について. 和洋女子大学. 2006.10.06,市川
- 41) 吉池信男: 私たちの食生活の"バランス"を考える基準とツール～食事摂取基準(2005年版)の特徴と食事バランスガイド～食物栄養学科特別講義、十文字学園女子大学. 2006.10.14,新座
- 42) 佐々木敏: 衛生学公衆衛生学. 慶應義塾大学医学部. 2006.10.16,東京
- 43) 饗場直美: 今、子ども達に必要な食育とは. 新宿区立戸山小学校. 2006.10.21
- 44) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの分子機構と治療戦略. 産業医科大学大学院講義. 2006.10.31,福岡
- 45) 佐々木敏: 栄養疫学特論. 女子栄養大学大学院. 2006.11.08,埼玉
- 46) 吉池信男: 公衆衛生、予防医学のための「栄養学」-栄養・健康づくりと食事摂取基準. 慶應義塾大学医学部衛生・公衆衛生学講義. 2006.11.13,東京
- 47) 佐々木敏: 栄養疫学特論. 女子栄養大学大学院. 2006.11.15,埼玉
- 48) 佐々木敏: 公衆衛生学. 東京大学医学部. 2006.11.20,東京
- 49) 廣田晃一: 東京家政大学オープンカレッジ・もう一度栄養学. 東京家政大学生涯学習センター. 2006.11.24
- 50) 饗場直美: 子どもが育つ生活リズム. 学校保健委員会講演会、新宿区立落合第五小学校. 2006.11.24
- 51) 佐々木敏: 栄養疫学特論. 女子栄養大学大学院. 2006.11.29,埼玉
- 52) 佐々木敏: 疫学研究の計画と解析. 東京大学医学部. 2006.11.30,東京
- 53) 宮地元彦: メタボリックシンドロームの保健指導における運動・身体活動支援. 鹿屋体育大学客員講義. 2006.12.01,鹿児島

- 54) 佐々木敏: 『食事摂取基準の活用法』について. 三重中央大学短期大学部. 2006.12.02, 三重
- 55) 佐々木敏: ヘルスバイオサイエンスにおける栄養疫学の位置と役割: 過去・現在・そして未来. 徳島大学大学院. 2006.12.05, 徳島
- 56) 廣田晃一: 首都大学東京オープンユニバーシティ・食品情報の収集とデータ整理中級. 首都大学東京オープンユニバーシティ. 2006.12.09, 東京
- 57) 佐々木敏: 日本人の食事摂取基準. 総合演習 II. 2006.12.12, 北海道
- 58) 吉池信男: 食事バランスガイドの基本的な考え方と活用. 2006 年度看護栄養学部栄養学科学学生特別講義. 天使大学. 2006.12.15, 札幌
- 59) 石見佳子: 運動生化学. 早稲田大学スポーツ科学学術院スポーツ科学部講義. 2006.12.21, 所沢
- 60) 渡邊昌: がんの疫学. 北里大学医学部. 2007.01.09, 相模原
- 61) 佐々木敏: 食事摂取基準について. 公衆栄養学、和洋女子大学. 2007.01.18, 千葉
- 62) 吉池信男: 生活習慣病予防のための食生活の把握・評価と情報技術. 京都大学大学院医学研究社会医学系専攻健康情報学分野. 2007.02.02, 京都
- 63) 饗場直美: バランスの取れた食・生活習慣～家庭や学校でできることとは～. 学校保健委員会 新宿区立落合第二小学校. 2007.02.22, 東京
- 64) 永田純一: 健康食品の世界動向 国内の健康食品事情と海外の健康食品. 産業医科大大学院. 2007.03.12, 北九州
- 65) 由田克士: 生活習慣病予防対策における栄養教育・給食の役割とその取り組み ー標準的な健診・保健指導プログラムを視野に入れてー平成 18 年度女子栄養大学臨地実習・校外実習 講演会. 2007.03.13, 坂戸
- 66) 門脇孝: 糖・脂質・エネルギー代謝の新しい調節機構. 群馬大学生体調節研究所. 2007.03.23
- (2) 大学・研究所における研究セミナー等
- 1) 門脇孝: 糖尿病治療の実際のアプローチとうつの不定愁訴のマネジメント. 日常診療におけるうつの不定愁訴フォーラム. 2006.04.06, 埼玉
- 2) 門脇孝: 糖尿病治療の実際のアプローチとうつの不定愁訴のマネジメント. 日常診療におけるうつの不定愁訴のマネジメントフォーラム. 2006.04.27, 富山
- 3) 近藤雅雄: 日本のポルフィリン症のすべて. 東京工業大学公開特別講演. 2006.05.15, 横浜
- 4) 由田克士: 日本人の食事摂取基準 (2005 年版) を活用した 健康・栄養調査成績の評価に関する基本的な考え方について. 女子栄養大学 給食・栄養管理研究室セミナー. 2006.05.23, 坂戸
- 5) Miura S: Roles of exercise-induced skeletal muscle AMP-kinase activation and PGC-1 alpha expression on glucose and lipid metabolism. Lab meeting in Experimental Transplantation and Immunology Branch, Center for Cancer Research. 2006.06.07, National Cancer Institute, National Institutes of Health (Bethesda, MD)
- 6) Miura S: Roles of exercise-induced skeletal muscle AMP-kinase activation and PGC-1 alpha expression on glucose and lipid metabolism. Seminar in Gerontology Department. 2006.06.08, The University of Maryland, School of Medicine (Baltimore, MD)
- 7) 石見佳子: 骨粗鬆症と栄養. アルカロイド研究会. 2006.06.10, 東京
- 8) 佐々木敏: 栄養疫学の基礎コース. 第 64 回東京薬科大学卒業教育講座小グループサテライトセミナー、東京薬科大学 卒業・生涯教育委員会. 2006.06.15, 東京
- 9) 三好美紀: Breastfeeding and Complementary Food. 第 1 回子どもの死亡削減と国際協力セミナー. 財団法人国際保健医療交流センター 2006.06.20, 熊本
- 10) 佐々木敏: 栄養疫学の基礎コース. 第 64 回東京薬科大学卒業教育講座小グループサテライトセミナー、東京薬科大学 卒業・生涯教育委員会. 2006.07.07, 東京
- 11) 梅垣敬三: サプリメント・健康食品. 地域医療教育開発センター講習会、東北大学大学院医学系研究科附属地域医療教育開発センター. 2006.07.15, 仙台
- 12) 佐々木敏: 栄養疫学の基礎コース. 第 64 回東京薬科大学卒業教育講座小グループサテライトセミナー、東京薬科大学 卒業・生涯教育委員会. 2006.07.20, 東京
- 13) 山崎聖美: 食器から出てくる化学物質の安全性. つくばサイエンス・アカデミー 第 21 回ランチョン・セミナー. 2006.08.04, 茨城
- 14) 佐々木敏: 栄養疫学の基礎コース. 第 64 回東京薬科大学卒業教育講座小グループサテライトセミナー、東京薬科大学 卒業・生涯教育委員会. 2006.09.21, 東京
- 15) 佐々木敏: 栄養疫学の基礎コース. 第 64 回東京薬科大学卒業教育講座小グループサテライトセミナー、東京薬科大学 卒業・生涯教育委員会. 2006.09.27, 東京
- 16) 梅垣敬三: サプリメントと健康について. 日本女子大学生生活安全保障セミナー. 2006.09.30, 東京
- 17) 山田和彦: サプリメントと健康. 日本女子大学生生活安全保障セミナー. 2006.09.30, 東京
- 18) 斎藤衛郎: 特定保健用食品の開発・申請・許可の現状について. 第一回機能性食品に関する新制度勉強会 (独) 農業・食品産業技術総合研究機構. 2006.10.10, 筑波
- 19) 梅垣敬三: 健康食品の有用性と危険性. 平成 18 年度実践女子大学・実践女子短期大学公開講座. 2006.10.28, 日野
- 20) 石見佳子: 植物性ホルモンと健康. 「性と生殖」公開シンポジウム 早稲田大学人間総合研究センター. 2006.11.26, 所沢
- 21) 佐々木敏: 新しい食事調査法の学問的価値と社会的価値～日本の事例、ラオスの事例、そして未来～. 味の素株式会社 ライフサイエンス研究所.

- 2006.11.27,神奈川
- 22) 吉池信男: 日本におけるメタボリックシンドロームへの取り組みと機能性食品. 伝統医学国際シンポジウム、富山県国際健康プラザ国際伝統医学センター. 2006.12.01,富山
- 23) 松村康弘: 食育とそれに対するひとつの取組(えいようきっず). 第7回食のフォーラム. 2006.12.06,大甕
- 24) Yoshiike N: Overview of Health and Nutrition Policy in Japan. 平成18年度 JICA 健康と栄養改善のための女性指導者研修 2006.12.22,帯広
- 25) 石見佳子: 21世紀の女性科学者の育て方. 「理系女性エンパワーメントプログラム」シンポジウム. 2007.01.30,東京
- 26) 田中茂徳: 1日当たりのエネルギー消費量の推定法と変動要因—生活活動を含む身体活動の重要性—慶應義塾大学病院 第3回 META CARE*カンファレンス. 2007.02.21,東京
- (3) 地方自治体、栄養士会等主催の講演会等**
- 1) 吉池信男: 「食事バランスガイド」はなぜ誕生したのか. 第27回健康づくり提唱のつどい、(社)日本栄養士会. 2006.04.07,東京
- 2) 吉池信男: 日本人の食事摂取基準(2005年版)の活用～「集団」給食から「個別」の栄養管理への転換～愛媛県栄養士会福祉協議会研修会、愛媛県栄養士会福祉協議会・地域活動栄養士協議会. 2006.04.08,松山
- 3) 由田克士: 日本人の食事摂取基準(2005年版)の活用について～特定給食施設等における栄養・食事計画～さいたま市保健所 日本人の食事摂取基準(2005年版)の活用研修会. 2006.04.21,さいたま
- 4) 田畑泉: 健康づくりのための運動基準～身体活動・運動・体力～について. 東京都栄養士会行政部会. 2006.05.09,東京都庁
- 5) 田中茂徳: 栄養摂取と運動「運動と食事摂取基準(栄養所要量)」「エネルギー代謝」. 健康運動指導士養成講習会. 2006.05.10,東京
- 6) 由田克士: 日本人の食事摂取基準(2005年版)を活用した特定給食施設等における栄養計画及び食事計画の方針. 平成18年度船橋市保健所給食施設従事者研修会. 2006.05.12,船橋
- 7) 吉池信男: 食事バランスガイドの活用～栄養教育・指導、食環境整備のために～熊本県栄養士会福祉協議会. 2006.05.13,熊本
- 8) 由田克士: 日本人の食事摂取基準(2005年版)を活用した特定給食施設等における栄養計画及び食事計画の方針. 平成18年度板橋区保健所栄養管理研修会. 2006.05.16,東京
- 9) 梅垣敬三: 健康食品について. 平成18年食品安全行政講習会, 厚生労働省. 2006.05.25
- 10) 梅垣敬三: 健康食品・サプリメントの有用性及び医薬品との相互作用. 東京都病院薬剤師会中小病院実務研修会. 2006.05.25,東京
- 11) 由田克士: 健康・栄養調査成績の評価に関する基本的な考え方について. 平成18年度青森県行政栄養士スキルアップ研修会. 2006.05.29,青森
- 12) 門脇孝: メタボリックシンドローム—概念・診断基準と栄養管理—病院栄養士協議会・春季研修会. 2006.05.30,新潟
- 13) 石見佳子: 更年期の上手なりこえ方、優しいつきあい方. 目黒区碑文谷保健センター. 2006.05.31,東京
- 14) 渡邊昌: 生活習慣病を予防する—栄養士の役割—第29回通常総会特別講演, (社)長野県栄養士会. 2006.05.31,長野
- 15) 由田克士: 日本人の食事摂取基準(2005年版)を活用した特定給食施設等における栄養計画及び食事計画の方針. 平成18年度岩手県栄養士会生涯学習研修会. 2006.06.03,盛岡
- 16) 吉池信男: 食事バランスガイドの活用. 平成18年度大分県栄養士会総会. 2006.06.03,大分
- 17) 門脇孝: 糖尿病の成因と治療に関する最近の知見. 第35回日本内科学会北海道支部生涯教育講演会. 2006.06.04,札幌
- 18) 吉池信男: メタボリックシンドロームと食育. 北陸「健康づくり提唱のつどい」福井県栄養士会・福井県健康増進課. 2006.06.10,福井
- 19) 吉池信男: 食事バランスガイドを活用した食育. 学校栄養職員専門研修、三重県教育委員会. 2006.06.16,津
- 20) 佐々木敏: 食事摂取基準(2005年版)のより良い活用. 全国精神科栄養士協議会講演会、全国精神科栄養士協議会. 2006.06.16,東京
- 21) 佐々木敏: わかりやすい EBN と栄養疫学. 平成18年度生涯学習、佐賀県栄養士会. 2006.06.17,佐賀
- 22) 佐々木敏: 「日本人の食事摂取基準」の見方. 平成18年度研修会、東京都立学校栄養士会. 2006.06.20,東京
- 23) 梅垣敬三: 健康食品等の安全性情報ネットワークについて. 茨城県健康食品関連研修会. 2006.06.21,水戸
- 24) 吉池信男: 食事バランスガイドの基本的な考え方と活用. 生涯学習研修会、愛知県栄養士会. 2006.06.25,名古屋
- 25) 由田克士: 日本人の食事摂取基準(2005年版)の考え方と学校給食等における活用針. 平成18年度金沢市教職員研修講座. 2006.06.30,金沢
- 26) 江崎治: 肥満・糖尿病予防のための食事と運動～その分子機序～第21回 奥羽糖尿病教育担当者セミナー2006.07.02,秋田
- 27) 由田克士: 社会福祉施設における食の役割. 平成18年度山形県社会福祉協議会「社会福祉施設栄養士・調理担当者研修」2006.07.07,山形
- 28) 吉池信男: 食事摂取基準の活用法と食事バランスガイドの普及・活用方法. 生涯学習講座、愛媛県栄養士会. 2006.07.08,松山
- 29) 梅垣敬三: 健康食品の賢い使い方. 健康食品に関するリスクコミュニケーション、中国四国厚生局. 2006.07.10,徳島

- 30) 梅垣敬三: 健康食品・サプリメント こうかがあるの、ないの? 中央区消費生活夜間講座. 2006.07.13, 東京
- 31) 佐々木敏: 生活習慣病予防と EBN. 日本栄養士会生涯学習研修会、社団法人高知県栄養士会. 2006.07.15, 高知
- 32) 吉池信男: 地域計画の立案や評価に活用するための健康・栄養調査について. 秋田県栄養改善推進中央研修、秋田県健康福祉部. 2006.07.21, 秋田
- 33) 吉池信男: 食事バランスガイドの基本的な考え方. 第 11 回専門研修会 (東日本ブロック) 全国福祉栄養士協議会. 2006.07.22, 仙台
- 34) 吉池信男: 特定給食施設における食事摂取基準の活用法. 生涯学習研修会、秋田県栄養士会. 2006.07.22, 秋田
- 35) 由田克士: 日本人の食事摂取基準 (2005 年版) を活用した特定給食施設等における栄養計画及び食事計画の方針. 岡山県栄養士会生涯学習研修会. 2006.07.23, 岡山
- 36) 吉池信男: 「調査研究」の手法～計画、実施、解析のポイント～第 11 回専門研修会 (東日本ブロック) 全国福祉栄養士協議会. 2006.07.23, 仙台
- 37) 由田克士: 食事摂取基準の基本的な考え方. 江戸川区教育委員会夏期栄養士研修会. 2006.07.25
- 38) 田畑泉: 健康づくりのための運動基準 2006～身体活動・運動・体力～について. 東京都栄養士会・東京都福祉保健局. 2006.07.26, 東京
- 39) 吉池信男: 食事バランスガイド作成の背景と給食施設での活用方法. 給食施設栄養管理研修会、横浜市健康福祉局保健政策課. 2006.07.27, 横浜
- 40) 由田克士: 日本人の食事摂取基準 (2005 年版) を活用した特定給食施設等における栄養計画及び食事計画. 平成 18 年度千葉県松戸保健所健康づくり研修会. 2006.07.28, 松戸
- 41) 吉池信男: 食事バランスガイドを活用した食育. 保育所給食担当職員研修、茨城県社会福祉協議会. 2006.08.01, 水戸
- 42) 梅垣敬三: 機能性食品の法規制の現状と機能性食品の有用性について. 平成 18 年度第 8 回仙台市薬剤師会学術研修会. 2006.08.06, 仙台
- 43) 吉池信男: 食事バランスガイドを活用した食育. 平成 18 年度食育研修会、下北地域県民局地域健康福祉部. 2006.08.09, むつ
- 44) 梅垣敬三: 健康食品・サプリメントの有用性・安全性について. 東京都病院病院薬剤師会臨床薬学研修会. 2006.08.09, 八王子
- 45) 由田克士: 日本人の食事摂取基準 (2005 年版) の活用について. 平成 18 年度第 2 回石川県学校栄養職員研修会. 2006.08.11, 金沢
- 46) 吉池信男: 食事バランスガイドを活用した生活習慣病予防. 平成 18 年度食事バランスガイド研修会、青森県中南地域県民局地域健康福祉部. 2006.08.22, 弘前
- 47) 梅垣敬三: 健康食品とサプリメント. 茨城県栄養士会新生涯学習研修会. 2006.08.26, 水戸
- 48) 吉池信男: 「調査研究」の手法～計画、実施、解析のポイント. 平成 18 年度北関東甲信越ブロック福祉協議会研修会、新潟県栄養士会福祉協議会. 2006.08.27, 新潟
- 49) 梅垣敬三: いわゆる健康食品の概要と安全性について—健康増進法関連—熊本県管理栄養士研修会. 2006.08.28, 熊本
- 50) 廣田晃一: 科学的根拠に基づくアドバイス. 社団法人東京都栄養士会. 2006.09.02, 東京
- 51) 宮地元彦: 新しい運動基準・運動指針の活用法. 平成 18 年村山・置賜地域健康運動指導者研修会、県村山保健所. 2006.09.07, 山形
- 52) 梅垣敬三: 科学的根拠のある健康食品情報のとらえ方. 平成 18 年度健康と栄養を考える講演会 (宮城会場)、日本栄養士会. 2006.09.09, 仙台
- 53) 吉池信男: パネルディスカッション「広げよう食の大切さ」第 1 回日本の食育セミナー、日本成人病予防協会. 2006.09.10, 東京
- 54) 田畑泉: 新たな健康づくりのための運動基準と運動指針について. 平成 18 年度青森県健康運動指導者等研究会 (青森県健康福祉部保健衛生課) 2006.09.11, 青森
- 55) 田中茂穂: 栄養摂取と運動「運動と食事摂取基準 (栄養所要量)」「エネルギー代謝」健康運動指導士養成講習会. 2006.09.13, 東京
- 56) 渡邊昌: 平成 18 年度老人福祉のつどい健康講座. 高崎市倉淵支所. 2006.09.13, 高崎
- 57) 吉池信男: 食事バランスガイドの基本的な考え方. 第 11 回専門研修会 (西日本ブロック) 全国福祉栄養士協議会. 2006.09.16, 長崎
- 58) 吉池信男: 「調査研究」の手法～計画、実施、解析のポイント～第 11 回専門研修会 (西日本ブロック) 全国福祉栄養士協議会. 2006.09.17, 長崎
- 59) 近藤雅雄: 高齢者への食育と健康増進. 東京都老人保健施設連絡協議会、栄養分科会研修会. 2006.09.20, 東京
- 60) 吉池信男: 食事バランスガイドの基本的な考え方. 第 11 回専門研修会 (中日本ブロック) 全国福祉栄養士協議会. 2006.09.23, 熱海
- 61) 吉池信男: 「調査研究」の手法～計画、実施、解析のポイント～第 11 回専門研修会 (中日本ブロック) 全国福祉栄養士協議会. 2006.09.24, 熱海
- 62) 田畑泉: 健康づくりのための運動基準 2006 と運動指針 2006 (エクササイズガイド 2006) について. 東京都多摩立川保健所. 2006.09.27, 東京
- 63) 吉池信男: 平成 17 年熊本県民健康・栄養調査概要と食事バランスガイドの活用. 平成 17 年度県民健康・栄養調査結果概要説明会、熊本県健康福祉部. 2006.09.29, 熊本
- 64) 吉池信男: 妊産婦の食事と健康～妊産婦のための食生活指針を踏まえて. 母子保健指導者研修会、財団法人母子保健指導者研修会. 2006.09.29, 熊本
- 65) 山田和彦: 食品の健康表示. 日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部公開シンポジウム. 2006.09.29, 佐賀
- 66) 吉池信男: 健診・保健指導事業の進め方～現状分析・計画・評価と対象者の階層化～生活習慣病

- 予防のための標準的な健診・保健事業に関する基本研修、日本栄養士会、2006.09.30,東京
- 67) 渡邊昌: メタボリックシンドロームの栄養療法、指導者のための健康・栄養セミナー、(社)北海道栄養士会、2006.09.30,札幌
- 68) 斎藤衛郎: 特定保健用食品の有効性評価、湘南ライフサイエンスコンソーシアム「特別セミナー」～機能性食品の科学と開発戦略～第一回「特定保健用食品の科学: 有効性と安全性の実証法」2006.10.06,藤沢
- 69) 吉池信男: 食事バランスガイドの実践的活用、平成18年度鳥取県栄養士研修会、鳥取県福祉保健部、2006.10.06,鳥取
- 70) 江崎治: 生活習慣病予防のための脂質摂取、第14回加工油脂栄養研究会、2006.10.06,山形
- 71) 渡邊昌: 糖尿病の予防と克服、三重県厚生連食育推進シンポジウム、2006.10.06,津
- 72) 佐々木敏: EBNに役立つ文献検索、生涯学習研修会、社団法人兵庫県栄養士会、2006.10.14,神戸
- 73) 由田克士: 食事摂取基準の理解と疾病を持つ人への応用について、東京都栄養士会栄養ケアステーション人材養成講座、2006.10.14,東京
- 74) 梅垣敬三: 健康食品の有効性とエビデンス、千葉県薬業会健康食品研修会、2006.10.15,千葉
- 75) 宮地元彦: 新しい運動基準と指針を現場に活用する、茨城県健康運動指導者研修会、2006.10.16,水戸
- 76) 吉池信男: 今後の健診、保健指導の方向性、長野県栄養改善学会、長野県栄養士会、2006.10.18,伊那
- 77) 吉池信男: 「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・実践教育について、新潟県栄養士会佐渡支部会員研修会、新潟県栄養士会佐渡支部、2006.10.21,佐渡
- 78) 梅垣敬三: 食事と健康食品・サプリメント、健康都市杉並フェア2006「食の安全を考える討論会」、2006.10.21,東京
- 79) 吉池信男: メタボリックシンドロームの現状と予防対策、指導者のための健康・栄養セミナー、山口県栄養士会、2006.10.22,山口
- 80) 梅垣敬三: 健康食品の安全性と有効性、食育を考える市民公開講座、2006.10.22,広島
- 81) 田畑泉: 健康づくりのための運動基準2006と運動指針2006(エクササイズガイド2006)について、栄養管理講習会(都西多摩保健所)、2006.10.24,東京
- 82) 由田克士: 特定給食施設における給食の役割・アセスメントの実践方法、平成18年度防衛庁栄養士会研修会、2006.10.25,つくば
- 83) 石見佳子: 健康食品の正しいとり方、長岡市立消費生活センター、2006.10.30
- 84) 高田和子: アスリートの栄養摂取と食生活、日本体育協会、2006.10.30,東京
- 85) 田畑泉: 健康づくりのための運動指針・運動基準、健康運動指導士養成制度の見直しに伴う特別補習講座、2006.10.31,東京
- 86) 宮地元彦: シンポジウム「1に運動 2に食事 しっかり禁煙 最後にクスリー良い生活習慣は気持ちがいい!」第7回健康日本21全国大会、厚生労働省ほか、2006.11.02
- 87) 梅垣敬三: 栄養指導におけるサプリメントの基礎知識、長崎県栄養士会平成18年度生涯学習研修会、2006.11.04,長崎
- 88) 由田克士: 食事調査とそのデータ活用を正しく理解するために、管理栄養士養成施設の専門分野別担当教員を対象としたファカルティ・デベロップメント、2006.11.04,静岡
- 89) 田中茂穂: 栄養摂取と運動「運動と食事摂取基準(栄養所要量)」「エネルギー代謝」健康運動指導士養成講習会、健康運動指導士養成講習会、2006.11.07,東京
- 90) 佐々木敏: エビデンス、平成18年度第2回生涯学習研修会、社団法人埼玉県栄養士会、2006.11.11,埼玉
- 91) 田畑泉: 「健康づくりのための運動の重要性ー健康づくりのための運動指針2006の理解と活用」ー、健康づくり推進研修会、2006.11.11,滋賀
- 92) 永田純一: 食品の栄養成分表示と健康表示、健康と栄養を考える講演会、日本栄養士会、2006.11.11,宮崎
- 93) 由田克士: メタボリックシンドロームの現状と栄養・食生活ー平成16年国民健康・栄養調査の成績からー静岡県栄養士会健康づくり提唱のつどい、2006.11.11,三島
- 94) 吉池信男: 「食事バランスガイド」の考え方と活用について、平成18年度全国福祉栄養士協議会研修会、日本栄養士会、2006.11.25,長野
- 95) 佐々木敏: 「調査研究の手法」～簡易栄養アセスメントスケール調査から～平成18年度全国福祉栄養士協議会研修会、社団法人日本栄養士会、2006.11.26,長野
- 96) 梅垣敬三: 「健康食品」の現状と対応、三重県食品衛生監視員および市町食品衛生推進員講習会、三重県、2006.11.28,津
- 97) 梅垣敬三: 健康食品・サプリメントで健康になれますか?太田区男女平等推進センター出張消費者講座、大田区、2006.11.29,東京
- 98) 梅垣敬三: いわゆる健康食品の概要と安全性について、社団法人全国栄養士養成施設協会第98回研修会、2006.11.30,坂戸
- 99) 田畑泉: 「健康づくりのための運動基準2006ー栄養士が知っておきたい運動指針ー」: 第20回食と医のセミナー(広島県栄養士会)2006.12.02,広島
- 100) 吉池信男: 今後の健診、保健指導の方向性～より効果的な生活習慣病予防をめざして～指導者のための健康・栄養セミナー、宮崎県栄養士会、2006.12.02,宮崎
- 101) 吉池信男: 地域ぐるみでの食育の推進について～食事バランスガイド等を利用して～横浜市西区食育講演会、横浜市西福祉保健センター、2006.12.08,横浜
- 102) 由田克士: 特定給食施設における食事バランスガイドの活用、平成18年度東京都特定給食施設事

- 例報告会. 2006.12.08,東京
- 103) 吉池信男: 「食事バランスガイド」の目的・基本的な考え方・活用について. 栄養学術講演会、富山県栄養士会. 2006.12.10,富山
- 104) 斎藤衛郎: 特定保健用食品開発の現状と将来. 四国食品健康フォーラム. 2006.12.13,愛媛
- 105) 梅垣敬三: 賢い健康食品の使い方. 食品に関するリスクコミュニケーション, 厚生労働省. 2006.12.15,奈良
- 106) 斎藤衛郎: 特定保健用食品をめぐる最新の情報. 社団法人 福島県栄養士会研究教育協議会. 2006.12.16,福島
- 107) 梅垣敬三: 賢い健康食品の使い方. 食の安全・安心フォーラム, 名古屋市. 2006.12.16,名古屋
- 108) 田中茂穂: 「健康づくりのための運動基準 2006・エクササイズガイド 2006 について」 「エクササイズガイド 2006～身体活動量の評価から実践～」群馬県健康局保健予防課主催「平成 18 年度くらしのなかの運動指導者講習会」 2006.12.18,前橋
- 109) 梅垣敬三: 健康食品について. 平成 18 年度健康食品の知識普及員養成事業, 茨城県栄養士会. 2006.12.21,筑西
- 110) 田畑泉: 「健康づくりのための運動指針～エクササイズガイド 2006～」保健指導者研修会. 2006.12.22,川崎
- 111) 石見佳子: 団塊世代の栄養学. 足立区団塊世代の地域回帰推進事業 盛人フォーラム. 2007.01.08,東京
- 112) 由田克士: 特定給食施設の栄養管理支援・指導について. 滋賀県保健所管理栄養士研修会. 2007.01.09,大津
- 113) 由田克士: 働き盛りのメタボリックシンドローム予防に向けた食育の視点と食環境づくりの重要性. 杉並区ヘルシーメニュー推奨店調査員講習会. 2007.01.12,東京
- 114) 由田克士: 食事バランスガイドの活用について. 平成 18 年度伊勢原市ヘルスマイト専門研修会. 2007.01.17,伊勢原
- 115) 梅垣敬三: 健康食品・サプリメントの賢い使い方について. 第 4 回岩手県食の安全・安心リスクコミュニケーション, 岩手県. 2007.01.19,花巻
- 116) 田畑泉: 健康づくりのための運動基準と指針～身体活動・運動・体力～平成 18 年度 第 2 回 栄養技術講習会 (東京都福祉保健局, 社団法人 東京都施設給食協会) 2007.01.24,東京
- 117) 宮地元彦: 健康づくりのための運動指針 2006 について. 埼玉県在宅保健活動者の会研修会, 埼玉県国民健康保険団体連合会. 2007.02.01,埼玉
- 118) 手嶋登志子: 高齢者の栄養管理は食介護の視点から. 静岡県栄養士会. 2007.02.01,静岡
- 119) 吉池信男: メタボリックシンドロームの予防と新しい健診・保健指導. 指導者のための健康・栄養セミナー, 佐賀県栄養士会. 2007.02.03,佐賀
- 120) 宮地元彦: 運動・身体活動の保健指導について. 保健師・看護師リーダー養成会, 健康保険組合連
- 合会. 2007.02.06,東京
- 121) 田中茂穂: 栄養摂取と運動「運動と食事摂取基準(栄養所要量)」「エネルギー代謝」健康運動指導士養成講習会, 健康体力づくり事業財団. 2007.02.07,東京
- 122) 由田克士: 医療制度改革～メタボリックシンドロームに着目した栄養指導について. 平成 18 年度健康保険組合連合会 保健師・看護師リーダー養成研修. 2007.02.07,東京
- 123) 梅垣敬三: 健康食品とがん. 平成 18 年度がん予防推進員養成講習会, 茨城県. 2007.02.08,つくば
- 124) 梅垣敬三: 健康食品とはどんなものか?—誇大広告にはご用心. 平成 18 年度消費者と業界の懇談会, 墨田区. 2007.02.13,東京
- 125) 佐々木敏: 生活習慣病予防の EBN. 平成 18 年度置賜保健所管内栄養・食生活関連事業研修会. 2007.02.16,山形
- 126) 由田克士: 給食施設における食事バランスガイドの活用とメタボリックシンドロームへの対応. 品川区特定給食施設管理講習会. 2007.02.16,東京
- 127) 田畑泉: あなたの運動足りてますか? エクササイズガイド 2006. 第 23 回「健康・体力増進フォーラム」 2007.02.1,東京
- 128) 梅垣敬三: 健康食品のかしこい利用. 平成 18 年度第 3 回「世田谷区食の安全・安心区民会議」 2007.02.20,東京
- 129) 梅垣敬三: 健康食品について. 食品の安全・安心講演会. 2007.02.22,岐阜
- 130) 石見佳子: 健康食品の現状. 東京都特別区 9 区薬事講習会. 2007.02.23,東京
- 131) 梅垣敬三: 健康食品 (サプリメント等) の有効性と安全性. サプリメント・健康食品の安全性に関する研修会, 東京都医師会. 2007.02.23,東京
- 132) 田畑泉: 健康づくりのための運動基準・運動指針. 健康運動指導士養成制度の見直しに伴う補習講座主催 日本健康運動指導士会. 2007.02.24,名古屋
- 133) 田畑泉: エクササイズガイド 2006 について. エクササイズガイド研修会 共催 高知県栄養士会, 日本健康運動指導士会高知県支部. 2007.02.25,高知
- 134) 田中茂穂: 栄養摂取と運動「運動と食事摂取基準(栄養所要量)」「エネルギー代謝」健康運動指導士養成講習会, 健康体力づくり事業財団. 2007.02.28,東京
- 135) 由田克士: 特定保健指導～栄養・食生活面からのアプローチ. 平成 18 年度健康保険組合連合会 保健師・看護師等全国研修会. 2007.03.02,東京
- 136) 吉池信男: 「食事バランスガイド」の考え方と活用について. 茨城県福祉栄養士協議会研修会, 茨城県福祉栄養士協議会. 2007.03.03,水戸
- 137) 由田克士: 健診・保健指導事業の計画の進め方について. 平成 18 年度福島県栄養士会 行政栄養士協議会研修会. 2007.03.03,福島
- 138) 由田克士: 標準的な健診・保健プログラムを視野に入れた特定給食施設における取り組み. 大阪府北ブロック食育推進検討会 (大阪府茨木保健所)

- 2007.03.07,大阪
- 139) 由田克士: 学校給食における食事摂取基準の活用について. 平成 18 年度さいたま市学校栄養職員研修会. 2007.03.09,さいたま
- 140) 森田明美: メタボリックシンドロームと生活習慣病. 国家公務員福利厚生研究会 総務省 人事・恩給局. 2007.03.12,東京
- 141) 饗場直美: 平成 18 年度国家公務員福利厚生研究会 総務省 人事・恩給局. 2007.03.12,東京
- 142) 田畑泉: 健康づくりのための運動基準・運動指針. 健康運動指導士養成制度の見直しに伴う補習講座主催 日本健康運動指導士会. 2007.03.17,東京
- 143) 佐々木敏: 介護保険施設における 栄養ケア・マネジメントの有効性に関する調査. 全国福祉栄養士協議会代表者会議、社団法人日本栄養士会. 2007.03.17,東京
- 144) 吉池信男: 保育所および障害者施設におけるエビデンスの蓄積について. 全国福祉栄養士協議会代表者会議研修会、日本栄養士会福祉栄養士協議会. 2007.03.18,東京
- 145) 由田克士: 健診の事後指導 (生活習慣病一次予防) 強化における今後の対応. 東京都健康保険組合栄養士連絡協議会研修会. 2007.03.30,東京
- (4) その他、講演会等
- 1) 佐々木敏: 糖尿病性腎症の血圧・栄養管理について. 第 14 回千葉県糖尿病性腎症研究会講演会、武田薬品工業株式会社. 2006.04.21,千葉
 - 2) 門脇孝: 食後高血糖とメタボリックシンドローム. 食後高血糖フォーラム 2006 in Nagoya. 2006.04.22,名古屋
 - 3) 近藤雅雄: 食生活と高齢者の免疫強化. いきいき健康生活、ダイヤモンド八ヶ岳美術館ソサエティ. 2006.04.30,北杜
 - 4) 田畑泉: 分科会 5 「高齢者の健康とエクササイズ」リーダー. 2006 世界女性スポーツ会議 実行委員会 NPO 法人ジュース、熊本市、日本オリンピック委員会、熊本県共催. 2006.05.12,熊本
 - 5) 門脇孝: 「アディポネクチン受容体の構造と機能及び病態における意義」Opening Remarks 「メタボリックシンドロームと糖尿病—日本そして世界の取り組み—」 Sankyo Diabetes Forum 2006. 2006.05.13,東京
 - 6) 門脇孝: メタボリックシンドロームの病態と分子機構—非定型抗精神薬の関与も含めて. 第 8 回新潟臨床精神薬理フォーラム. 2006.05.30,新潟
 - 7) 江崎治: 生活習慣病と n-3 系脂肪酸. アマニ・セミナー 主催: 日本アマニ (亜麻) 協会. 2006.06.01,東京
 - 8) 矢野友啓: 癌抑制遺伝子 (コネキシン) の機能回復をターゲットにした癌化学予防に関する研究—大豆由来の BBI を用いた検討—第 9 回不二たん白質研究振興財団研究報告会. 2006.06.01,大阪
 - 9) 門脇孝: わかりやすい糖尿病の話. 第三回健康講座. 2006.06.03,東京
 - 10) 佐々木敏: 栄養摂取と運動 食事アセスメント (低栄養対策を含む) 健康運動指導士養成講習会、財団法人健康・体力づくり事業財団. 2006.06.07,東京
 - 11) 宮地元彦: 運動プログラムの作成と指導の考え方. 健康運動指導士養成講習会、健康・体力づくり事業財団. 2006.06.08,東京
 - 12) 門脇孝: ADIPONECTIN とメタボリックシンドローム・循環器疾患. 新宿河田町高血圧フォーラム. 2006.06.08,東京
 - 13) 佐々木敏: こどもの食生活と地域栄養活動のマネージメント—食育を中心に—第 224 回母子保健関係者講習会, 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター. 2006.06.09,東京
 - 14) 吉池信男: 食事摂取基準、食事バランスガイドと食品の表示. 食品の品質保証懇話会、食品工業倶楽部. 2006.06.15,東京
 - 15) 門脇孝: 糖尿病臨床における最近の進歩. 内科懇話会. 2006.06.16,東京
 - 16) 山田和彦: 保健機能食品について. 日本健康・栄養システム学会主催、臨床栄養師研修会. 2006.06.20,東京
 - 17) 門脇孝: 病態とエビデンスの基づく 2 型糖尿病の治療戦略. 第 10 回旭川軽症糖尿病研究会. 2006.06.23,旭川
 - 18) 門脇孝: 精神疾患と肥満・糖尿病の接点—精神科医と糖尿病・代謝医の連携に向け. ジブレキサ学術講演会. 2006.06.24,神戸
 - 19) 渡邊昌: 食育基本法と国立健康・栄養研究所—サブプリメントの開発にむけて—第 8 回健康食品フォーラム, (財)医療経済研究・社会保健福祉協会. 2006.06.26,東京
 - 20) 門脇孝: 大血管障害の抑制を目指した 2 型糖尿病の治療戦略. 足立区内科医会学術講演会. 2006.06.29,東京
 - 21) 門脇孝: 医療・医学とヒューマニズム. (株)パル創立 20 周年記念講演会. 2006.06.30,東京
 - 22) 門脇孝: メタボリックシンドロームの病態と治療へのアプローチ—心血管病の予防戦略—第 15 回 Tokyo Bay Heart Forum. 2006.06.30,浦安
 - 23) 梅垣敬三: フィトケミカルの可能性. メディカルハーブ広報センター第 7 回シンポジウム. 2006.07.01,東京
 - 24) 宮地元彦: 「運動基準・運動指針」平成 18 年度健康運動指導士・健康運動実践指導者スキルアップ研修会. 健康運動指導士・健康運動実践指導者登録更新単位認定講習会、(財)健康・体力づくり事業財団. 2006.07.02,仙台
 - 25) 宮地元彦: 「運動基準・運動指針」健康運動指導士・健康運動実践指導者登録更新単位認定講習会、(財)健康・体力づくり事業財団. 2006.07.02,仙台
 - 26) 門脇孝: 大血管障害の抑制を目指した 2 型糖尿病の治療戦略. 横浜北部糖尿病パネルディスカッション. 2006.07.05,横浜
 - 27) 佐々木敏: 糖尿病食事療法における科学的エビデンスと応用. 第 14 回埼玉糖尿病教育セミナー、バイエルメディカル株式会社. 2006.07.08,埼玉

- 28) 宮地元彦: 「運動基準・運動指針」. 健康体力づくり事業財団、平成 18 年度健康運動指導士・健康運動実践指導者スキルアップ研修会. 2006.07.10, 東京
- 29) 江崎治: 肥満・糖尿病予防のための食事と運動; その分子機序. 軽症糖尿病学術講演会 2006 主催: 三共株式会社. 2006.07.11, 福岡
- 30) 宮地元彦: ストレッチング、補強運動. 健康運動指導士養成校集会、健康体力づくり事業財団. 2006.07.13
- 31) 石見佳子: 非荷重による骨量減少に対する大豆イソフラボンの効果: 雄性マウスによる検討. 日本豆乳協会. 2006.07.14
- 32) Yamada K: Updates of nutrition and health claims in Japan. 3rd Asia region workshop on functional foods, ILSI Southeast Asian Region. 2006.07.18, Kuala Lumpur, Malaysia
- 33) 西牟田守: 環境ホルモンと食生活. 日本エステティック協会 東日本地区 講習会. 2006.07.18, 東京
- 34) 田畑泉: 運動指導の実際 健康づくりのための運動基準 2006~身体活動・運動・体力~人事院職員福祉課. 2006.07.21, 東京
- 35) 門脇孝: チアゾリジン薬の糖尿病治療における役割. Stroke 学術集会. 2006.07.21, 東京
- 36) 渡邊昌: 食育基本法と私達. 平成 18 年度食物実技講習会, (社) 栄養改善普及会. 2006.07.28, 千葉
- 37) 梅垣敬三: 健康食品の現状と情報提供. 地域におけるヘルスケアセミナー、特定非営利活動法人医療ネットワーク支援センター. 2006.08.03, 東京
- 38) 山田和彦: 栄養摂取と運動. (財) 健康・体力づくり事業財団主催、健康運動指導師講習会. 2006.08.22, 東京
- 39) 佐々木敏: 栄養摂取と運動 食事アセスメント (低栄養対策を含む) 健康運動指導士養成講習会、財団法人健康・体力づくり事業財団. 2006.08.23, 東京
- 40) 門脇孝: 病態とエビデンスに基づく 2 型糖尿病の治療戦略~大血管症抑制を目指して~. 第 5 回チアゾリジンフォーラム. 2006.08.23, 東京
- 41) 高田和子: メタボリックシンドロームと食事. レインボー健康体操・水中体操中級指導者養成講座. 2006.08.25, 東京
- 42) 門脇孝: インスリン抵抗性とメタボリックシンドロームに関する最近の知見. 第 30 回日本産科婦人科栄養代謝研究会. 2006.08.26, 東京
- 43) 門脇孝: 2 型糖尿病とオーダーメイドによる経口糖尿病治療薬の選択とは. 第 23 回糖尿病 Up・Date 賢島セミナー. 2006.08.26, 賢島
- 44) 渡邊昌: 味噌・大豆と健康. 東京都味噌卸協議会. 2006.09.05, 東京
- 45) Yamada K: Scientific substantiation of claims of foods: Current status in Japan. Current status and future directions for health claims on foods workshop, Korean Nutrition Society. 2006.09.07, Korean FDA, Seoul, Korea
- 46) Yamada K: Scientific substantiation of health claims in Japan. Workshop of Food with health claims, Danone institute international. 2006.10.07, Barcelona, Spain
- 47) 吉池信男: 妊娠中の栄養学~自分に見合った食事を整えるためのスキルを身につけよう~ベジフルマタニティ講座、日本ベジタブル&フルーツマイスター協会東京本部. 2006.09.08, 東京
- 48) 梅垣敬三: 健康食品の賢い使い方. 岐阜県食品の安全・安心シンポジウム. 2006.09.08, 岐阜
- 49) 吉池信男: 今後の健診・保健指導の方向性. 保健健診戦略セミナー、日本事務器株式会社. 2006.09.09, 大阪
- 50) 宮地元彦: 運動プログラム作成の原則. 第 103 回健康運動指導士養成講習会、健康体力づくり事業財団. 2006.09.14
- 51) 門脇孝: 話題のピーパーガンマアゴニスト (PPAR γ) 抗加齢医学の実際 2006. 2006.09.17, 東京
- 52) 西牟田守: 「細胞内ミネラル・細胞外ミネラル・骨ミネラル」の概念とその後のミネラル研究の発展. 大塚製薬 2006 年度第一回エリアセミナー (東京) 2006.09.19, 東京
- 53) 渡邊昌: メタボリックシンドローム阻止への国の対策. ナチュラルプロダクツエキスポジャパン, (株)ヘルスビジネスマガジン社. 2006.09.21, 東京
- 54) 西牟田守: マグネシウムと健康. ソルト・サイエンス・シンポジウム 2006 「ミネラルと健康」 2006.09.25, 東京
- 55) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの病態と治療戦略」~J-DOIT3 の重要性~. Expert Meeting in Kanagawa. 2006.09.27, 横浜
- 56) 吉池信男: メタボリックシンドロームの視点からみた生活習慣病対策. 協賛会協議会研修会、社団法人食生活情報サービスセンター. 2006.09.28, 東京
- 57) Yano T: Connexin gene as a tumor suppressor gene. ABG meeting. 2006.09.28, Aida, MI, USA
- 58) 門脇孝: メタボリックシンドローム・新しい概念とその対策. 第 6 回最新医学と明日の医療を語る会. 2006.09.30, 栃木
- 59) 門脇孝: 生活習慣病の分子標的と創薬戦略. オミックス医療が拓く未来 2006. 2006.10.03, 横浜
- 60) 宮地元彦: アンチエイジング体操の実習. 高齢者雇用フェスタ 2006、独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構. 2006.10.04, 東京
- 61) 吉池信男: 国民健康・栄養調査からみたメタボリックシンドロームの現状と対策. 食品開発展 2006 記念セミナー、CMP ジャパン株式会社. 2006.10.04, 東京
- 62) 宮地元彦: ストレッチング、補強運動. 第 103 回健康運動指導士養成講習会、健康体力づくり事業財団. 2006.10.05
- 63) 渡邊昌: 予防のための日常生活管理について. 歩いて防ごう! メタボリックインお台場、メタボリックシンドローム撲滅委員会. 2006.10.07, 東京

- 64) 門脇孝: 大血管症抑制を目標とした 2 型糖尿病治療戦略. 第 8 回城北糖尿病治療研究会. 2006.10.11, 東京
- 65) 門脇孝: 糖尿病患者の PAD について~ADA 合意文書をふまえて~第 4 回 Gunma Forum on Diabetic Complications 講演会. 2006.10.12, 群馬
- 66) 石見佳子: サプリメントと骨の健康—大豆イソフラボンを中心に—. 日本サプリメントアドバイザー認定機構フォローアップセミナー. 2006.10.15, 東京
- 67) 田畑泉: 新しい健康づくりのための運動基準 2006~身体活動・運動・体力~. ACSM/CEC セミナー((社)日本エアロビックフィットネス協会) 2006.10.16, 東京
- 68) 渡邊昌: 糖尿病を食事と運動でコントロールする. 第 4 回統合医療検討委員会講演会, (社)新宿区医師会. 2006.10.23, 東京
- 69) 門脇孝: メタボリックシンドロームの病態と治療戦略. 岩手生活習慣病フォーラム 2006. 2006.10.24, 岩手
- 70) 渡邊昌: 食育基本法と食生活改善推進員の活動. 平成 18 年度全国食生活改善推進員団体リーダー中央研修会, 日本食生活協会. 2006.10.26, 甲府
- 71) 石見佳子: サプリメントと骨の健康—大豆イソフラボンを中心に—日本サプリメントアドバイザー認定機構フォローアップセミナー. 2006.10.28, 大阪
- 72) 門脇孝: 脂肪細胞とメタボリックシンドローム. 聖路加国際病院 学術講演会. 2006.11.02, 東京
- 73) 佐々木敏: 栄養摂取と運動 食事アセスメント (低栄養対策を含む) 健康運動指導士養成講習会, 財団法人健康・体力づくり事業財団. 2006.11.06, 東京
- 74) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの治療戦略—スタチンの位置付け. リバロ錠発売 3 周年記念学術講演会. 2006.11.11, 東京
- 75) 森田明美: 健康長寿を支える栄養と生活. 人間ドックの集い JA 長野県厚生連 佐久総合病院人間ドック科. 2006.11.11, 佐久
- 76) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの病態と治療—循環器疾患の治療にむけて—第 7 回内科・治療学セミナー学術集会. 2006.11.16, 青森
- 77) 門脇孝: メタボリックシンドロームの分子機構と治療戦略. 第 5 回糖尿病と心血管病研究会. 2006.11.17, 東京
- 78) 門脇孝: 肥満と遺伝子. 第 20 回臨床栄養学術セミナー. 2006.11.18, 東京
- 79) 門脇孝: メタボリックシンドロームの分子機構と治療戦略. 癌研有明病院 講演会. 2006.11.21, 東京
- 80) 田畑泉: 「健康づくりのための運動指針 2006 (エクササイズガイド)」全国健康科学センター連絡協議会・厚生科学研究費川原班共催フォーラム. 2006.11.25, 愛知
- 81) 宮地元彦: メタボリックシンドロームの予防と改善を目的とした運動と身体活動. フィットネスサミット 2006、(社)日本エアロビックフィットネス協会、(財)健康・体力づくり事業財団. 2006.11.26, 東京
- 82) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの分子機構と治療戦略—炎症・酸化ストレスの意義を含めて. 第 3 回酸化ストレスと肝研究会. 2006.11.26, 福岡
- 83) 門脇孝: 糖尿病メタボリックシンドローム~あなたもご用心. 宮崎市民公開講座. 2006.11.26, 宮崎
- 84) 吉池信男: 肥満、メタボリックシンドロームの疫学と予防的戦略. 第 13 回北九州代謝栄養研究会. 2006.11.27, 北九州
- 85) 渡邊昌: 日本人の食生活とサプリメントの現状と将来. Otsuka Academy オープンセミナー. 2006.11.27, 東京
- 86) 山田和彦: 保健機能食品の賢い使い方と留意点. 第 13 回神奈川 IBD 研究会. 2006.11.28, 横浜
- 87) 渡邊昌: 日本人の食生活とサプリメントの現状と将来. Otsuka Academy オープンセミナー. 2006.11.28, 大阪
- 88) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームと上手に付き合う. 「やよい会」講演会. 2006.11.30, 東京
- 89) 宮地元彦: 運動プログラム作成の原則. 健康運動指導士養成講習会. 2006.12.07, 東京
- 90) 吉池信男: 標準的な健診・保健指導の概要. 健診・保健指導セミナー、医療法人城見会. 2006.12.08, 横浜
- 91) 宮地元彦: 「運動基準・運動指針」. 健康運動指導士・健康運動実践指導者登録更新単位認定講習会 (広島会場) (財)健康・体力づくり事業財団. 2006.12.08, 広島
- 92) 吉池信男: 今後の健診・保健指導の方向性. 保健健診戦略セミナー、日本事務器株式会社. 2006.12.09, 東京
- 93) 藤井康弘: 栄養・食生活、「健康食品」と生活習慣病. EBS 栄養情報担当者養成講座・スクーリング. 2006.12.10, 広島
- 94) 門脇孝: メタボリックシンドロームの病態とアディポカイン. 日本内科学会関東支部主催第 35 回生涯教育講演会. 2006.12.10, 東京
- 95) 吉池信男: メタボリックシンドローム健診と保健指導. 第 19 回生活習慣病指導専門職セミナー、(社)日本健康文化振興会. 2006.12.11, 東京
- 96) 田畑泉: 「運動基準・指針における身体活動量・体力の意義—体力はなぜ必要か—」平成 18 年度青・壮年体力づくり指導者講習会 (健康・体力づくり事業財団) 2006.12.12, 金沢
- 97) 吉池信男: 標準的な健診・保健指導の概要. 健診・保健指導セミナー、医療法人城見会. 2006.12.12, 大阪
- 98) 門脇孝: メタボリックシンドロームの病態と治療戦略・最新の知見. 第 3 回城南メタボリックシンドローム研究会. 2006.12.12, 東京
- 99) 由田克士: 生活習慣病を予防する食事とは. 平成 18 年度人事院生活習慣病管理研究会議. 2006.12.13, 東京

- 100) 石見佳子: 骨の健康と保健機能食品. 静岡バイオテクノロジー研究会. 2006.12.14,静岡
- 101) 饗場直美: 食べて高める免疫力. 第 24 回日本東方医学会 市民公開講座 日本東方医学会. 2007.01.01, 東京
- 102) 田畑泉: 健康づくりのための運動基準・運動指針の普及定着. NPO 法人 日本健康運動指導士会. 2007.01.08,東京
- 103) 宮地元彦: 保健指導における健康運動指導士の役割と可能性. 平成 18 年度健康運動指導者交流会. 2007.01.08,東京
- 104) 田畑泉: メタボリックシンドロームの解消と予防「健康づくりのための運動指針 2006 (エクササイズガイド 2006) ~生活習慣病予防のために~」平成 18 年度 健康管理講習会 東京高等裁判所, 東京地方裁判所, 東京簡易裁判所. 2007.01.10,東京
- 105) 吉池信男: 栄養教育における介入研究のデザインと解析. 第 2 回実践栄養学研究集中セミナー, 日本栄養改善学会・高知女子大学. 2007.01.12,高知
- 106) 藤井康弘: 栄養・食生活、「健康食品」と生活習慣病. EBS 栄養情報担当者養成講座・スクーリング. 2007.01.21,大坂
- 107) 門脇孝: 大血管症抑制を目指した 2 型糖尿病の治療戦略. 糖尿病の治療戦略 2007. 2007.01.24, 高松
- 108) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの病態と治療・予防戦略—DOIT3 の意義を含めて—アークレイ学術集会. 2007.01.25,東京
- 109) 吉池信男: 今後の健診・保健指導の方向性. 保健健診戦略セミナー, 日本事務器株式会社. 2007.01.27,福岡
- 110) 門脇孝: 2 型糖尿病の分子機構と治療戦略. チアゾリジンセミナー. 2007.01.30,東京
- 111) 門脇孝: メタボリックシンドローム・糖尿病の治療戦略—J-DOIT3 の意義—. 神奈川生活習慣病フォーラム—動脈硬化予防への新たな治療戦略. 2007.02.02,横浜
- 112) 門脇孝: メタボリックシンドローム—糖尿病からみた位置付けとその対策. 第 42 回インスリン研究会. 2007.02.03,東京
- 113) 山田和彦: 保健機能食品の成り立ちと現状. 第 5 回動物のサプリメント研究会, 動物のサプリメント研究会. 2007.02.04,東京
- 114) 渡邊昌: 食事・栄養とアンチエイジング. 日本抗加齢医学会専門医・指導士認定委員会講習会. 2007.02.04,東京
- 115) 門脇孝: 糖尿病・メタボリックシンドロームの病態と治療戦略—J-DOIT3 の重要性— Meet The Specialist. 2007.02.08,東京
- 116) 宮地元彦: 運動プログラム作成の基本原則. 平成 18 年度健康運動指導士養成講習会, 健康体力づくり財団. 2007.02.13
- 117) 門脇孝: アディポネクチンを標的とした糖尿病・メタボリック症候群の新規診断法・治療法の臨床応用. 基礎研究成果の臨床応用推進研究事業に関する研究成果発表会. 2007.02.14,東京
- 118) 田畑泉: 運動基準・指針における身体活動量・体力の意義—体力はなぜ必要か—青・壮年体力づくり指導者講習会 主催 (財)健康・体力づくり事業財団, 鹿児島県教育委員会,薩摩川内市教育委員会. 2007.02.15,鹿児島
- 119) 門脇孝: 糖尿病の血管合併症の抑制に向けた治療戦略—J-DOIT3 の意義—熊本市内科医会学術集会. 2007.02.23,熊本
- 120) 田畑泉: 「健康づくりのための運動基準 2006—栄養士が知っておきたい運動指針—」第 48 回 味の素 K K セミナー 主催 味の素株式会社 大阪支社(後援: 近畿各県府栄養士会). 2007.02.24,大阪
- 121) 吉池信男: 肥満、メタボリックシンドロームの疫学と公衆衛生的戦略. 第 20 回静岡県糖尿病懇話会. 2007.02.24,静岡
- 122) 門脇孝: 病態からみた糖尿病の治療戦略—レニン・アンジオテンシン系の意義を含めて—New Focus on Cardiovascular Protection. 2007.02.25,東京
- 123) 佐々木敏: 栄養摂取と運動 食事アセスメント (低栄養対策を含む) 健康運動指導士養成講習会, 財団法人健康・体力づくり事業財団. 2007.02.27, 東京
- 124) 永田純一: トランス脂肪酸過剰摂取に対する欧米諸国の対応と日本の現状について. 消費者行政研究会. 2007.02.28,東京
- 125) 江崎治: メタボリックシンドローム予防と食品分析の今後. 日本食品分析センター多摩研究所講演会 主催: 日本食品分析センター多摩研究所 食品品質保持技術研究会. 2007.03.02,東京
- 126) 佐々木敏: 健康問題についての沖縄と生協への提言. 学習講習会, 生活協同組合コープおきなわ. 2007.03.02,沖縄
- 127) 田畑泉: 新しい健康づくりのための運動基準 2006 とエクササイズガイド 2006. 平成 19 年度健康運動実践指導者養成校養成講座主任研修会. 2007.03.05,東京
- 128) 佐々木敏: 栄養摂取と運動 食事アセスメント (低栄養対策を含む) 健康運動指導士養成講習会, 財団法人健康・体力づくり事業財団. 2007.03.07, 東京
- 129) 梅垣敬三: 健康食品の現状ならびに医薬品との相互作用の考え方. 第 27 回静岡臨床薬学研究会. 2007.03.10,静岡
- 130) 門脇孝: 大血管症抑制を目指した 2 型糖尿病の治療戦略. 第 14 回 一糖会. 2007.03.16,福岡
- 131) 吉池信男: メタボリックシンドローム対策を中心とした 今後の健診・保健指導の方向性—平成 20 年度から始まる新制度の概要と食事・運動の新ガイド—静岡県生活習慣病研究会学術講演会. 2007.03.17,静岡
- 132) 門脇孝: 2 型糖尿病の分子機構と治療戦略. 第 1 回四国先端糖尿病研究会. 2007.03.17,福岡
- 133) 松村康弘: 有効性評価の科学的根拠. サプリメントアドバイザー講義 (日本サプリメントアドバイザー認定機構) 2007.03.19
- 134) 江崎治: サルコペニア (筋萎縮) のモデルマウス.

第3回 メタボリズムのゲノムネットワーク研究会 共催：アステラス製薬株式会社. 2007.03.24, 神奈川

135) 三浦進司: 運動による骨格筋 PGC-1 α 発現増加機序：交換神経系の役割. 第3回 メタボリズムのゲノムネットワーク研究会 共催：アステラス製薬株式会社. 2007.03.24, 神奈川

136) 梅垣敬三: 健康食品情報と消費者への伝え方. 2007 食と健康シンポジウム (社団法人日本能率協会). 2007.03.28, 東京

5. 政府関係機関審議会、委員会等

(1) 厚生労働省等中央政府関連

1) 渡邊昌:

- ・食育推進会議委員, 内閣府食育推進室
- ・厚生労働省国際医療協力研究委託費評価委員
- ・薬事・食品衛生審議会臨時委員, 厚生労働省, 厚生労働省医薬食品局
- ・ダイオキシン類への蓄積量調査検討委員会委員, 環境省
- ・独立行政法人食品総合研究所運営評価委員会委員
- ・生物系産業創出のための異分野融合研究支援事業に係る選考・評価委員. 独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構生物系特定産業技術研究支援センター
- ・ヒューマンサイエンス振興財団財団評議員
- ・清掃作業従事者のダイオキシンばく露による健康影響に係る調査研究委員会委員. 中央労働災害防止協会労働衛生調査分析センター
- ・ダイオキシン健康影響ワーキンググループ委員会委員. 中央労働災害防止協会労働衛生調査分析センター
- ・厚生科学審議会委員, 厚生労働省

2) 吉池信男:

- ・授乳・離乳の支援ガイド (仮称) 策定研究会構成員. 厚生労働省雇用均等・児童家庭局
- ・食品安全委員会添加物専門委員. 内閣府食品安全委員会
- ・運動所要量・運動指針の策定検討会委員構成員. 厚生労働省健康局
- ・運動所要量ワーキンググループ委員. 厚生労働省健康局
- ・運動指針小委員会構成員. 厚生労働省健康局
- ・健康日本 21 中間評価作業チーム委員. 厚生労働省健康局
- ・国民健康・栄養調査企画解析検討会委員. 厚生労働省健康局
- ・標準的な健診・保健指導の在り方に関する検討会構成員・厚生労働省健康局
- ・健診・保健指導の学習教材・支援教材に関するワーキンググループ委員・厚生労働省健康局.
- ・健診・保健指導データ分析・評価ワーキンググループ委員. 厚生労働省健康局
- ・薬事・食品衛生審議会農薬・動物用医薬品部会委員. 厚生労働省医薬食品局

・薬事・食品衛生審議会添加物部会委員. 厚生労働省医薬食品局

・薬事・食品衛生審議会新開発食品評価第三調査委員. 厚生労働省医薬食品局

・国保ヘルスアップモデル事業評価検討会委員. 厚生労働省保険局

・糖尿病戦略研究課題 1 運営小委員会委員. 財団法人国際協力医学研究振興財団 (厚生労働省健康局)

・糖尿病戦略研究プロジェクト試験評価委員会委員. 財団法人国際協力医学研究振興財団 (厚生労働省健康局)

・野菜等健康食生活協議会委員. 食生活情報サービスセンター (農林水産省)

・企業・団体等野菜等摂取普及啓発検討小委員会委員長. 食生活情報サービスセンター (農林水産省)

・小売業や外食産業等におけるモデル実証事業中央検討委員会委員. 財団法人食品産業センター (農林水産省)

3) 田畑泉:

・平成 18 年国民健康・栄養調査企画解析検討会. 厚生労働省健康局

・健康日本 21 中間評価作業チーム委員. 厚生労働省健康局

・運動指針小委員会委員. 厚生労働省健康局

・運動所要量ワーキンググループ委員. 厚生労働省健康局

・運動所要量・運動指針の策定検討会委員. 厚生労働省健康局

4) 門脇孝:

・健康日本 21 中間評価ワーキンググループ委員. 厚生労働省健康局

・厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会委員. 厚生労働省健康局

・標準的な健診・保健指導のあり方に関する検討会委員. 厚生労働省健康局

・健診・保健指導の学習教材・支援教材に関するワーキンググループ委員. 厚生労働省健康局

・健診・保健指導データ分析評価 ワーキンググループ委員. 厚生労働省健康局

5) 山田和彦:

・薬事・食品衛生審議会新開発食品調査部会委員. 厚生労働省医薬食品局

6) 由田克士:

・国保ヘルスアップモデル事業評価ワーキンググループ. 厚生労働省保険局

・職域保健における効果的な保健指導事例に関する検討会. 厚生労働省健康局

・健康増進総合支援システム開発事業評価検討会委員. 厚生労働省健康局生活習慣病対策室.

・情報評価委員会委員. 健康・体力づくり事業財団

7) 石見佳子:

・科学技術学術審議会資源調査分科会専門委員. 文部科学省

- 8) 齋藤衛郎:
 ・薬事・食品衛生審議会臨時委員. 厚生労働省医薬食品局
 ・新開発食品調査部会員. 厚生労働省医薬食品局
 ・新開発食品評価第一調査会調査員. 厚生労働省医薬食品局.
 ・特定保健用食品評価検討委員. 厚生労働省医薬食品局
 ・U.S.-Japan Cooperative Program in Natural Resources (UJNR), Food and Agriculture Panel. 文部科学省
- 9) 饗場直美:
 ・薬事・食品衛生審議会委員. 厚生労働省医薬食品局
 ・健康増進総合支援システム開発事業評価検討会. 厚生労働省健康局生活習慣病対策室
- 10) 松村康弘:
 ・薬事・食品衛生審議会委員. 厚生労働省医薬食品局
- 11) 田中茂穂:
 ・運動所要量・運動指針の策定検討会「運動所要量ワーキンググループ」委員. 厚生労働省健康局
- 12) 宮地元彦:
 ・健康増進総合支援システム開発事業評価検討会委員. 厚生労働省生活習慣病対策室
- 13) 佐々木敏:
 ・科学技術・学術審議会専門委員. 文部科学省
- 14) 梅垣敬三:
 ・薬事・食品衛生審議会専門委員. 厚生労働省医薬食品局

(2) 地方自治体等

- 1) 吉池信男:
 ・神奈川健康プラン 21 目標評価部会委員. 神奈川県保健福祉部健康増進課
- 2) 佐々木敏:
 ・「すこやか北海道 21」改訂版推進事業に係る検討会. 北海道保健福祉部.
 ・千葉県健康生活コーディネーター事業管理運営委員. 千葉県
- 3) 梅垣敬三:
 ・東京都食品安全情報評価委員
 ・独立行政法人国民生活センター商品テスト分析・評価委員会委員.
- 4) 高田和子:
 ・群馬県体育協会スポーツ医科学委員会. 群馬県

(3) その他

- 1) 吉池信男:
 ・国立成育医療センター研究所研究評価委員. 国立成育医療センター研究所
- 2) 田畑泉:
 ・日本学術会議連携会員. 日本学術会議
- 3) 田中茂穂:
 ・平成 18 年度小児の環境保健に関する健康リスク評価分科会・委員. (独)国立環境研究所.

- ・(財)日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会「日本の子どもにおける身体活動・運動目標設定と効果の検証」研究班員

- 4) 江崎治:
 ・倫理委員会委員 (独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所における人間を対象とする生物医学的研究に関する倫理委員会). 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所

6. 関連学術団体等への貢献

(1) 理事等の役員

- 1) 渡邊昌:
 ・生命科学振興会理事長
 ・専門管理栄養士認定機構理事長
 ・Soy Nutrition Institute Japan 代表幹事
 ・日本病態栄養学会常務理事
 ・日本抗加齢協会理事 (国際学術担当)
 ・日本抗加齢医学会理事
 ・日本健康・栄養食品協会理事
- 2) 吉池信男:
 ・日本栄養改善学会副理事長
 ・日本栄養改善学会食育推進企画・検討委員会委員長
- 3) 門脇孝:
 ・日本糖尿病学会常務理事
 ・日本糖尿病協会常任理事
 ・日本病態栄養学会常任理事
 ・日本体質医学会常任理事
 ・日本糖尿病合併症学会幹事
 ・日本内科学会 日本内分泌学会理事
 ・日本糖尿病動物研究会会長
 ・日本生化学会役員
 ・日本分子生物学会役員
 ・日本糖尿病・肥満動物学会理事長
- 4) 山田和彦:
 ・日本栄養改善学会理事
 ・日本栄養・食糧学会理事
 ・日本食物繊維学会常務理事
 ・日本栄養改善学会倫理審査委員会委員
- 5) 由田克士: 日本栄養改善学会理事
- 6) 熊江隆: 体力・栄養・免疫学会理事
- 7) 西牟田守:
 ・日本マグネシウム学会理事
- 8) 高田和子:
 ・日本スポーツ栄養研究会理事

(2) 雑誌編集委員

- 1) 渡邊昌:
 ・Biofactors. Ass. Editor
 ・European Journal of Epidemiology and Biostatistics 編集委員
 ・ライフサイエンス編集長
- 2) 田畑泉:
 ・日本体育学会 編集 「体育の科学」編集委員
 ・International Journal of Sports and Health Science Section Editor

- 3) 門脇孝:
- ・『Diabetes Journal』編集委員
 - ・『Diabetes Nursing』編集委員
 - ・『Diabetes News in the World』編集委員
 - ・『DITN』編集委員
 - ・『DM Communications』
 - ・『糖尿病治療ガイド』編集委員.
 - ・『科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン』編集委員
 - ・Diabetes care, Editorial Board
 - ・J. Clin. Invest. Editorial Board
 - ・Metabolic Syndrome and Related Disorders, Editorial Board
 - ・The Journal of Endocrine Genetics, Editorial Board
 - ・Diabetes, Obesity and Metabolism, Editorial Board
 - ・Current Diabetes Reviews, Editorial Board
 - ・Arteriosclerosis Thrombosis and Vascular Biology, Editorial Board
 - ・Endocrinology, Editorial Board
- 4) 石見佳子:
- ・栄養学雑誌編集委員
- 5) 松村康弘:
- ・栄養学雑誌編集委員
 - ・民族衛生編集委員
- 6) 江崎治:
- ・日本肥満学会誌「肥満研究」編集委員
 - ・「International Journal of Obesity」Editorial Board
- 7) 熊江隆:
- ・体力・栄養・免疫学会編集委員
 - ・体力・栄養・免疫学会雑誌編集委員
- 8) 西牟田守:
- ・日本体力医学会 総務委員、機関誌「体力科学」編集委員
 - ・日本栄養・食糧学会、日本ビタミン学会 英文機関誌 [J Nutr Sci Vitaminol] Editor
- 9) 廣田晃一:
- ・臨床栄養 (医歯薬出版) 編集委員
- 10) 田中茂徳:
- ・Journal of Training Science for Exercise and Sport : 編集委員
 - ・School Health : 編集委員
- 11) 高田和子:
- ・日本疫学会ニュースレター編集委員
- (3) その他
- 1) 渡邊昌:
- ・不二たん白質研究振興財団選考委員
 - ・食品産業新聞社第 36 回食品産業技術功労賞選考委員
 - ・国立環境研究所ダイオキシン国際会議 2007 組織委員会委員
 - ・ILSI 国際学会組織委員
- 2) 吉池信男:
- ・「障害者の栄養管理マネジメントの在り方に関する調査研究事業委員会」座長. 社団法人日本栄養士会
 - ・糖尿病データベース構築委員会特別委員. 日本糖尿病学会
- 3) 齋藤衛郎:
- ・日本油化学会 : 健康科学部会員及び酸化部会員
- 4) 佐々木敏:
- ・平成 18 年度学術研究助成審査会専門委員. 財団法人すかいらーくフードサイエンス研究所 (東京)
- 5) 山内淳:
- ・脂溶性ビタミン総合研究委員会平成 18 年度委員
- 6) 矢野友啓:
- ・日本ビタミン学会トピックス委員会委員
 - ・International Conference Physiological and Pathological Importance of Gap junctions; Orgazing Committe Member
- 7) 笠岡(坪山)宣代:
- ・栄養学若手研究者の集い世話人
7. 併任、非常勤講師等
- (1) 厚生労働省等への併任
- 1) 卓興綱:
- ・特定保健用食品の表示許可に係る審査に関する助言等. 食安発第 0329001 号
- (2) 大学の客員教授・非常勤講師
- 1) 渡邊昌:
- ・慶應義塾大学医学部 客員教授
 - ・東京農業大学総合研究所 客員教授
 - ・信州大学医学部 非常勤講師
 - ・北里大学医学部 非常勤講師
- 2) 吉池信男:
- ・慶應義塾大学医学部衛生・公衆衛生学 非常勤講師
 - ・京都大学大学院医学研究科社会健康医学専攻系 非常勤講師
- 3) 田畑泉:
- ・京都女子大学家政学研究科博士前期課程 非常勤講師
 - ・共立女子大学家政学部運動生理学 非常勤講師
 - ・早稲田大学スポーツ科学学術院 客員教授
- 4) 門脇孝:
- ・群馬大学 客員教授
 - ・順天堂大学 客員教授
- 5) 山田和彦:
- ・神奈川県立保健福祉大学 非常勤講師
- 6) 佐々木敏:
- ・琉球大学医学部 非常勤講師
 - ・福岡大学医学部 非常勤講師
 - ・帝京大学医学部 特別講義講師
 - ・御茶の水女子大学大学院人間文化研究科 客員教授
 - ・国立大学法人大阪外国語大学外国語学部 非常勤講師
 - ・天使大学大学院看護栄養学研究科 非常勤講師
 - ・慶應義塾大学医学部 非常勤講師
 - ・学校法人香川栄養学園女子栄養大学大学院 客

員教授

- ・東京大学医学部 (東京) 非常勤講師

- 7) 由田克士:
 - ・仁愛女子短期大学 非常勤講師
 - ・金沢医科大学 非常勤講師
- 8) 熊江隆:
 - ・日本体育大学 非常勤講師
- 9) 西牟田守:
 - ・埼玉医科大学 非常勤講師
- 10) 宮地元彦:
 - ・静岡県立大学食品栄養科学部 運動生理学担当
非常勤講師
- 11) 梅垣敬三:
 - ・十文字女子大学 非常勤講師
- 12) 三戸夏子:
 - ・川崎市立看護短期大学 非常勤講師
 - ・日本女子大学 非常勤講師
- 13) 高田和子:
 - ・新潟医療福祉大学 非常勤講師
- 14) 藤井康弘:
 - ・神戸女子短期大学 非常勤講師
 - ・徳島大学医学部 非常勤講師
- 15) 矢野友啓:
 - ・千葉大学医学薬学府 非常勤講師
- 16) 三好美紀:
 - ・聖母大学 非常勤講師
 - ・県立広島大学 非常勤講師

(3) その他

- 1) 佐々木敏:
 - ・共同研究員. 大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所 (京都) 2006.
- 2) 田畑泉:
 - ・筑波大学先端学際領域研究センター (TARA) プロジェクト審査会 委員. 2006.
- 3) 熊江隆:
 - ・財団法人日本産業廃棄物処理振興センター 非常勤講師. 2006.
- 4) 矢野友啓:
 - ・日本大学大学院博士論文審査委員. 2006.
 - ・Van Andel Research Institute (Grand Rapids, MI, USA) Visiting Scientist
- 5) 門脇孝:
 - ・東京大学大学院医学系研究科代謝栄養病体学 (糖尿病・代謝内科) 教授
 - ・東京大学医学部附属病院 副病院長
- 6) 熊江隆:
 - ・財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター 非常勤講師. 継続 (2006年5月) 2006.

8. 国際貢献

(1) 国際会議への対応・出席

- 1) 渡邊昌:

- ・International Research and Development on Isoflavone & Equol Steering Committee. Chairman. 2006.

- ・わが国における生活習慣病対策に関する政策の動向. Japan-WHO International Program on NCD Prevention and Control. 2006, 和光.

- 2) 吉池信男:
 - ・Workshop on the Implementation of the Global Strategy on Diet and Physical Activity and Health in Asian Countries, WHO. 2006.10.12, Manila
- 3) 山田和彦:
 - ・FAO/WHO 合同コーデックス会議第 28 回栄養・特殊用途食品部会出席. 2006, チェンマイ、タイ王国.
- 4) 西牟田守:
 - ・Estimated average requirements for calcium and magnesium. -Data from human balance studies- International Symposium on Health Aspects of Calcium and Magnesium in Drinking Water. 2006, Baltimore, Maryland, USA.
- 5) 三好美紀:
 - ・WHO/UNICEF Workshop on the New Child Growth Standards for Children under Five. 2006, Tagaytay City, Philippines.

(2) その他

- 1) Osaka T:
 - ・博士論文審査員. Banaras Hindu University. 2006, Varanasi, India.

9. 特許等の取得

(1) 特許の取得

- 1) 梅垣敬三:
 - ・「葉酸含有組成物及び葉酸の安定化方法」特願番号: 2005-127014
- 2) 山田晃一:
 - ・「抗癌剤」特願番号: 2006-78807. 2006.
- 3) 田畑泉:
 - ・「糖尿及び高血糖の予防治療用飲料食品」特願番号: 2006-217454
- 4) 門脇孝:
 - ・「アディポネクチン受容体遺伝子欠損非ヒト動物およびその用途」(特許) 2006.10
- 5) 奥山齊, 川端吉広, 片山権一, 江崎治, 笠岡(坪山) 宣代:
 - ・「体脂肪の蓄積に起因する疾患の治療剤」特願番号: 2006-33598 で平成 18 年 12 月 15 日に出願 (特許出願人: 研光通商株式会社) 2006.
- 6) 山崎聖美, 江崎治:
 - ・「肝臓トリグリセリド濃度低下剤」特願番号: 2007-19573 で平成 19 年 1 月 30 日に出願. 2007.

4. 資 料

(1) 独立行政法人国立健康・栄養研究所中期目標

独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 29 条第 1 項の規定に基づき、独立行政法人国立健康・栄養研究所が達成すべき業務運営に関する目標（以下「中期目標」という。）を次のとおり定める。

平成 18 年 3 月 1 日

厚生労働大臣 川崎二郎

(前文)

独立行政法人国立健康・栄養研究所（以下「研究所」という。）は、人々の栄養・食生活、運動と健康との関わりについて、基礎から応用に至るまでの調査及び研究を包括的かつ国際的な水準で行い得る試験研究機関であることから、国民の健康・栄養状態及び QOL（生活の質）の向上に直接あるいは間接的に寄与することのできる調査及び研究を効率的に行い、国民の健康と福祉のために貢献することが重要である。

そのため、特にヒトを対象とした研究に関して、わが国の大学・研究機関の中心的存在として、総合的・統合的な研究を推進するとともに、研究者を育成する役割を果たすことを求める。

また、厚生労働行政上の重要な健康・栄養施策を推進する上で不可欠な科学的根拠を質の高い研究によって示し、それらを専門的立場から要約して発信するとともに、健康科学・栄養学領域において、アジア地域への貢献を含め、国際的なリーダーシップを担うことを期待する。

第 1 中期目標の期間

独立行政法人通則法（以下「通則法」という。）第 29 条第 2 項第 1 号の中期目標の期間は、平成 18 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日までの 5 年間とする。

第 2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

通則法第 29 条第 2 項第 3 号の国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項は、次のとおりとする。

1. 研究に関する事項

(1) 重点調査研究に関する事項

研究所の独自性を発揮するとともに、厚生労働省における健康づくり施策に必要な不可欠な科学的知見を蓄積し、発信することを目的として、以下の分野に特化・重点化して研究を行うこと。

- ア 生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究
- イ 日本人の食生活の多様化と健康への影響に関する栄養疫学的研究
- ウ 「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価

及び健康影響評価に関する調査研究

(2) 重点調査研究以外の調査研究に関する事項

- ア 科学技術基本計画（仮称）に沿って、研究機関として独自性の高い基礎的・応用的研究を行うこと。
- イ 研究の成果をより広く社会に還元するために、食育推進基本計画（仮称）に資する調査研究を推進し、専門家（管理栄養士等）への情報提供を行うこと。

(3) 研究水準及び研究成果等に関する事項

- ア 健康・栄養に関する施策、ガイドライン等の科学的根拠につながる質の高い研究を行い、研究成果を論文等を通じて社会に発信・還元を行うこと。
- イ 調査・研究の成果を社会に還元するために、知的財産権の取得・開示を行うこと。
- ウ 健康・栄養関連の専門家を対象としたセミナー、一般向けの講演会等を開催すること。
- エ 研究所の一般公開を実施するとともに、中学校・高等学校等からの見学にも積極的に応じること。

(4) 研究実施体制等の整備に関する事項

- ア 独立行政法人という組織形態の利点を最大限活かした研究資金等の運用及び人的資源の配置により、研究・業務の効率化を図ること。
- イ 国内外の産業界を含む健康・栄養・食品関係の機関との共同研究の拡充等を目的として、研究所研究員の派遣及び他機関等の研究員の受入れをより積極的に行うこと。
- ウ 大学及び民間企業等との連携・協力により、研究者の交流を進め、人材の養成と資質の向上を図ること。
- エ 調査及び研究の円滑な実施が図られるよう、適切な措置を講ずるとともに、他機関との共同研究及び受託研究において、双方の研究施設及び研究設備の稼働状況に応じた共同利用を図ること。

2. 法律に基づく業務、社会的・行政ニーズ、国際協力等に関する事項

(1) 健康増進法に基づく業務に関する事項

- ア 国民健康・栄養調査の実施に関する事務のうち、集計事務については、「健康日本 21」、都道府県健康増進計画等の政策ニーズに適時対応して、迅速かつ効率的に集計を行うこと。
- また、外部委託のより積極的な活用、高度集計・解析システムの活用等により効率化を図る。

イ 厚生労働省が取去した特別用途表示及び栄養表示がなされた食品の試験業務を的確に実施する。また、特定保健用食品の関与成分等、新たな食品成分の分析技術及びそれらの分析に用いる食品成分の標準品等を規格化すること。

(2) 社会的・行政ニーズへの対応に関する事項

ア 関連機関等と定期的な情報交換の場を設け、社会的・行政ニーズを把握すること。

イ ホームページ等を通じて国民からのニーズを把握すること。

(3) 国際協力、産学連携等対外的な業務に関する事項

ア 国際栄養協力体制を充実強化し、特にアジア地域における国際貢献と学術的ネットワークの構築を行うことにより、国際社会における役割を果たすこと。

イ 産学連携推進機能の強化、寄附研究部門の充実等により、産学連携をより一層進め、研究成果の社会への還元と知的財産の獲得を目指すこと。

(4) 栄養情報担当者 (NR) 制度に関する事項

栄養情報担当者 (以下「NR」という。) が社会的役割を果たすことができるよう、研修や情報提供等を通じてその質的向上を図るとともに、実際の業務内容のモニタリング等を行い、制度や研究所の関与のあり方について検討すること。

3. 情報発信の推進に関する事項

- (1) 研究所として総合的な情報発信を行うための体制を強化し、対外的な業務の推進を図ること。
- (2) 研究所の活動状況に関する情報をホームページを介して広く公開すること。
- (3) 研究所の諸活動及び研究業績については、研究所報告やニュースレターの刊行及び電子メディアでの配信により公開すること。
- (4) 研究所の諸規程、職員の公募等、必要な情報開示は、ホームページ等を活用し積極的に行うこと。

第 3 業務運営の改善及び効率化に関する事項

通則法第 29 条第 2 項第 2 号の業務運営の効率化に関する事項は次のとおりとする。

1. 運営体制の改善に関する事項

- (1) 研究所の意思決定と運営を機動的かつ効率的に行うことができるよう、役員組織と研究部門及び事務部門との間の連絡を密にし、執行体制を強化すること。
- (2) 研究企画及び評価に関わる機能及び体制の強化を図り、研究業務の包括的、計画的な実施を進めること。
- (3) 業務の確実な実施のため、各研究・業務に関する内部進行管理及び評価を行うこと。
- (4) 法人運営に関して透明性を確保するとともに、国民に向けての説明責任を全うするため、広報体制を強化し、迅速な情報公開に努めること。
- (5) 外部資金の獲得に積極的に取り組むとともに、経費節減や現況資源の有効利用を進めること。

2. 研究・業務組織の最適化に関する事項

- (1) 業務効率化の観点から、研究部組織体制の見直しを行い、その最適化を図ること。
- (2) 他機関との連携・交流を強化し、組織の活性化を目指すこと。

3. 職員の人事の適正化に関する事項

- (1) 重点的に行う研究及び法律に基づく業務に対して適切に職員を配置し、効率的に研究業務を行うこと。
- (2) 研究職員の個人評価の結果を昇級・昇任等、給与面に反映させること。
- (3) 研究職員の流動化計画に沿って原則公募制・任期制により採用を行い、研究者層の向上を図ること。
- (4) 事務職員についても適切に評価を行い、資質の向上と業務の効率化を図ること。

4. 事務等の効率化・合理化に関する事項

- (1) 業務の効率化を図るため、事務書類の簡素化、電子化、事務作業の迅速化を進めるとともに、定型的な業務でアウトソーシング可能なものについては外部委託を行うこと。
- (2) 事務職員については、研修会やマネジメントセミナー等を通じ、研究所経営への参加意識を高めるとともに、業務意識の高揚を図ること。
- (3) 業務の効率化を図るため、業務・システムの最適化を図ること。

5. 評価の充実に関する事項

- (1) 毎年度内部評価委員会において、主要な研究業務に関して内部評価を実施すること。
- (2) 第三者による外部評価委員会により、年度計画の事前及び事後評価を行うこと。
- (3) 評価に関する結果は、ホームページで公開すること。
- (4) 研究職員について自己点検・評価を行うとともに、できるだけ客観的な指標に基づく評価を毎年実施すること。

6. 業務運営全体での効率化

一般管理費 (運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。人件費は除く。) については、中期目標期間の最終年度までに、平成 17 年度を基準として 10% 以上の削減を達成すること。

人件費については、「行政改革の重要方針」(平成 17 年 12 月 24 日閣議決定) を踏まえ、平成 18 年度以降の 5 年間において、国家公務員に準じた人件費削減の取組を行うこと。

併せて、国家公務員の給与構造改革を踏まえ、給与体系の見直しを進めること。

業務経費 (運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。) については、中期目標期間の最終年度までに、平成 17 年度を基準として 5% 以上の削減を達成すること。

第 4 財務内容の改善に関する事項

通則法第 29 条第 2 項第 4 号の財務内容の改善に関する事項は、次のとおりとする。

1. 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する事項

- (1) 運営費交付金以外の競争的研究資金の積極的獲得を図ること。
- (2) 各種研究から生じる知的財産（特許権等）の有効活用及び研究成果の社会への還元を目的とした出版等を行うことにより、自己収入の増加を図ること。

2. 経費の抑制に関する事項

- (1) 各部門において、常勤職員の人件費も含めたコスト管理を四半期毎に行い、効率的な資金の運用とコスト意識の向上を図ること。

- (2) 研究業務の集約化、アウトソーシング等により人的資源の有効活用並びに経費の節減を図るとともに、業務運営に係る経常的経費の削減を図ること。

第5 その他の業務運営に関する重要事項

通則法第29条第2項第5号のその他の業務運営に関する重要事項は、次のとおりとする。

(1) セキュリティの確保

情報セキュリティの強化と利用者への情報提供等の利便性の向上を図ること。

(2) 独立行政法人国立健康・栄養研究所中期計画

独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 29 条第 1 項の規定に基づき、平成 18 年 3 月 1 日付けをもって厚生労働大臣から指示のあった独立行政法人国立健康・栄養研究所中期目標を達成するため、同法第 30 条の規定に基づき、次のとおり、独立行政法人国立健康・栄養研究所中期計画を作成する。

平成 18 年 4 月 1 日

独立行政法人国立健康・栄養研究所
理事長 渡邊 昌

(前文)

独立行政法人国立健康・栄養研究所（以下「研究所」という。）は、人々の健康・栄養状態及び QOL（生活の質）の向上への貢献という目的を踏まえ、短期的・中期的・長期的な視点から重点的に行う研究課題を選択するとともに、研究所の社会的役割を踏まえつつ、独自性の高い研究や将来に向けて発展が期待される萌芽的・創造的な研究の推進に努める。

第 1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項を達成するための措置

1. 研究に関する事項を達成するための措置

(1) 重点調査研究に関する事項を達成するための措置

研究所の独自性を発揮するとともに、厚生労働省における健康づくり施策に必要不可欠な科学的知見を蓄積し、発信することを目的として、以下の分野に特化・重点化して研究を行う。

ア 生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究

運動・身体活動による生活習慣病の一次予防、食事と遺伝的因子の相互作用の解明並びに運動と食事とによるテーラーメイド予防法に関して、ヒトを対象とした試験、動物や細胞等を用いた実験を行う。特に糖尿病及びメタボリックシンドロームの一次予防に資する調査及び研究に特化・重点化する。

- a 運動・身体活動による生活習慣病予防、運動と食事指導の併用を行った場合の効果等について、実験的、疫学的な調査及び研究を行う。これにより食事摂取基準、運動基準等を作成するための科学的根拠の提示を行う。
- b 遺伝子改変動物を用いて、運動や食事指導によってメタボリックシンドローム及び生活習慣病がいかにかに予防されるのかを、遺伝子解析等による分子レベルでの機序解明を試み、運動と食事指導による生活習慣病のテーラーメイド予防法の開発に資する科学的根拠を提示する。
- c ヒトを対象として、基礎代謝量と遺伝素因の相互作用や遺伝子多型と各栄養素摂取量、身体活動量等との関係を明らかにし、生活習慣病発症の遺伝、環境リスクの相互関係を解明する。

イ 日本人の食生活の多様化と健康への影響に関する栄養疫学的研究

日本人の食生活の多様性を科学的に評価するための指標及び調査手法を開発し、それが健康に及ぼす影響について疫学的な調査及び研究を行う。特に日本人の食事摂取基準等の科学的根拠となるデータの蓄積と「健康日本 21」の評価への応用という点を重点目標とする。

- a 栄養に関する実践において最も基本的かつ重要な指針である「食事摂取基準」について、平成 20 年度に予定される改定作業に向け、系統的レビューを平成 19 年度まで重点的に行う。また、今後の改定に向けて、ヒトを対象とした疫学的研究及び基本的情報の収集等を継続的に行う。
- b 「健康日本 21」推進のためには、効果的な運動・食事指導プログラムの開発と普及や、国及び地方自治体での適切な指導効果の評価の実施等が重要であることから、これらの手法の開発、国民健康・栄養調査の機能強化及びデータ活用に資する検討を行う。

ウ 「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究

「健康食品」に含まれる食品成分の有効性及び健康影響に関して、実社会における使用実態等を把握するとともに、ヒトに対する影響を評価する手法を開発する。その結果を幅広く公開し、「健康食品」に関わるリスクコミュニケーションに資するデータベースの更新及び充実を継続して行う。

- a 保健機能食品等の健康志向に基づく食品の使用実態等の情報を収集・把握し、栄養表示及び健康表示の側面から、健康影響について調査検討する。また、栄養素以外の食品成分から広く健康影響を持つ食品素材をスクリーニングして、そのヒトにおける有効性評価について細胞モデル及び動物モデルを用いて検討する。
- b 「健康食品」に関する正しい知識の普及と健康被害の未然防止並びに拡大防止を目的に、公正で科学的な健康食品の情報を継続的に収集・蓄積し、幅広く公開する。

(2) 重点調査研究以外の調査研究に関する事項を達成するための措置

ア 研究所の研究能力を向上させ、将来、その応用・発展的な展開を可能とするために、関連研究領域における基礎的・独創的・萌芽的研究を行う。

イ コホートを設定し、介入研究による栄養教育の成果を研究する。食育及び栄養ケアマネジメントに関

して、行政、他機関と協力してエビデンス作りを図る。また、管理栄養士等保健従事者の教育及び情報の提供方法を研究する。

(3) 研究水準及び研究成果等に関する事項を達成するための措置

ア 論文、学会発表等の促進

調査及び研究の成果の普及を図るため、学術誌への学術論文の投稿、シンポジウム、学会等での口頭発表を行う。

これらについては、中期目標期間内に、学術論文の掲載を 250 報以上、口頭発表を 750 回以上行う。

なお、口頭発表は、海外においても積極的に行う。

イ 知的財産権の活用

調査及び研究の成果については、それらが知的財産につながるかどうかのスクリーニングを行い、中期目標期間内に 20 件以上の特許出願を行う。

取得した特許権の実施を図るため、特許権情報のデータベースをホームページ上に公開する。

また、非公務員化の利点を活用し、研究所が所有する知的財産の活用、又は所有する情報等を用いた共同研究を民間企業及び大学等と積極的に行うこととし、毎年 2 件以上の増加を目標とする。

ウ 講演会等の開催

健康・栄養関連の専門家向けのセミナー、幅広い人々を対象とした講演会等をそれぞれ年 1 回以上開催し、調査及び研究の成果を社会に還元する。

また、関係団体が実施する教育・研修プログラムへの職員の派遣を積極的に推進する。

一般及び専門家からの電話、メール等による相談を受けるとともに、それらの相談に適切に対応する。

エ 開かれた研究所への対応

幅広い人々に研究所の業務について理解を深めてもらうことを目的に、年 1 回オープンハウスとして研究所を公開する。

また、健康と栄養に興味を抱かせ、将来、栄養学研究を担う人材の育成に資するよう、「総合的な学習の時間」による中学・高校生等の見学を積極的に受け入れる。

(4) 研究実施体制等の整備に関する事項を達成するための措置

ア 研究・業務の効率的な実施という観点から、研究員、研究補助員の配置を戦略的に行う。

研究所として重点的に実施すべき調査及び研究並びに法律に基づく業務については、研究業務費を適切に配分し、確実な業務の執行に努める。

イ 民間企業、大学、他の研究機関等との間で従前から実施している共同研究に加え、新たな共同研究等を積極的に推進するため、民間企業、大学等へ研究所研究員を派遣するとともに、資質の高い研究員を受け入れる。

ウ 連携大学院、民間企業及び各種研究機関等から研究員を年間 20 名程度受け入れ、研究所が所有する情報・技術等を提供するとともに、研究員を広く大学院や関係機関等に年間 5 名程度派遣し、研究所の持

つ情報・技術等を社会に還元する。

また、国内外の若手研究員等の育成に貢献するため、博士課程修了者、大学院生、他機関に属する研究員等を継続的に受け入れるための体制の充実を図る。また、連携大学を増やし、兼任教授の派遣を行うとともに、若手研究員の指導・育成を行うため、求めに応じ、研究所研究員を他機関へ派遣する。

エ 施設・設備について、自らが有効に活用するとともに、「独立行政法人国立健康・栄養研究所設備等利用規程」に基づき、大学、他研究機関による共同研究等での外部研究者等の利用に供する。

2. 法律に基づく業務、社会的・行政ニーズ、国際協力等に関する事項を達成するための措置

(1) 健康増進法に基づく業務に関する事項を達成するための措置

ア 国民健康・栄養調査の集計事務については、政策ニーズに対応した迅速かつ効率的な集計を行う。具体的には、当該年度の集計事務を調査票のすべてを受理してから 7 ヶ月を目途（ただし、調査項目に大幅な変更が生じない場合に限る。）に行う。

また、外部委託、高度集計・解析システムの活用等により、効率的な集計を行うことにより、経費の削減を図る。

さらに、都道府県等が行う健康・栄養調査に対する支援を含めて関連する技術的な事項について、研究所がより積極的に対応する。

特に、平成 22 年度に行われる都道府県等健康増進計画の最終評価に向けて、調査結果の活用、評価手法等について、平成 20 年度までに重点的に技術支援を行う。

イ 厚生労働省が収去した特別用途食品及び栄養表示がなされた食品の試験業務を的確かつ迅速に実施する。

特別用途食品の許可に係る試験業務について、分析技術が確立している食品成分の試験業務は、検体の受理から試験の回答までを 2 ヶ月以内に行うことを目指す。

また、分析技術の確立していない特定保健用食品の関与成分等の新たな食品成分への技術的対応については、他登録試験機関での応用も可能な分析技術の規格化及び当該食品成分の標準品の開発の実現を図る。

(2) 社会的・行政ニーズへの対応に関する事項を達成するための措置

ア 健康・栄養に関連する団体、大学、民間企業等から直接的に研究所に対する要望等を伺う機会を年 6 回程度設け、社会的ニーズを把握する。さらに、業務関連行政部局との間で、定期的な情報及び意見等を交換する場を設け、行政ニーズを把握する。

また、国、地方自治体、国際機関等より、専門的な立場からの技術的な協力、指導等の求めには積極的に応じて研究員を派遣し、研究所における調査及び研究の成果が適切に施策等に反映できるよう努める。

イ 研究所に対する意見、要望等をホームページやセ

ミナー等の参加者を通じて把握し、その内容を検討し、可能な限り業務に反映させる。

(3) 国際協力、産学連携等対外的な業務に関する事項を達成するための措置

ア アジア諸国との間で、栄養調査、栄養改善及び健康づくり等に関する共同研究において中心的な役割を果たすとともに、WHO 西太平洋地域における協力センターの設置(平成 19 年度を目途)に向けての準備を行う。

また、研究者養成及び共同研究の促進を図るため、「国際栄養協力若手外国人研究者招へい事業」により、年間 2 名程度の若手研究者に研究所での研修機会を提供するとともに、アジア地域の研究者を交えたシンポジウムの開催等を行い、アジア地域における栄養学研究基盤の強化に寄与する。

イ 民間企業、大学等の複合的な連携を強化するとともに、寄附研究部門の充実を図る。

これにより、研究所の研究成果と社会ニーズの橋渡し、新たな展開・応用を図るとともに、知的財産の獲得を積極的に行う。

(4) 栄養情報担当者(NR)制度に関する事項を達成するための措置

栄養情報担当者(以下「NR」という。)が、保健機能食品等の利用に関して、消費者に適切に情報を提供し、消費者が気軽に相談できる者となるよう、研修や情報提供等を通じてその質的向上を図る。

また、中期目標期間開始より 3 年以内に、NR の実際の業務内容、社会でのあり方についてモニタリングを行う。この結果に基づき、制度のあり方や研究所の係わりについて検討を行い、中期目標期間終了までに結論を得る。

NR 事務業務について、効率的かつ確かな業務が実施できるよう見直しを行う。また、外部委託が可能な業務については、アウトソーシングを行う。

3. 情報発信の推進に関する事項を達成するための措置

- (1) 研究所として総合的な情報発信を行うとともに、対外的な業務の推進を図るための組織整備を行う。
- (2) ホームページに研究所の活動状況を積極的に配信し、ホームページの掲載内容をより充実させる。ホームページアクセス件数は、中期目標期間中、毎年 50 万件程度を維持させる。
- (3) 研究所の諸活動及び研究業績については、毎年度 1 回研究報告としてとりまとめるとともに、最新の研究成果やトピックス等を紹介したニュースレターを年 4 回刊行する。また、これらについては、ホームページ上で公開するとともに、電子メディアでの配信も行う。
- (4) 研究所の諸規程、職員の公募等、必要な情報開示は、ホームページ等を活用し積極的に行う。

第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項を達成するための措置

1. 運営体制の改善に関する事項を達成するための措置

- (1) 研究所の意思決定と運営を機動的かつ効率的に行うことができるよう、役員組織と研究部門及び事務部門との間の連絡調整を密にし、執行体制を強化する。
また、研究所運営に対する研究所職員の意識を高めるため、研究所運営に関する必要な情報の共有化を図る。
- (2) 研究部門間での連携を強め、異なる研究分野からの情報や研究手法を積極的に利用して戦略的な事業の立案・実施を図る。
- (3) 調査及び研究業務の効率的かつ確実な推進を図るため、所内報告会等により各業務の進捗状況を把握し、適切な評価を行い、その結果を計画的・効率的な業務の遂行に反映させる。
また、所内イントラネットを活用し、業務の進捗状況管理等の効率化を図る。
- (4) 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成 13 年法律第 140 号)に則り、積極的な情報公開を行う。
- (5) 研究所の経営基盤の安定化のため、外部資金の獲得に積極的に取り組むとともに、経費の節減や研究所の所有する設備等の有効利用を進める。

2. 研究・業務組織の最適化に関する事項を達成するための措置

- (1) 研究所が中期計画の中で重点的に行う調査及び研究並びに法律に基づく業務に関して、業務量や集散的に遂行すべき時期等を勘案しながら研究及び業務チームを組織する。
非公務員型の利点を生かして柔軟に組織の見直し・改編を行うこととし、従来の部体制から中期目標に掲げる業務を行うためのプログラム等を設け、各々が独立した形での業務運営を行う。
また、組織の見直し・改編後、毎年、その効果を検証する。
- (2) 民間企業、大学等との連携・交流を積極的に行い、研究員の交流を進め、人材の養成と資質の向上に努めることにより、組織の活性化を図る。

3. 職員の人事の適正化に関する事項を達成するための措置

- (1) 重点的に行う研究及び法律に基づき実施すべき業務については、業務運営の効率性を勘案しながらも、必要な人員を十分に担保した上で組織体制を構築する。
- (2) 非公務員型への移行のメリットを最大限に活かした柔軟な人事システムを構築し、研究職員の個人評価の結果を昇級・昇任等の処遇及び給与面に反映させる。
- (3) 研究員の採用に当たっては、「独立行政法人国立健康・栄養研究所における研究者の流動化計画」に沿って、原則として公募制、任期付の採用を行う。研究所が重点的に推進する調査及び研究業務が着

実に成果が挙げられるよう、資質の高い人材を広く求める。また、資質の高い人材については、任期中の実績評価に基づき、任期を付さない形での採用を行う。

さらに、外国人及び女性研究者が業務に従事しやすい環境づくりを推進し、外国人及び女性職員の採用も可能な限り行う。

- (4) 事務職員の質の向上を図るため、研究員と同様に評価を行うこととし、その評価システムとして自己評価による評価を行い、その結果を昇給・昇任等に反映する。

※人事に関する指標

期末の常勤職員数は、期初の100%を上限とする。

- (参考1) 期初の常勤職員数 47名
 期末の常勤職員数 47名(以内)
 (参考2) 中期目標期間中の人件費総額
 2,335百万円(見込)

ただし、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当、休職者給与及び国際派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

4. 事務等の効率化・合理化に関する事項を達成するための措置

- (1) 研究組織体制の見直しに併せて、業務の効率化を図るため、事務部門の組織を見直す。この際、事務部門に研究員の研究成果の積極的な活用や、対外的な業務を担う業務課(仮称)を設け、研究員が最大限の成果を得られるようにする。
 また、権限の明確化及び決裁プロセスの短縮化により、意志決定の迅速化を図るとともに、事務作業の迅速化、事務書類の簡素化、電子化等を進める。さらに、定型的な業務でアウトソーシング可能なものについては外部委託を進める。
- (2) 事務職員については、研究所で働く者として必要な法令・知識を習得するための各種研修会やセミナー等への参加を充実させ、職員が働きやすく自己能力を最大限発揮できるような職場環境の整備を推進する。
 これにより、研究所経営への参加意識を高め、業務の質の向上及び効率化の一層の推進を図る。
- (3) 業務の効率化を図るため、業務・システムの最適化を図る。

5. 評価の充実に関する事項を達成するための措置

- (1) 毎年度内部評価委員会を開催し、主要な研究業務に関して、内部評価を実施し、研究業務の確実な実施及び効率化に資する。
- (2) 柔軟かつ競争的で開かれた調査及び研究環境の実現や経営資源の重点的・効率的配分に資するため、外部の専門家等の評価者による外部評価を毎年度2回程度実施する。
- (3) 内部及び外部評価結果は、ホームページ上で公表するとともに、組織や施設・設備の改廃等を含めた予算・人材等の資源配分に反映させる等、調査及び研究活動の活性化・効率化に積極的に活用する。
- (4) 研究員については、自己点検・評価を行うとともに

に、可能な限り客観的な指標に基づき評価を行う。また、理事長は自ら全研究員との面談を行い、適切かつ公平な評価を行う。

さらに、評価の結果は各職員にフィードバックするとともに、所内イントラネットを活用して、各研究の研究業績を公開し、評価の透明性の確保に努める。

6. 業務運営全体での効率化を達成するための措置

一般管理費(運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。人件費を除く。)については、中期目標期間中、毎年度、2%以上削減し、中期目標期間の最終年度までに、平成17年度を基準として10%以上の削減を達成する。

人件費については、「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)を踏まえ、中期目標期間の最終年度までに平成17年度を基準として5%以上の削減を達成する。

併せて、国家公務員の給与構造改革を踏まえ、給与体系の見直しを行う。

業務経費(運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。)については、中期目標期間中、毎年度、1%以上削減し、中期目標期間の最終年度までに、平成17年度を基準として5%以上の削減を達成する。

第3 財務内容の改善に関する事項を達成するための措置

1. 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する事項を達成するための措置

- (1) 運営費交付金以外の競争的研究資金の積極的な獲得を図り、外部研究資金、その他の競争的資金の募集等に積極的に参加し、その増加に努める。
- (2) 各種研究から生じる知的財産(特許権等)の有効活用並びに研究成果の社会への還元を目的とした出版等を行うことにより、自己収入の確保につなげる。
 また、「独立行政法人国立健康・栄養研究所施設・設備等利用規程」に基づき、地域住民等への施設開放を行い、研究所の設備等の効率的な利用に努め、併せて自己収入の増加に寄与する。

2. 経費の抑制に関する事項を達成するための措置

- (1) 各部門において、常勤職員の人件費を含めたコスト管理を四半期毎に行い、効率的な資金の運用とコスト意識の向上を図る。
- (2) 研究業務の集約化、アウトソーシング等により人的資源の有効活用並びに経費の削減を図るとともに、業務運営に係る経常的経費についても、法令集の追録購入中止等により削減を図る。

第 4 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1. 予算
別紙 1 のとおり。
2. 収支計画
別紙 2 のとおり。
3. 資金計画
別紙 3 のとおり。

第 5 短期借入金の限度額

1. 限度額
100,000,000 円
2. 想定される理由
ア 運営費交付金等の受入れの遅延等による資金の不足
イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給
ウ その他不測の事態により生じた資金の不足

第 6 重要な資産を譲渡、又は担保に供するときは、その計画

該当なし。

第 7 剰余金の使途

- ア 研究環境の整備に係る経費
- イ 職員の資質向上に係る経費
- ウ 知的財産管理、技術移転に係る経費 等

第 8 その他の業務運営に関する重要事項を達成するための措置

- (1) セキュリティの確保
情報システムに係る情報のセキュリティの確保に努める。
- (2) 施設及び設備に関する計画
該当なし。
- (3) 積立金処分に関する事項
該当なし。

別紙 1
 中期計画（平成 18 年度～平成 22 年度）の予算

（単位：百万円）

区 別	金 額
収入	
運営費交付金	4,170
手数料収入	60
受託収入	758
栄養情報担当者事業収入	189
寄附金収入	160
雑収入	21
計	5,359
支出	
人件費	2,908
うち 基本給等	2,606
退職手当	302
一般管理費（光熱水料、図書館関係経費等）	458
業務経費	825
国民健康・栄養調査に関連するサーベイランスプログラム	65
食品収去試験等業務	59
栄養疫学プログラム	88
健康増進プログラム	85
臨床栄養プログラム	39
基礎栄養プログラム	61
食品保健機能プログラム	49
創造的研究	95
国際栄養協力事業	49
健康食品安全情報ネットワーク事業	126
健康栄養情報事業	109
受託経費	1,167
特別用途食品表示許可試験費	60
受託経費	758
栄養情報担当者事業経費	189
寄附研究事業費	160
計	5,359

〔人件費の見積り〕 期間中総額 2,335 百万円を支出する。

ただし、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当、退職者給与及び国際派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

〔運営費交付金の算定ルール〕：別紙 1-1

（注）単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

別紙 1-1

運営費交付金の算定ルール

1. 平成 18 年度

平成 18 年度は、平成 17 年度運営費交付金の額に各経費にかかる効率化係数に基づき算出し、非公務員化に伴う新たな経費を加え、合理化額を減額し算出した。

2. 平成 19 年度以降

次の算定式による。

$$\text{運営費交付金} = \text{人件費} + \text{一般管理費} + \text{業務経費} + \text{特殊要因} - \text{自己収入}$$

○ 人件費 = 当該年度基本給等 (A) + 退職手当 (S)

A : 基本給、諸手当、共済組合負担金等の人件費 (退職手当を除く) をいい、次の式により算出する。

$$A = \{[(P1 \times \alpha \times \beta) + (P2 \times \beta) + P3] \times \gamma 1\} + (P4 \times \gamma 2)$$

A : 当該年度基本給等

P1 : 前年度の基本給中昇給及び給与改定の影響を受けるもの
(労働保険料を除く)

P2 : 前年度の基本給中給与改定の影響を受けるもの

P3 : 前年度の基本給中昇給及び給与改定の影響を受けないもの

P4 : 労働保険料

α : 運営状況等を勘案した昇給原資率

β : 運営状況等を勘案した給与改定率

$\gamma 1$: 効率化係数 (人件費 (労働保険料を除く))

$\gamma 2$: 効率化係数 (労働保険料)

○ 一般管理費 = (一般管理費 (B) $\times \gamma 3 \times \delta$)

B : 前年度一般管理費

$\gamma 3$: 効率化係数 (一般管理費)

δ : 消費者物価指数

○ 業務経費 = (業務経費 (C) $\times \gamma 4 \times \delta$)

C : 前年度業務経費

$\gamma 4$: 効率化係数 (業務経費)

δ : 消費者物価指数

○ 特殊要因 = 法令等の改正等に伴い必要となる措置又は現時点で予測不可能な事由により発生する資金需要であって、毎年度の予算編成過程において決定する。

○ 自己収入 = 知的財産権収入、印税収入等の直接事業を実施しない収入について、過去の実績を勘案し決定する。

〔注記〕

1. α 、 β 、 δ については、各年度の予算編成過程において、当該年度における計数値を決める。

2. 中期計画全般にわたる予算の見積に際しては、

① 人件費のうち、退職手当については、定年退職者見込みによる。

② α 、 β 、 δ については、伸び率を 0 と仮定した。

③ $\gamma 1$ (人件費の効率化係数) については、節減額 5% 分を▲1.02% と仮定した。但し、労働保険料については、節減額 5% 分を平成 19 年度から 4 年で節減することから▲1.35% と仮定した。

④ $\gamma 2$ (一般管理費の効率化係数) については、節減額 10% 分を▲2.1% と仮定した。

⑤ $\gamma 3$ (業務経費の効率化係数) については、節減額 5% 分を▲1.02% と仮定した。

⑥ 自己収入額については、平成 18 年度については平成 16 年度実績と同額とし、平成 19 年度以降は平成 17 年度の実績見込を基準とし、毎年一定額を増額させ算出した。

別紙 2
平成18～22年度収支計画

(単位：百万円)

区 別	金 額
費用の部	5,444
經常費用	5,444
人件費	2,908
うち 基本給等	2,606
退職手当	302
一般管理費（光熱水料、図書館関係経費等）	458
業務経費	825
国民健康・栄養調査に関連するサーベイランスプログラム	65
食品収去試験等業務	59
栄養疫学プログラム	88
健康増進プログラム	85
臨床栄養プログラム	39
基礎栄養プログラム	61
食品保健機能プログラム	49
創造的研究	95
国際栄養協力事業	49
健康食品安全情報ネットワーク事業	126
健康栄養情報事業	109
受託経費	1,167
特別用途食品表示許可試験費	60
受託経費	758
栄養情報担当者事業経費	189
寄附研究事業費	160
減価償却費	85
収益の部	5,444
運営費交付金収益	4,170
手数料収入	60
受託収入	758
栄養情報担当者事業経費	189
寄附研究事業費	160
雑収入	21
資産見返物品受贈額戻入	2
資産見返運営費交付金戻入	83
純利益	—
目的積立金取崩額	—
総利益	—

〔注記〕当法人における退職手当については、役員退職手当支給基準及び国家公務員退職手当法（昭和28年法律第182号）に準じて支給することとなるが、その全額について運営費交付金を財源とするものと想定している。

（注）単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

別紙 3

平成 18～22 年度資金計画

(単位：百万円)

区 別	金 額
資金支出	5,359
業務活動による支出	5,359
投資活動による支出	0
資金収入	5,359
業務活動による収入	5,359
運営費交付金による収入	4,170
手数料収入	60
受託収入	758
栄養情報担当者事業経費	189
寄附研究事業費	160
雑収入	21
前期中期目標の期間よりの繰越金	0

(注) 単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

(3) 独立行政法人国立健康・栄養研究所年度計画

平成 18 年度の業務運営について、独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 31 条第 1 項の規定に基づき、独立行政法人国立健康・栄養研究所年度計画を次のとおり定める。

平成 18 年 3 月 31 日

独立行政法人国立健康・栄養研究所
理事長 渡邊 昌

第 1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項を達成するための措置

1. 研究に関する事項を達成するための措置

(1) 重点調査研究に関する事項を達成するための措置

ア 生活習慣病予防のための運動と食事の併用効果に関する研究

a 運動・身体活動による生活習慣病予防、運動と食事指導の併用を行った場合の効果等についての研究を行う。

具体的には、①運動基準のバリデーションに関する研究、②閉経後女性を対象にした身体活動（ウォーキング）と食事由来成分摂取による骨密度に対する影響に関する研究、③安全なレジスタンス・トレーニングが中高齢者の筋機能及び骨質消費量に及ぼす影響についての研究を行う。

b 運動の肥満・糖尿病予防機序、脂質（飽和脂肪酸、トランス酸等）や糖質（果糖、蔗糖等）過剰摂取による肥満・糖尿病発症機序について、分子レベルでの研究を行う。

c 肥満や糖尿病などの生活習慣病に、遺伝子多型や栄養素等摂取量・身体活動量などの環境因子が、どの程度寄与しているかについて研究を行う。

イ 日本人の食生活の多様化と健康への影響に関する栄養疫学的研究

a 平成 20 年度に予定される改定作業に向けて、①「日本人の食事摂取基準（2005 年版）」で系統的レビューの追加が必要とされる栄養素を中心とした徹底的な再レビュー作業、②すべての栄養素ならびにエネルギーに関する新規発表論文ならび関連資料の収集・分析、③栄養素摂取量並びにその生体指標の収集を中心とした疫学研究、④ミネラルの必要量に関する出納実験を行い、次回改定のための基礎的資料を得る。

b 効果的かつ実践可能性の高い食事指導プログラムを開発し、地方自治体等と協力して試験運用を行い、利用可能性を評価するとともに、利用者マニュアルを作成する。

ウ 「健康食品」を対象とした食品成分の有効性評価及び健康影響評価に関する調査研究

a 健康志向に基づく多くの食品成分、素材の使用実態等の最新情報を収集・把握し、健康影響健康影響を持つ食品成分を生活習慣病、慢性疾患への応用に焦点を当てる。糖尿病酸化ストレス下における抗動脈硬化性機能性食品成分の研究・開発、

効果的な摂取方法等に関する研究を進め、n-3 系多価不飽和脂肪酸の LDL の酸化、血管内皮細胞傷害、炎症等への影響を検討する。予防が望まれる慢性疾患に対して有効な補完成分の探索を開始するため、重要になる標的遺伝子をスクリーニングする。

b 科学的根拠がある最新の健康食品情報、ならびに国内外の危害情報を継続的に蓄積し、ホームページ上で公開する。

現場の専門家との連携をより積極的に行うため、ホームページ上の既存の情報交換ページを大幅に改良するとともに、専門家の参加を得て、「健康食品」の有効性・安全性についてのワークショップを行う。

また、ホームページ上で健康食品の情報を幅広く公開するためのより効率的なフレームワークを取り入れる。

(2) 重点調査研究以外の調査研究に関する事項を達成するための措置

ア 独創的で、次期中期計画において発展的に展開し得る研究課題のシーズとなるような研究を、所内公募による競争的な環境の下で行う。

その際、外部の専門家を含めた事前・事後の評価を行い、研究の質を担保する。

イ 1 万人以上規模のコホートを建設し、肥満者を対象に運動及び食事指導による介入研究を行う。

食育に関しては、学校保健データと国民健康・栄養調査のデータを基に、エビデンス構築の研究を行う。

管理栄養士教育に関しては、日本栄養士会、日本栄養改善学会など関連学会との協調により卒後教育を検討する。

(3) 研究水準及び研究成果等に関する事項を達成するための措置

ア 論文、学会発表等の促進

調査及び研究の成果を基に査読付き学術論文の掲載を年間 50 報以上（1.5 報／常勤研究員 1 人あたり）、口頭発表を 150 回以上（4.5 回／常勤研究員 1 人あたり）行う。

また、海外での研究成果の発信を積極的に行うために、優れた研究成果の発表に対しては、渡航費の付与を行う。

イ 知的財産権の活用

国際産学共同研究センターを改組し、国際産学連携センター及び事務部業務課に、知的財産取得及び

活用を図るための人材を配置する。

知的財産権取得に適した研究について、その成果の学会及び論文発表の前に掘り起こしを行い、年間約 5 件を目標に特許の出願を行う。

特許に関わる諸情報については、ホームページ上に公開するとともに、市場調査に努め、研究成果に関心を寄せる民間企業等に積極的に技術紹介活動を行う。

さらに、研究所の有する研究成果の産業応用を目指し、民間企業と共同で研究開発を行うための共同研究を、平成 17 年度に比べ 2 件以上の増加を目標に行う。

ウ 講演会等の開催

一般向けの公開セミナー（第 8 回）を、平成 19 年 2 月に東京で開催する。

重点調査研究等で得られた成果を中心に、専門家向けのセミナーを、他機関との連携による開催を含めて、2 回程度行う。

管理栄養士・栄養士等の研修や生涯教育のプログラムに対して、職員を積極的に派遣するとともに、それらのプログラムの企画等への支援を行う。

情報センターに、外部からの相談・問い合わせに的確に対応するための機能を設け、その内容のうち頻度の高い質問については、データベース化し、ホームページに FAQ として公開する。

エ 開かれた研究所への対応

平成 18 年 4 月 19 日に、オープンハウスとして、運動実験施設等における体験コーナーや食事・体力診断等を含めて、研究所の研究・業務内容を身近に知っていただくための機会を設ける。

「総合的な学習の時間」による中学・高校生等の見学にも積極的に応じ、健康や栄養にかかわる知識や興味をもってもらおう。

(4) 研究実施体制等の整備に関する事項を達成するための措置

ア 法律に基づく業務及び重点調査研究、を確実かつ効果的に実施するために、特別研究員及び研究補助員の配置を行う。また、研究に関わる事務（外部との調整、事務書類等）の効率化を図るために、事務補助員を業務課及び関連プログラムに配置する。

運営費交付金については、4 半期毎に各研究・業務の進捗状況及び費用、並びに新たに生じた課題等を勘案しながら、配分の調整を行う。

イ 民間企業、大学、他の研究機関等との間で、研究員の相互交流、研究技術の交換、施設・設備の有効活用を行い、新たな共同研究の立ち上げを積極的に推進する。また、当研究所の研究員を大学等へ積極的に派遣し、研究の効率的な推進を図る。

ウ 連携大学院、民間企業及び各種研究機関等から研究員を年間 20 名程度受け入れ、研究所が所有する情報・技術等を提供する。

研究員を広く大学院や関係機関等に年間 5 名程度派遣し、研究所の持つ情報・技術等を社会に還元する。

また、流動研究員制度や連携大学院制度を活用し、

博士課程修了者等の若手研究者や大学院生を積極的に受け入れ、研究所の研究活動に参加させることにより、将来の研究人材の育成に資するとともに、研究所の研究活性化を図る。

さらに、お茶の水女子大学、東京農業大学、女子栄養大学、早稲田大学との連携大学院について、兼任教授の派遣を行い、お互いの強みを活かした研究協力を行うとともに、医系大学との連携大学・大学院締結に向けての準備を進める。

エ 組織改編に併せて、重点的に行う調査及び研究業務が、確実かつ効率的に遂行できるよう、各プログラムの性質、業務量、人員、実験施設を考慮し、再配置を行う。

特に、実験的研究、ヒトを対象とした研究、疫学調査研究が及び情報関連プログラム等が効率的に実施できるよう、スペースの再配置を行う。

また、施設・設備については、各プログラムで共通して使用する、測定室、RI 室、動物室、運動トレーニング室等を整備し、自ら有効に活用するとともに、外部研究者等の利用に供する。

さらに、オンラインジャーナルの活用により雑誌閲覧の費用軽減、便宜性の向上とともに、国内他機関で入手困難な学術雑誌を充実させるとともに、図書館の相互貸借を活用し、図書スペースの効率的な活用につなげる。

2. 法律に基づく業務、社会的・行政ニーズ、国際協力等に関する事項を達成するための措置

(1) 健康増進法に基づく業務に関する事項を達成するための措置

ア 集計事務のより一層の効率化と結果発表までの期間の迅速化を図るとともに、調査対象者への結果返しを早期に行う。また、コンピュータシステムデータベースを適宜更新し、データの信頼性の向上を図る。「健康日本 21」の最終評価、その他厚生労働省の関連施策においてデータの活用を図るための各種検討やデータベースの構築を行い、国・都道府県等が行う関連業務に対して、当研究所がより積極的に対応できるようにする。

イ 厚生労働省が収去した特別用途食品及び栄養表示がなされた食品の試験業務及び、特別用途表示の許可などを行うに当たり、申請者の申請に基づく試験の業務を的確に実施する。新たに創設された規格基準型特定保健用食品における関与する成分について、その分析法及び標準品の規格化等を的確に実施する。試験検査用機器の有効利用及び計画的整備を図るとともに、食品試験業務の適性かつ効率的な実施のための環境を整備する。

(2) 社会的・行政ニーズへの対応に関する事項を達成するための措置

ア 社会ニーズを把握するため、健康・栄養に関連する団体、大学、民間企業等との意見交換会を年 6 回程度設ける。「栄養・食生活」、「食品」、「運動・健康づくり」及び「医学関係（特に生活習慣病予防医学領域）」の 4 つの分野をカバーし、バランス良く選定する。

特に、研究所は国民生活に密着した分野を対象としており、国民にその成果を還元する重要性が高いことから、現場に近い人々（利用者等）から、具体的なニーズやサービスの満足度等について意見の把握に努める。

さらに、厚生労働省生活習慣病対策室、新開発食品保健対策室、内閣府食育推進担当等と、情報及び意見交換を行う。

また、国、地方自治体、国際機関等からの技術協力、指導等ため、各種審議会、検討会等に専門委員として派遣を行うとともに、行政・社会的ニーズの把握を十分に行う。

イ ホームページ上に掲示板、ウェブログ等の仕組みを導入することで意見、要望等を収集するシステムを構築する。

(3) 国際協力、産学連携等対外的な業務に関する事項を達成するための措置

ア 第2回アジアネットワークシンポジウム（平成18年3月3日）における議論を踏まえ、WHO 西太平洋事務局との連絡調整を図りながら、アジア諸国との間で栄養学研究の発展に資する共同研究や、人材育成を進める。また、WHO、CODEX 等との連携強化を含めて、求められる会議に研究員を派遣する。

また、研究交流を推進する観点から、国際栄養協力若手外国人研究者招へい事業を活用し、年間2名（モンゴル、トルコを予定）の若手研究者を受け入れる。

さらに、食事摂取基準、国民健康・栄養調査結果、研究所ニュースレターを、ホームページ上に英語での情報発信に努め、海外からのニーズに的確かつタイムリーに応える。

これらの活動を通じて、WHO 協力センター設置のための準備を行う。

イ 平成16年4月に設立した寄付研究部（ニュートラシューティカルズプロジェクト）について、特に運動と食事の相互関連を中心に、ヒトを対象とした実験研究を進め、新たな科学的知見、知的財産、商品開発に向けた取組を行う。

また、これまでに強化してきた企業との共同研究の成果を踏まえ、新たな寄付研究プロジェクトの開始に向けて準備を行う。

(4) 栄養情報担当者（NR）制度に関する事項を達成するための措置

NR は、平成17年度までに721名を輩出している。NR のスキルアップを図るとともに、NR 協会の要望や社会的なニーズに対応したトピックスを含めた、最新の情報提供等を行うため、全国5カ所において研修会を実施する。

NR 認定試験等は、外部有識者の協力の下、的確かつ公正に実施する。また、管理栄養士養成施設等において、NR 養成講座指定への要望が多いことから、講座の質の担保に努める。

NR 数、NR 受験者、養成講座数の増加に併せて、誤りなく、効率的に事務が運営できるよう、人員の配置を行うとともに、外部委託が可能な事務に

ついては、アウトソーシングを進め、効率化を図る。

また、NR 制度のあり方等については、NR のフォローアップ、業務のモニタリングを行い、新たな社会ニーズとの差がないか、他類似制度との関係を含め、情報収集及び検討を行う。これらの結果を踏まえ、外部有識者を含めた検討会議を設置する。

3. 情報発信の推進に関する事項を達成するための措置

(1) 「情報センター」を設置し、各プログラムにおける研究成果及び関連情報を集約・加工し、国民が適切な運動・食生活を実践するために必要な情報の提供を行う。

また、国際栄養、産学連携等対外的な業務を強化、推進するため、「国際産学連携センター」を設置し、特に研究成果の社会還元及び外部ネットワーク構築による研究の促進を図る。

(2) コンテンツマネジメントシステム、メールマガジン等の導入により研究所の活動状況を積極的に配信し、ホームページの掲載内容をより充実させる。

(3) 研究所の活動および研究業績を年1回研究報告として刊行する。

また、研究所のプロジェクト紹介や研究成果をわかりやすくまとめた、『健康・栄養ニュース』を年4回（季刊）刊行し、ホームページ上で公開するとともに、電子メディアでの配信も行う。

(4) 研究所の諸規程、職員の公募等、必要な情報開示は、ホームページ等を活用し積極的に行う。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項を達成するための措置

1. 運営体制の改善に関する事項を達成するための措置

(1) 意思決定の迅速化を図るため、権限と責任を明確にした組織運営を行う。

人員や研究資源の配置を適正に行うことを含めて、研究所の重要な経営判断に関する審議は、役員及び各プログラムリーダー、事務部長等から構成される運営会議で行う。

研究成果が最大限あげられるよう、各プログラムで行われている業務の特性を理解し、効率的、効果的な研究支援体制を作る。研究員は、事務部門における運営事項について、必要な理解をし、相互の情報の共有化とコミュニケーションを図る。

また、研究的、技術的事項について、各プログラム相互の連携を強化するため、毎週プログラムリーダー会議を行う。プログラムリーダーは、研究所の方向性、学術動向、行政・社会的ニーズを理解した上で、各プロジェクトのスタッフにこれら重要事項を伝え、プログラムで実施されている業務について、何を目指して研究を行うべきか、共通意識を持たせるようにする。

(2) 6つのプログラム間において、それぞれ専門とする領域や対象が異なる研究者相互が、研究内容及

び成果の学術的、社会的意義を理解するために、定期的な所内セミナーや研究交流会を通じて、自由な雰囲気の中で活発な討議を行う。

また、プログラムリーダーは、毎週各プログラムの内容、成果について、定例会で発表を行い、相互の特性を活かしたプログラム横断的で、より統合的な研究の実施に向け、戦略的な立案を行う。

- (3) 各研究業務については、プログラムリーダーが進捗状況を把握し、プログラムリーダー会議や運営会議において、報告を行う。また、定例セミナー等で各プロジェクトの進捗、成果を把握し、評価を行う。評価の結果は、四半期毎行う見直しに反映させる。

また、所内イントラネットを活用し、業務の進捗状況管理を行うとともに、各プログラム間、事務部門との情報の共有化につなげる。

- (4) 独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成13年法律第140号)に則り、文書を適正に管理し、積極的な情報公開を行う。
- (5) 研究所の経営基盤の安定化を図るため、競争的研究資金や、受託研究など外部資金の獲得に積極的に取り組む。

また、経費の節減や研究所の所有する設備等の有効利用を進める。

2. 研究・業務組織の最適化に関する事項を達成するための措置

- (1) 現行の組織体制を見直し、重点的に行う研究及び法律に基づく業務ごとにプログラム・プロジェクトチームを別紙1のとおり編成し、4月1日を目途に組織改編を行う。

各プログラムにおいて、常勤職員の人件費を含めたコスト管理及び研究業務について、各々が独立した形で運営を行う。

また、年度末に、所内内部評価委員会、外部評価委員会で組織改編の評価を行う。

- (2) 国内外の民間企業、大学、他研究機関との研究協力を推進し、研究者の受け入れ及び研究所研究員の派遣を行い、人材の養成と資質の向上に努め、組織の活性化を図る。

3. 職員の人事の適正化に関する事項を達成するための措置

- (1) 重点的に行う研究及び法律に基づき確実に実施すべき業務については、重点プロジェクトとして位置づけ、研究員、研究補助員等を適切に配置する。
- (2) 非公務員型への移行に伴い、大学、民間企業等との多様な形態の連携が可能となるよう、起業も含めて、民間企業、団体等との兼業についても、研究所の目的、理念に反しない限りにおいて、成果の社会還元を促進する。

また、各研究員の個人評価結果及び各プロジェクトの実績評価を、各個人の昇級・昇任等、給与面に反映させる。

- (3) 「独立行政法人国立健康・栄養研究所における研究者の流動化計画」に沿って、原則公募制、任期付の採用を行う。

また、任期付研究員については、任期終了後に任期中の実績評価を行い、任期を付さない職員としての採用を検討する。

任期付き研究員の採用にあたっては、流動化計画を図る一方、研究所における長期的な展望を考えるとデメリットもあることから、研究性質、行政・社会的ニーズに応じて、柔軟に運用を行う。

女性研究員の採用を可能な限り行うとともに、研究業務に従事しやすい環境づくりとして、フレックスタイム制をフル活用するとともに、各種制度の活用を進める。産休及び育休(男性を含む)によるブランクを埋める一手段として、メール等を活用したコミュニケーションを進める。

国際協力の推進、グローバル化する健康食品等の情報の収集、発信のため、外国人研究者の有する能力を活用できるような採用を可能な限り行う。

- (4) 事務職員についても、自己評価を行うとともに、個人面接を行い、直近上司と総括上司の段階評価を実施する。評価の結果は、昇給・昇任等に反映する。

4. 事務等の効率化・合理化に関する事項を達成するための措置

- (1) 業務の効率化を図るため、意志決定の迅速化を図るとともに、権限と責任を明確にした組織運営を行う。

迅速な意志決定と柔軟な対応をとるため、各種事務手続きの簡素化、迅速化、電子化を図るとともに、業務を見直し、可能かつ適切な業務については、外部委託を進める。

組織の見直しにあたっては、事務部門に「業務課」を設け、研究所の研究成果の積極的な活用や、知的財産の実用化に向けた民間企業との連携推進を図る。

- (2) 事務職員の資質向上を図るため、業務上必要とされる知識(知的財産、安全管理、会計・契約等)の技術取得ができるよう、自己啓発や能力開発のための研修を行う。また、職員が働きやすく自己能力が最大限発揮できるよう、職場環境の整備を充実する。
- (3) 業務の効率化を図るため、情報総括責任者(CIO)を中心に、業務・システムの最適化・効率化を図る。

5. 評価の充実に関する事項を達成するための措置

- (1) 研究所組織改編に伴い、内部評価規程の見直しを行い、交付金によって行われるプロジェクトを中心に、主要な研究業務に関して、中間及び年度末の評価を実施する。中間評価については、年度途中の研究業務の見直しにより、効果的な実施につなげる。

- (2) 外部有識者による評価委員会については、研究所の主要な研究業務の進捗状況、成果の社会へのアウトプット、将来の発展性という観点から、また研究所の組織運営に関しては、特により良い研究環境の構築という視点から、評価を受ける。また、平成19年度計画について、当評価委員会から事前

に評価を得る。

- (3) 内部及び外部評価の結果は、ホームページ上で公開する。

評価結果については、プログラム、プロジェクトにとどまらず、研究職員全体で結果を十分認識し、研究所に求められている方向性や課題等を斟酌した上で、適時研究業務の内容の修正等につなげる。

また、理事長等役員は、評価結果を参考に、研究資源の配分等に反映させる。

- (4) 研究所、社会での立場を認識した上で、学術的、行政的ニーズへの対応という観点から、当該年度における自らの研究及び成果について、点検及び評価を行う。その際には、可能な限り客観的指標を整理、分析するために、所内イントラネットを活用した業績等の登録を行う。各人の役割に応じたエフォートを勘案しながら、点数化可能なものについては、客観的な評価を行う。

理事長は、このような業務実績の指標及び自己点検結果を含め、研究員全員と面接を行い、適切かつ公正な評価を行う。評価結果については、年度内に各人にフィードバックし、次年度の研究業務の質の向上に役立てる。

任期付研究員については、任期終了後に任期中の実績評価を行い、その結果をその後の採用等に反映させる。

6. 業務運営全体での効率化を達成するための措置

一般管理費（運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。人件費を除く。）については、光熱水料等の削減等に努め、平成17年度に比べ2%以上の削減を図る。

人件費（退職手当及び法定福利費を除く。）については、適正な人員配置に努め、平成17年度を基準として1%程度の削減を図る。

業務経費（運営費交付金を充当して行う事業に係るもの。）については、業務の効率化、コストの削減に努め、平成17年度に比べ1%以上の削減を図る。

第3 財務内容の改善に関する事項を達成するための措置

1. 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する事項を達成するための措置

- (1) 厚生労働省、文部科学省等の政府機関、科学技術振興機構等の機関が実施する公募型研究に研究課題の応募を積極的に行う。その際に、研究所の目的等を勘案し、競争力の高い研究課題を選択し、また、他の研究機関等との共同研究の中核となる課題に従事する。

健康・栄養に関する調査及び研究について、国、民間企業等の受託研究及び業務については、研究所の目的やその後の発展性及び交付金事業として行う研究を勘案しながら、それらに合致するものについては積極的に受入、自己収入の増加に資する。

- (2) 知的財産については、その出願や維持にかかる費用を勘案しながら、実施につながる可能性の高いものについて、必要な維持を行い、自己収入につなげる。

また、研究成果の社会還元を目的とした出版（研究所監修による書籍、マニュアル、テキスト等）を行うことにより、自己収入の確保につなげる。

さらに、施設開放にあたっては、自己収入だけでなく、ヒトを対象とした研究への参加、地域住民の健康づくりという視点を踏まえて進める。

2. 経費の抑制に関する事項を達成するための措置

- (1) 6つのプログラム、2つのセンターにおいて、常勤職員の人件費を含めた業務費のコスト管理を四半期毎に行う。その結果については、運営会議、役員会で分析を行い、効率的な運用につなげる。このようなマネジメントサイクルにより、研究職員のコスト意識の向上を図る。

- (2) プログラムにまたがる研究の実施や、施設整備、スペース等の共有利用により、人的資源、コスト削減につなげる。また、研究業務の遂行に付随する事務的手続き等の簡素化を図り、人的コストの削減につなげる。

さらに、データ入力、検体の定期検査、文献資料の収集、コンピュータプログラム、データベース開発等、アウトソーシングが効率化やコスト削減につながるものについては、アウトソーシングを進める。アウトソーシングを行う場合は、その内容の質の担保を確保するために必要な措置を講じる。

また、法令集の追録購入中止、「健康・栄養ニュース」のメールマガジン化等により、経常的経費の削減を図る。

第4 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1. 予算

別紙2のとおり。

2. 収支計画

別紙3のとおり。

3. 資金計画

別紙4のとおり。

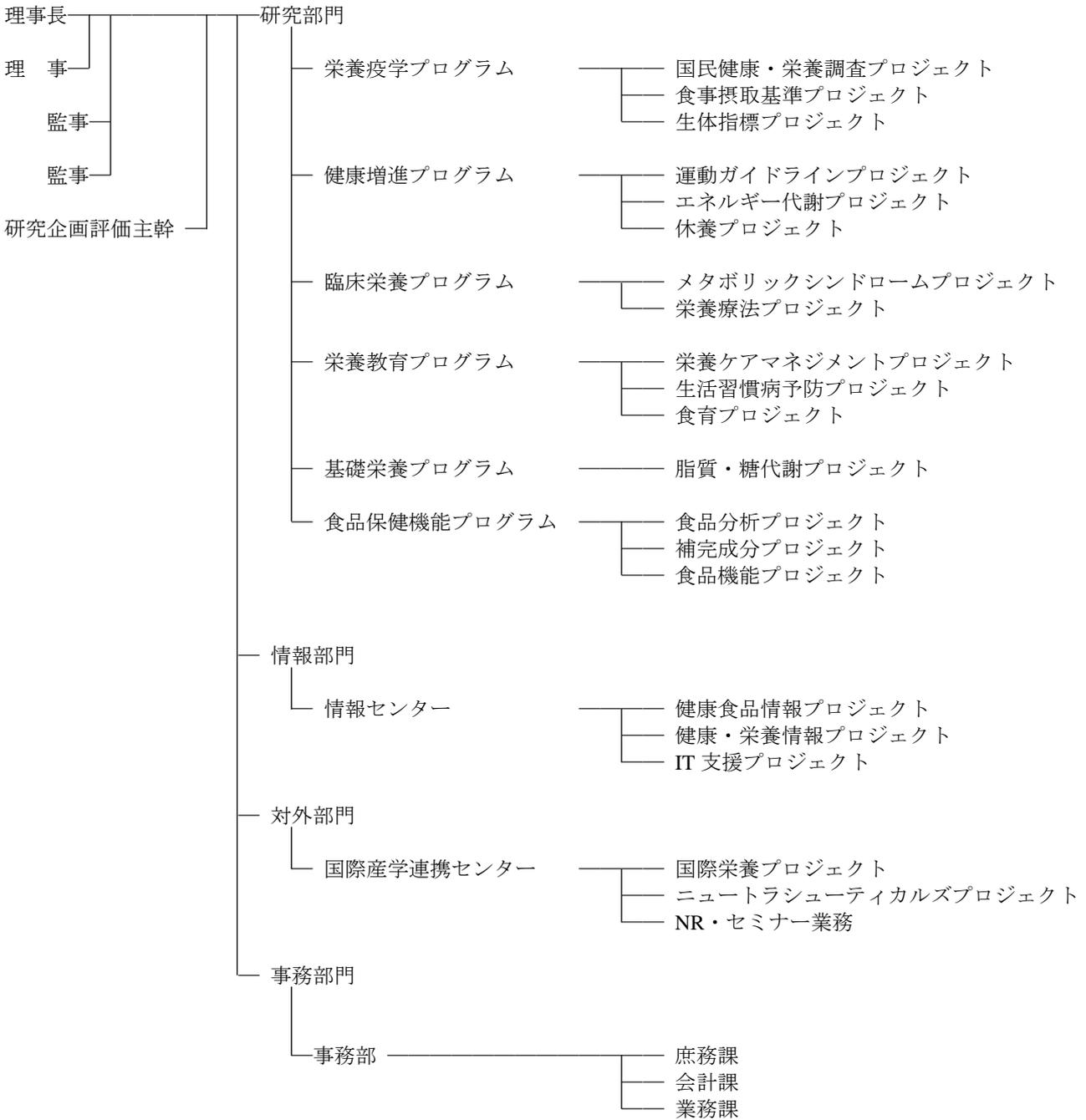
第5 その他の業務運営に関する重要事項を達成するための措置

- (1) セキュリティの確保
情報システムに係る情報のセキュリティの確保に努める。

第6 平成18年度独立行政法人国立・健康・栄養研究所行事等予定表

別紙5のとおり。

別紙 1



別紙2
年度計画（平成18年度）の予算

(単位：百万円)

区 別	金 額
収入	
運営費交付金	908
手数料収入	12
受託収入	149
栄養情報担当者事業収入	36
寄附金収入	32
雑収入	4
計	1,141
支出	
人件費	647
うち 基本給等	532
退職手当	114
一般管理費（光熱水料、図書館関係経費等）	97
業務経費	168
国民健康・栄養調査に関連するサーベイランスプログラム	13
食品収去試験等業務	12
栄養疫学プログラム	18
健康増進プログラム	17
臨床栄養プログラム	8
基礎栄養プログラム	13
食品保健プログラム	10
創造的研究	19
国際栄養協力事業	10
健康食品安全情報ネットワーク事業	26
健康栄養情報事業	22
受託経費	229
特別用途食品表示許可試験費	12
受託経費	149
栄養情報担当者事業経費	36
寄附研究事業費	32
計	1,141

(注) 単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

別紙 3

平成 18 年度収支計画

(単位：百万円)

区 別	金 額
費用の部	
経常費用	1,168
人件費	647
うち 基本給等	532
退職手当	114
一般管理費（光熱水料、図書館関係経費等）	97
業務経費	168
国民健康・栄養調査に関連するサーベイランスプログラム	13
食品収去試験等業務	12
栄養疫学プログラム	18
健康増進プログラム	17
臨床栄養プログラム	8
基礎栄養プログラム	13
食品保健プログラム	10
創造的研究	19
国際栄養協力事業	10
健康食品安全情報ネットワーク事業	26
健康栄養情報事業	22
受託経費	229
特別用途食品表示許可試験費	12
受託経費	149
栄養情報担当者事業経費	36
寄附研究事業費	32
減価償却費	27
収益の部	1,168
運営費交付金収益	908
手数料収入	12
受託収入	149
栄養情報担当者事業経費	36
寄附研究事業費	32
雑収入	4
資産見返物品受贈額戻入	2
資産見返運営費交付金戻入	25
純利益	—
目的積立金取崩額	—
総利益	—

〔注記〕当法人における退職手当については、役員退職手当支給基準及び国家公務員退職手当法（昭和 28 年法律第 182 号）に準じて支給することとなるが、その全額について運営費交付金を財源とするものと想定している。

(注) 単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

別紙4
平成18年度資金計画

(単位：百万円)

区 別	金 額
資金支出	1,141
業務活動による支出	1,141
投資活動による支出	0
資金収入	1,141
業務活動による収入	1,141
運営費交付金による収入	908
手数料収入	12
受託収入	149
栄養情報担当者事業経費	36
寄附研究事業費	32
雑収入	4
前期中期目標の期間よりの繰越金	0

(注) 単位未満四捨五入処理のため、計において一致しないことがある。

別紙 5

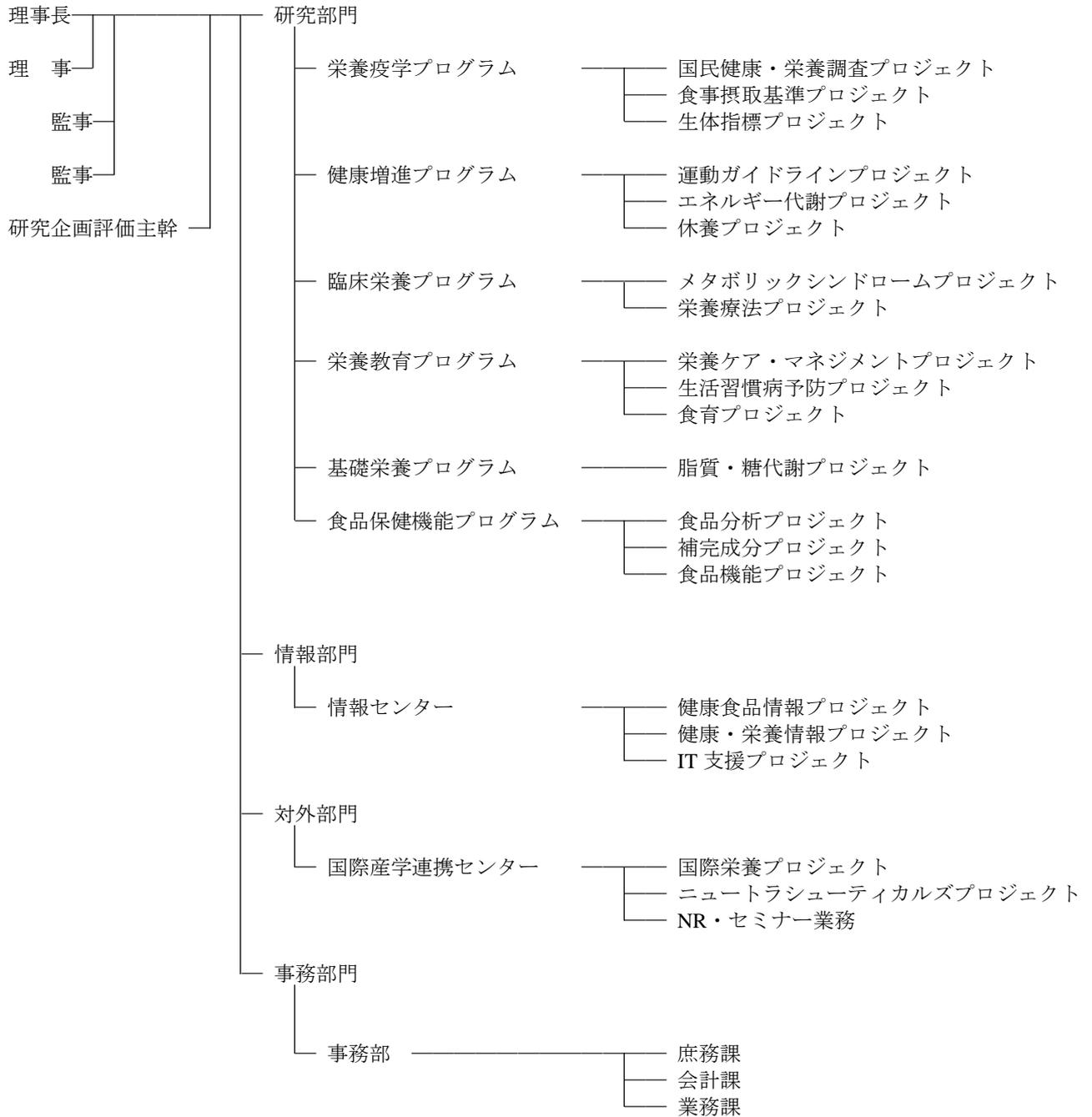
平成 18 年度独立行政法人国立健康・栄養研究所行事等予定表

平成 18 年 4 月 19 日 (水)	○ 研究所一般公開
5 月 —	○ 外部評価委員会
6 月 10 日 (土) ～11 日 (日) 18 日 (日) — —	○ 第 5 回産学官連携推進会議 (政府主催：京都市) ○ 第 3 回独立行政法人国立健康・栄養研究所栄養情報担当者認定試験実施 ○ 平成 17 年度業務実績報告及び中期目標期間における業務実績報告を厚生労働省独立行政法人評価委員会に、平成 17 年度財務諸表等を厚生労働大臣にそれぞれ提出 ○ 「健康・栄養ニュース」(第 16 号) の発行
7 月 —	○ 第 3 回独立行政法人国立健康・栄養研究所栄養情報担当者認定試験合格者発表
8 月	
9 月 —	○ 「健康・栄養ニュース」(第 17 号) の発行
10 月	
11 月 —	○ 第 4 回独立行政法人国立健康・栄養研究所認定栄養情報担当者認定試験受験資格確認試験
12 月 — — —	○ 「健康・栄養ニュース」(第 18 号) の発行 ○ 第 4 回独立行政法人国立健康・栄養研究所認定栄養情報担当者認定試験受験資格確認試験合格発表 ○ 外国人研究者招へい者審査・招へい者発表
平成 19 年 1 月	
2 月 — — —	○ 第 8 回研究所主催一般公開セミナー兼第 4 回研究所公開業務報告会 (東京) ○ 独立行政法人国立健康・栄養研究所指定栄養情報担当者養成講座の指定 ○ 第 4 回独立行政法人国立健康・栄養研究所認定栄養情報担当者認定試験実施要綱の公表
3 月 — — —	○ 外部評価委員会 ○ 平成 19 年度計画を厚生労働大臣へ提出 ○ 「健康・栄養ニュース」(第 19 号) の発行

- ◎ 運営会議は 8 月を除く毎月第 2 木曜日に開催する。
◎ 栄研セミナーは原則、毎月第 1 及び第 3 月曜日に開催する。
◎ 専門家向け公開セミナーを東京及び地方にて開催する。
※ 実施日については、諸般の都合により変動があり得る。

(4) 研究所組織

平成 18 年 4 月 1 日



(5) 平成18年度予算額

支出

(単位：千円)

事 項	平成17年度 予 算 額	平成18年度 予 算 額	増△減額
人件費	530,166	646,545	116,379
基本給・諸手当	484,259	479,319	▲ 4,940
共済組合負担金	45,522	45,058	▲ 464
児童手当拠出金	385	381	▲ 4
労働保険料	0	7,339	7,339
退職手当	0	114,448	114,448
一般管理費	96,671	93,041	▲ 3,630
業務経費	176,326	168,441	▲ 7,885
栄養疫学プログラム	—	24,461	24,461
国民健康・栄養調査プロジェクト	—	13,702	13,702
食事摂取基準プロジェクト	—	6,253	6,253
生体指標プロジェクト	—	4,506	4,506
健康増進プログラム	—	31,490	31,490
運動ガイドラインプロジェクト	—	15,791	15,791
エネルギー代謝プロジェクト	—	15,699	15,699
臨床栄養プログラム	—	—	0
メタボリックシンドロームプロジェクト	—	7,485	7,485
栄養教育プログラム	—	4,128	4,128
生活習慣病予防プロジェクト	—	1,671	1,671
食育プロジェクト	—	2,457	2,457
基礎栄養プログラム	—	—	0
脂質・糖代謝プロジェクト	—	9,447	9,447
食品保健機能プログラム	—	25,296	25,296
食品分析プロジェクト	—	15,309	15,309
補完成分プロジェクト	—	4,317	4,317
食品機能プロジェクト	—	5,670	5,670
創造的研究費	—	14,546	14,546
情報センター	—	39,158	39,158
健康食品情報プロジェクト	—	16,866	16,866
健康・栄養情報プロジェクト	—	3,943	3,943
IT支援プロジェクト	—	18,349	18,349
国際産学連携センター	—	12,430	12,430
国際栄養プロジェクト	—	9,600	9,600
NR・セミナープロジェクト	—	2,830	2,830
前年度限りの経費	176,326	—	▲ 176,326
受託経費	284,623	258,358	▲ 26,265
特別用途食品表示許可試験費	17,200	12,040	▲ 5,160
受託経費	201,173	156,700	▲ 44,473
栄養情報担当者事業経費	35,250	54,550	19,300
寄附研究事業	31,000	35,068	4,068
支出計	1,087,786	1,166,385	78,599

収入

(単位：千円)

事 項	平成17年度 予 算 額	平成18年度 予 算 額	増△減額
運営費交付金	803,163	908,027	104,864
手数料収入	17,200	12,040	▲ 5,160
受託収入	201,173	156,700	▲ 44,473
栄養情報担当者事業収入	35,250	54,550	19,300
寄附金収入	31,000	35,068	4,068
収入計	1,087,786	1,166,385	78,599

(6) 人事異動

発令年月日	異動内容	氏 名	所属名（転入、転出先）
18.3.31	任期終了	近藤俊之	監事
18.3.31	任期満了	大賀英史	国際産学連携センター産学連携推進室長（任期付）
18.3.31	任期満了	高橋佳子	栄養所要量策定企画・運営担当研究員（任期付）
18.3.31	任期満了	宮地元彦	健康増進研究部身体活動調査研究室長（任期付）
18.3.31	任期満了	由田克士	健康・栄養調査研究部食事評価法研究室長（任期付）
18.4.1	出向	森嶋禮三	事務部次長兼庶務課長（厚生労働省へ）
18.4.1	出向	真榮田剛	事務部庶務課研究調整係長（国立感染症研究所へ）
18.4.1	出向	中前貴志	事務部会計課契約管理係主事（成田空港検疫所へ）
18.4.1	転任	渡邊克彦	事務部会計課長（小樽検疫所千歳空港検疫所支所から）
18.4.1	転任	内田信也	事務部業務課主任（国立感染症研究所から）
18.4.1	転任	末永和義	事務部庶務課主事（関西空港検疫所から）
18.4.1	併任	渡邊昌	栄養教育プログラムリーダー
18.4.1	併任	芝池伸彰	情報センター長
18.4.1	併任	横尾年裕	事務部業務課長
18.4.1	配置換	菅谷正幸	事務部庶務課長
18.4.1	配置換	金田真千子	事務部庶務課庶務係長
18.4.1	昇任	千羽智之	事務部庶務課人事・厚生係長
18.4.1	配置換	吉田正和	事務部会計課経理係長
18.4.1	配置換	中村雅志	事務部会計課契約管理係長
18.4.1	併任	中村雅志	事務部業務課産学担当係長
18.4.1	配置換	吉越臣宏	事務部会計課主事
18.4.1	配置換	古賀政史	事務部業務課調整係長
18.4.1	併任	古賀政史	事務部業務課 NR 担当係長
18.4.1	配置換	内藤万佐子	事務部業務課主任
18.4.1	併任	門脇 孝	臨床栄養プログラムリーダー
18.4.1	併任	吉池信男	国際産学連携センター長
18.4.1	配置換	佐々木敏	栄養疫学プログラムリーダー
18.4.1	採用	由田克士	栄養疫学プログラム
18.4.1	配置換	石見佳子	栄養疫学プログラム
18.4.1	配置換	西牟田守	栄養疫学プログラム
18.4.1	配置換	近藤雅雄	栄養疫学プログラム
18.4.1	配置換	山内淳	栄養疫学プログラム
18.4.1	配置換	田畑泉	健康増進プログラムリーダー
18.4.1	採用	宮地元彦	健康増進プログラム
18.4.1	配置換	田中茂穂	健康増進プログラム

18.4.1	配置換	柏崎浩	健康増進プログラム
18.4.1	配置換	高田和子	健康増進プログラム
18.4.1	配置換	熊江隆	健康増進プログラム
18.4.1	配置換	大坂寿雅	健康増進プログラム
18.4.1	配置換	窪田哲也	臨床栄養プログラム
18.4.1	配置換	渡邊明美	栄養教育プログラム
18.4.1	配置換	山田晃一	栄養教育プログラム
18.4.1	配置換	饗場直美	栄養教育プログラム
18.4.1	配置換	江崎治	基礎栄養プログラムリーダー
18.4.1	配置換	三浦進司	基礎栄養プログラム
18.4.1	配置換	山崎聖美	基礎栄養プログラム
18.4.1	配置換	笠岡宜代	基礎栄養プログラム
18.4.1	配置換	山田和彦	食品保健機能プログラムリーダー
18.4.1	配置換	萩原清和	食品保健機能プログラム
18.4.1	配置換	永田純一	食品保健機能プログラム
18.4.1	配置換	矢野友啓	食品保健機能プログラム
18.4.1	配置換	齋藤衛郎	食品保健機能プログラム
18.4.1	配置換	梅垣敬三	情報センター
18.4.1	配置換	卓興鋼	情報センター
18.4.1	配置換	松村康弘	情報センター
18.4.1	配置換	廣田晃一	情報センター
18.4.1	配置換	荒井裕介	国際産学連携センター
18.6.26	任命	小早川隆敏	監事
18.6.26	併任	内藤万佐子	事務部庶務課主任
19.1.1	併任	手嶋登志子	栄養疫学プログラムプロジェクトリーダー
19.1.1	採用	國井大輔	国際産学連携センター研究員
19.1.1	採用	宇津木 恵	栄養疫学プログラム研究員 (任期付)
19.1.1	採用	松本輝樹	食品保健機能プログラム研究員 (任期付)
19.1.1	配置換	荒井裕介	栄養疫学プログラム
19.1.1	併任	荒井裕介	国際産学連携センター
19.3.31	配置換	笠岡宜代	栄養教育プログラム研究員

(7) 海外出張

出張者氏名	所 属	出張国	出張期間	渡 航 内 容
大石由美子	臨床栄養プログラム	韓国	H18.4.13-4.15	第5回アジア太平洋動脈硬化血管病会議にて発表・参加
吉池 信男	国際産学連携センター	韓国・ソウル	H18.4.14-4.16	アジアのメタボリックシンドロームに関するシンポジウムでの講演
西牟田 守	栄養疫学プログラム	米国・ボルチモア	H18.4.23-4.28	第66回アメリカ糖尿病学会への参加
吉池 信男	国際産学連携センター	フィリピン・マニラ	H18.4.23-4.25	アジア栄養士会議におけるシンポジウムでの講演
松村 康弘	情報センター	デンマーク・コペンハーゲン	H18.4.25-5.1	第6回国際食事評価法会議に出席・発表及び情報収集
佐々木 敏	栄養疫学プログラム	ラオス・ヴィエンチャン	H18.5.4-5.15	ラオスの子どもの健康栄養調査
高田 和子	健康増進プログラム	シンシナティ・デンバー	H18.5.28-6.5	研究打ち合わせと ACSM (アメリカスポーツ医学会) への出席 (研究発表と情報収集)
廣田 晃一	情報センター	デンマーク・コペンハーゲン	H18.5.28-6.2	デンマークの食と暮らしの視察
新島 貴子	国際産学連携センター	米国・コロラド州	H18.5.30-6.2	American College of sports medicine 53rd Annual Meeting 参加・発表
吉田 真咲	国際産学連携センター	米国・コロラド州	H18.5.30-6.2	American College of sports medicine 53rd Annual Meeting 参加・発表
三好 美紀	国際産学連携センター	フィリピン・タガイタイ	H18.5.30-6.3	WHO が新たに策定した5歳未満の子どもの成長標準値に関する WHO/UNICEF 共催のワークショップへオブザーバーとして参加
森田 明美	栄養教育プログラム	米国・トロント	H18.6.2-6.9	国際骨粗鬆症に関する研究発表および研究打ち合わせ

大石由美子	臨床栄養プログラム	オランダ・アムステルダム	H18.6.6-6.11	第 16 回国際血管生物学会議への出席
三浦 進司	基礎栄養プログラム	米国/ベセスダ・ワシントン DC	H18.6.6-6.14	University of Maryland および National Institutes of Health でのセミナー、第 66 回アメリカ糖尿病学会にて発表
窪田 哲也	臨床栄養プログラム	米国・ワシントン DC	H18.6.8-6.14	第 66 回アメリカ糖尿病学会への参加
大石由美子	臨床栄養プログラム	イタリア・ローマ	H18.6.18-6.23	国際動脈硬化学会への参加
由田 克士	栄養疫学プログラム	イタリア・ローマ	H18.6.18-6.23	14th international symposium on ATNEROSCLEROSIS にて発表
吉池 信男	国際産学連携センター	韓国・ソウル	H18.6.22-6.24	韓国の肥満の予防管理シンポジウムにて講演
山田 和彦	食品保健機能プログラム	マレーシア・クアラルンプール	H18.7.16-7.20	第 2 回アジア健康強調表示に関する科学基盤会議及び第 1 回アジア地域機能性食品ワークショップに出席
松村 康弘	情報センター	ラオス・ヴィエンチャン	H18.7.30-8.15	アジア・モンスーン地域における水資源の安全性に関わるリスクマネジメントシステム構築に関する打合せ及び現地調査・資料収集
高田 和子	健康増進プログラム	オーストラリア・ブリスベン	H18.8.30-9.3	国際肥満学会サテライトシンポジウム (身体活動と肥満) における学会発表と情報収集
田中 茂穂	健康増進プログラム	オーストラリア/ブリスベン・シドニー	H18.8.30-9.4	第 10 回国際肥満学会議およびそのサテライト会議“身体活動と肥満”への参加・発表
吉池 信男	国際産学連携センター	オーストラリア・メルボルン	H18.8.30-9.4	ディーキン大学健康・行動科学部 (WHO 研究協力センター) での情報収集及び国際肥満学会サテライト会議での発表

笠岡 宣代	基礎栄養プログラム	オーストラリア・シドニー	H18.9.2-9.9	第 10 回国際肥満学会議にて発表・出席
三戸 夏子	食品保健機能プログラム	オーストラリア・シドニー	H18.9.2-9.9	第 10 回国際肥満学会議にて発表・出席
矢野 友啓	食品保健機能プログラム	米国・ミシガン州	H18.9.3-10.7	補完成分プロジェクトに関わる共同研究実施
佐々木 敏	栄養疫学プログラム	ラオス・ヴィエンチャン	H18.9.4-9.20	ラオスの子どもの健康栄養調査
柏崎 浩	健康増進プログラム	モンゴル・ウランバートル	H18.9.4-9.11	小学生の健康・栄養調査
山田 和彦	食品保健機能プログラム	韓国・ソウル	H18.9.6-9.9	韓国栄養学会主催「食品の健康表示の現状と今後の動向ワークショップ」及びバイオ 코리아 2006 における「食品バイオ技術シンポジウム」への出席
石見 佳子	栄養疫学プログラム	米国・フィラデルフィア	H18.9.14-9.20	第 28 回米国骨代謝学会への参加・研究発表
由田 克士	栄養疫学プログラム	米国・ホノルル	H18.9.15-9.21	国や地方レベルにおける健康・栄養調査の手法や精度管理並びに食事摂取基準の活用に関する意見交換および情報収集
高橋 佳子	健康増進プログラム	スペイン・バルセロナ	H18.9.26-9.30	I World Congress of Public Health Nutrition の参加・研究発表
宮地 元彦	健康増進プログラム	米国・インディアナ	H18.9.27-9.30	The 2006 ACSM'S integrative physiology of exercise にて発表・討議
三好 美紀	国際産学連携センター	スペイン・バルセロナ	H18.9.27-10.2	第 1 回国際公衆栄養学会における学会発表
山田 和彦	食品保健機能プログラム	スペイン・バルセロナ	H18.10.4-10.11	第 2 回食品と健康表示に関する国際ワークショップおよび欧州小児学会に出席
吉池 信男	国際産学連携センター	フィリピン・マニラ	H18.10.9-10.13	WHO 西太平洋事務局での情報交換、食生活・身体活動に関する世界戦略ワークショップへの参加

斎藤 衛郎	食品保健機能プログラム	米国・カルフォルニア州	H18.10.21-10.29	第 35 回天然資源の開発利用に関する国際ワークショップおよび欧州小児科学会に出席
山田 和彦	食品保健機能プログラム	タイ・チャンマイ	H18.10.27-11.4	FAO/WHO 合同食品規格委員会 (CODEX) 第 28 回栄養・特殊用途食品部会に出席
渡邊 昌	理事長	中国・上海	H18.11.9-11.11	2006 年「第 1 回中国(上海)国際栄養健康産業博覧会フォーラムへの参加
山田 和彦	食品保健機能プログラム	中国・上海	H18.11.9-11.11	2006 年「第 1 回中国(上海)国際栄養健康産業博覧会フォーラムへの参加・発表
吉池 信男	国際産学連携センター	中国・上海	H18.11.9-11.11	2006 年「第 1 回中国(上海)国際栄養健康産業博覧会フォーラムへの参加・発表
大石由美子	臨床栄養プログラム	米国・シカゴ	H18.11.10-11.16	米国心臓学会学術集会 2006 及び教育プログラムへの出席
松村 康弘	情報センター	米国・ボストン	H18.11.13-11.17	更年期女性における保健医療行動の日米比較研究のための共同研究者との打ち合わせ
吉池 信男	国際産学連携センター	タイ・バンコク	H18.12.2-12.6	アジア地域における地域栄養支援プログラムに関する情報交換及びアジア太平洋公衆衛生連合会への参加
吉池 信男	国際産学連携センター	ベトナム・ハノイ	H19.1.18-1.23	国際医療協力研究委託事業「小児疾患包括的対策 (IMCI) の効果的な実施及びモニタリング評価に関する研究班における研究打ち合わせ及びフィールド調査
大石由美子	臨床栄養プログラム	米国・コロラド州	H19.1.14-1.20	「diabetes:molecular genetics, signaling pathways and integrated physiology」への参加・発表
吉池 信男	国際産学連携センター	韓国・ソウル	H19.2.9-2.12	アジア肥満学会にてシンポジウム講演

松村 康弘	情報センター	台湾・台北	H19.2.28-3.5	第3回アジア・太平洋閉経学会学術会議で発表および情報収集
石見 佳子	栄養疫学プログラム	タイ・バンコク	H19.3.6-3.9	第7回国際大豆シンポジウムで講演
松村 康弘	情報センター	バングラディッシュ	H19.3.6-3.17	「アジア地域における経済発展による環境省負荷評価およびその低減を実現する政策研究」にかかわる調査と打ち合わせ
吉池 信男	国際産学連携センター	韓国・ソウル	H19.3.15-3.17	シンポジウム「栄養調査と慢性疾患リスク」で講演
宮地 元彦	健康増進プログラム	米国・テキサス州	H19.3.20-3.23	アメリカスポーツ医学会ヘルスフィットネスサミットにおいて情報収集

(8) 名誉所員

氏 名	授与年月日	在職当時の職名
鈴江緑衣郎	10.4.1	所長
印南 敏	10.4.1	食品科学部長
宮崎 基嘉	10.4.1	基礎栄養部長
宇津木良夫	10.4.1	病態栄養部長
山口 迪夫	10.4.1	食品科学部長
市川 富夫	10.4.1	応用食品部長
伊東 蘆一	10.4.1	老人健康・栄養部長
板倉 弘重	10.4.1	臨床栄養部長
池上 幸江	11.4.1	食品科学部長
小林 修平	11.7.1	所長
江指 隆年	12.4.1	応用食品部長
澤 宏紀	13.4.1	所長
戸谷 誠之	13.4.1	母子健康・栄養部長
樋口 満	15.4.1	健康増進研究部長
岡 純	16.4.1	応用栄養学研究部長
増田 和茂	16.8.1	理事
田中 平三	17.4.1	理事長

(9) 客員研究員

氏 名	所 属 部	期 間	研 究 内 容
藤井 康弘	国際産学連携センター	18.4.1～19.1.31	特別用途食品の有効性に関する調査研究
太田 篤胤	栄養疫学プログラム	18.4.1～19.3.31	骨の健全性維持に関する研究
吉武 裕	栄養疫学プログラム	18.4.1～19.3.31	人体におけるエネルギー代謝
呉 堅	栄養疫学プログラム	18.4.1～19.3.31	食品成分と運動が生体指標及び身体組成に及ぼす影響に関する研究
二見 順	健康増進プログラム	18.4.1～19.3.31	ヒューマンカロリメーターを用いたエネルギー消費量測定に関する研究
木村 靖夫	健康増進プログラム	18.4.1～19.3.31	地域在住高齢者の生活習慣と健康・体力との関連
川中健太郎	健康増進プログラム	18.4.1～19.3.31	骨格筋糖代謝に関する研究
真田 樹義	健康増進プログラム	18.4.1～19.3.31	肥満関連遺伝子、身体組織、有酸素能力がメタボリックシンドロームの発病に及ぼす影響
井上 修二	健康増進プログラム	18.4.1～19.3.31	視床下部腹内側核(VMH)破壊動物の病態に関する研究
石田 良恵	健康増進プログラム	18.4.1～19.3.31	中高年齢女性の身体組成と骨強度について
山川 純	健康増進プログラム	18.4.1～19.3.31	中高年勤労女性に対する水泳トレーニングの効果に関する検討
野田 光彦	臨床栄養プログラム	18.4.1～19.3.31	臍島の代謝・シグナル伝達とインスリン分泌に関する研究
梶本 雅俊	栄養教育プログラム	18.4.1～19.3.31	金属摂取・排泄パターンの公衆栄養学的研究
笠岡 誠一	基礎栄養プログラム	18.4.1～19.3.31	ヒスチジン摂取による摂食量ならびに体脂肪量の低下作用

辻 悦子	基礎栄養プログラム	18.4.1～19.3.31	生活習慣病予防における脂質及び運動負荷の相互作用に関する研究
亀井 康富	基礎栄養プログラム	18.4.1～19.3.31	骨格筋の遺伝子発現制御に焦点をおいた生活習慣病の分子機構解明
中川 靖枝	食品保健機能プログラム	18.4.1～19.3.31	食物繊維の生理作用
江指 隆年	食品保健機能プログラム	18.4.1～19.3.31	栄養素の栄養機能代謝に関する研究
中嶋 洋子	食品保健機能プログラム	18.4.1～19.3.31	食品成分の健康影響に関する研究
久保 和弘	食品保健機能プログラム	18.4.1～19.3.31	脂質の機能特性に関する研究
清瀬千佳子	食品保健機能プログラム	18.4.1～19.3.31	脂溶性食品成分の機能性解明に関する研究
林 邦彦	情報センター	18.4.1～19.3.31	女性の生活習慣病と健康に関する疫学調査研究
梅國 智子	情報センター	18.4.1～19.3.31	ウェブ上の栄養情報教育に関する研究
草間かおる	国際産学連携センター	18.4.1～19.3.31	アジア諸国(ベトナム・カンボジア)における栄養指標・栄養評価の検討
菅野 幸子	国際産学連携センター	18.4.1～19.3.31	栄養・食生活に関する疫学的研究
大賀 英史	国際産学連携センター	18.4.1～19.3.31	効果的な健康サービスの提供体制の検討とその評価に関する研究
手嶋登志子	栄養教育プログラム	18.10.1～18.12.31	高齢者の食介護に関する研究—介護食を中心に—
石渡 尚子	栄養教育プログラム	18.10.1～19.3.31	健康づくりのための栄養教育プログラムの開発
久米村 恵	国際産学連携センター	19.2.1～19.3.31	特別用途食品の有効性に関する調査研究

(10) 協力研究員

氏 名	所 属 部	期 間	研 究 内 容
岩本 珠美	栄養疫学プログラム	18.4.1～19.3.31	脂質代謝とミネラル代謝の 関連について
大木 和子	栄養疫学プログラム	18.4.1～19.3.31	高齢者の口腔保健と全身的 な健康状態の関係について の総合研究－全身的な健康 状態の評価とその経年変化 －
武山 英麿	栄養疫学プログラム	18.4.1～19.3.31	人体におけるミネラル代謝
佐藤 七枝	栄養疫学プログラム	18.4.1～19.3.31	カルシウムと食生活に関する 研究
島田美恵子	栄養疫学プログラム	18.4.1～19.3.31	高齢者の生理特性と日常身 体活動との関係
児玉 直子	栄養疫学プログラム	18.4.1～19.3.31	人体におけるミネラルの役 割
吉岡やよい	栄養疫学プログラム	18.4.1～19.3.31	人体におけるミネラルの役 割
森國 英子	栄養疫学プログラム	18.4.1～19.3.31	人体におけるミネラルの役 割
松崎 伸江	栄養疫学プログラム	18.4.1～19.3.31	人体におけるミネラルの役 割
千葉 大成	栄養疫学プログラム	18.4.1～19.3.31	フラボノイドに着目した骨 粗鬆症に関する研究
那 暁琳	栄養疫学プログラム	18.4.1～19.3.31	卵巣切除ラットにおける大 豆イソフラボンによる体重 減少効果とそのメカニズム の解明に関する研究
佐藤 玲奈	健康増進プログラム	18.4.1～19.3.31	筋疲労に関する研究
町田 修一	健康増進プログラム	18.4.1～19.3.31	運動、不活動、および加齢が 生体に及ぼす影響に関する 分子生物学的研究
薄井澄誉子	健康増進プログラム	18.4.1～19.3.31	勤労中高年女性の健康増進 に及ぼす水泳トレーニング の効果に関する研究

小坂谷典子	健康増進プログラム	18.4.1～18.9.30	高校生・大学生の生活習慣と健康に関する研究
別所 京子	健康増進プログラム	18.4.1～19.3.31	若年者女性の生活習慣と健康に関する研究
物部 優子	健康増進プログラム	18.4.1～19.3.31	成人期・老年期の人々の QOL に関する研究
緑川 泰史	健康増進プログラム	18.4.1～19.3.31	エネルギー消費量の変動要因
柘植 光代	臨床栄養プログラム	18.4.1～19.3.31	高齢者の QOL 向上のために免疫能の健全性を保持する日本型食生活の解析
窪田 直人	臨床栄養プログラム	18.4.1～19.3.31	メタボリックシンドロームの研究(インスリン抵抗性を中心に)
原 一雄	臨床栄養プログラム	18.4.1～19.3.31	各栄養素摂取量と遺伝子多型の相互作用の検討
松下 由実	臨床栄養プログラム	18.4.1～19.3.31	基礎代謝に影響を与える遺伝子素因の研究
眞鍋 一郎	臨床栄養プログラム	18.4.1～19.3.31	各栄養素摂取量と遺伝子多型の相互作用の検討
宮本 廣	臨床栄養プログラム	18.4.1～19.3.31	デルタアミノ酸を効果発現促進剤として含有した肥料であるペンタキープ栽培条件等の検討
張能 太郎	臨床栄養プログラム	18.4.1～19.3.31	高齢者の免疫能を健全に保持するための日本型食生活の解析から、新規の食品成分の検索と新規食品の開発研究
井手 智子	臨床栄養プログラム	18.4.1～19.3.31	高齢者の QOL 向上のために免疫機能の健全性を保持する日本型食生活の解析
大内 和幸	事務部	18.4.1～19.3.31	血清中・尿中のフラボノイドのバイオマーカーとしての有効性に関する研究
上杉 幸世	事務部	18.4.1～19.3.31	生体内イソフラボン及びその代謝産物の測定

金子 香苗	事務部	18.4.1～19.3.31	イソフラボン測定
柳沢 佳子	基礎栄養プログラム	18.4.1～19.3.31	栄養成分の抗肥満メカニズムの解明
笠井 通雄	食品保健機能プログラム	18.4.1～19.3.31	脂質栄養研究
小島 圭一	食品保健機能プログラム	18.4.1～19.3.31	高次構造油脂の栄養特性について
渡部 景子	食品保健機能プログラム	18.4.1～19.3.31	食品機能成分についての研究
花井 美保	食品保健機能プログラム	18.4.1～19.3.31	クローン病モデルマウスを用いたクローン病候補遺伝子の探索および発症に及ぼす飼料栄養素の影響
寺田 幸代	食品保健機能プログラム	18.4.1～19.3.31	保健食品等の食品成分に関する調査研究
石田 達也	食品保健機能プログラム	18.4.1～19.3.31	保健機能食品の微生物成分に関する調査研究
馬場 貴司	食品保健機能プログラム	18.4.1～19.3.31	n-3系高度不飽和脂肪酸の機能性に関する研究
室田 一貴	食品保健機能プログラム	18.4.1～19.3.31	n-3系高度不飽和脂肪酸の機能性に関する研究
木村 典代	情報センター	18.4.1～19.3.31	食品の安全性と有効性に関する研究
杉山 朋美	情報センター	18.4.1～19.3.31	健康食品と医薬品との相互作用に関する研究及び情報収集
沢村 耕太	情報センター	18.4.1～19.3.31	食品・栄養素摂取状況とがんの罹患・死亡との関連に関する分析
阿部 詠子	情報センター	18.4.1～19.3.31	更年期以降の職業女性の健康状態変化要因及び生活習慣病予防のコホート型研究
高山 光尚	国際産学連携センター	18.4.1～19.3.31	保健指導プログラムの検証及び改善
高橋 東生	国際産学連携センター	18.4.1～19.3.31	栄養調査における調査研究方法の開発

石田 晋也	国際産学連携センター	18.4.1～19.3.31	健康関連の新規有用性物質の探索及び評価
藤井 紘子	国際産学連携センター	18.4.1～18.12.25	地域における栄養プログラム評価に関する研究
山元 健太	健康増進プログラム	18.4.17～19.3.31	生活習慣病発症の新しい予測指標の開発と運動による予防効果に関する大規模疫学的調査
大久保公美	栄養疫学プログラム	18.5.1～19.3.31	食事パターンを主とした栄養疫学プログラム疫学的研究
前田 剛希	食品保健機能プログラム	18.9.4～19.3.31	黒糖抽出液の脂肪細胞分化および増殖抑制に関する研究
メリッサ・メルビー	栄養教育プログラム	18.10.1～19.3.31	健康づくりのための栄養教育プログラムの開発
宮成 節子	栄養疫学プログラム	18.10.1～19.3.31	δ -アミノ酸の栄養学的研究
平川あずさ	栄養教育プログラム	18.10.1～19.3.31	健康づくりのための栄養教育プログラムの開発

(11) 特別研究員

氏 名	所 属 部	期 間
野末 みほ	栄養疫学プログラム	18.4.1～19.3.31
猿倉 薫子	栄養疫学プログラム	18.4.1～19.3.31
谷本 道哉	健康増進プログラム	18.4.1～19.3.31
高橋 佳子	健康増進プログラム	18.4.1～19.3.31
大石 由美子	臨床栄養プログラム	18.4.1～19.3.31
佐藤 (三戸) 夏子	食品保健機能プログラム	18.4.1～19.3.31
竹林 純	食品保健機能プログラム	18.4.1～19.3.31
瀧 優子	情報センター	18.4.1～19.3.31
三好 美紀	国際産学連携センター	18.4.1～19.3.31
吉田 真咲	国際産学連携センター	18.4.1～19.3.31
大河原一憲	健康増進プログラム	18.4.1～19.3.31

(12) 平成 18 年度 所内セミナー

期日	演 題	所 属
4.17	栄養疫学研究における基礎データベース開発とその活用法開発の重要性: 自記式食事歴法質問票における glycemc index database と dietary pattern analysis の試み	佐々木 敏 栄養疫学プログラム
	加速度計を用いた活動強度の推定法	田中茂穂健康増進プログラム
	日常生活における加速度計を用いた活動強度の推定	高田和子健康増進プログラム
5.22	ヒト細胞に於ける損傷バイパス複製について	山田晃一 栄養教育プログラム
	食事葉酸の有用性評価について	梅垣敬三 情報センター
	難消化性炭水化物のエネルギー係数について	山田和彦 食品保健機能プログラム
6.5	イソフラボンと女性ホルモン関連疾患の疫学研究	永田知里 岐阜大学大学院医学系研究科 疫学・予防医学分野教授
7.6	イソフラボンとその代謝物に関する最新知見	Dr.Kenneth D.R.Setchell, Ph.D. Cincinnati Children's Hospital Medical Center Professor, Director
7.24	ベトナム農村における Community IMCI(Integrated Management of Childhood Illness)構築の試み～栄養と感染症サーベイランスを中心に～	吉池信男 研究企画評価主幹
	健診事後に実施した栄養教育の有効性に関する検討	由田克士 栄養疫学プログラム
	血中脂質におけるイソフラボンの影響に関するメタ分析	卓 興鋼 情報センター
8.2	Joint FAO/WHO Report: A Model for Establishing Upper Level of Intake for Nutrients and Related Substances	Dr. Christine Lewis Taylor, P.D. US Food and Drug Administration
9.19	抗酸化成分を含む食品摂取による免疫機能の活性化	饗場直美 栄養教育プログラム
	管理栄養士の育成システムの充実を目指して～公衆栄養分野から考える～	荒井裕介 国際産学連携センター
	飽和脂肪酸の摂取基準	江崎 治 基礎栄養プログラム
9.20	非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) とメタボリックシンドローム	寺内康夫 横浜市立大学大学院医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学教授

10.16	低強度自転車運動時の BCAA 含有摂取が生体に及ぼす影響	藤井康弘国際産学連携センター
	大豆イソフラボンの表示と分析	萩原清和食品保健機能プログラム
	豆のアレルゲンについて	廣田晃一情報センター
11.13	PPAR アゴニスト (ベンズブロマロン) と肝障害ー原因究明の長い旅ー	松本一彦鳥居薬品株式会社
11.20	閉経後女性と大豆イソフラボン～その有効性と安全性～	石見佳子栄養疫学プログラム
	タウリンが不足すると肥満が加速される？	笠岡宜代基礎栄養プログラム
	順問題および逆問題としてのエネルギー消費量の要因加算法	柏崎 浩健康増進プログラム
12.4	慢性炎症とがん:食品中の抗酸化剤や抗炎症剤によるがん予防は可能か？	大島寛史静岡県立大学食品栄養科学部教授
1.22	食事の多様性指標の提案	松村康弘情報センター
	運動による骨格筋 PGC-1 α 発現増加機序:交感神経系の役割	三浦進司基礎栄養プログラム
	デルタアミノ酸を用いた脳腫瘍の治療機序	近藤雅雄栄養疫学プログラム
	血清総抗酸化能の測定法の開発と長距離選手の強化合宿における変動	熊江 隆健康増進プログラム
1.18	保健所における健康食品に関する対応の現状	毛利好孝兵庫県龍野健康福祉事務所長・龍野保健所長
2.19	人間ドック受診者を対象とした肥満克服介入研究	森田明美栄養教育プログラム
	トランス酸に関する欧米諸国と国内の現状について	永田純一食品保健機能プログラム
	ミネラル(Na, K, Ca, Mg, P)の摂取基準をめぐる問題点	西牟田 守栄養疫学プログラム
3.19	健康づくりのための運動指針 2006 (エクササイズガイド 2006)	田畑 泉健康増進プログラム
	エネルギー代謝調節における視床下部 GABA 感受性機構	大坂寿雅栄養疫学プログラム
	n-3 系高度不飽和脂肪酸摂取時の生体における脂質過酸化に関する研究	斎藤衛郎食品保健機能プログラム

(13) 食品分析リスト (特別用途食品の分析)

渡邊 昌、山田和彦、萩原清和、梅垣敬三、矢野友啓、石見佳子、山内 淳、永田純一、三戸夏子、今井智恵子、榎澤佑香

平成17年4月より平成18年3月までの間、特別用途食品の許可標示取得のために提出されたものについて分析した結果は次のとおりである。分析方法等は健康増進法に記載されている。

特別用途食品	製造元	品名
乳児用調製粉乳	森永乳業(株)	MA-mi
低たんぱく食品	亀田製菓(株)	ゆめごはん1/5
低たんぱく食品	亀田製菓(株)	ゆめごはん1/10
低たんぱく食品	亀田製菓(株)	ゆめごはん1/25
乳児用調製粉乳	ビーンスターク・スノー(株)	ビーンスタークネオミルクすこやか
無乳糖食品	森永乳業(株)	ノンラクト
そしゃく・えん下困難者用食品	亀田製菓(株)	ふっくら梅がゆ
乳児用調製粉乳	明治乳業(株)	明治 ほほえみ
低ナトリウム食品	イチビキ(株)	丸大豆減塩醤油
低カロリー食品	日農生研(株)	A V I T A S 0 (アビタス0)
糖尿病食調整組合せ食品	キューピー(株)	キューピーユニットカロリーグルメかれのいの煮付けセット

特別用途食品	製造元	品名
特定保健用食品	(株)マルハグループ本社	DHA入りリサーラソーセージ
特定保健用食品	富士産業(株)	天の葉緑茶
特定保健用食品	大塚製薬(株)	ギャバのめぐみ
特定保健用食品	サントリー(株)	ゴマペプ茶
特定保健用食品	(株)ロッテ	キシリトール・ガム〈クールブルー〉
特定保健用食品	日本サプリメント(株)	ペプチドエースつぶタイプ
特定保健用食品	昭和産業(株)	CO-OP ウェルプラスオリゴタイム (シロップ)
特定保健用食品	(株)ミコー	エースブロック
特定保健用食品	コミー(株)	リブウェルディーエスウォーター (清涼飲料水)
特定保健用食品	アサヒフードアンドヘルスケア(株)	アサヒ サーデンペプチド
特定保健用食品	フィプロ製薬(株)	イサゴール・レモン味
特定保健用食品	カンロ(株)	コレステロールファイバー
特定保健用食品	カンロ(株)	ラシーヌサイリウムファイバー
特定保健用食品	資生堂薬品(株)	インナーファイバー
特定保健用食品	大正製薬(株)	グルコケア 粉末スティック
特定保健用食品	(株)白子	海苔ペプチド 顆粒
特定保健用食品	昭和製薬(株)	ファイバーONE
特定保健用食品	カルピス(株)	カルピス酸乳アミールエス 120 フルーツミックス
特定保健用食品	キリンウェルフーズ(株)	カラダうれしい プナハリタケ
特定保健用食品	(株)ヤクルト本社	グロビン ONE
特定保健用食品	キリンウェルフーズ(株)	カラダうれしい オリゴペプチド
特定保健用食品	エムジーファーマ(株)	ナップルドリンク
特定保健用食品	敷島製パン(株)	からだ応援ロール
特定保健用食品	(株)沖縄発酵化学	ファイバーセブン
特定保健用食品	サントリー(株)	黒烏龍茶
特定保健用食品	明治製菓(株)	いわしの力

特別用途食品	製造元	品名
特定保健用食品	よつ葉乳業(株)	よつ葉北海道十勝プレーンヨーグルト生乳 100
特定保健用食品	理研ビタミン(株)	わかめペプチドゼリー [オレンジ風味]
特定保健用食品	明治製菓(株)	キシリッシュプラスエフ ナチュラルミント
特定保健用食品	日本ミルクコミュニティ(株)	ナチュレ 恵 megumi
特定保健用食品	アークレイ(株)	京優S O U Pイタリア産トマトを使った欧風トマトスープ
特定保健用食品	アークレイ(株)	京優S O U P京野菜九条ネギ入り中華風春雨スープ
特定保健用食品	明治乳業(株)	ファイバードリンク ラズベリー&アップル
特定保健用食品	キリンウェルフーズ(株)	うるウォーター 食物繊維
特定保健用食品	(株)花王	ヘルシアウォーター
特定保健用食品	サントリー(株)	ゴマペプ茶 S
特定保健用食品	キリンウェルフーズ(株)	うるウォーター プナハリタケ
特定保健用食品	キリンウェルフーズ(株)	うるウォーター オリゴペプチド
特定保健用食品	フィプロ製菓(株)	ピュアフローラ青りんご味
特定保健用食品	サントリー(株)	黒烏龍茶O T P P
特定保健用食品	理研ビタミン(株)	わかめペプチドゼリー [マンゴー風味]
特定保健用食品	理研ビタミン(株)	わかめペプチドゼリー [紅茶風味]
特定保健用食品	ゼリア新薬(株)	ライフナビ食物繊維入りほうじ茶
特定保健用食品	(株)ヤクルト本社	ビフィーネM
特定保健用食品	(株)ヤクルト本社	ビフィーネS
特定保健用食品	(株)ヤクルト本社	ソフルールL C S 100
特定保健用食品	アークレイ(株)	京優粥 紀州梅のおかゆ
特定保健用食品	小林製菓(株)	杜仲茶
特定保健用食品	小林製菓(株)	杜仲源茶
特定保健用食品	伊藤忠製糖(株)	クルルのおいしいオリゴ糖
特定保健用食品	常磐薬品工業(株)	ラビス S
特定保健用食品	加ト吉	加ト吉いきいきごはん
特定保健用食品	仙味エキス(株)	ペプチド爽快
特定保健用食品	(株)東洋新薬	ケアライフ
特定保健用食品	(株)東洋新薬	ホットファイバー
特定保健用食品	(株)東洋新薬	温膳家族のやさしいスープ
特定保健用食品	(株)東洋新薬	キトサン明日葉汁

平成19年3月31日 発行

発行者 独立行政法人 国立健康・栄養研究所

〒162-8636
東京都新宿区戸山1-23-1
TEL.03-3203-5721 (代)
